

大井聖坂遺跡 大井家ノ下モ遺跡

村道南岸線地方道路交付金工事に係る
埋蔵文化財発掘調査

2005.9

財団法人 鳥取市文化財団

大井聖坂遺跡 大井家ノ下モ遺跡

村道南岸線地方道路交付金工事に係る
埋蔵文化財発掘調査

2005. 9

財団法人 鳥取市文化財団



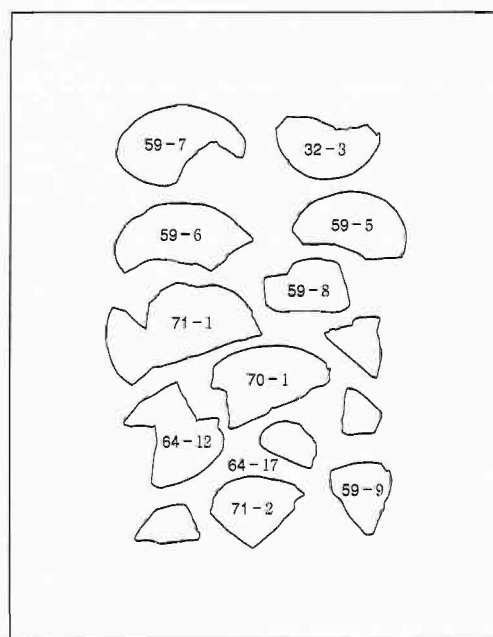
大井聖坂遺跡出土墨書土器



大井聖坂遺跡Ⅳ区全景(下層)(北東から)



大井聖坂遺跡Ⅳ区SK-17出土
甌形土器



前ページ墨書土器

序 文

鳥取市内には数多くの原始・古代遺跡が存在しており、近年の各種開発事業の増加とともに発掘調査が必要となり、消えていく遺跡も増えております。しかしながら、埋蔵文化財は地域の先人たちの生活を語る歴史資料であり、後世に継承していくべき市民の貴重な財産です。このような認識のもと、財団法人 鳥取市文化財団では、開発と文化財の共存をはかるべく、関係各機関の協力を得ながら埋蔵文化財発掘調査事業を進めています。

さて、今回実施した佐治町大井聖坂遺跡の調査は、村道南岸線地方道路交付金工事に伴う発掘調査として、平成16年度に調査を行いました。この遺跡は佐治川右岸下流域の標高155mを測る河岸段丘上に展開し、古来より「大井千軒跡」と呼ばれてきた佐治町有数の大集落遺跡です。平成元年度に圃場整備に伴い一次調査が、平成16年度に旧佐治村による二次調査が行われ、同年11月鳥取市合併により11月から当財団が調査を担当いたしました。今回の調査によって掘立柱建物13棟、竪穴住居2棟をはじめ、土坑、溝状遺構、焼土遺構、多数のピットが見つかり、縄文時代から中世にかけての土器、竈、甑形土器、土錘などのほかに、中国産の青磁、緑釉陶器、「南」「酒」「西」と書かれた墨書土器など貴重な資料が出土しました。また、大井家ノ下モ遺跡は、同じく村道南岸線地方道路交付金工事に伴う発掘調査として平成16年度に旧佐治村が調査を行い、今回その成果についても合わせてご報告させていただくものです。

これらの調査成果は、当地域のみならず古代因幡地方の歴史を探る上で大きく役立っていくものと確信いたします。ささやかな冊子ではありますが、研究者のみならず広範な市民各位による郷土の歴史究明など、関係各位の埋蔵文化財の理解に供していただければ幸いです。

おわりに、今回の発掘調査にあたり、ご理解とご協力をいただきました地元の皆様をはじめ関係各位の方々に、心から感謝申し上げます。

平成 17 年 9 月

財団法人 鳥取市文化財団
理事長 林 由紀子

例 言

1. 本書は、村道南岸線地方道路交付金工事の事前調査として実施した大井聖坂遺跡、大井家ノ下モ遺跡の発掘調査報告書である。
2. 大井聖坂遺跡は、鳥取県の委託を受けて、財団法人 鳥取市文化財団 鳥取市埋蔵文化財調査センターが平成16、17年度に実施した。また、大井家ノ下モ遺跡は、鳥取県の委託を受けて、佐治村教育委員会(現鳥取市教育委員会)が平成16年度に実施し、報告書作成事業は財団法人 鳥取市文化財団 鳥取市埋蔵文化財センターが平成17年度に実施した。
3. 発掘調査を実施した遺跡の所在地は、大井聖坂遺跡は鳥取市佐治町大井字聖坂、大井家ノ下モ遺跡は鳥取市佐治町大井字家ノ下モである。
4. 発掘調査によって作成された記録類および出土遺物は、鳥取市教育委員会に保管されている。
5. 現地実測・写真撮影、遺構図面の浄書は、調査員、補助員を中心に発掘調査参加者の協力のもとに行い、出土遺物の整理および遺物実測・浄書は、神谷伊鈴、下多みゆき、浜橋博子を中心として行った。出土遺物観察表は神谷伊鈴が作成した。遺物の写真撮影は永田りん太郎が行った。本書の執筆、編集は谷口恭子、前田 均が担当し、神谷伊鈴、永田りん太郎がこれを補佐した。
6. 現地調査から報告書作成にいたるまで多くの方々からの指導、助言ならびにご協力をいただいた。記して厚く感謝いたします。

乗岡 実、卜部吉博、廣江耕史、守岡正司、松井 潔、八峠 興、高橋章司、中谷 均、津川ひとみ、加川 崇、星見清晴、佐々木孝文、株式会社フジテクノ中国営業所(敬称略、順不同)

凡 例

1. 本書における方位は、第1・2図を除き座標北(世界測地系国家基準座標)を示す。また、レベルは海拔標高である。
2. 本書で使用した遺構の略号は、掘立柱建物；SB、竪穴住居；SI、土坑；SK、溝状遺構；SD、ピット；Pである。
3. 今回の調査によって出土した遺物は、遺跡名略号、調査区、遺構名、遺物台帳登録番号、取り上げ年月日を基本的に注記し、写真や図面などの記録類も同様である。
(例；SOH. IV区 SI-01 No021 2004.11.30)

本文目次

序文

例言

凡例

第1章 発掘調査の経緯

第1節 発掘調査にいたる経緯 1

第2節 発掘調査の経過 1

第3節 調査の組織・体制 2

第2章 遺跡の位置と歴史的環境

1. 大井聖坂遺跡と大井家ノ下モ遺跡の位置 3

2. 遺跡の歴史的環境 3

第3章 調査の結果

第1節 大井聖坂遺跡の調査

1. 調査地の基本層序13

2. IV区の調査14

3. V区の調査47

4. VI区の調査50

(ピット一覧表)

第2節 大井家ノ下モ遺跡の調査56

(出土遺物観察表)

第3節 まとめ67

第4章 自然科学分析73

写真図版

報告書抄録

挿 図 目 次

<p>第1図 大井聖坂遺跡・大井家ノ下モ遺跡 周辺遺跡分布図……………5</p> <p>第2図 大井聖坂遺跡・大井家ノ下モ遺跡 調査地位置図……………6</p> <p>第3図 大井聖坂遺跡調査区設定図……………6</p> <p>第4図 大井聖坂遺跡IV区全体図……………7・8</p> <p>第5図 大井聖坂遺跡IV区全体図(上層)……………9</p> <p>第6図 大井聖坂遺跡IV区全体図(下層)……………10</p> <p>第7図 大井聖坂遺跡VI区全体図……………11・12</p> <p>第8図 大井聖坂遺跡V区全体図……………11・12</p> <p>第9図 大井聖坂遺跡IV区・V区・VI区 断面図……………11・12</p> <p>第10図 IV区SB-01実測図……………14</p> <p>第11図 IV区SB-02実測図……………14</p> <p>第12図 IV区SB-03実測図……………15</p> <p>第13図 IV区SB-04実測図……………16</p> <p>第14図 IV区SB-05実測図……………16</p> <p>第15図 IV区SB-06実測図……………17</p> <p>第16図 IV区SB-06出土遺物実測図……………17</p> <p>第17図 IV区SB-07実測図……………18</p> <p>第18図 IV区SB-07出土遺物実測図……………18</p> <p>第19図 IV区SB-08実測図……………19</p> <p>第20図 IV区SB-09実測図……………19</p> <p>第21図 IV区SB-09出土遺物実測図……………18</p> <p>第22図 IV区SB-10実測図……………20</p> <p>第23図 IV区SB-11実測図……………21</p> <p>第24図 IV区SB-12実測図……………22</p> <p>第25図 IV区SB-13実測図……………22</p> <p>第26図 IV区SI-01実測図……………23</p> <p>第27図 IV区SI-01遺物出土状況図……………24</p> <p>第28図 IV区SI-01出土遺物実測図(1)……………25</p> <p>第29図 IV区SI-01出土遺物実測図(2)……………26</p> <p>第30図 IV区SI-01出土遺物実測図(3)……………27</p> <p>第31図 IV区SI-02実測図……………28</p> <p>第32図 IV区SK-01出土遺物実測図……………29</p> <p>第33図 IV区SK-01実測図……………30</p> <p>第34図 IV区SK-02実測図……………30</p> <p>第35図 IV区SK-05実測図……………31</p> <p>第36図 IV区SK-06実測図……………31</p> <p>第37図 IV区SK-06出土遺物実測図……………32</p> <p>第38図 IV区SK-07実測図……………32</p>	<p>第39図 IV区SK-07出土遺物実測図……………32</p> <p>第40図 IV区SK-08実測図……………32</p> <p>第41図 IV区SK-11実測図……………33</p> <p>第42図 IV区SK-12実測図……………33</p> <p>第43図 IV区SK-13実測図……………34</p> <p>第44図 IV区SK-17実測図……………34</p> <p>第45図 IV区SK-17出土遺物実測図……………34</p> <p>第46図 IV区SK-18実測図……………35</p> <p>第47図 IV区2SK-01実測図……………36</p> <p>第48図 IV区2SK-02実測図……………36</p> <p>第49図 IV区2SK-03実測図……………36</p> <p>第50図 IV区2SK-04実測図……………36</p> <p>第51図 IV区2SK-05実測図……………37</p> <p>第52図 IV区2SK-05出土遺物実測図……………37</p> <p>第53図 IV区2SK-06実測図……………38</p> <p>第54図 IV区2SK-07実測図……………38</p> <p>第55図 IV区SD-01実測図……………38</p> <p>第56図 IV区SD-02実測図……………38</p> <p>第57図 IV区P-264実測図……………40</p> <p>第58図 IV区P-402実測図……………40</p> <p>第59図 IV区ピット(上層)出土遺物 実測図(1)……………41</p> <p>第60図 IV区ピット(上層)出土遺物 実測図(2)……………42</p> <p>第61図 IV区ピット(上層)出土遺物 実測図(3)……………43</p> <p>第62図 IV区ピット(下層)出土遺物実測図……………43</p> <p>第63図 IV区遺構外出土遺物実測図(1)……………44</p> <p>第64図 IV区遺構外出土遺物実測図(2)……………45</p> <p>第65図 IV区遺構外出土遺物実測図(3)……………46</p> <p>第66図 V区SK-01実測図……………47</p> <p>第67図 V区SK-02実測図……………47</p> <p>第68図 V区SK-03実測図……………48</p> <p>第69図 V区SK-04実測図……………48</p> <p>第70図 V区SK-04出土遺物実測図……………48</p> <p>第71図 V区遺構外出土遺物実測図……………49</p> <p>第72図 大井家ノ下モ遺跡調査区全体図……………57・58</p> <p>第73図 大井家ノ下モ遺跡調査区断面図……………57・58</p> <p>第74図 大井家ノ下モ遺跡ピット実測図……………59</p> <p>第75図 大井家ノ下モ遺跡出土遺物実測図……………60</p> <p>第76図 佐治村試掘Tr-4出土遺物実測図……………67</p>
--	--

図版目次

- 卷頭 1 大井聖坂遺跡出土墨書土器
- 卷頭 2 大井聖坂遺跡IV区全景(下層)(北東から)
大井聖坂遺跡IV区SK-17出土甑形土器
前ページ墨書土器
- 表紙 佐治川と大井聖坂遺跡(北西上空から)
- 図版 1 大井聖坂遺跡調査地遠景(北から)
IV・V・VI区調査前(北東上空から)
IV区遺構検出状況(上層)(南西から)
- 図版 2 IV区遺構検出状況(上層)(北東から)
IV区遺構検出状況(下層)(北東から)
- 図版 3 V区全景(北東から)
VI区全景(北西から)
IV区調査区壁面(東から)
- 図版 4 IV区調査区壁面(南西から)
V区調査区壁面(東から)
VI区調査区壁面(南東から)
- 図版 5 IV区SB-01検出状況(南東から)
IV区SB-02検出状況(南から)
IV区SB-03検出状況(北から)
IV区SB-04検出状況(北西から)
- 図版 6 IV区SB-08検出状況(北から)
IV区SB-10検出状況(北東から)
IV区SB-11検出状況(南西から)
IV区SB-13検出状況(南から)
- 図版 7 IV区SI-01土層断面(東から)
IV区SI-01遺物検出状況(南から)
IV区SI-01下層遺物検出状況(西から)
- 図版 8 IV区SI-01完掘状況(南から)
IV区SI-02検出状況(南東から)
IV区SI-02検出状況(東から)
- 図版 9 IV区SK-01土層断面(南西から)
IV区SK-01検出状況(北東から)
IV区SK-02検出状況(北から)
IV区SK-05検出状況(北西から)
- 図版10 IV区SK-06検出状況(北西から)
IV区SK-08検出状況(西から)
IV区SK-11検出状況(南西から)
IV区SK-12検出状況(南西から)
- 図版11 IV区SK-13検出状況(西から)
IV区SK-17土層断面(北西から)
IV区SK-17検出状況(北東から)
IV区SK-18検出状況(北東から)
- 図版12 IV区2SK-01検出状況(北西から)
IV区2SK-02検出状況(南西から)
IV区2SK-03検出状況(北西から)
IV区2SK-04検出状況(北西から)
- 図版13 IV区2SK-05検出状況(北西から)
IV区2SK-06検出状況(北西から)
IV区SD-01検出状況(西から)
IV区SD-02検出状況(北東から)
- 図版14 IV区P-264検出状況(北西から)
IV区P-402検出状況(南西から)
V区SK-04土層断面(北から)
V区焼土断面(北から)
- 図版15 IV区SB-06出土遺物
IV区SB-07出土遺物
IV区SB-09出土遺物
IV区SI-01出土遺物
- 図版16 IV区SI-01出土遺物
- 図版17 IV区SI-01出土遺物
IV区SK-01出土遺物
IV区SK-06出土遺物
IV区SK-07出土遺物
IV区2SK-05出土遺物
- 図版18 IV区ピット(上層)出土遺物
- 図版19 IV区ピット(下層)出土遺物
IV区遺構外出土遺物
- 図版20 V区SK-04出土遺物
V区遺構外出土遺物
佐治村試掘Tr-4出土遺物
- 図版21 大井家ノ下モ遺跡調査地遠景(北西から)
大井家ノ下モ遺跡調査前(東から)
大井家ノ下モ遺跡調査地南壁断面
(北東から)
大井家ノ下モ遺跡調査地全景(南東から)
- 図版22 大井家ノ下モ遺跡調査地全景(南西から)
大井家ノ下モ遺跡P-02検出状況
(北から)
大井家ノ下モ遺跡P-02出土遺物
大井家ノ下モ遺跡出土遺物



第1章 発掘調査の経緯

第1節 発掘調査にいたる経緯

大井聖坂遺跡は、千代川支流である佐治川右岸河岸段丘上の標高150m弱、鳥取市佐治町大井地内に所在する。古来より大井地区は「大井千軒跡」の伝承があり、その中で大井聖坂遺跡は面積約12,000㎡にも及ぶ佐治町屈指の大集落遺跡である。平成元年度に圃場整備に伴い遺跡の南東部分にあたる字宮ノ前で発掘調査が行われている。この調査で、古墳時代後期から近世にかけて掘立柱建物9棟、竪穴住居2棟、土坑16基、「□縄友」「常盤」と記された墨書土器をはじめ、中国産を含む陶磁器、丹塗り土師器、わずかながら弥生時代後期の土器なども出土している。

大井家ノ下モ遺跡は平成9年度に新たに確認された遺跡で、平成10年度に調査が行われ、中世の総柱建物、柵列、足跡を検出するとともに、輸入陶磁器、石鍋、瓦質土器などが出土している。

今回、これら二遺跡の発掘調査の契機となった村道南岸線地方道路交付金工事業は、集落内を通行しカーブの続く一部狭小な国道482号線の迂回道として佐治川南岸に計画された村道整備事業である。工事区域は河岸段丘上に位置し、遺跡の範囲が工事予定地内へ及ぶことが予想されることから、佐治村教育委員会が平成15年5月に大井聖坂遺跡の試掘調査を実施した。調査の結果、5箇所を試掘トレンチからピット7基と多数の遺物が確認され、関係機関と協議の結果、記録保存で対応することとなった。なお、平成16年7～9月に佐治村教育委員会が調査を実施したⅠ～Ⅲ区については翌年3月に報告書が刊行されている。鳥取市合併後の11月から鳥取市文化財団 鳥取市埋蔵文化財調査センターがⅣ～Ⅵ区の調査を行った。大井家ノ下モ遺跡についても同様に工事範囲にかかることから平成16年7月に佐治村教育委員会が調査を実施し、報告書の作成を鳥取市文化財団 鳥取市埋蔵文化財センターが行った。

第2節 発掘調査の経過

大井聖坂遺跡の発掘調査は、鳥取県の委託を受け、財団法人 鳥取市文化財団 鳥取市埋蔵文化財調査センターが平成16年度に現地調査を、17年度に整理作業および報告書作成作業を行った。

平成16年度は、鳥取市合併後の11月から調査準備に取りかかり本格的な調査を11月下旬から開始した。同年7月～9月に佐治村教育委員会によって実施されたⅠ～Ⅲ区の調査結果から、標高155m付近の黒褐色粘質土上面に遺構面が確認されており、トレンチによってⅣ・Ⅴ区の層序を確認後、重機によって遺構面近くまでの掘り下げを行った。また、佐治村調査区との整合性を考慮して、Ⅰ～Ⅲ区の10m毎の方眼および名称をそのまま継承し、調査杭(B7～F10杭ほか)を測量基準として用いた。

調査は、Ⅳ区からとりかかり、黒褐色粘質土上面および黄褐色砂礫層上層面で遺構を検出、古墳時代後期から平安時代にかけて掘立柱建物13棟、竪穴住居2棟、土坑22基、溝状遺構2条、焼土遺構、ピット多数を検出した。出土遺物は内法54×34×20cmの容量をもつコンテナ約48箱分に及び、古墳時代後期から中世の土器、青磁、緑釉陶器、陶磁器、瓦質土器、竈、甑形土器、製塩土器、土錘、鉈滓、弥生後期土器、僅かに縄文土器片が出土している。中でも墨書土器は14点に及び、「南」「西」「酒」「□縄」などが判読される。鉈滓については業者委託における自然科学分析を行った。

平成17年度は4月当初からⅣ区黄褐色砂礫層下における遺構の確認とⅥ区の調査を行った。重機による黄褐色砂礫層除去の後、精査を行ったが遺構は検出されなかった。こうして4月23日、現地説明会を開催した。4月25日に撤収を行い、現地調査を終了した。

調査を通じて検出した遺構、遺物については適宜写真撮影や実測して記録をとり、各調査区で全体の遺構検出状況の写真撮影を行った。写真や図面などの記録類の整理は現地調査と並行して進め、出土遺物については大井家ノ下モ遺跡をも含めて平成17年4月より水洗い後注記、接合作業を行った。順次報告書作成作業にとりかかり、平成17年9月末に終了した。

第3節 調査の組織・体制

発掘調査の組織、体制は以下のとおりである。

平成16年度 大井聖坂遺跡

調査主体 財団法人 鳥取市文化財団
理事長 石谷 雅文(鳥取市副市長)
副理事長 中川 俊隆(鳥取市教育長)
三田 三香子
常務理事 小谷 莊太郎
調査指導 鳥取市教育委員会 事務局庶務課文化財室
事務局 財団法人 鳥取市文化財団 鳥取市埋蔵文化財調査センター
所長 前田 均
主幹 山田 真宏
調査事務 秋田 澄世
白岩 千足
調査担当 財団法人 鳥取市文化財団 鳥取市埋蔵文化財調査センター
調査員 谷口 恭子
調査補助員 神谷 伊鈴
永田 りん太郎
下多 みゆき

平成16年度 大井家ノ下モ遺跡

調査主体 佐治村教育委員会
教育長 岡村 郁夫
調査指導 鳥取県教育委員会
事務局 佐治村教育委員会
教育次長 伊縫 憲男
中谷 均
調査担当 調査員 上田 哲夫

平成17年度

調査主体 財団法人 鳥取市文化財団
理事長 林 由紀子(鳥取市副市長)
副理事長 中川 俊隆(鳥取市教育長)
三田 三香子
常務理事 小谷 莊太郎
調査指導 鳥取市教育委員会 事務局文化財課
事務局 財団法人 鳥取市文化財団 鳥取市埋蔵文化財センター
所長 前田 均
主幹 藤本 隆之
調査事務 秋田 澄世
調査担当 財団法人 鳥取市文化財団 鳥取市埋蔵文化財センター
調査員 谷口 恭子
調査補助員 神谷 伊鈴
永田 りん太郎
下多 みゆき
濱橋 博子

第2章 遺跡の位置と歴史的環境

1. 大井聖坂遺跡と大井家ノ下モ遺跡の位置

鳥取市は県東部に位置し、面積237.25km²、人口20.1万人を擁する県庁所在地である。平成16年11月1日に周辺八市町村を含めた広域合併を行い、北は日本海を臨み南は岡山県と県境をはさむ。地域の中央を中国山地を源とする千代川が北上する。

大井聖坂遺跡は、鳥取市佐治町(合併前の旧佐治村)に所在する。佐治町は鳥取市域では最も南西端に位置し、標高600～1,200m級の山地に囲まれた、面積79.89km²、人口3,000人余りの山村である。佐治町の中央部を千代川支流である佐治川が東西に貫流し、それに沿って国道482号線が辰巳峠、岡山県へと続く。佐治川の中部以奥には弱変成岩古成層が広がり、佐治川の長年の浸食・変形作用によって名石「佐治川石(佐治石)」が加瀬木を中心とした地域に分布する。佐治川沿岸の長狭な谷底平野および段丘を水稻栽培、居住域に充て、丘陵部では梨栽培が盛んである。また、古くから書道用和紙の生産に力を入れている。

佐治町内を東西に貫流する佐治川は丘陵をぬうように細かな蛇行を繰り返して西から東へ流路をとるが小田付近で緩やかとなり、以東は蛇行の数も減り湾曲も弱くなる。さらに森坪橋から下流は川幅が広がるとともに南沿岸部は発達した河岸段丘が認められ、対岸をも合わせ佐治谷では最も開けた沿岸域となっている。約17kmと東西に長い佐治町のうち東側約4kmの佐治川沿岸部にあたる。大井聖坂遺跡はその開けた地域の南西端に位置し、北東方向へ延びる丘陵裾と段丘との境界付近、標高150～156mに展開する。川へ下れば佐治川が北へ蛇行し川幅が狭まる位置にもあたり、佐治谷における陸路、水路における要所と捉えることもできよう。遺跡周辺は平成元年度に圃場整備が行われ、佐治川へ向かって一見棚田状の水田が営まれている。段丘上位を通る現在の村道も圃場整備に伴い敷設されたものである。

今後、村道南岸線の完成によって遺跡周辺の状況は変化していくとみられ、佐治町からわずかに用瀬町へ下った別府地区では谷部を横断するように中国横断道姫路鳥取線の橋脚を工事中である。佐治谷では恵まれた自然環境を活かしてキャンプ場や天文台「さじアストロパーク」なども整備されており、これら交通網の整備・開発によって今後景観は徐々に変貌していくものと考えられる。

大井家ノ下モ遺跡は、鳥取市大井字家ノ下に所在し、大井聖坂遺跡とは上大井集落を挟んで200m東に位置する。標高135m前後の佐治川右岸の段丘上山裾部に展開し、対岸には古市集落が営まれている。平成10年に圃場整備に伴う調査が行われ、中世の集落遺跡であることが判明している。

2. 遺跡の歴史的環境

佐治町内には、現在のところ、山城や遺物散布地を含め40箇所余りの遺跡が確認されている。

【縄文時代】 佐治町で縄文時代の遺跡として、中期前葉の船元Ⅱ式の深鉢、鉢が出土した古市上山根遺跡、中期末北白川C式の深鉢、後期前半の中津式の深鉢が出土した葛谷遺跡、後期の石棒が出土したイヤノ谷遺跡、磨製石斧が出土した大段遺跡がある。いずれも今のところ佐治川左岸に縄文遺跡が集中するが、右岸に位置する大井聖坂遺跡で、縄文土器片数点が出土している。なお、更に中国山地山間部に位置する縄文時代の遺跡として智頭町智頭枕田遺跡が挙げられる。平成14年、早期および中期末から後期初頭の竪穴住居多数が発見され、内6棟に石囲埋甕炉が遺存するなど10万点を越す土器・石器などを含め、西日本最大級の縄文集落として注目されている。

【弥生時代】 佐治町で弥生時代の遺跡は、明確な遺跡の調査が行われていないが、遺物の散布から推察される。特に前期の状況は不明であり、葛谷3号墳の調査で中期後葉の甕口縁部片が、大井3号墳の調査で中～後期の土器、柱状片刃石斧、石庖丁片が出土している。後期になって葛谷遺跡で後期後半の甕が、金鑄原遺跡や標高300mに展開する一軒原遺跡でもわずかに遺物の出土があり、大井聖坂遺跡で

は比較的まとまった後期後半の土器が出土している。

【古墳時代】 弥生時代から続く遺跡は現在のところ確認されておらず、古墳時代前・中期の集落の調査例もない。6世紀中頃の須恵器が上山根遺跡の調査で出土しており、6世紀末～7世紀代、大井聖坂遺跡で複数の竪穴住居が調査されている。この他後期の遺跡として寺ノナル遺跡、一軒原遺跡が知られている。古墳としては、古墳時代後期の横穴式石室を内部主体とする円墳、大井3号墳、葛谷4号墳の調査が行われている。大井3号墳は直径約10mを測り、直刀、鉄鏃、刀子、耳環、碧玉製管玉、ガラス小玉、水晶製切子玉、須恵器から7世紀初頭の造営とみられる。葛谷4号墳は山陽地方に多く見られる無袖型横穴式石室で、推定径14m、出土須恵器から7世紀初頭の築造とみられる。この他、内部主体を横穴式石室とする高山古墳群、内部不明の貝尻古墳がある。

【歴史時代】 古墳時代後期から奈良、平安、中世、一部近世と、大井および対岸の古市、葛谷地区周辺では比較的連綿と系譜が追える地域である。律令体制下、この地域は因幡国智頭郡佐治郷に組み込まれており、郷域は佐治町全域に比定されている。開発は古代から行われ、本格的には尾張氏を祖とする佐治氏が領主として、刈地から加瀬木、さらに栃原まで進めたと言われている。当時佐治川を挟んで南側を「佐治郷南方」、北側を「佐治郷北方」と呼称しており、文献から正嘉2年(1258)には行政区分が分かっていたことが窺える。佐治氏は当初刈地を拠点としていたが、文永3年(1266)に「佐治南大井屋敷」と呼ばれる建物が存在したことが記され、佐治氏が大井にも屋敷を構えていたことが明らかとなっている。大井地区の「大井千軒跡」の伝承はこのあたりのことを踏まえた可能性があり、対岸の「古市」の地名も大井千軒が栄えたころ市場があったことに由来するという。具体的には、発掘調査によって奈良～室町時代の掘立柱建物や墨書土器などが見つかった大井大聖坂遺跡、6～7世紀の古市山根遺跡、古市屋敷遺跡、奈良時代の貝尻遺跡、葛谷遺跡、中の谷遺跡、奈良・平安時代の刈地鳥居原遺跡、金鑄原遺跡、陶製の経筒2点が見つかった大井経塚、宝篋印塔が祀られた佐治四郎重貞の墓所などがある。大井家ノ下モ遺跡は中世の集落であり、調査で倉庫とみられる総柱建物、柵列を検出し、12～14世紀代、17～19世紀代の中国産をはじめとする豊富な陶磁器類が出土している。このように歴史時代の調査例も徐々に増える傾向にあり、今後文献を裏付けるような新しい資料を提供してくれるであろう。

引用・主要参考文献

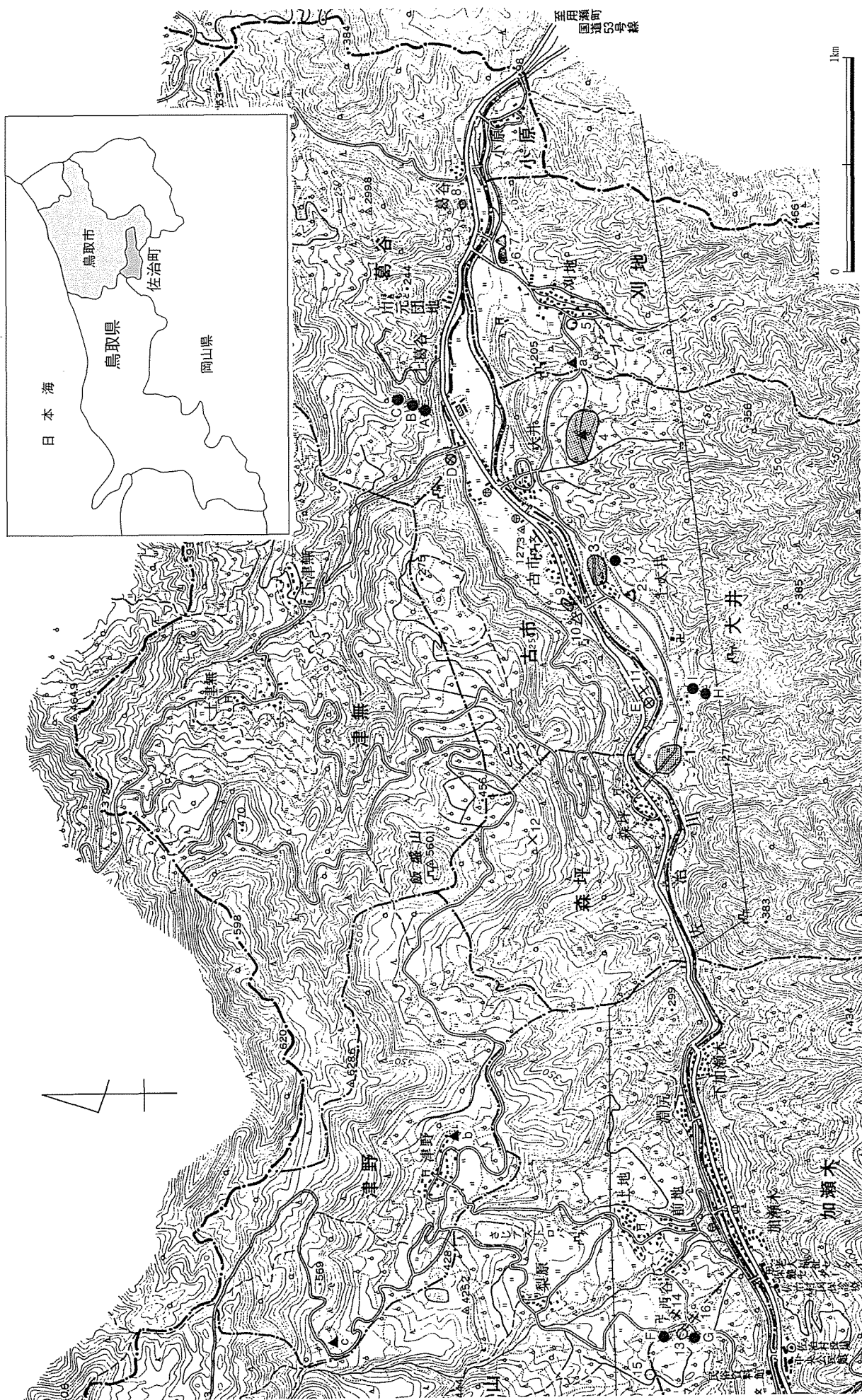
- 佐治村『佐治村誌』1983年
平凡社『日本歴史地名大系第32巻 鳥取県の地名』1992年
佐治村教育委員会『大井聖坂遺跡』1990年
佐治村教育委員会『大井家ノ下モ遺跡発掘調査報告書』1999年
（財）鳥取市文化財団『大井聖坂遺跡2次調査<Ⅰ区・Ⅱ区・Ⅲ区>発掘調査報告書』2005年

—第1図 遺跡名称—

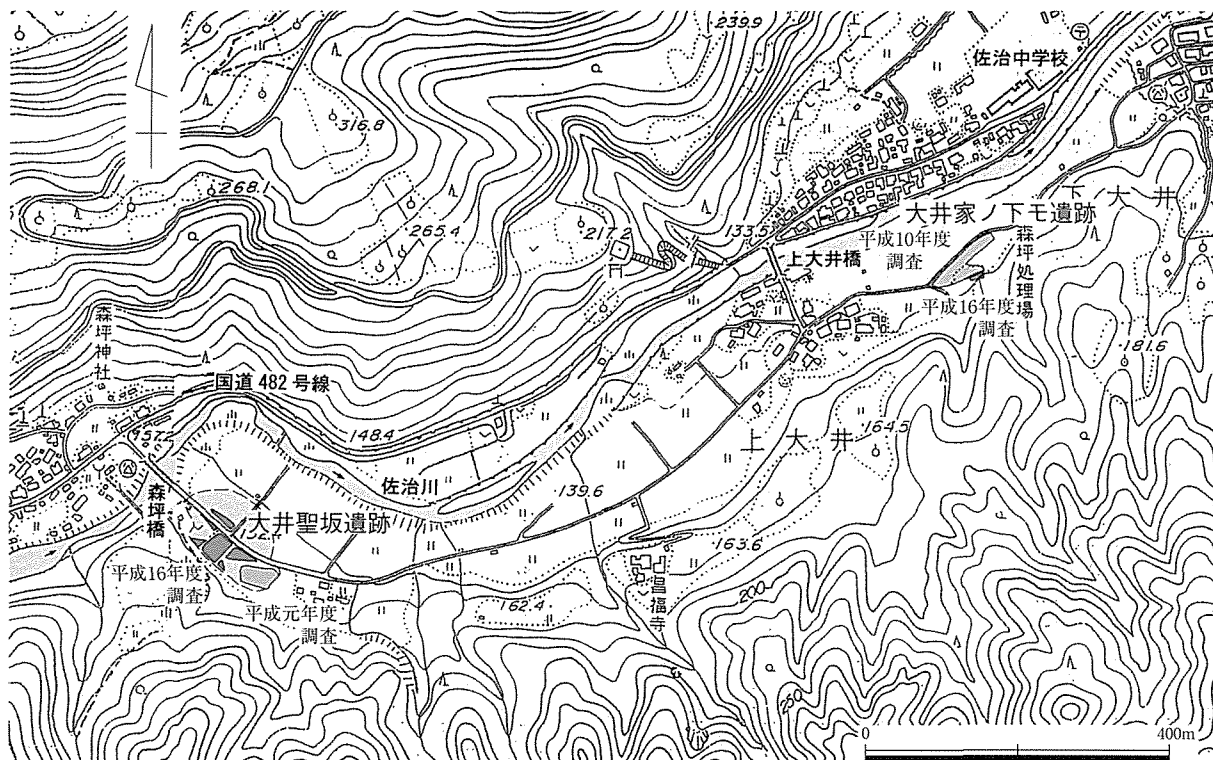
- | | |
|------------------|------------|
| 1. 大井聖坂遺跡 | A. 葛谷1号墳 |
| 2. 大井経塚 | B. 葛谷2号墳 |
| 3. 大井家ノ下モ遺跡 | C. 葛谷3号墳 |
| 4. 金鑄原遺跡 | D. 葛谷4号墳 |
| 5. 寺ノナル遺跡 | E. 貝尻古墳 |
| 6. 刈地鳥居原遺跡 | F. 高山1号墳 |
| 7. 刈地遺跡(佐治四郎の遺跡) | G. 高山2号墳 |
| 8. 葛谷遺跡 | H. 大井1号墳 |
| 9. 古市上山根遺跡 | I. 大井2号墳 |
| 10. 屋敷遺跡 | J. 大井3号墳 |
| 11. 貝尻遺跡 | |
| 12. 大段遺跡 | a. ホウニン鐘鑄跡 |
| 13. 一軒原第1遺跡 | b. 谷奥瓦窯跡 |
| 14. 一軒原第2遺跡 | c. 大清水鐘鑄跡 |
| 15. 一軒原第3遺跡 | |
| 16. 一軒原第4遺跡 | |

—凡 例—

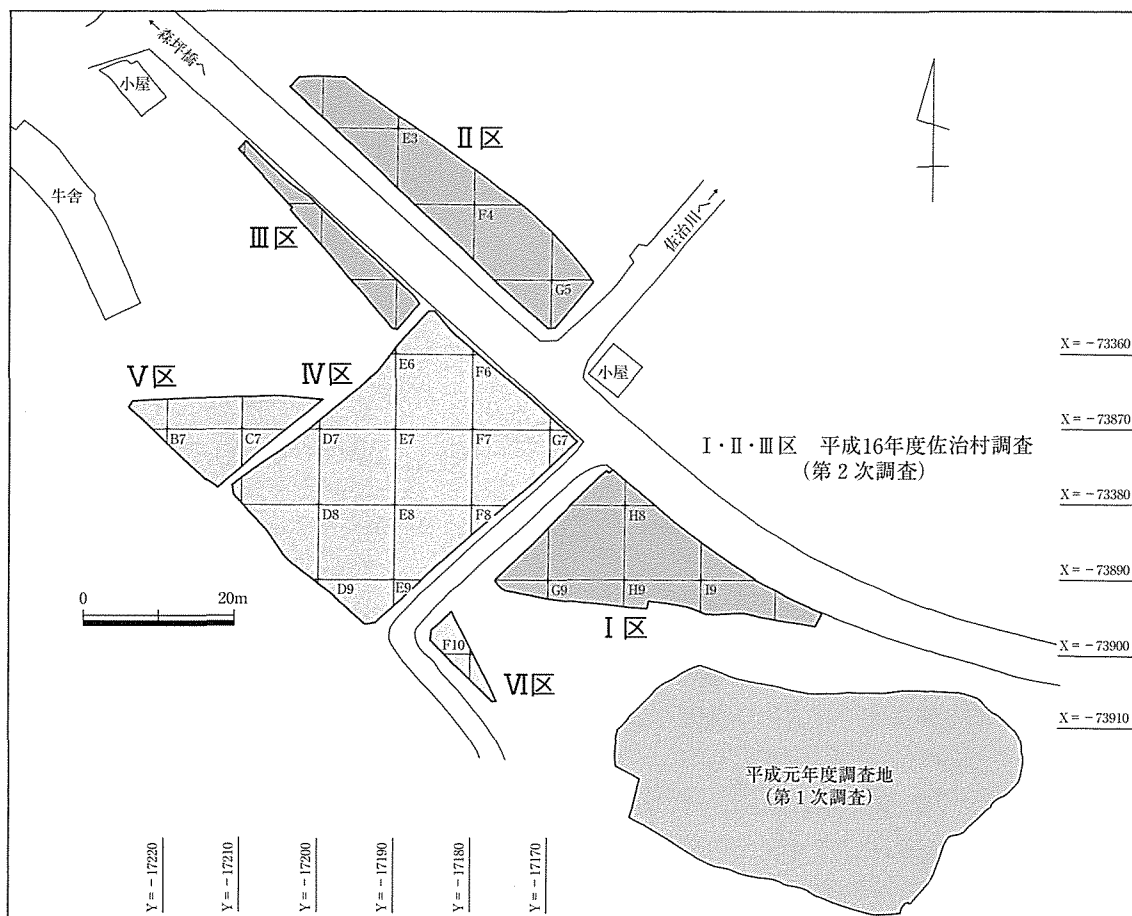
- ⊗ 消滅古墳
× 遺物散布地
△ 経塚、中～近世墳墓
▲ 生産遺跡



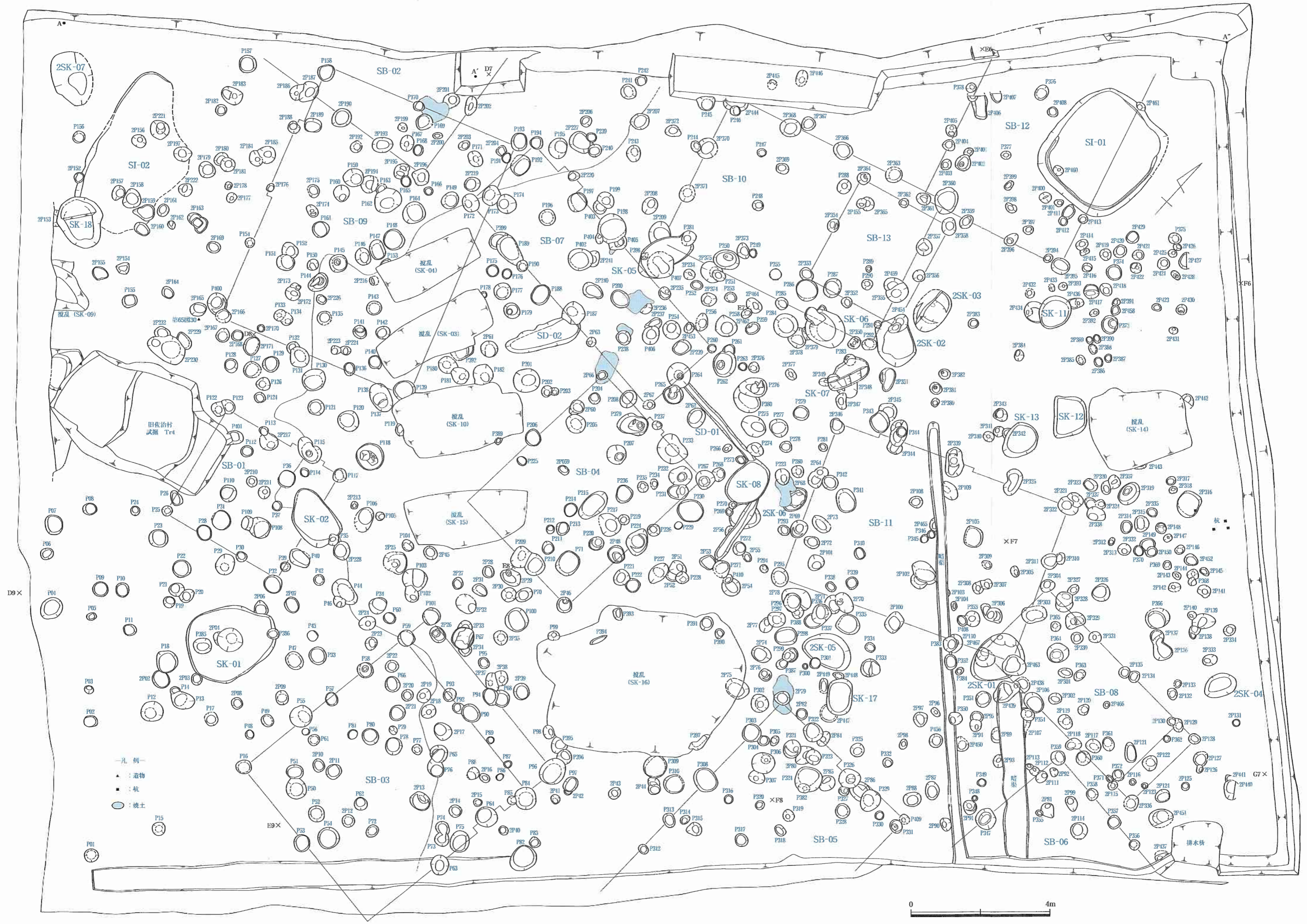
第1図 大井聖坂遺跡・大井家ノ下遺跡周辺遺跡分布図 (S=1:25,000)



第2図 大井聖坂遺跡・大井家ノ下毛遺跡調査地位置図(S = 1 : 10,000)



第3図 大井聖坂遺跡調査区設定図(S = 1 : 1,000)



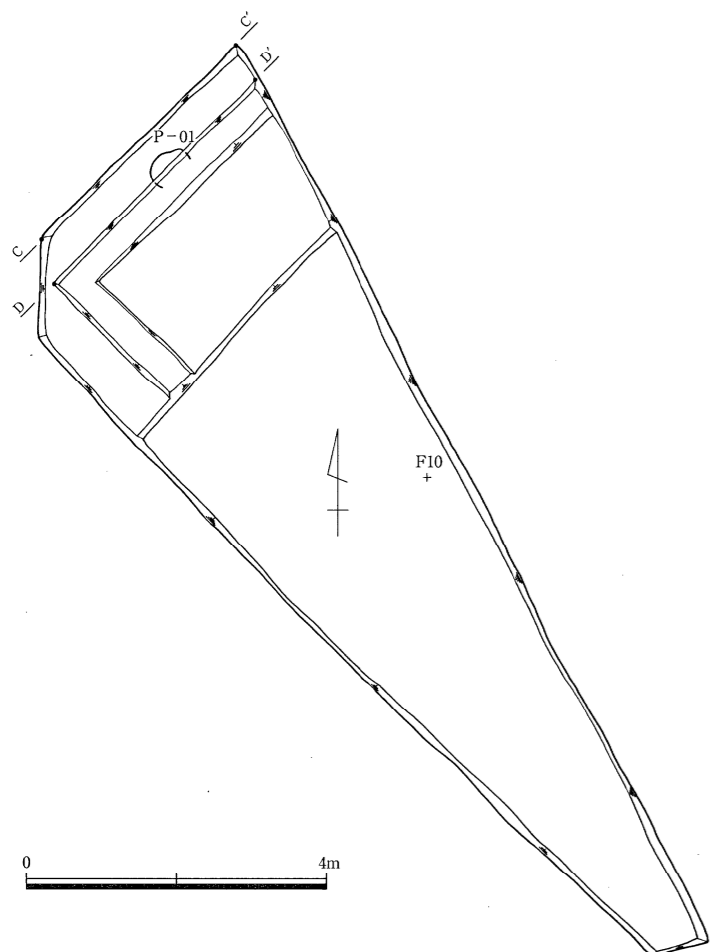
第4図 大井聖坂遺跡Ⅳ区全体図(S=1:100)



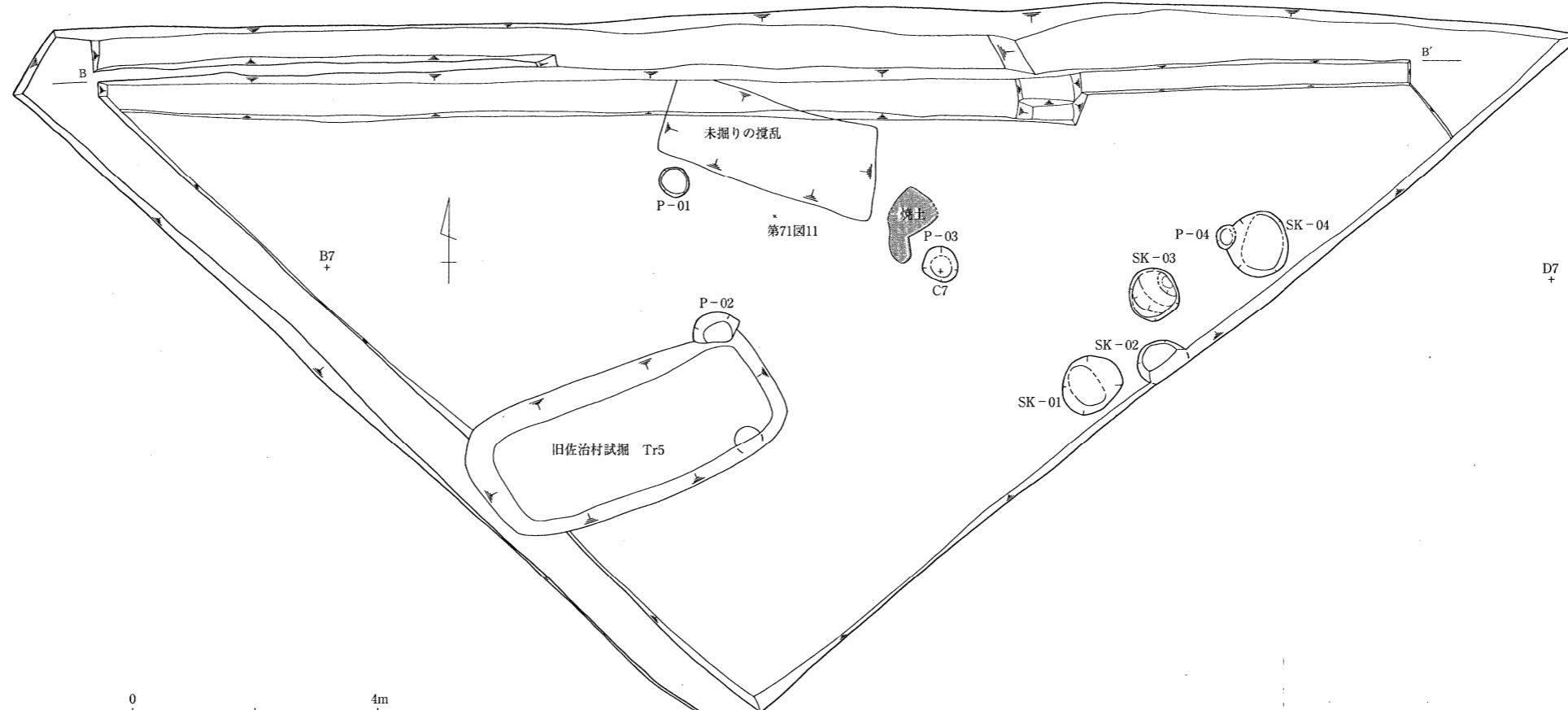
第5図 大井聖坂遺跡IV区全体図(上層)(S=1:200)



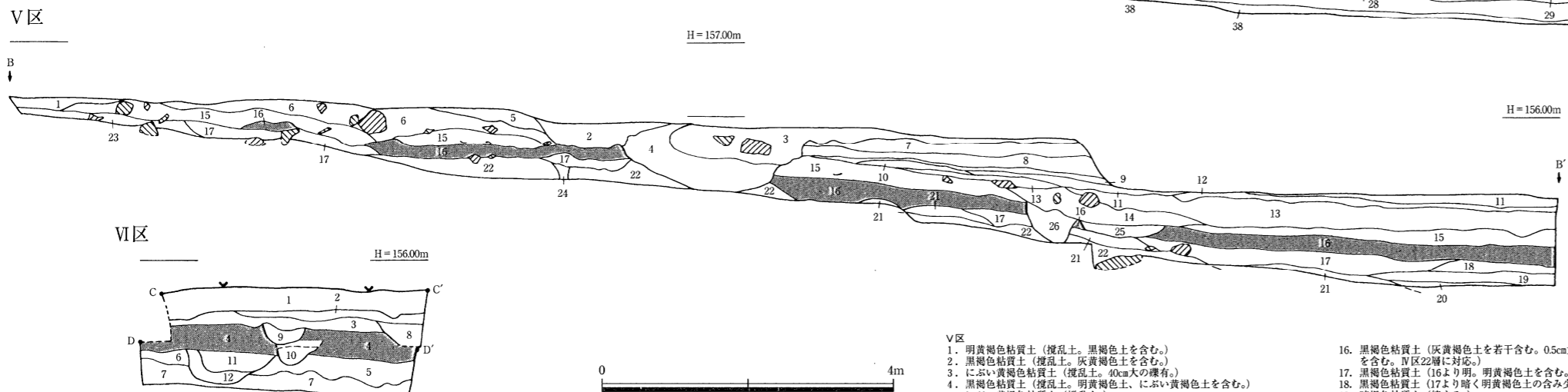
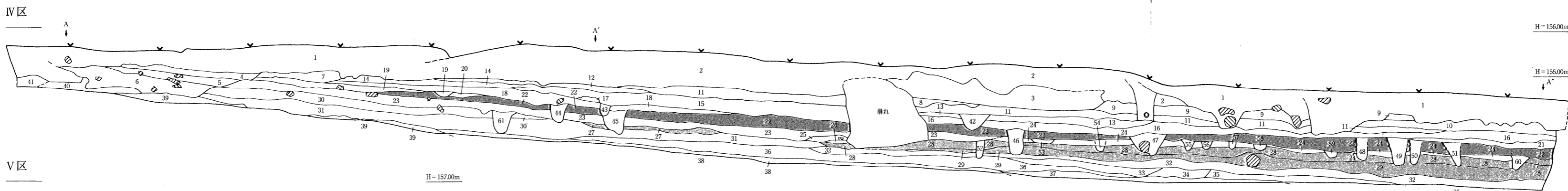
第6図 大井聖坂遺跡Ⅳ区全体図(下層)(S=1:200)



第7図 大井聖坂遺跡VI区全体図(S=1:100)



第8図 大井聖坂遺跡VII区全体図(S=1:100)



- VI区
- 客土(埋時)
 - 褐色砂混粘質土(床土。1~6cm大の礫を含む。)
 - 暗褐色砂混粘質土(IV区15、18層に対応。)
 - 黒褐色粘質土(IV区22層に対応。)
 - 黒褐色砂混粘質土(IV区23層に対応。)
 - にぶい黄褐色粗砂(真砂土。IV区30層に対応。)
 - 暗褐色砂混粘質土(にぶい黄褐色粘質土ブロックを若干含む。)
 - 黒褐色粘質土(褐色粘質土ブロックを若干含む。)
 - 灰黄褐色砂混粘質土
 - 黒色粘質土(1cm以下の礫を若干含む。)
 - 黒色砂混粘質土(にぶい黄褐色粘質土混じる。)

- V区
- 明黄褐色粘質土(攪乱土。黒褐色土を含む。)
 - 黒褐色粘質土(攪乱土。灰黄褐色土を含む。)
 - にぶい黄褐色粘質土(攪乱土。40cm大の礫を含む。)
 - 黒褐色粘質土(攪乱土。明黄褐色土、にぶい黄褐色土を含む。)
 - にぶい黄褐色粘質土(攪乱土。)
 - 黒灰色粘質土(10~40cm大の礫を含む。)
 - 灰黄褐色粘質土(耕作土。シルト質。)
 - にぶい黄褐色粘質土(耕作土。やや赤褐色かかる。シルト質。)
 - 褐色粘質土(床土か。8より赤褐色かかる。鉄分沈着。シルト質。)
 - 灰黄褐色粘質土(耕作土。シルト質。)
 - 灰黄褐色粘質土(耕作土。10より明。シルト質。)
 - 褐色粘質土(床土。鉄分沈着。よく締まる。)
 - にぶい黄褐色粘質土(褐灰色土。褐色土を含む。明黄褐色土を若干含む。混じった土。シルト質。IV区15層に対応。)
 - 灰黄褐色粘質土(13に似るか褐灰色土の含み多い。黒褐色土を若干含む。)
 - 黒褐色粘質土(灰黄褐色土を含む。0.5cm大の明黄褐色礫を含む。IV区18層に対応。)
 - 黒褐色粘質土(灰黄褐色土を若干含む。0.5cm大の明黄褐色礫を含む。炭片を含む。IV区22層に対応。)
 - 黒褐色粘質土(16より明。明黄褐色土を含む。IV区23層に対応。)
 - 黒褐色粘質土(17より暗。明黄褐色土の含み少。暗褐色かかる。)
 - 暗褐色粘質土(締まる。)
 - 暗褐色粘質土(19より明。締まる。)
 - 明黄褐色粘質土(崩れた花崗岩を含む。黒褐色土を含む。IV区30層に対応。)
 - 明黄褐色粘質土(真砂土。)
 - にぶい黄褐色粘質土(崩れた花崗岩を含む。粘質強。)
 - 黒褐色粘質土(0.5cm大の明黄褐色礫を含む。)
 - 黒褐色粘質土(14より暗。褐色土を若干含む。)
 - 褐灰色粘質土(25より黒褐色土の含み多い。明黄褐色土を若干含む。)

- IV区
- 褐灰色シルト(攪乱土。黄灰色ブロック、褐色土ブロック、黒褐色土ブロックを含む。IV区22層に対応。)
 - 褐灰色シルト(攪乱土。0.3cm大の礫を含む。5cm大の黒褐色土ブロックを含む。セメント片を含む。)
 - 灰黄褐色シルト(攪乱土。5~15cm大の礫を含む。)
 - 黒褐色粘質土(攪乱土。3cm大の灰黄褐色土ブロックを含む。)
 - 黒褐色粘質土(攪乱土。4より暗。1cm大の灰黄褐色土ブロックを含む。)
 - 黒褐色粘質土(攪乱土。5より明。5~10cm大の礫を含む。全体に灰黄褐色土を含む。)
 - 褐色粘質土(攪乱土。3cm大の灰黄褐色土ブロックを含む。炭片を含む。)
 - 褐色粘質シルト(黒褐色土を含む。僅かに褐色の沈着有。)
 - 黄灰色シルト(耕作土か。0.3cm大の礫を含む。褐色の沈着若干有。)
 - にぶい黄褐色シルト(黄灰色シルトに褐色沈着。0.3~0.5cm大の礫を含む。)
 - 灰黄褐色シルト(僅かに褐色の沈着有。上部に褐色の沈着強。)
 - 灰黄褐色シルト(褐色の沈着有。0.3cm大の礫を含む。)
 - 灰黄褐色粘質土(褐色かかる。黒褐色土を若干含む。3~5cm大の礫を含む。)
 - 褐色シルト(0.3cm大の礫を含む。炭片を含む。)
 - 灰黄褐色粘質土(18よりやや暗。褐色土を含む。炭片を含む。)
 - 褐色粘質土(0.3cm大の礫を含む。15に似る。)
 - 褐色粘質土(黒褐色土をブロック状に含む。)
 - 灰黄褐色粘質土(14より暗。褐色土を含む。0.3cm大の礫を含む。土器片を含む。締まりやや弱い。シルト質。)
 - 褐色粘質土(上部に3~5cm大の明黄褐色土ブロックを含む。0.5cm大の塊土ブロックを含む。炭片を含む。)
 - 褐色粘質土(炭片を含む。32に似るか塊土ブロックの含み少。)
 - 褐色シルト(0.3cm大の礫を含む。やや粘質。)
 - 褐色粘質土(黒色礫。0.3cm大の礫を含む。)
 - 褐色粘質土(22よりやや明。0.3~0.5cm大の礫を含む。)
 - にぶい黄褐色粘質土(整地層(28層)の漸移層。0.3cm大の明黄褐色礫を含む。黒褐色土を含む。)
 - にぶい黄褐色粘質土(黒褐色土をブロック状に含む。灰黄褐色土を含む。27に似る。)
 - にぶい黄褐色粘質土(0.3cm大の礫を若干含む。)
 - にぶい黄褐色粘質土(黒褐色土を若干含む。)
 - 明黄褐色砂礫(0.1~0.5cm大の砂礫。僅かに黒褐色土を含む。)
 - 明黄褐色砂礫(28より明。黄褐色かかる。0.3~0.8cm大の砂礫。黒褐色土の含み無。)
 - 黒褐色粘質土(23より明で褐色かかる。0.3~0.5cm大の礫を含む。)
 - 黒褐色粘質土(灰黄褐色土を含む。0.3~0.5cm大の礫を含む。)
 - 黒褐色粘質土(1~2cm大の明黄褐色砂礫ブロックを若干含む。黒色かかる。粘質強。)
 - 黒褐色粘質土(32より灰黄褐色土を含む。僅かに0.1~0.3cm大の礫を含む。)
 - 黒褐色粘質シルト(0.3~0.5cm大の明黄褐色砂礫を含む。)
 - 黒褐色シルト(0.3~0.5cm大の礫を多く含む。)
 - 灰黄褐色粘質土(32より明。5~10cm大の礫を含む。)
 - 灰黄褐色粘質土(攪乱土。4より暗。1cm大の灰黄褐色土ブロックを含む。)
 - 灰黄褐色粘質土(32より明。黄褐色かかる。0.3~0.8cm大の砂礫。黒褐色土の含み無。)
 - にぶい黄褐色粘質土(灰黄褐色土を含む。粘質強。)
 - にぶい黄褐色粘質土(灰黄褐色土を含む。0.5cm大の黄褐色礫を若干含む。)
 - にぶい黄褐色粘質土(28より黄褐色土を含む。)
 - にぶい黄褐色粘質土(灰黄褐色土を含む。粘質強。)
 - 明黄褐色砂礫(0.3~0.5cm大の砂礫。黒褐色土を少し状に若干含む。)
 - 明黄褐色粘質土(0.5~10cm大の礫を含む。)
 - 灰黄色粘土(0.3~1cm大の礫を含む。)
 - 褐色粘質土(灰黄褐色土を含む。8cm大の礫有。)
 - 灰黄褐色粘質土(炭片を含む。)
 - 灰黄褐色粘質土(炭片を含む。締まりやや弱い。)
 - 黒褐色粘質土(礫を含む。)
 - 黒褐色粘質シルト(0.3cm大の礫を含む。)
 - 灰黄褐色粘質シルト(0.3cm大の礫を含む。炭片を含む。)
 - 灰黄褐色粘質シルト(0.3cm大の礫を含む。)
 - 灰黄褐色粘質シルト(0.3cm大の礫を含む。)
 - 灰黄褐色粘質シルト(0.3cm大の礫を含む。)
 - 黒褐色粘質シルト(明黄褐色土を含む。0.3~0.8cm大の礫を含む。)
 - 灰黄褐色粘質土(礫を含む。)
 - 黒褐色粘質土(やや灰黄褐色土を含む。)
 - 黒褐色粘質シルト(0.3~1cm大の明黄褐色礫を含む。)
 - 黒褐色粘質シルト(0.3cm大の礫を含む。)
 - 黒褐色粘質シルト(0.3cm大の礫を含む。)
 - 黒褐色粘質シルト(0.3cm大の礫を含む。)
 - 黒褐色粘質シルト(0.3cm大の礫を含む。)
 - 黒褐色粘質シルト(0.3cm大の礫を含む。)
 - 黒褐色粘質シルト(0.3cm大の礫を含む。)
 - 黒褐色粘質シルト(明黄褐色土を含む。0.3~0.8cm大の礫を含む。)
 - 黒褐色粘質土(締まりやや弱い。)

第9図 大井聖坂遺跡IV区・V区・VI区断面図(S=1:80)

第3章 調査の結果

第1節 大井聖坂遺跡の調査

1. 調査地の基本層序(第9図、図版3・4)

今回調査したⅣ～Ⅵ区は、平成16年度に佐治村教育委員会によって調査された村道沿いのⅠ～Ⅲ区より南西に位置し、今回最も調査面積の大きいⅣ区、その南西両側にⅤ区、Ⅵ区の配置である。各調査区の層序は、いずれも西側壁面を利用して行い、そのほか適宜サブトレンチを設け土層の観察を行った。

Ⅳ区 土層観察用の西壁面はちょうど田畦部分にあたり、現地表からの図化が可能となった。調査地の基本層序は、第1～8層までが圃場整備に伴う攪乱土である。特に市道半側は耕作土下に5～20cm大の岩石が集中する一帯があり、おそらく圃場整備に伴いそれ以前の古道や崖の補強などに用いた石垣、暗渠周辺に埋設された礫などが埋められたものと理解した。石の多くは川原石であったが、中には50cm大もの人力では動かさないような岩もあり、その多くは風化がすすんだ花崗岩である。第11・12層は床土で下位に褐色の強い沈着があり、攪乱の可能性のある第13層を含め第14層以上が圃場整備時を含めⅣ区が水田・耕作地となった以降の層と考えられる。第15層灰黄褐色粘質土は厚さ最大36cmに達し、第15層に比べわずかに灰色かかる第16層褐灰色粘質土とは平安～中世、近世期の遺物片を含む包含層である。第18層は第15層と似るがやや褐灰色かかり同様に平安～中世の遺物を含む。この第18層の下に焼土ブロックを含む第19層褐灰色粘質土が広がる。この焼土層は標高154.6m前後に広がり、部分的に焼土遺構として厚さ8cm程度が確認される箇所があり、Ⅴ区にも及ぶ。下層の黒色の強い第22層黒褐色粘質土は第一面(上層)の基盤層であり、標高154.6～153.5mに広がる。補助トレンチ断面からも黒褐色粘質土中にやや明るめの灰黄色粘質土および褐灰色粘質土の埋土をもつピットが確認されている。第23層を挟んで第30～27～24層が第二面(下層)の基盤層となる。第24層上面で検出されたSI-01の遺物から7世紀後半～8世紀の年代が与えられる。第28・29層明黄褐色砂礫は平成16年度佐治村調査で言うところのいわゆる「整地層」にあたり、風化した花崗岩が砂礫化したものである。僅かに黒褐色土を含む第28層に対し第29層は黒褐色土の含みが見られず黄橙色かかる。第27層についてはにぶい黄褐色粘質土で色調などから第28層の漸移的な層と思われる。第28・29層中に遺物の含みはなく、傾斜する層位にも乱れは認められず、よく観察すると0.1～0.8cm大の砂礫が大きなものから小さい粒子へと繰り返しの互層になっており、標高の上位ほど薄く下位ほど厚い堆積でE6杭付近で50cmに達し、さらに大きな岩石が下位ほど見られる傾向がある。背後の丘陵谷部から放射状に範囲が広がっている状況がⅠ～Ⅲ区の「整地層」範囲からも窺える。谷部の露頭で風化した花崗岩が確認されたことから砂礫が谷部から流出し堆積したものと考えられる。この砂礫層下には再び黒色土の強い第32層黒褐色粘質土が堆積し、粘質が強く軟弱な地盤である。この第32層上面で精査したが遺構や遺物の含みも見られなかった。その後第36・37層をへて地山のにぶい黄橙色粘質土・砂礫層へと漸移していく。

Ⅴ区 調査区北壁面を土層観察用に用いた。遺跡の南西部のちょうど丘陵斜面の傾斜に沿ったようなラインにあたる。遺跡の北側は現在も耕作が行われている畑地であり南西斜面高上位に攪乱層が確認されたが、東側の斜面下位ほど第7・8層など耕作土と床土が幾重にも重なるなど遺構面上に厚い堆積が確認された。基本的にはⅣ区と層序は同様で、第15層褐灰色粘質土中に遺物を多く含み、第16層黒褐色粘質土がⅣ区第22層に対応する第一面の基盤層である。Ⅳ区と異なり第16層は155.6～154.2mとかなりの傾斜が認められる。断面図部分では見られなかったが、Ⅴ区東端で第18層と第19層間にⅣ区第28・29層明黄褐色砂礫の広がりを確認している。

Ⅵ区 調査区北西壁面を土層観察用に用いた。断面からと第4層黒褐色粘質土上面と第5・6層上面に遺構が確認される。この第4層がⅣ区第22層に対応する第一面の基盤層でⅣ区よりかなり高い標高155m付近に広がりを見せる。

2. IV区の調査

IV区の調査で、掘立柱建物13棟、竪穴住居2棟、土坑18基、溝状遺構2条、焼土遺構、ピット多数を検出した。この他、圃場整備時に重機により岩石を多く埋設した大規模な攪乱穴が数箇所にわたり検出された。遺構面として二面を検出したが、南西から北東、南から北へ向けて地盤の低くなる緩斜面であることから厳密には同一層位での検出が不十分な部分もみられた。特に、IV区北東部のF7~G7杭周辺では第22層はやや褐色かかって堆積が薄く一部第24層上面での検出となったため、ピットに関して第一面(上層)と第二面(下層)とが不明瞭な部分もある。よって上層、下層のそれぞれの遺構について明確に面として区別せず、下層で検出した土坑(SK)とピット(P)については遺構名の頭に2を付けて表記した。

掘立柱建物

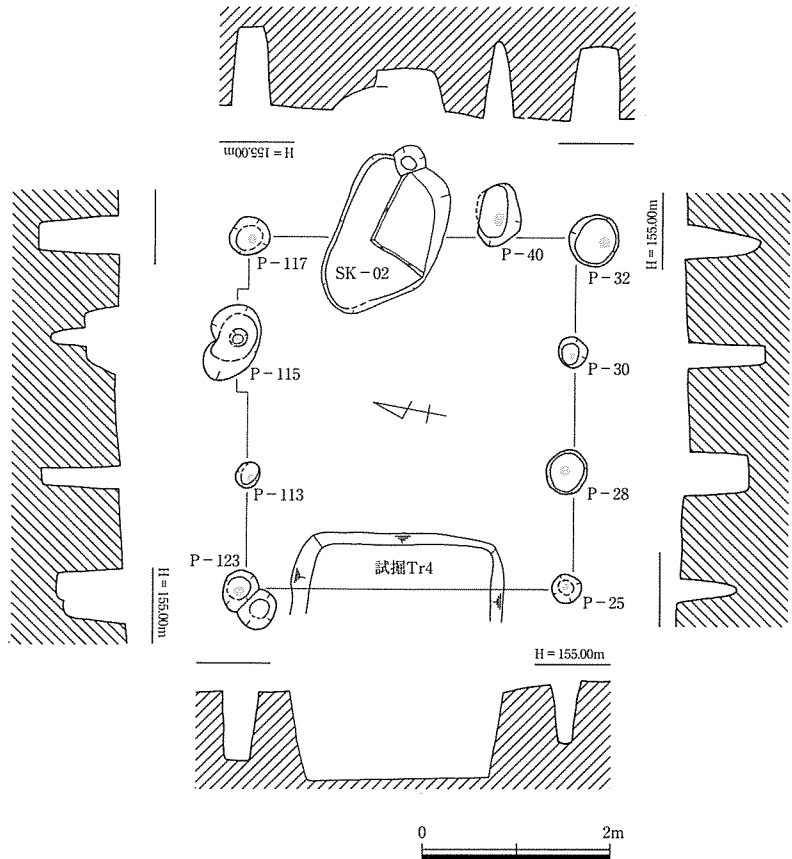
SB-01(第4・5・10図、図版5)

IV区南西部のD8杭南東、標高154.83mで検出した。西辺を2次調査第4試掘トレンチで切られ、東辺上にSK-02が重なる。桁行3間、梁行2間あるいは3間のわずかに東西に長い建物である。主軸はN-79°-Eを振る。建物の平面形は正方形に近く、桁行3間が3.72m、梁行が3.48mを測る。建物面積は12.9m²である。柱間寸法は桁行が1.24m、平均すると桁行1.25m、梁行が1.74ないし1.2m前後である。柱穴の平面形はすべて円形および楕円形で、現状で径30~85cm、深さ60~85cmを測る。土層断面観察により柱痕跡状の土層が認められた柱穴もあった。

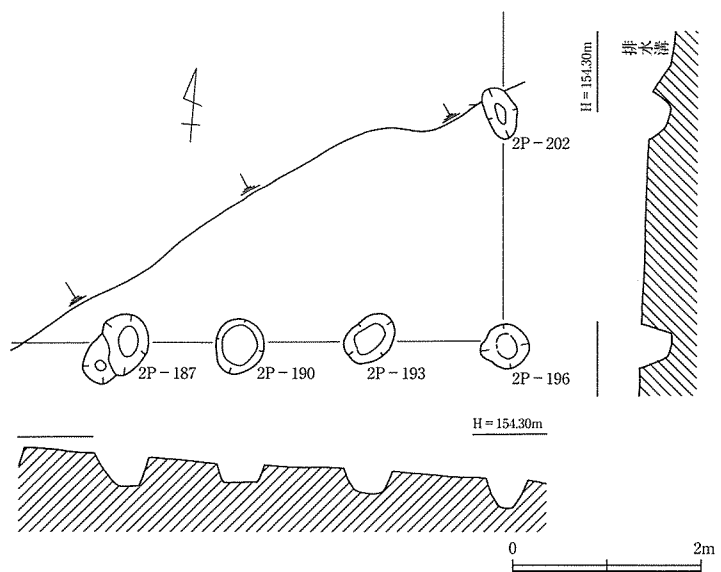
遺物はP-25、32、40、113、115、117より埋土から土器細片が出土している。

SB-02(第4・5・11図、図版5)

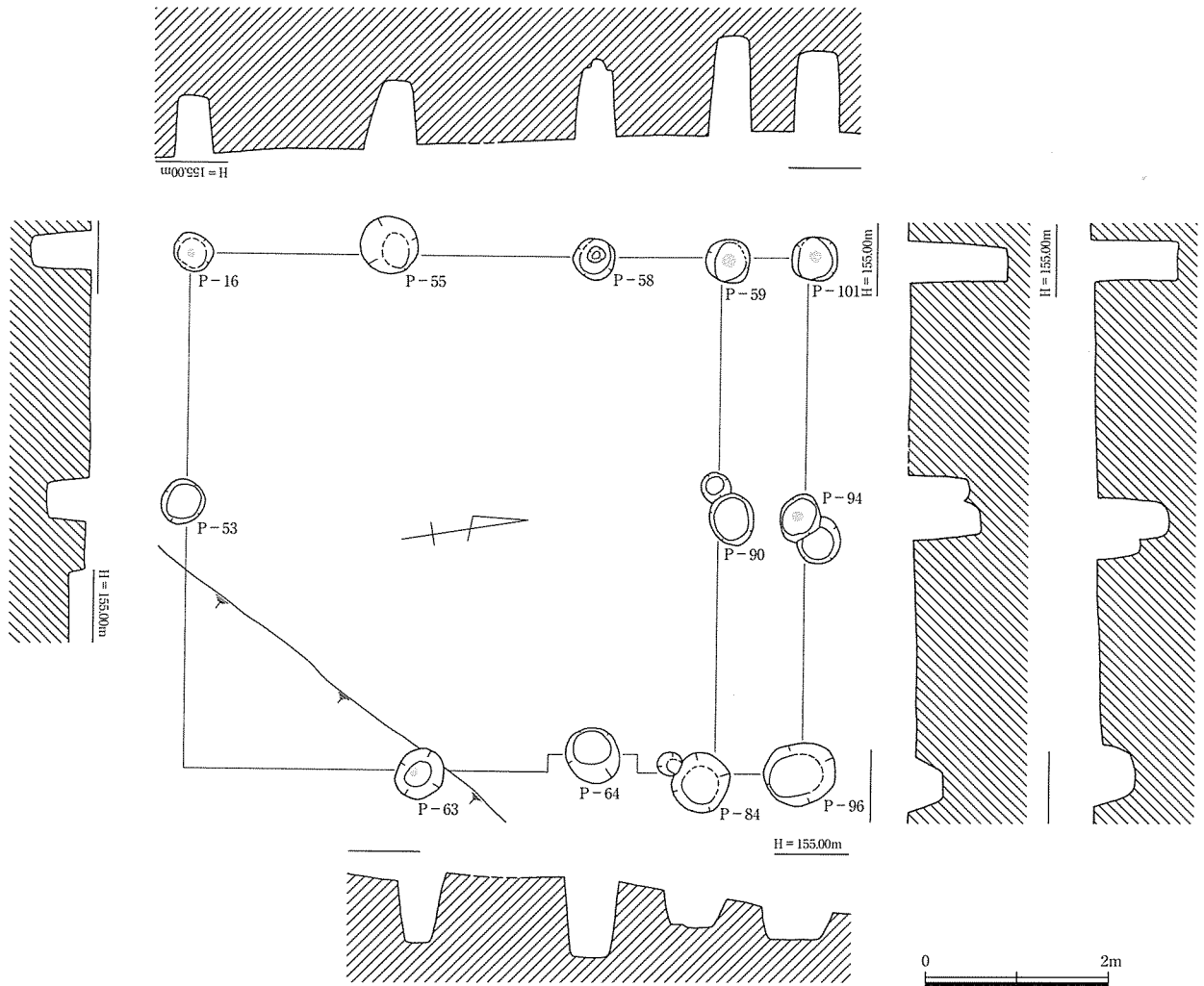
IV区南西壁面寄りのD7杭以西、標高154.15mで検出した。北側は調査区壁面以北へと延び、建物の南東隅の検出である。検出は第二面での検出であったが、ちょうど建物の中央部に調査区断面が位置し、土層断面の検討の結果、本来は第一面の遺構と考えられる。現況で桁行3間、梁行1間の東西建物であるが、梁行3間の南北建物



第10図 IV区SB-01実測図(S=1:80)



第11図 IV区SB-02実測図(S=1:80)



第12図 IV区SB-03実測図 (S = 1 : 80)

の可能性もある。主軸は現況でN-85°-Eを振る。現況で桁行3間が4.00m、梁行が2.40mを測る。建物面積は9.6㎡以上である。柱間寸法は桁行が平均すると桁行1.33mである。柱穴の平面形はすべて円形および楕円形で、径45~60cm、現状で深さ19~35cmであるが本来70cm弱はあったとみられる。

遺物は2P-196より埋土から土器細片が出土している。

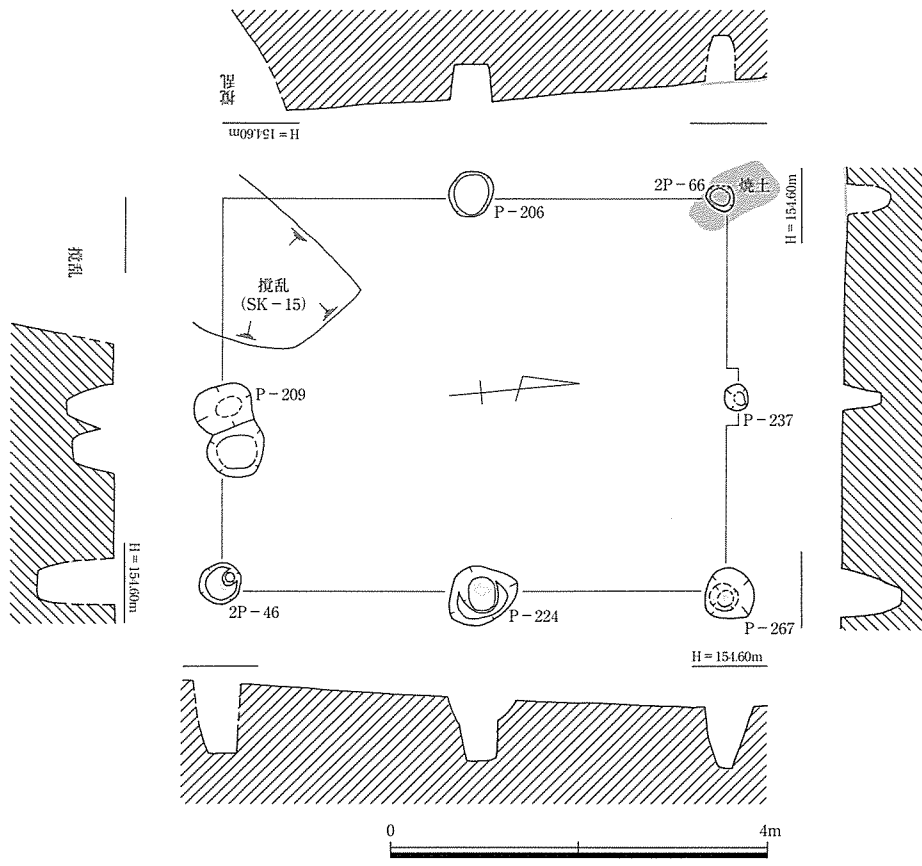
SB-03(第4・5・12図、図版5)

IV区南東部のE9杭北、標高154.95mで検出した。南東端が調査区南東壁面にかかる。桁行3間、梁行2間の南北建物で、北側に廂が付属する。主軸はN-9°-Eを振る。建物の平面形は正方形に近く、桁行3間が5.88m、廂部を含めると6.83m、梁行2間が5.68mを測る。建物面積は33.4㎡である。平均すると桁行1.96m、梁行が2.84㎡である。柱穴の平面形はすべて円形および楕円形で、現状で径46~64cm、深さ36~108cmを測る。土層断面観察により柱痕跡状の土層が認められた柱穴もあった。

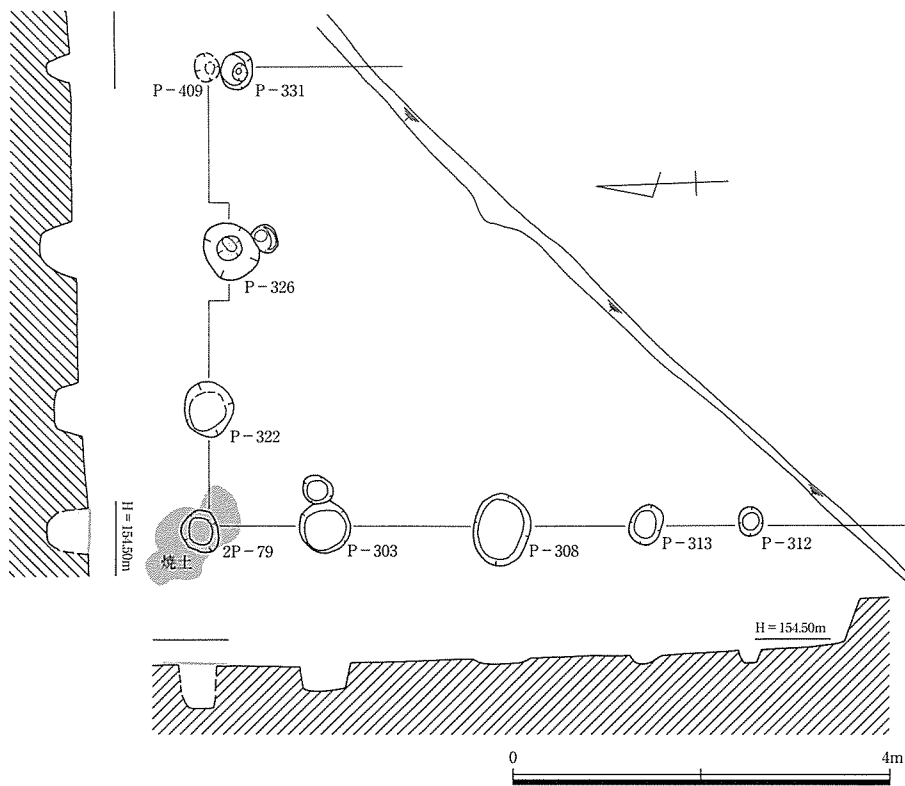
遺物はP-16、53、55、58、59、63、64、84、90、94、96、101より埋土から土器細片が出土している。

SB-04(第4・5・13図、図版5)

IV区中央部のE8杭北、標高154.49mで検出した。南西端を重機による攪乱穴で切られる。北東隅部に70cm程度の間隔をおいてL字形のSD-01が配置する。桁行2間、梁行2間の南北建物である。主軸はN-5°-Eを振る。建物の平面形は長方形で、桁行2間が5.36m、梁行2間が4.16mを測る。建物面積は22.3㎡である。柱間寸法は平均すると桁行2.68m、梁行が2.08mである。柱穴の平面形はすべて円形お



第13图 IV区SB-04实测图 (S = 1 : 80)



第14图 IV区SB-05实测图 (S = 1 : 80)

よび楕円形で、径28～61cm、深さ40～75cmを測る。土層断面観察により東桁側のピットに柱痕跡状の土層が認められた。2P-66の上層に95×51cmの焼土範囲が確認されている。

遺物はP-206、209、224、267より埋土から土器細片が出土している。

SB-05(第4・5・14図)

IV区東側のF8杭周辺、標高154.39mで検出した。南東側は調査区南東壁面へ延びる。現況で桁行4間、梁行3間の南北建物である。主軸はN-2°-Eを振る。建物の平面形は長方形とみられ、桁行4間が5.78m、梁行2間が4.86mを測る。建物面積は28.1㎡である。柱間寸法は平均すると桁行1.44m、梁行が1.62mである。柱穴の平面形はすべて円形および楕円形で、径31～75cm、深さ16～75cmを測る。土層断面観察により北梁側の一部ピットに柱痕跡状の土層が認められた。2P-79の上層に112×61cmの焼土範囲が確認されている。

遺物はP303、322、326より埋土から土器片が出土しており、P-326では竈片が含まれる。

SB-06(第4・5・15・16図、図版15)

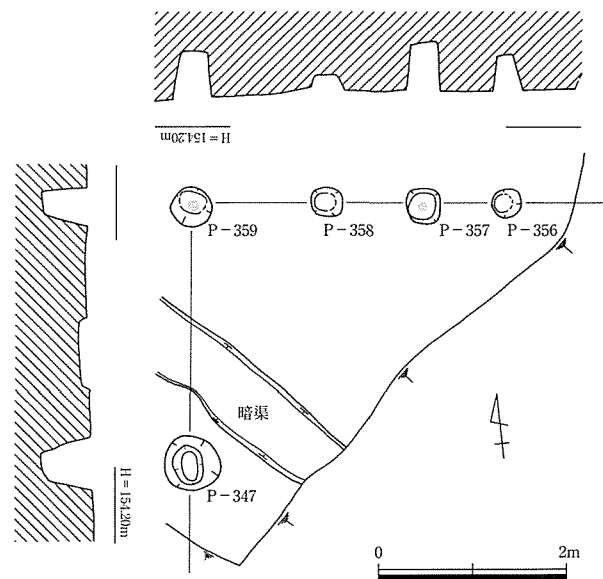
IV区東端のG7杭南、標高153.95mで検出した。南東側は調査区南東壁面へ延びる。現況で桁行3間、梁行1間の建物である。主軸はN-84°-Wを振る。建物の平面形は長方形とみられ、桁行3間が3.32m、梁行1間が2.78mを測る。建物面積は9.2㎡である。柱間寸法は平均すると桁行1.11mである。柱穴の平面形はすべて円形および楕円形で、径31～58cm、深さ16～53cmを測る。土層断面観察により北側の一部ピットに柱痕跡状の土層が認められた。

遺物はP-347、357、359より埋土から土器片が出土しており、P-357では須恵器杯蓋(1)が含まれる。復元口径14.8cm、平坦な天井部で口縁部外端面に1条の凹線をもつ。

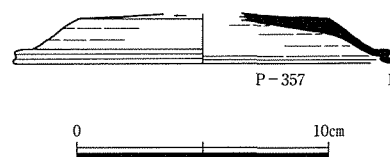
SB-07(第4・5・17・18図、図版15)

IV区中央北西寄りのE7杭南西、標高154.22mで検出した。桁行4間、梁行1間の東西建物である。主軸はN-83°-Wを振る。建物の平面形は長方形で、桁行4間が7.75m、梁行1間が2.48mを測る。建物面積は19.22㎡である。柱間寸法は平均すると桁行1.93mである。柱穴の平面形はすべて円形および楕円形で、径27～60cm、深さ22～80cmを測る。土層断面観察により一部ピットに柱痕跡状の土層が認められた。

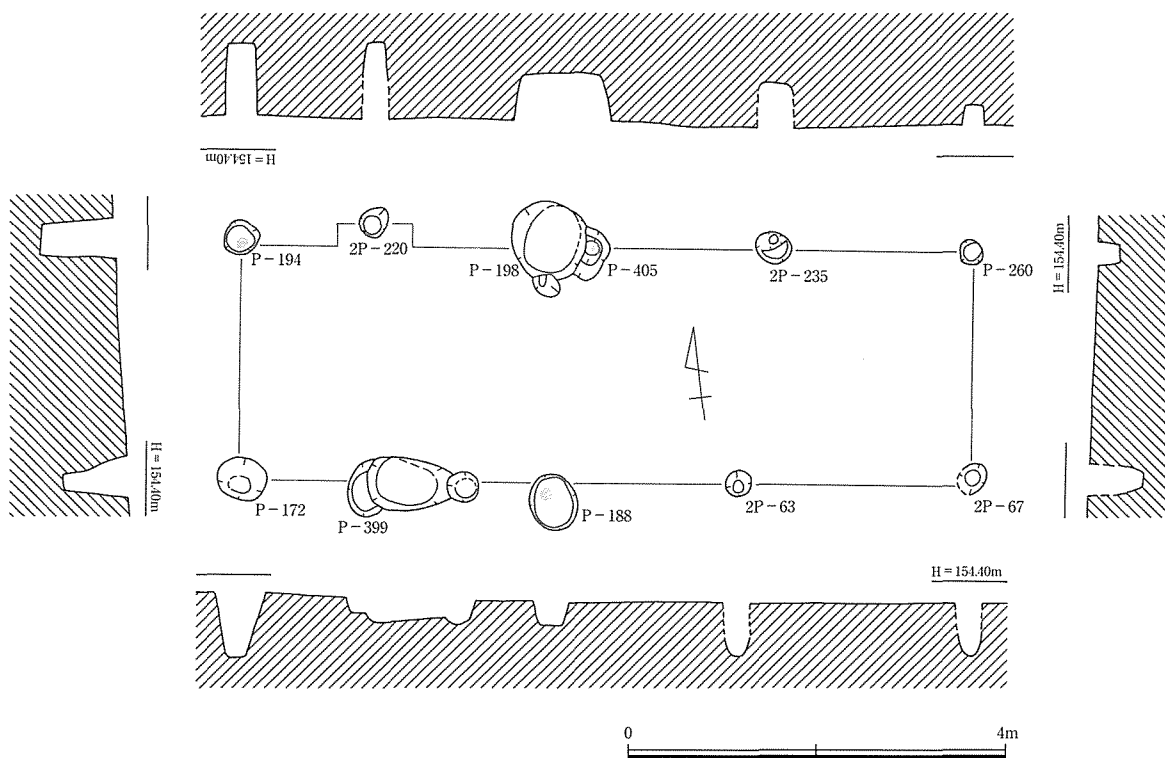
遺物はP-172、188、198、405より埋土から土器片が出土している。P-198は上層のピットの可能性もあるが、緑釉陶器皿(1)、土錘(2)が出土している。(1)は底部糸切りのち高台を削り出し、釉は淡緑色である。(2)は長さ5.8cmの管状土錘である。



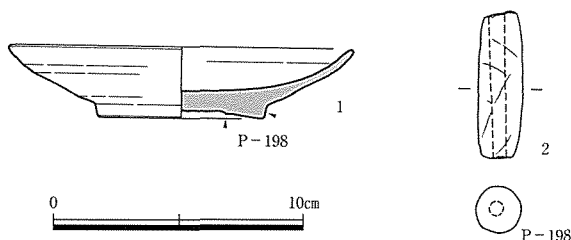
第15図 IV区SB-06実測図(S = 1 : 80)



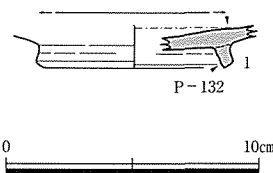
第16図 IV区SB-06出土遺物実測図(S = 1 : 3)



第17図 IV区SB-07実測図 (S = 1 : 80)



第18図 IV区SB-07出土遺物実測図 (S = 1 : 3)



第21図 IV区SB-09出土遺物実測図 (S = 1 : 3)

SB-08(第4・5・19図、図版6)

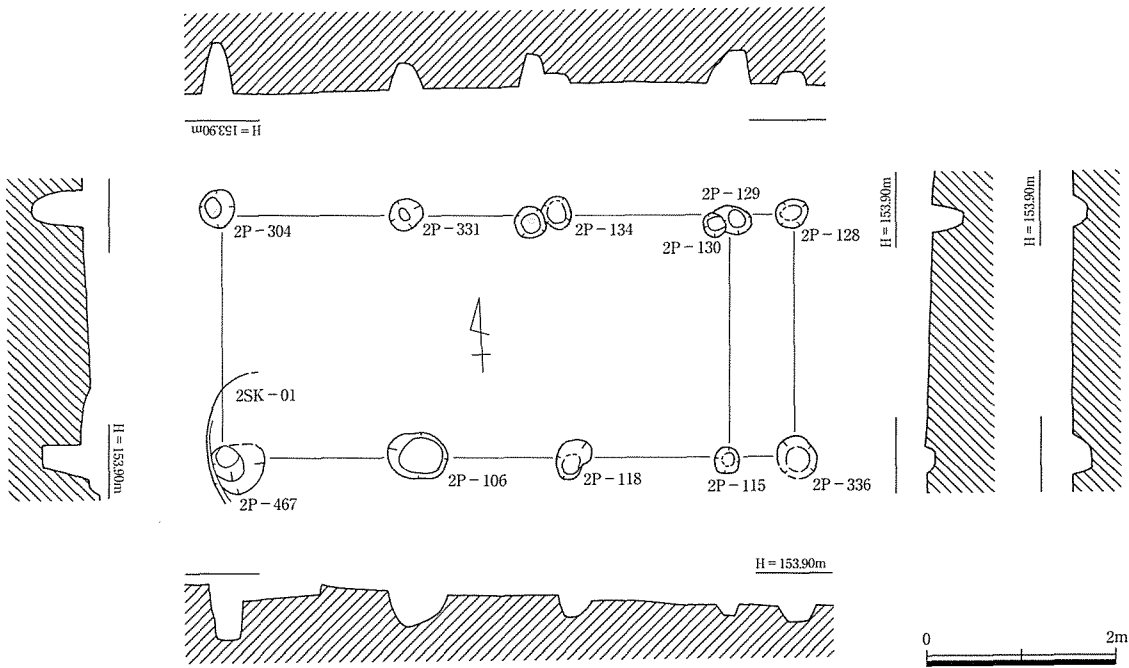
IV区東端、F7杭～G7杭南、標高153.79mで検出した。桁行3間、梁行1間の東西建物である。東に廂が付属する。主軸はN-87°-Wを振る。建物の平面形は長方形で、桁行3間が5.38m、廂部まで6.06m、梁行1間が2.56mを測る。建物面積は13.8m²である。柱間寸法は平均すると桁行1.79mである。柱穴の平面形はすべて円形および楕円形で、径28～64cm、深さ12～60cmを測る。土層断面観察により北桁の一部ピットに柱痕跡状の土層が認められた。

遺物は2P-106、128、134より埋土から土器片が出土している。

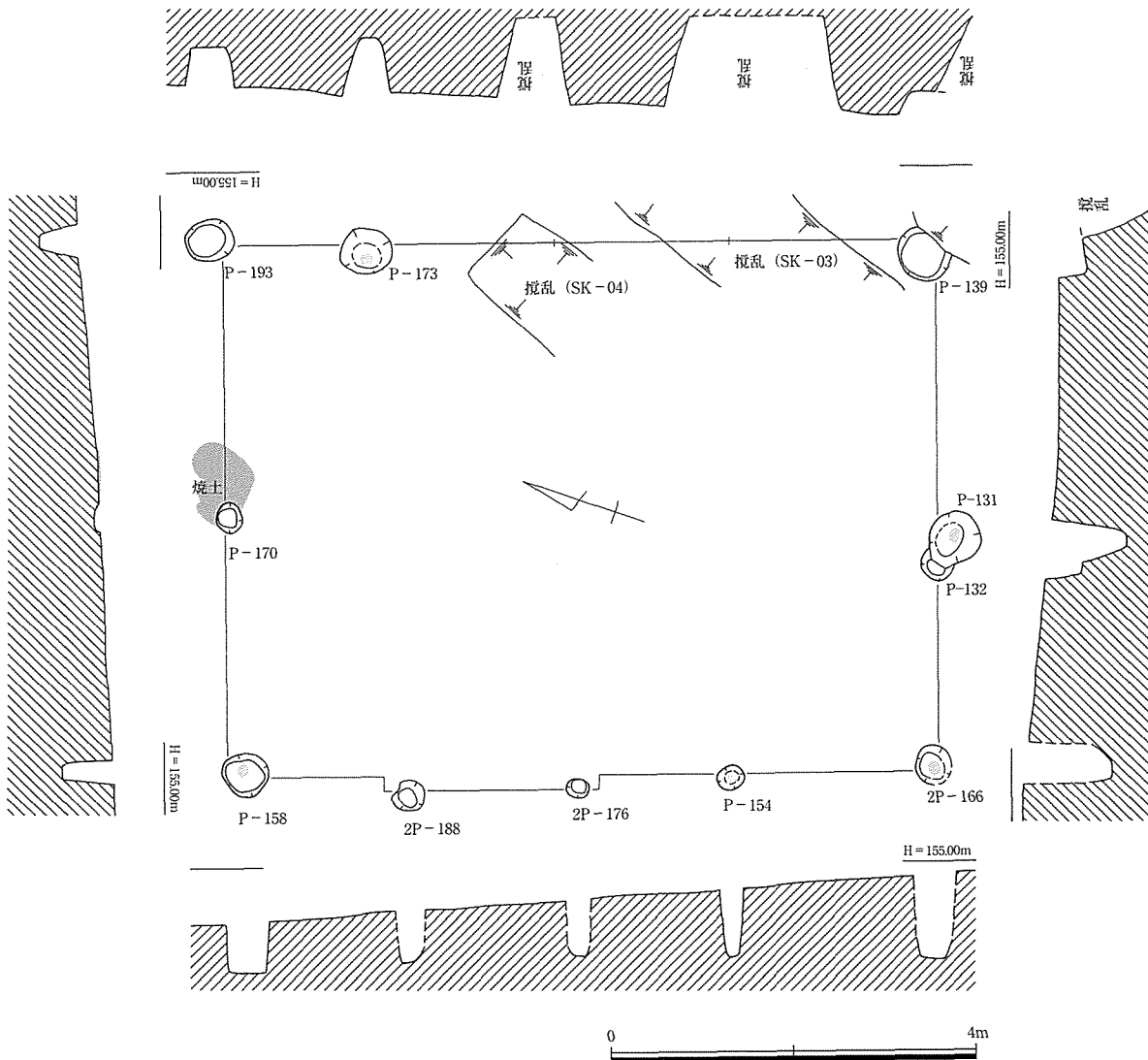
SB-09(第4・5・20・21図、図版15)

IV区西端のD7～D8杭間、標高154.87mで検出した。南東辺を重機による攪乱穴で切られる。現況で桁行4間、梁行2間の南北建物である。主軸はN-19°-Wを振る。建物の平面形は長方形で、桁行4間が7.80m、梁行2間が5.83mを測る。建物面積は45.5m²である。柱間寸法は平均すると桁行1.95m、梁行2.91mである。柱穴の平面形はすべて円形および楕円形で、径25～60cm、深さ6～44cmを測る。土層断面観察により柱痕跡状の土層が認められるピットがあった。P-170の周囲に80×50cmの焼土範囲が確認されている。

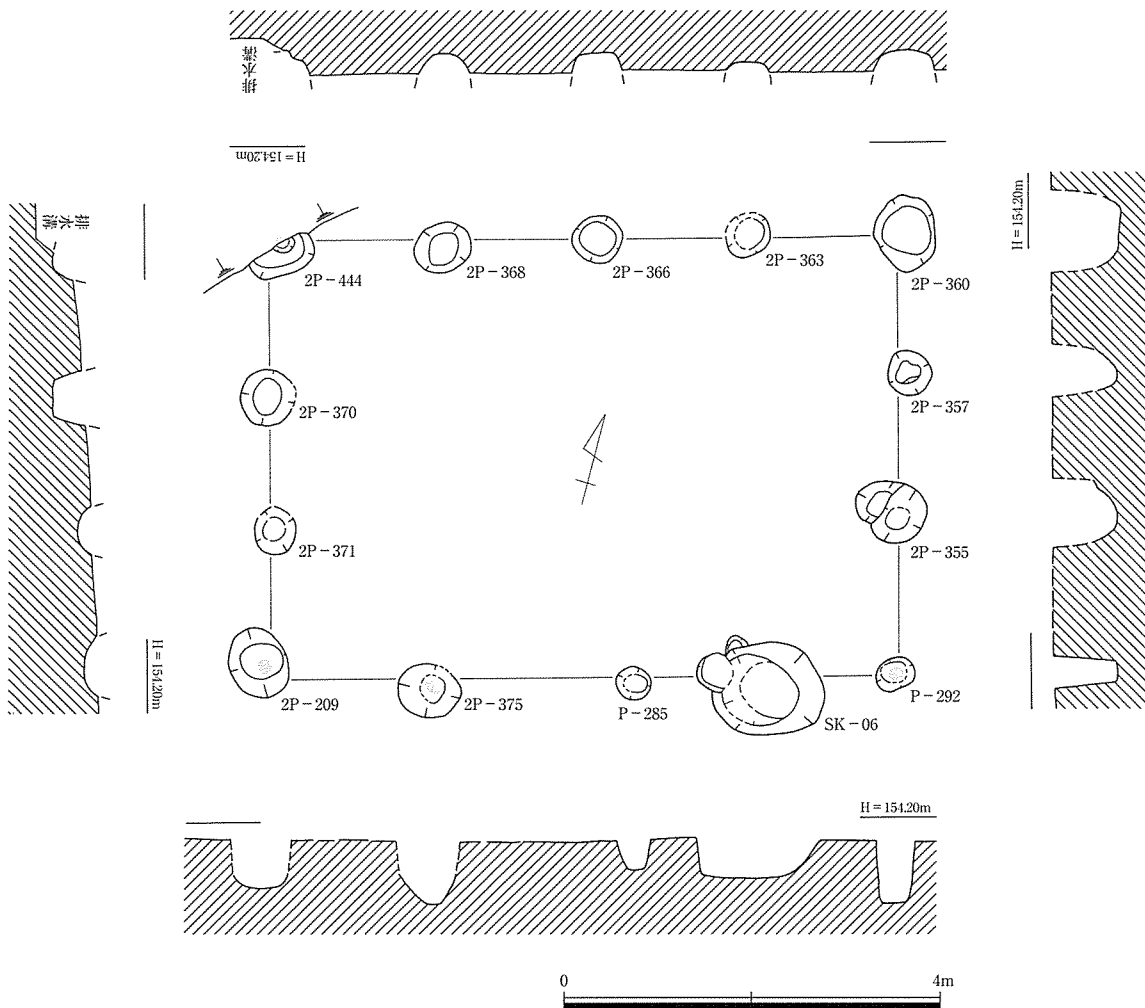
遺物はP-131、139、154、170、173より埋土から土器片が出土しており、P-132では転用硯とみられ



第19图 IV区SB-08实测图(S = 1 : 80)



第20图 IV区SB-09实测图(S = 1 : 80)



第22図 IV区SB-10実測図(S = 1 : 80)

る灰釉陶器底部(1)が含まれる。(1)底部は貼り付け高台で、内面釉剥ぎ、擦り痕が観察される。

SB-10(第4・5・22図、図版6)

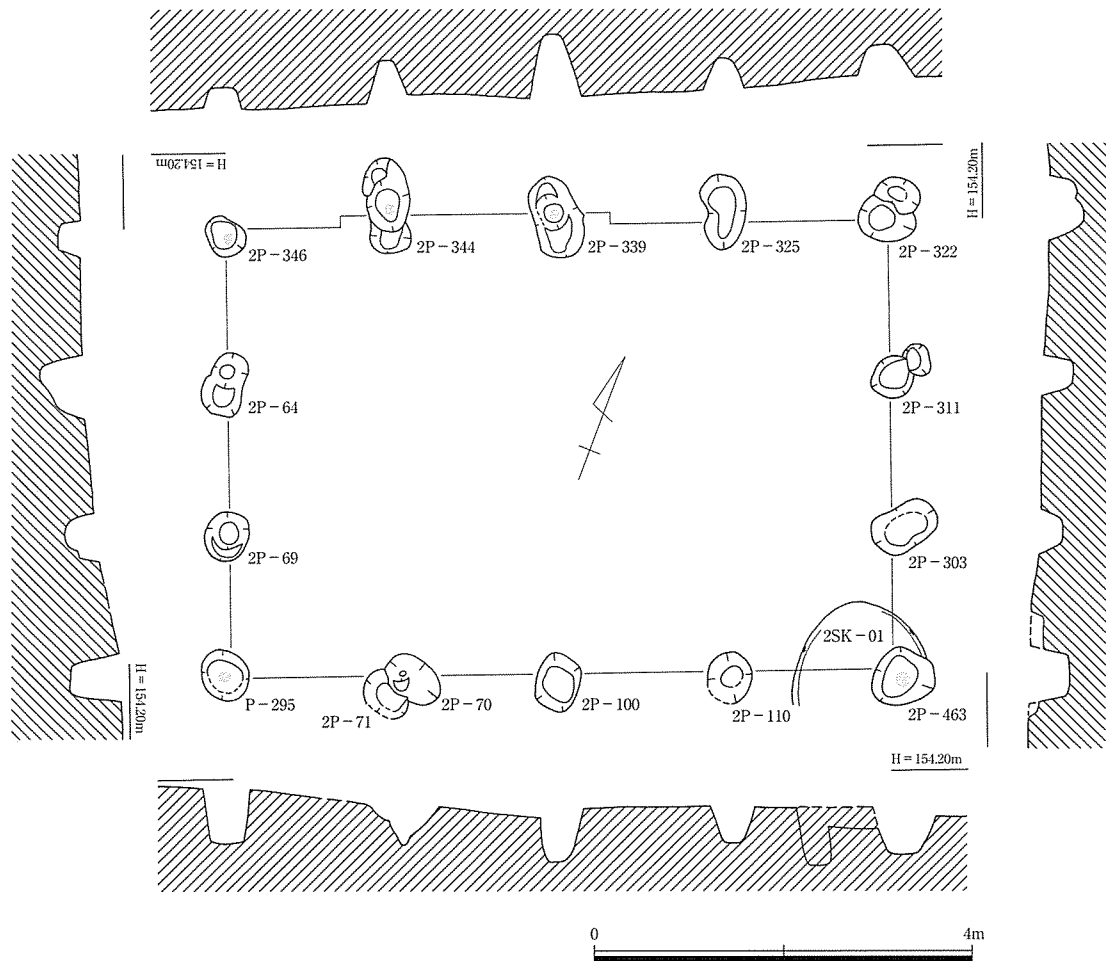
IV区北西側、E6～E7杭間、標高153.95mで検出した。一部構成するピットをトレンチやSK-06によって切られている。桁行4間、梁行3間の東西建物である。主軸はN-75°-Eを振る。建物の平面形は長方形で、桁行4間が6.68m、梁行2間が4.65mを測る。建物面積は31.1m²である。柱間寸法は平均すると桁行1.67m、梁行1.55mである。柱穴の平面形はすべて円形および楕円形で、径38～80cm、深さ51～69cmを測る。土層断面観察によりP-292、2P-209、375、444で柱痕跡状の土層が認められた。

遺物はP-292、2P-209、355、360、368より埋土から土器片が出土している。

SB-11(第4・5・23図、図版6)

IV区北東部、F7杭周辺、標高154.12mで検出した。桁行4間、梁行3間の東西建物である。主軸はN-69°-Eを振る。建物の平面形は長方形で、桁行4間が7.03m、梁行2間が4.75mを測る。建物面積は33.4m²である。柱間寸法は平均すると桁行1.75m、梁行1.58mである。柱穴の平面形は円形、楕円形が中心であるが、2P-339のように長楕円形の中心部が一段深くなるピットが北側に並ぶ。径45～100cm、深さ23～58cmを測る。土層断面観察によりP-295、2P-339、344、346、463で柱痕跡状の土層が認められた。P-295で径18cm程度、2P-339、344で15cm、2P-463で22cm程度である。

遺物はP-295、2P-69、100、311、322、325、339、344、463より埋土から土器片が出土している。



第23図 IV区SB-11実測図(S = 1 : 80)

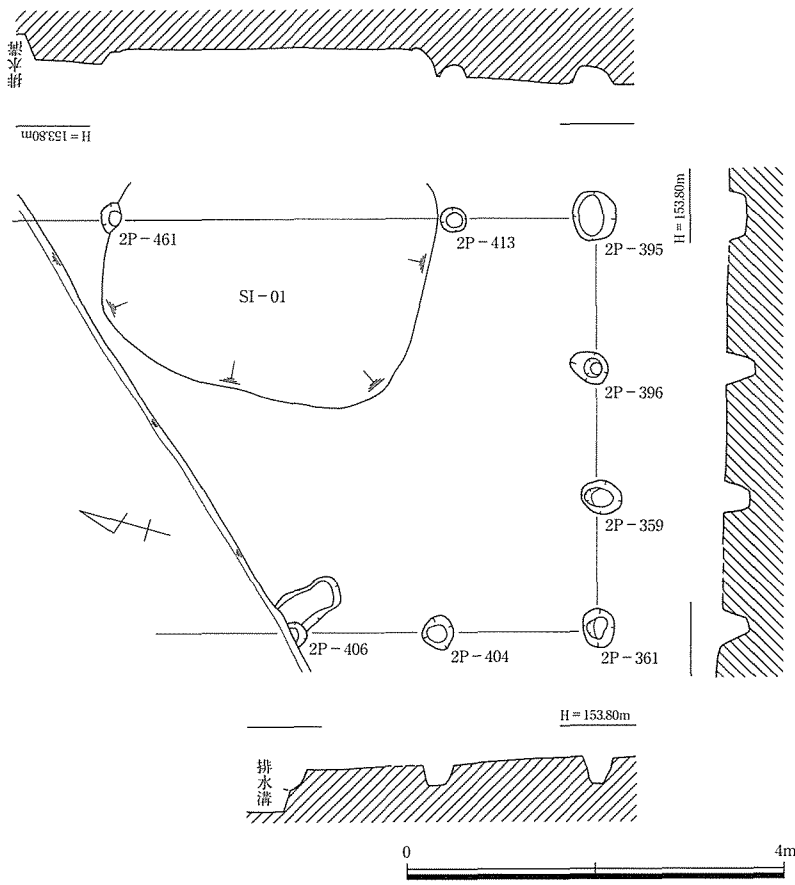
SB-12(第4・5・24図)

IV区北西端、E6杭南東、標高153.48mで検出した。北側は調査区南東壁面へ延び、SI-01により東桁行の一部が不明となる。現況で桁行3間、梁行3間の建物である。主軸はN-15°-Wを振る。建物の平面形は長方形とみられ、桁行3間が5.10m、梁行3間が4.40mを測る。現況の建物面積は22.4m²である。柱間寸法は平均すると桁行1.70m、梁行1.47mである。柱穴の平面形はすべて円形および楕円形で、径27~53cm、深さ19~30cmを測る。土層断面観察により2P-396に柱痕跡状の土層が認められた。出土遺物はみられなかった。

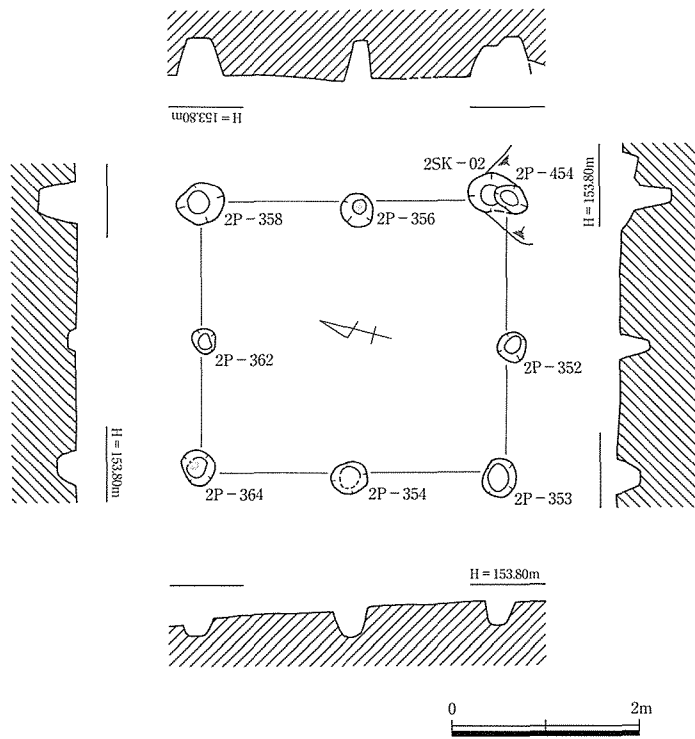
SB-13(第4・5・25図、図版6)

IV区北東側、E6~E7杭間東側、標高153.62mで検出した。桁行2間、梁行2間の南北建物である。主軸はN-15°-Wを振る。建物の平面形はわずかに長方形で、桁行2間が3.23m、梁行2間が2.88mを測る。建物面積は9.30m²である。柱間寸法は平均すると桁行1.61m、梁行1.44mである。柱穴の平面形は円形、楕円形が中心で、現況で径27~51cm、深さ9~41cmを測る。土層断面観察により2P-364、356で柱痕跡状の土層が認められた。P-356で径13cm程度である。

遺物は2P-356より埋土から土器片が出土している。



第24図 IV区SB-12実測図 (S = 1 : 80)



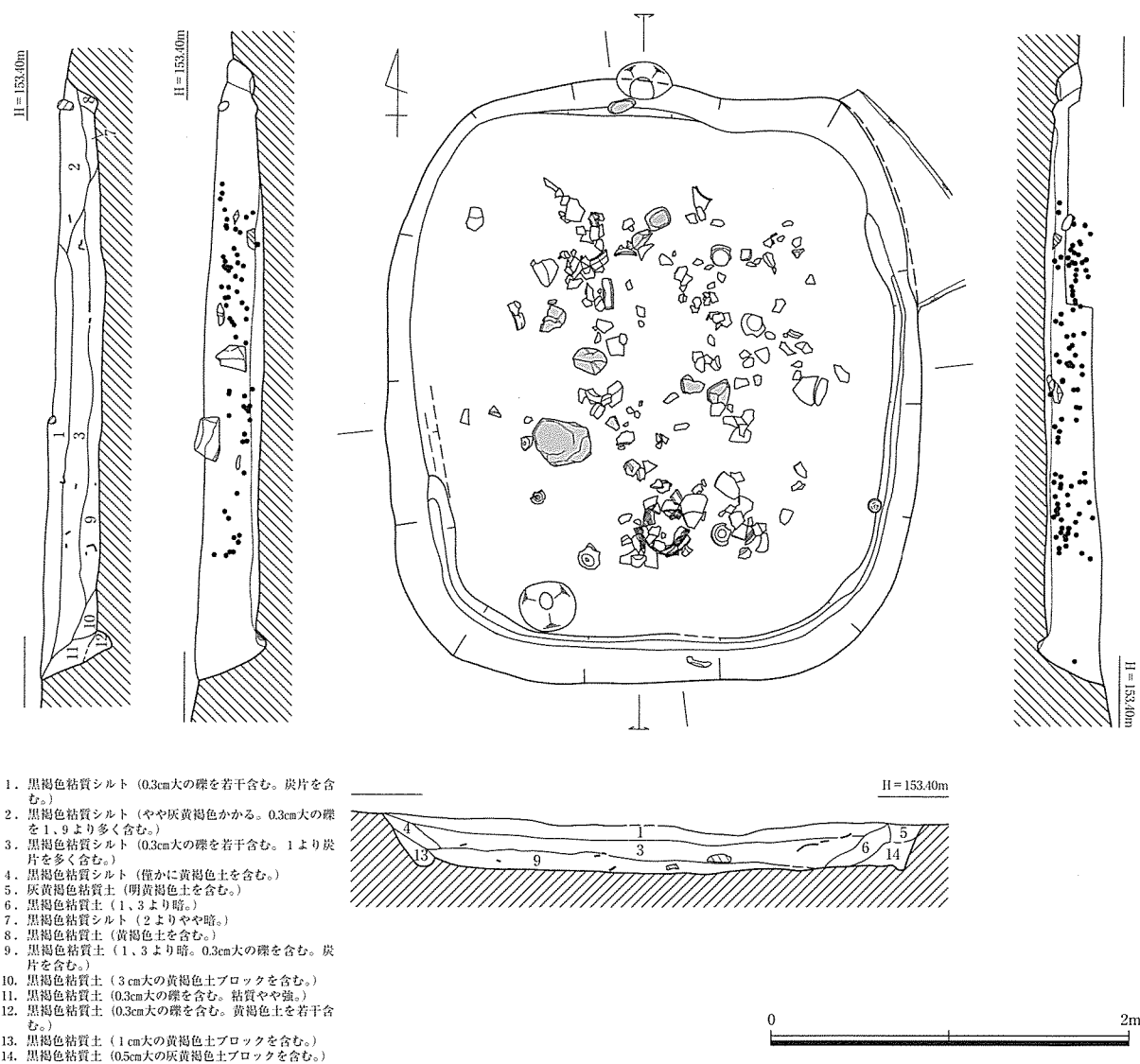
第25図 IV区SB-13実測図 (S = 1 : 80)

竪穴住居

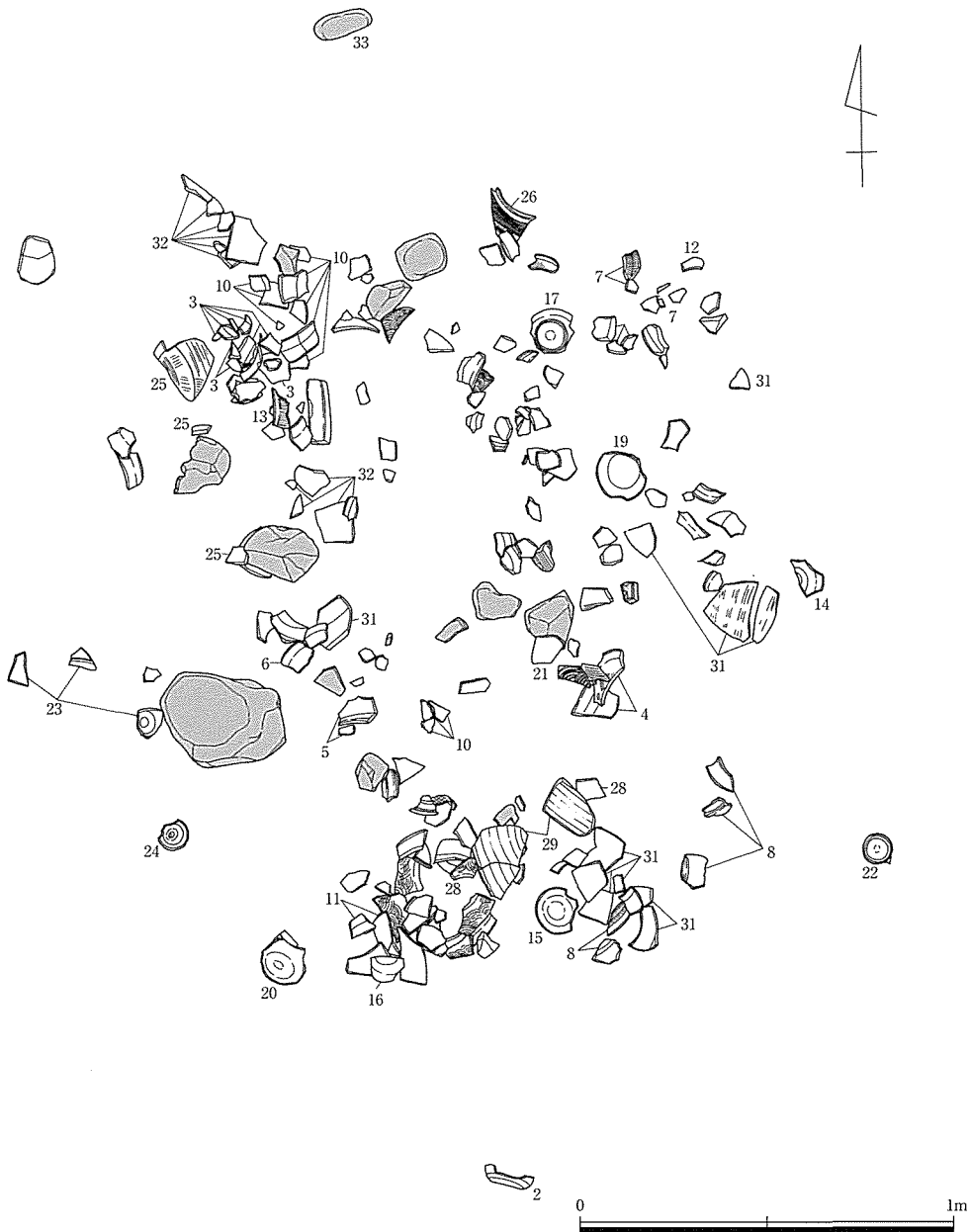
SI-01(第4・5・26~30図、図版7・8・15~17)

IV区北端のE6~F6杭間、第24層上面の標高153.34mで検出した。北西壁面の一部上層を重機により攪乱を受け、SB-12の柱穴2P-461が北側壁面に、南壁溝沿い下層に2P-460が重なる。平面はやや南北に長い隅丸方形を呈し、主軸はN-1°-Wを振る。規模は長軸3.37m、短軸2.99m、壁高38cmを測る。床面は南側中央部でやや窪むもののほぼ平坦で、床面の標高152.96m前後を測る。壁溝は北側では土層断面で僅かに確認できる程度であるが、南側を中心に深さ5cm程度、最深8cmが巡る。住居内に柱穴は検出されず、住居南側を中心に小規模なピットが確認されている。埋土は基本的に黒褐色粘質シルトおよび黒褐色粘質土が基調となる。大まかには中央で上下3層に分れるが壁面近くで細分されている。

遺物は、第22層を除去し精査した段階で既に検出しており、30cm大の角礫なども含め住居中央部でコンテナ(容量54×34×20cm)約8箱分に相当する量が埋土から出土している。供膳具、調理や貯蔵用具の土師器と須恵器以外は自然石数点と擦痕2面が観察される敲石(33)のみである。墨書土器は出土していない。量的には土師器甕類の体部片が多くを占める。土師器は主に口縁部く字形甕(3)~(11)が中心で、竈片(13)や赤彩された蓋(1)、杯(2)が僅かに含まれる。蓋(1)は丁寧に赤彩され外面は横位のヘラ磨き、内面に放射状の暗文が施される。杯(2)は平坦な底部から屈曲外反して口縁部は外方に摘み先細りとなる。外面はヘラ磨き、内面は放射状の暗文を施す。く字形甕は口縁部形態に様々なバラエティ

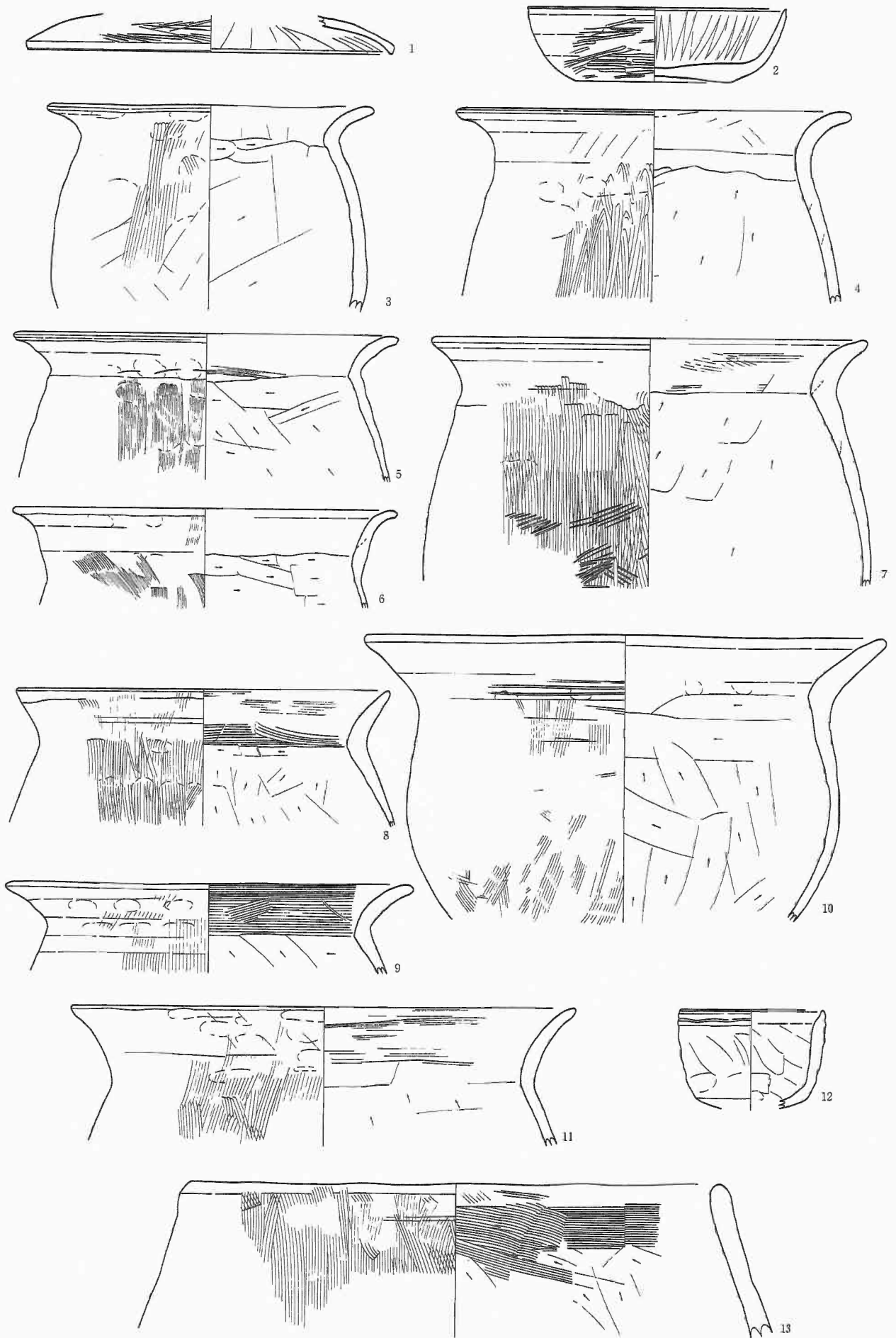


第26図 IV区SI-01実測図(S=1:40)

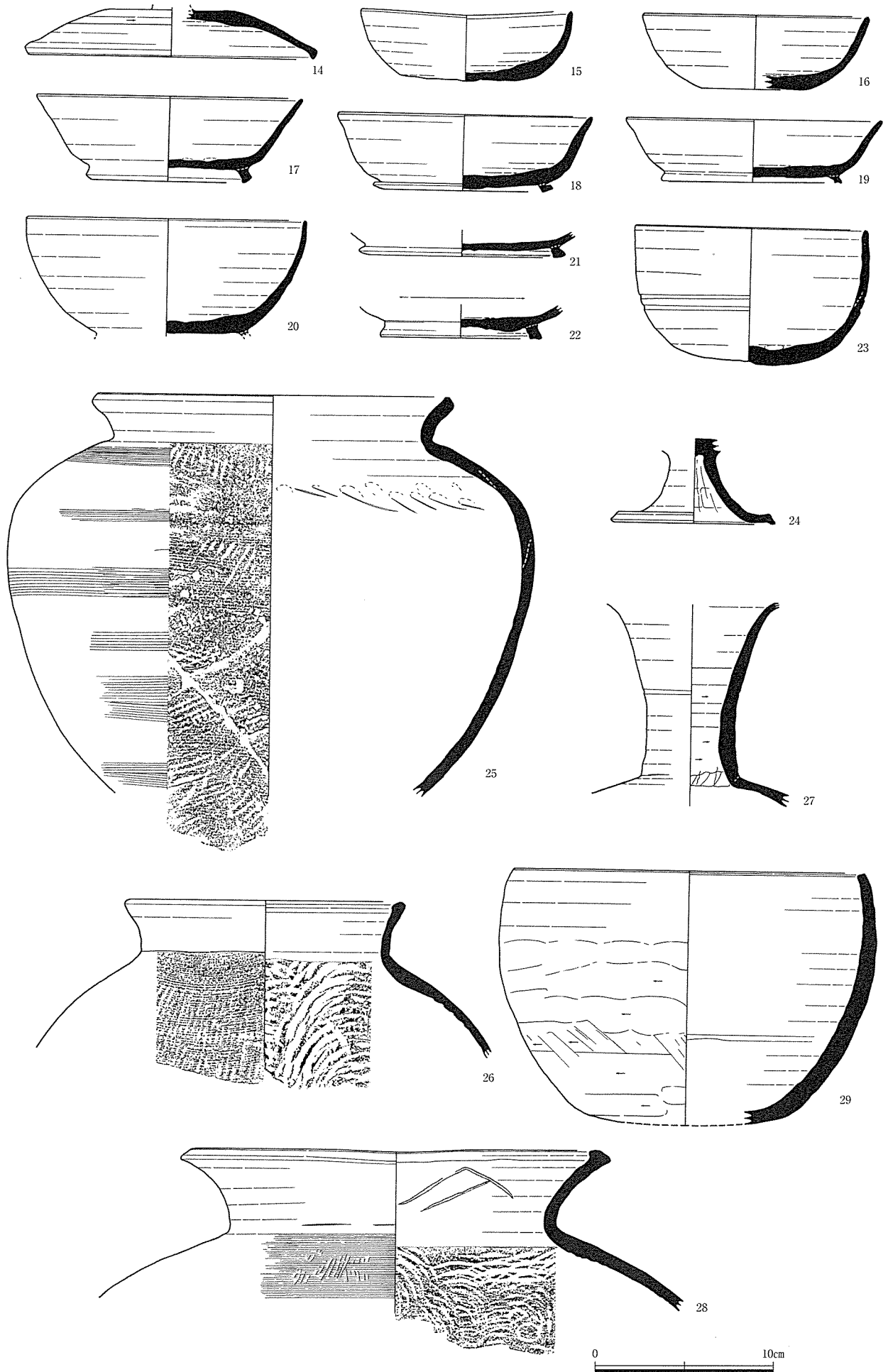


第27図 IV区SI-01遺物出土状況図(S = 1 : 20)

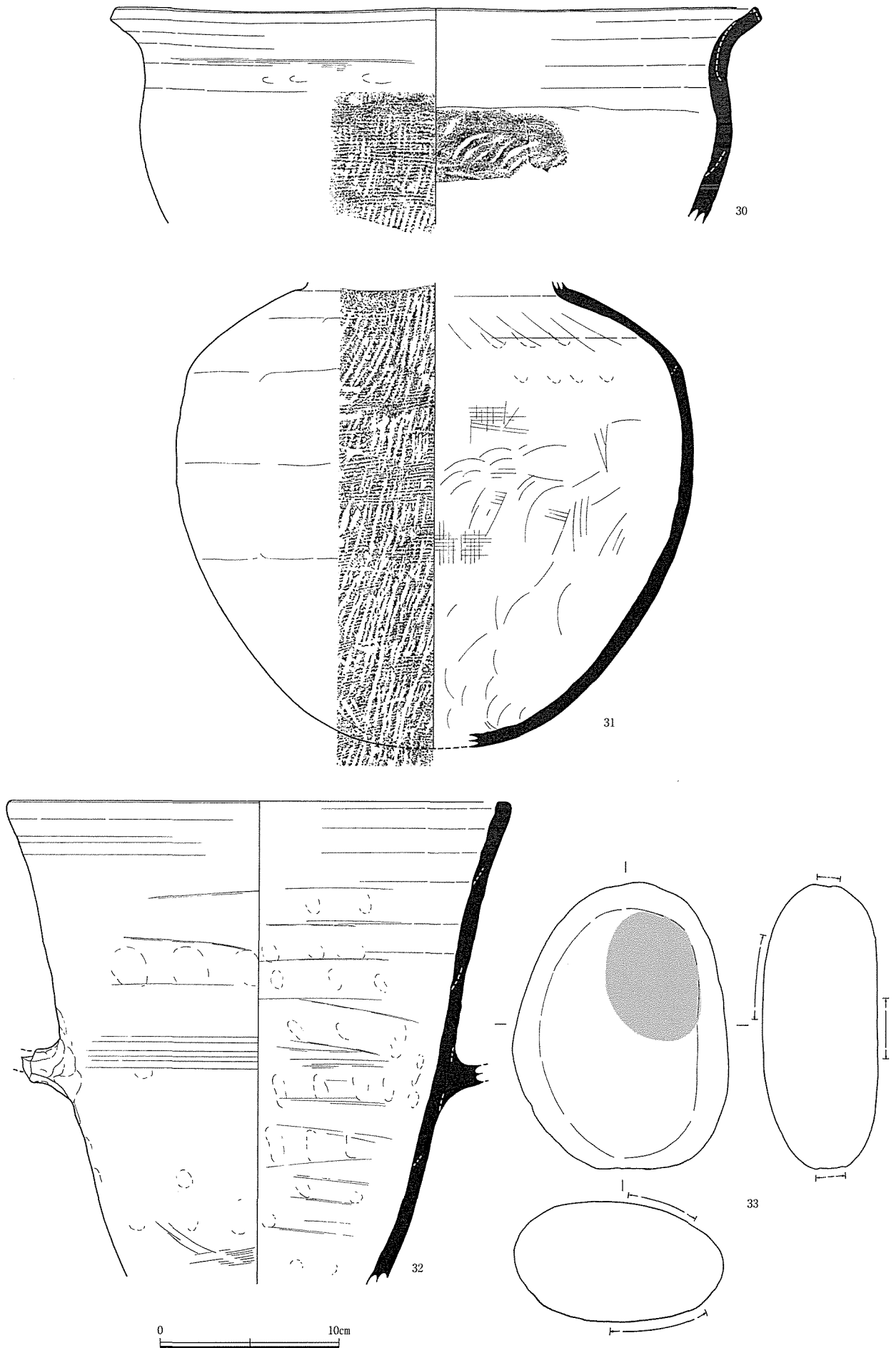
が見られるが、法量的には口径20~25cm程度のもが多く、(10)(11)のようにやや大型で口縁部が伸びる形態の甕は数少ない。また、(4)のような頸部の屈曲が湾曲するあいまいな形態の甕は数限られ、多くは(8)あるいは(9)のような頸部で明確に屈曲外反する形態である。調整も体部外面縦ハケ目、内面ヘラ削りで、口縁部は形態によりヨコナデが強く入るものと外面だけヨコナデするものと各種ある。(12)に関しては弥生土器の可能性が考えられ、この他にも弥生時代後期後半の甕口縁部片も僅かながら出土している。(13)は竈の一部であり、内外ハケ目、内面にヘラ削りが観察される。須恵器は主に杯類が多く、蓋はやや少ない。蓋(14)高さがあり天井部に摘み貼り付けの痕跡が観察され口縁部はわずかに肥厚し内傾する。杯は椀形態で無高台の(15)(16)と高台付の(17)~(19)とがあり、底部に糸切りは観察されない。小型の鉢(20)(23)は底部から内湾しながら比較的直立気味に立ち上がる形態で、(20)は底部



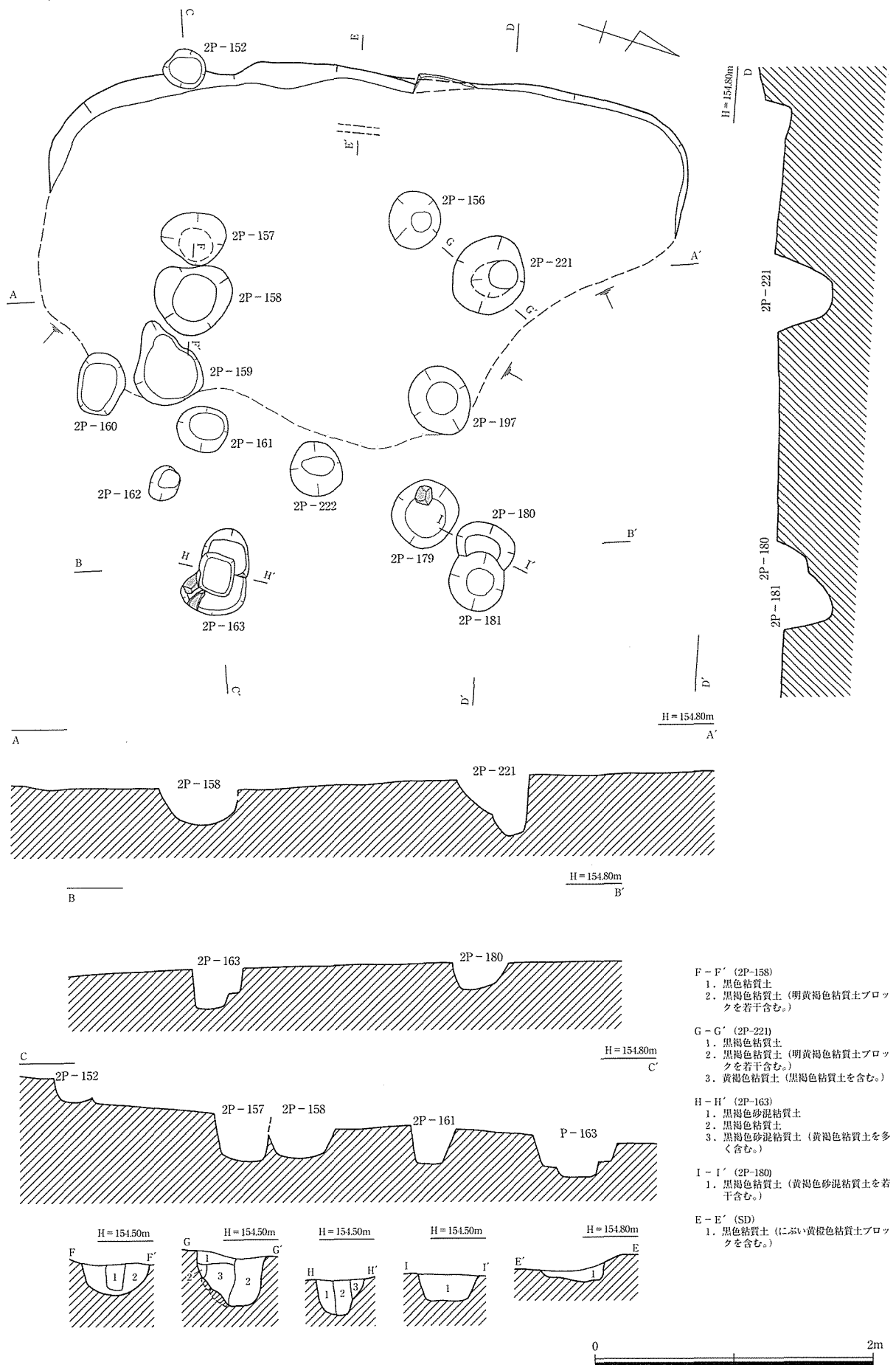
第28图 IV区SI-01出土遗物实测图(1)(S=1:3)



第29图 IV区SI-01出土遗物实测图(2)(S=1:3)



第30图 IV区SI-01出土遗物实测图(3)(S=1:3)



- F-F' (2P-158)
1. 黒色粘質土
 2. 黒褐色粘質土 (明黄褐色粘質土ブロックを若干含む。)
- G-G' (2P-221)
1. 黒褐色粘質土
 2. 黒褐色粘質土 (明黄褐色粘質土ブロックを若干含む。)
 3. 黄褐色粘質土 (黒褐色粘質土を含む。)
- H-H' (2P-163)
1. 黒褐色砂混粘質土
 2. 黒褐色粘質土
 3. 黒褐色砂混粘質土 (黄褐色粘質土を多く含む。)
- I-I' (2P-180)
1. 黒褐色粘質土 (黄褐色砂混粘質土を若干含む。)
- E-E' (SD)
1. 黒色粘質土 (にぶい黄褐色粘質土ブロックを含む。)

第31図 IV区SI-02実測図(S = 1 : 40)

糸切りで高台が付く。大型の鉢(29)は体部内湾しながら口縁部まで立ち上がり、(30)は屈曲して外反する口縁部を有し体部外面は平行叩き目のちカキ目、内面当て工具痕をナデる。高台部(21)(22)は底部ナデのち高台貼り付け、(22)は底部内面に擦り痕が観察され転用硯とみられる。脚部(24)、壺頸部(27)はともにハ字状に開く形態で、これら以外にこうした脚や長頸壺は見られなかった。壺甕類(25)(26)(28)(31)は口縁部はそれほど強く外反して伸びることなく端部も僅かに肥厚しておさめる形態である。体部は外面平行叩き目のちカキ目、内面当て工具痕を部分的にナデ、(31)はすり消している。なお、(28)は住居南側床面近くで出土しており焼成前口縁部内面にヘラ記号が刻まれる。甗(32)は焼成が甘く底部から直線的に立ち上がる体部中央に3条の浅い沈線が巡り一對の把手が貼り付く。体部は平行叩き目を施さず、指成形のち原体不明の丁寧なナデ。口縁部は端面カットされ平坦で内外面ヨコナデ調整である。

SI-02(第4・5・31図、図版8)

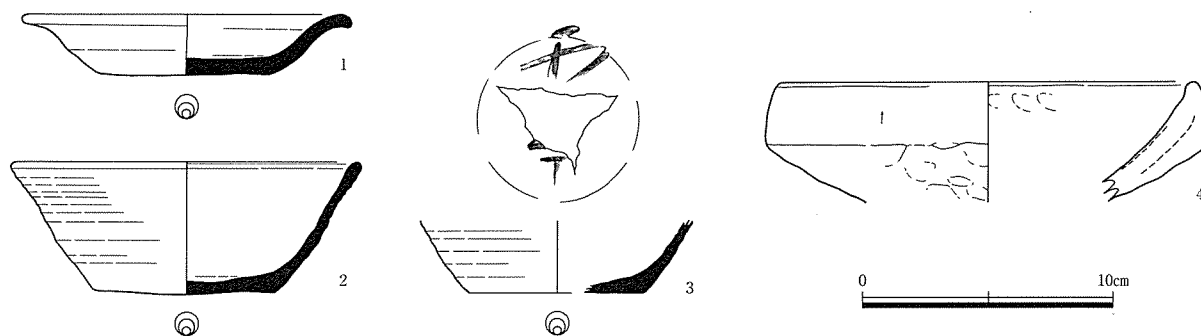
調査区南西端、C8～D8杭間北側、地山の第40層明黄褐色粘質土上面の標高154.69mで検出した。標高の高い西側壁面から支柱穴までの幅2～2.5m程度、壁高13cmの遺存である。平面形は隅丸方形と想定され、支柱穴とみられる2P-158、221、163、180を基に規模5mが復元される。住居の軸は斜面の傾斜に対しほぼ平行するN-15°-Wを振る。床面標高は154.45m前後を測り、2P-158、221以東は流失したとみられる。西側壁面で深さ4cm程度の壁溝が一部遺存していた。支柱穴間は、2P-158～221間が2.18m、2P-158～163間が1.96m、2P-163～180間が1.90m、2P-180～221間が1.98mと2P-180がやや南側に位置していることから歪となる。各支柱穴は径40～56cmを測り、床面から深さ40cm弱、底面標高は154.01～154.09mである。住居内には直接住居に関係するか否かの判断は難しいものの支柱穴以外のピットも複数検出されている。西側床面付近、支柱穴内において出土遺物は見られなかった。

土坑

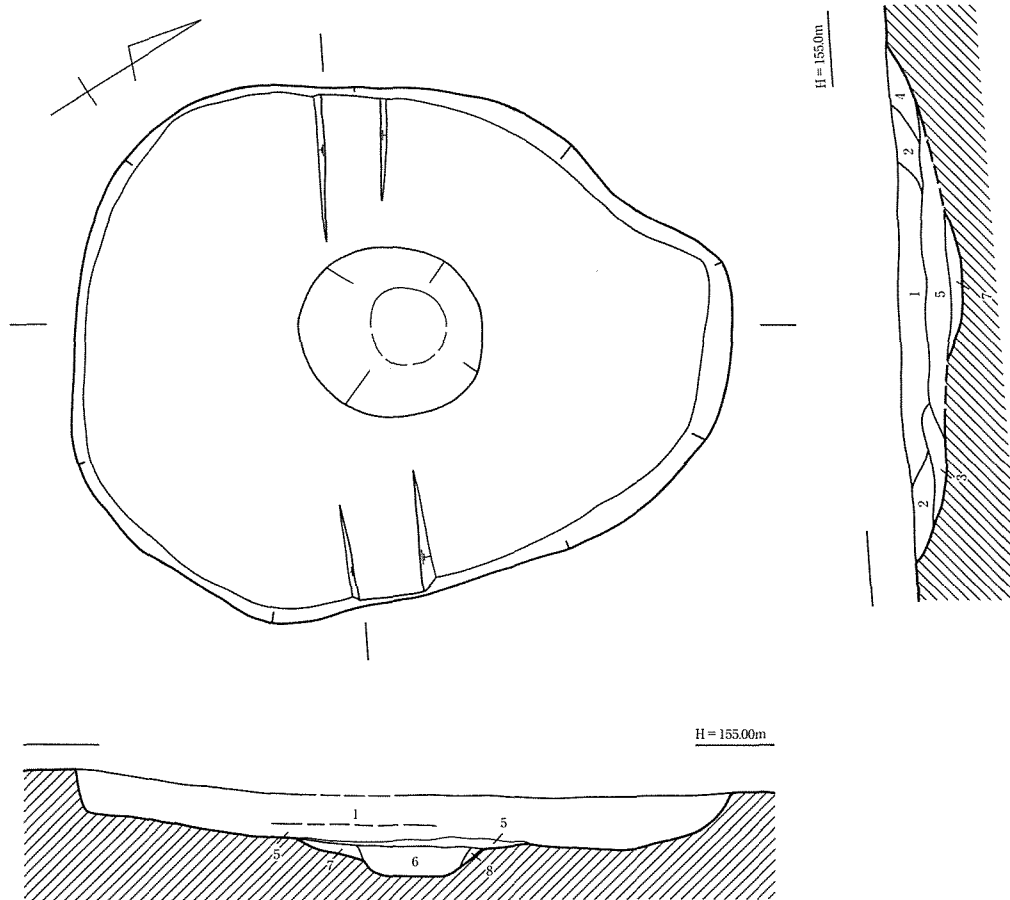
SK-01(第4・5・32・33図、図版9・17)

IV区南、D9～E9杭北側、標高154.82mで検出した。北側2.5mにSK-02が配置する。平面は不整な楕円形を呈し、長さ2.59m、幅2.15mを測る。主軸はN-32°-Eを振る。断面は不整な椀状で底面中央部が径70cm、深さ10cm弱の円形状に窪む。検出面からの深さ32cm、底面は標高154.48mを測る。埋土は8層に分かれ、上層は粘質の強い黄褐～灰黄褐色土であるが下層および一段窪む部分で炭片を多く含み、最下層は炭片および焼土ブロックを多く含む褐色粘質土である。

遺物は須恵器、土師器が数袋出土しており、土師器甕体部片も含まれる。また、50gを測る鉾滓1点(自然科学分析の項参照)が出土している。杯皿類の底部はすべて糸切りである。このうち(1)～(4)を図化した。(1)～(3)は焼成甘く、(1)は還元不十分、(2)は生焼け状態である。(3)は底部中央を欠損するものの内面に墨書が観察される。口縁部(4)は手捏ね成形で粘土を補充して肥厚させ端面を作り出している。焼成は良好でやや胎土が粗い。



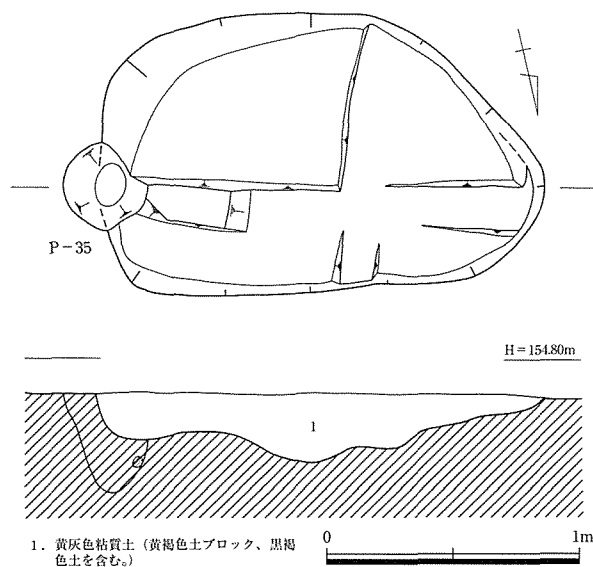
第32図 IV区SK-01出土遺物実測図(S=1:3)



1. 黄褐色粘質土 (黄褐色土ブロックを多く含む。)
2. 灰黄褐色粘質土 (黄褐色土ブロックを多く含む。)
3. 灰黄褐色粘質土 (僅かに黄褐色土ブロックを含む。)
4. 黒褐色粘質土 (僅かに炭片を含む。)
5. にぶい黄褐色粘質土 (炭片を多く含む。)
6. 灰黄褐色粘質土 (炭片を多く含む。)
7. 灰黄褐色粘質土 (6よりやや明。炭片を多く含む。)
8. 褐色粘質土 (焼土ブロックを多く含む。炭片を含む。)



第33図 IV区SK-01実測図 (S = 1 : 30)



1. 黄灰色粘質土 (黄褐色土ブロック、黒褐色土を含む。)



第34図 IV区SK-02実測図 (S = 1 : 30)

SK-02(第4・5・34図、図版9)

IV区南西側、D8~E8杭南、標高154.66mで検出した。P-35を切る。南2.5mにSK-01が配置する。平面は不整な楕円形を呈し、長さ1.76m、幅1.09mを測る。主軸はN-80°-Wを振る。断面は不整な皿状で底面は凹凸がみられる。検出面からの深さ27cm、底面は標高154.39mを測る。埋土は1層で混じりのある黄灰色粘質土である。

埋土から僅かに須恵器・土師器体部片が出土している。上層の攪乱残欠の可能性はある。

SK-05(第4・5・35図、図版9)

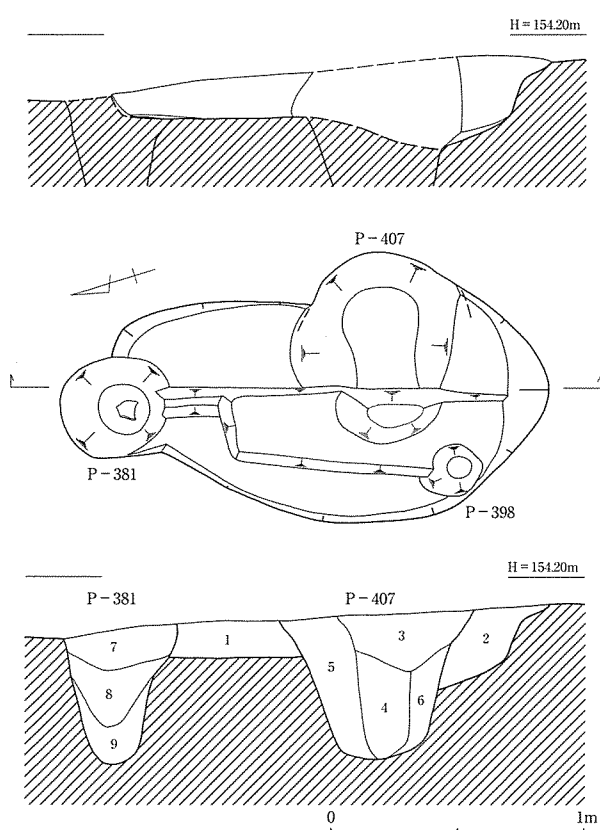
IV区西側、D7~E7杭間、標高154.11mで検出した。P-381とP-407に大きく切られる。東4mにSK-06が配置する。平面は不整な楕円形を呈し、長さ1.76m、幅92cmを測る。主軸はN-25°-Eを振る。断面は不整な皿状で底面は南側で深くなる。検出面からの深さ30cm、底面は標高153.76mを測る。埋土は南北で分かれ、それぞれ明黄褐色土ブロックを含む褐灰色、灰黄褐色粘質土である。

埋土から僅かに須恵器・土師器体部片、土師器甕口縁部片が出土している。

SK-06(第4・5・36・37図、図版10・17)

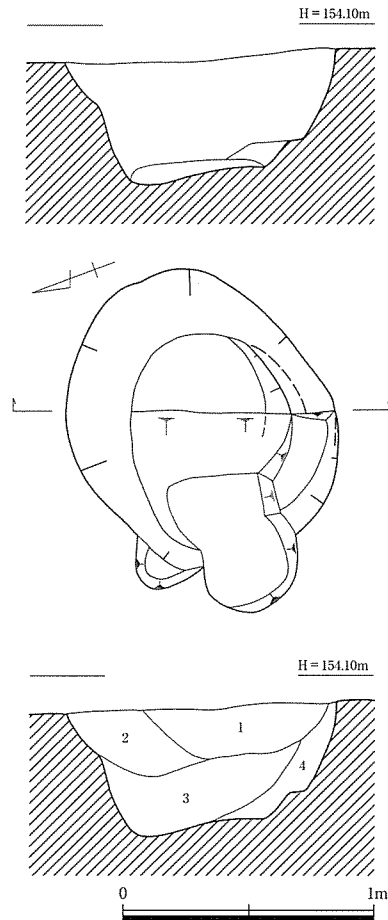
IV区北側、E7杭北東、標高154.01mで検出した。西壁の一部がピットと重複する。西4mにSK-05が、東50cmにSK-07が配置する。平面はやや不整な楕円形を呈し、長さ1.20m、幅99cmを測る。主軸はN-70°-Eを振る。断面は不整な椀状で西側に三日月状のテラス部が見られる。検出面からの深さ50cm、底面は標高153.46mを測る。埋土は4層に分かれ、上層の第1・2層で炭片を含む。それぞれに明黄褐色土ブロックを含むにぶい黄褐色、灰黄褐色、褐灰色粘質土である。

埋土からコンテナ約3分の1箱分に相当する量の須恵器・土師器体部片、土師器甕口縁部片、土錘



1. 灰黄褐色粘質土 (3, 7より明。2cm大の明黄褐色土を多く含む。炭片を含む。)
2. 褐灰色粘質土 (1cm大の明黄褐色土ブロックを含む。)
3. 灰黄褐色粘質土 (3cm大の明黄褐色土ブロックを含む。炭片を含む。)
4. 灰黄褐色粘質土 (3より暗。0.5cm大の明黄褐色土ブロックを含む。炭片を含む。締まり弱い。)
5. 灰黄褐色粘質土 (3より明。0.5~2cm大の明黄褐色土ブロックを多く含む。)
6. 褐灰色粘質土 (やや締まる。)
7. 灰黄褐色粘質土 (0.5cm大の明黄褐色土ブロックを含む。炭片を含む。)
8. 褐灰色粘質土 (炭片を含む。締まり弱い。)
9. 褐灰色粘質土 (8より暗。褐色土を含む。)

第35図 IV区SK-05実測図(S=1:30)



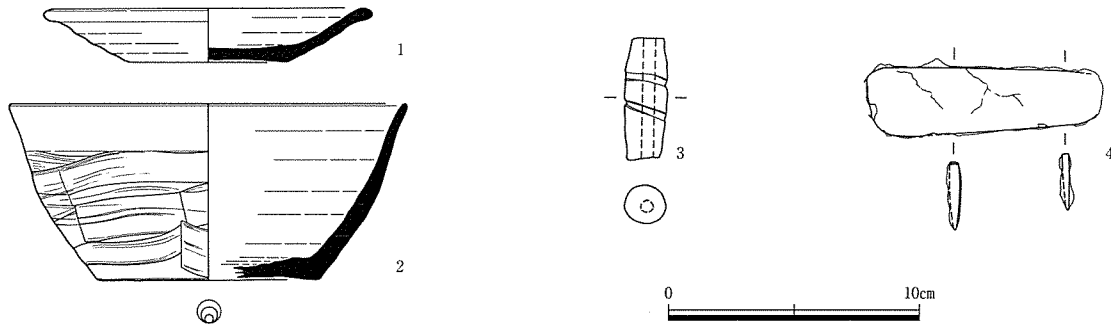
1. にぶい黄褐色粘質土 (0.5cm大の明黄褐色土ブロックを含む。炭片を含む。)
2. 灰黄褐色粘質土 (0.5cm大の明黄褐色土ブロックを含む。炭片を含む。)
3. 灰黄褐色粘質土 (0.5cm大の明黄褐色土ブロックを含む。締まり弱い。)
4. 褐灰色粘質土 (1cm大の明黄褐色土ブロックを含む。)

第36図 IV区SK-06実測図(S=1:30)

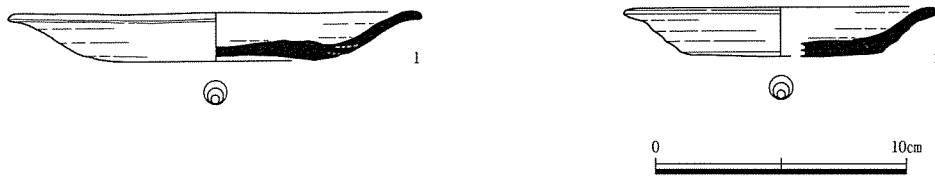
(3)、鉄製品(4)が出土している。このうち(1)~(4)を図化した。皿(1)、杯(2)ともに土坑中央部下層で出土したもので、焼き上がりがやや甘い。(2)は体部外面にハケ状のナデ痕が周回し、底部を中心として煤状の付着物がみられる。(3)はやや中央が膨らむ管状土錘で、成形時に幅2mmの工具で螺旋状の溝を撫で付けている。断面二等辺三角形の鎌状の鉄製品(4)は遺存長9.3cm、幅2.59cmを測る。

SK-07(第4・5・38・39図、図版17)

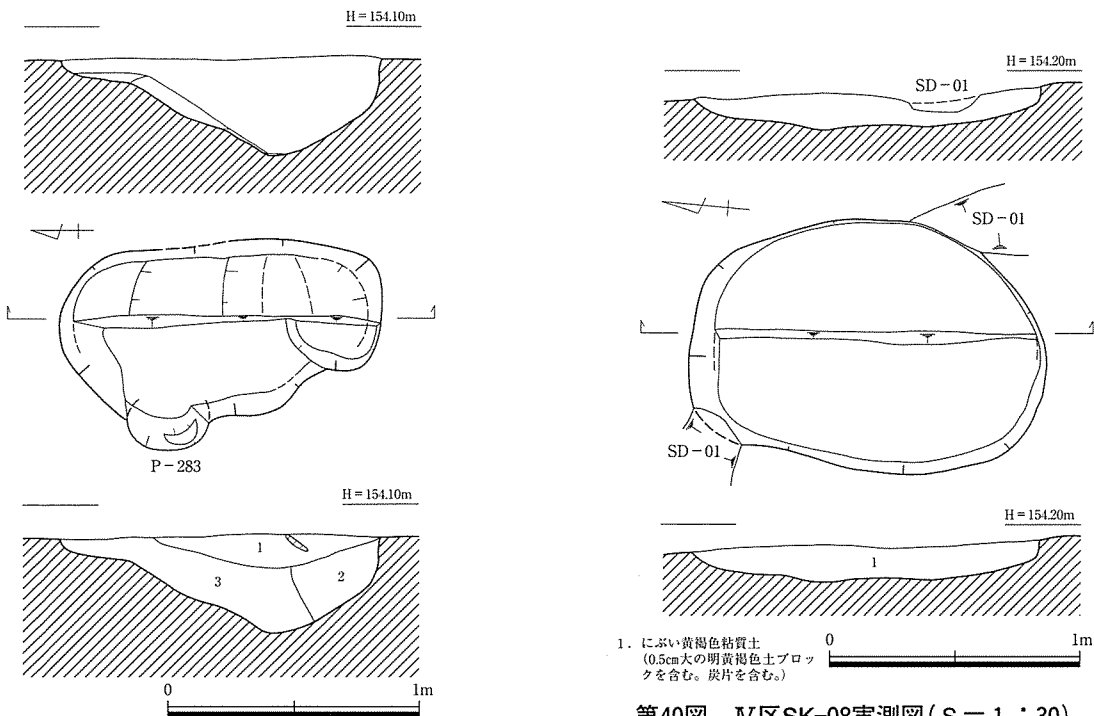
IV区北側、E7~F7杭間北、標高153.98mで検出した。西壁の一部がP-283と重複する。西50cmにSK-06が配置する。平面はやや不整な長楕円形を呈し、長さ1.28m、幅70cmを測る。主軸はN-9°-Eを振る。断面は不整な椀状で北側に三日月状のテラス部が見られ南側へ向けて深くなる。検出面からの深さ39cm、底面は標高153.58mを測る。埋土は3層に分かれ、上層の第1層灰黄褐色粘質土、下2層が褐色粘質土である。



第37図 IV区SK-06出土遺物実測図(S=1:3)



第39図 IV区SK-07出土遺物実測図(S=1:3)



- 1. 灰黄褐色粘質土 (0.5cm大の明黄褐色土ブロックを含む。)
- 2. 褐色粘質土 (褐色土を含む。)
- 3. 褐色粘質土 (2よりやや明。褐色土を含む。締まり弱い。)

第40図 IV区SK-08実測図(S=1:30)

埋土からコンテナ約3分の1箱分に相当する量の須恵器・土師器体部片、土師器甕口縁部片が出土している。このうち皿(1)(2)を図化した。ともに底部糸切りで口縁部はやや屈曲外反して丸くおさめる。

SK-08(第4・5・40図、図版10)

IV区中央部、E7杭南東、標高154.12mで検出した。L字状のSD-01屈曲部上層に重なる。北3mにSK-07が配置する。平面は楕円形を呈し、長さ1.41m、幅1.01mを測る。主軸はN-3°-Eを振る。断面はやや不整な皿状で底面に若干の凹凸が見られる。検出面からの深さ15cm、底面は標高153.97mを測る。埋土は1層で、炭片を含むにぶい黄褐色粘質土である。

埋土から僅かに須恵器・土師器体部片、底部糸切りの須恵器杯片が出土している。

SK-11(第4・5・41図、図版10)

IV区北東部、F6~F7杭間西側、標高153.70mで検出した。中央下層に2P-435が重なる。南東2mにSK-12、2.8mにSK-13が配置する。平面は不整円形を呈し、長さ99cm、幅87cmを測る。断面はやや不整な皿状である。検出面からの深さ10cm、底面は標高153.58mを測る。埋土は1層で、砂を含む黒褐色粘質土である。出土遺物はみられなかった。上層の攪乱残欠の可能性がある。

SK-12(第4・5・42図、図版10)

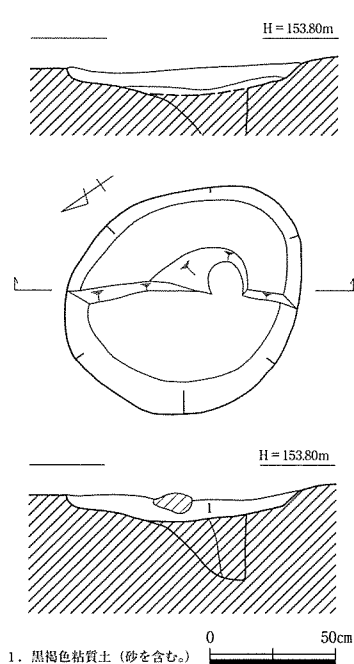
IV区北東部、F6~F7杭間西側、標高153.71mで検出した。北西2mにSK-11、南50cmにSK-13が配置する。平面は隅丸台形状を呈し、長さ1.25m、幅93cmを測る。主軸はN-40°-Wを振る。断面は皿状である。検出面からの深さ14cm、底面は標高153.53mを測る。埋土は2層に分かれ、上層が砂混じりのにぶい黄褐色粘質土、下層が粘質の強い灰黄褐色粘質土である。

埋土から僅かに土師器甕口縁部片が出土している。上層の攪乱残欠の可能性がある。

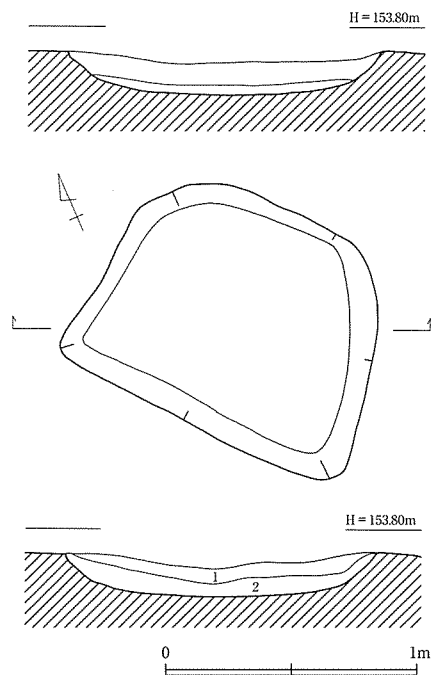
SK-13(第4・5・43図、図版11)

IV区北東部、F7杭北西、標高153.82mで検出した。北50cmにSK-12が、北西2.8mにSK-11が配置する。平面は楕円形を呈し、長さ1.12m、幅91cmを測る。主軸はN-3°-Eを振る。断面はやや不整な皿状である。検出面からの深さ16cm、底面は標高153.61mを測る。埋土は2層に分かれ、上層が砂混じりのにぶい黄褐色粘質土、下層が粘質の強い灰黄褐色粘質土である。

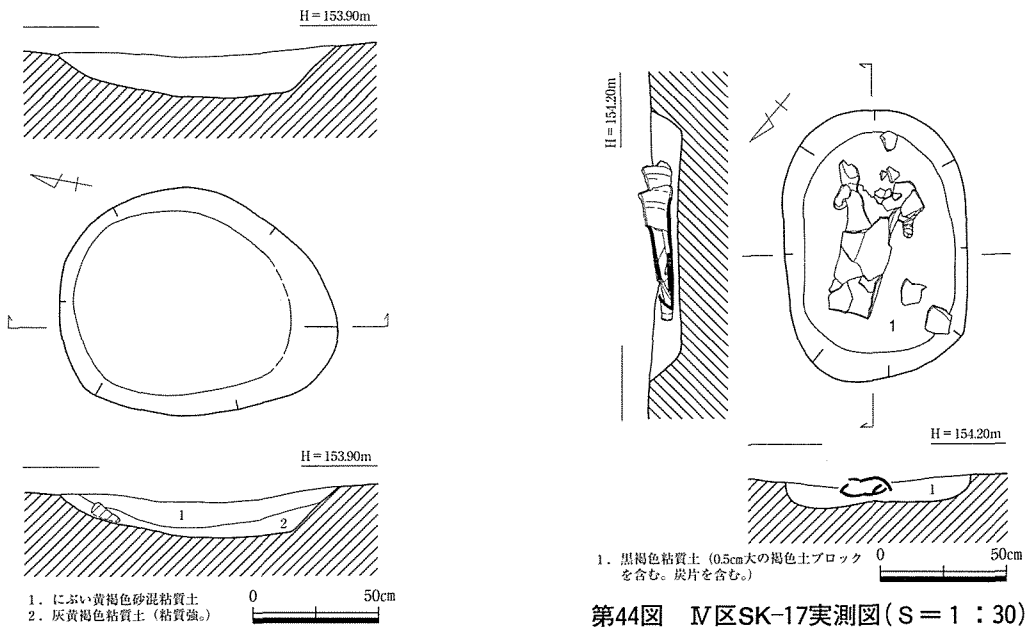
埋土から僅かに土師器甕口縁部片1点が出土している。直立する体部から短く屈曲外反するく字形口縁でSK-12出土甕と類似する。上層の攪乱残欠の可能性がある。



第41図 IV区SK-11実測図 (S=1:30)

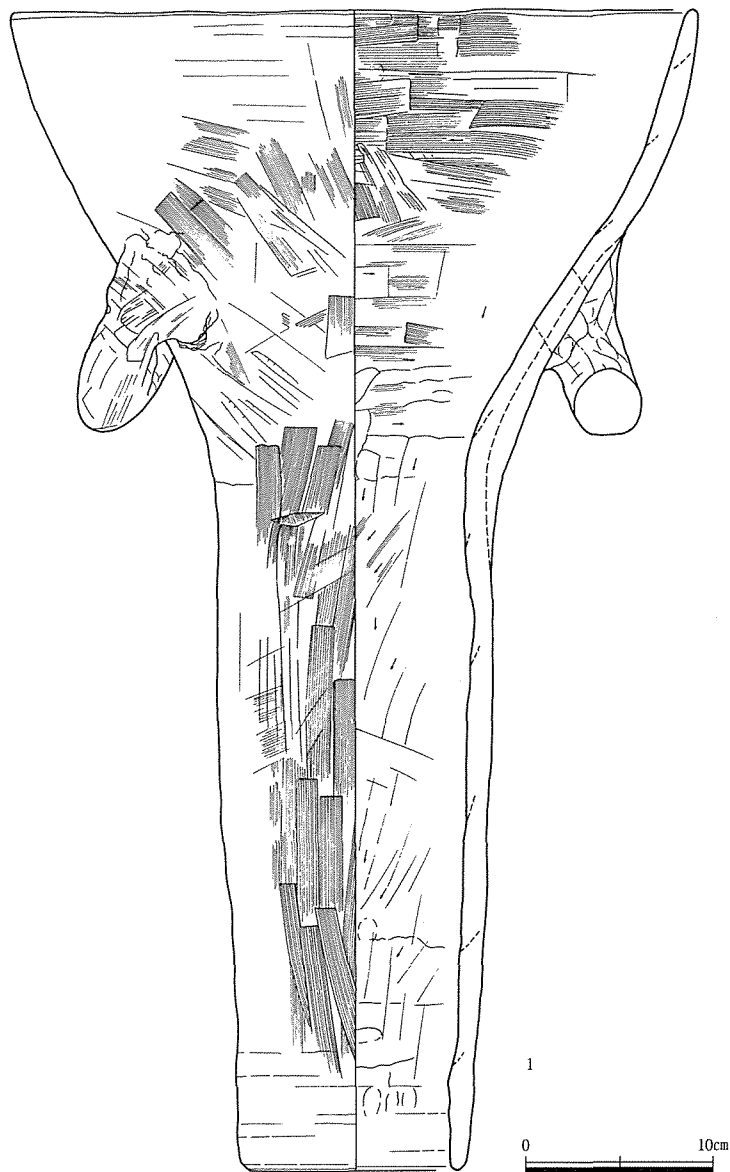


第42図 IV区SK-12実測図 (S=1:30)



第44図 IV区SK-17実測図 (S = 1 : 30)

第43図 IV区SK-13実測図 (S = 1 : 30)



第45図 IV区SK-17出土遺物実測図 (S = 1 : 4)

SK-17(第4・5・44・45図、図版巻頭2・11)

IV区東側、F8杭北西、標高154.08mで検出した。鋤取り後の遺構精査時に既に甑形土器の一部が露出しており、周辺を精査して検出した土坑である。下層北西20cmに甑形土器を出土した2SK-05が配置する。平面はやや角張る楕円形を呈し、長さ1.07m、幅73cmを測る。主軸はN-36°-Wを振る。断面はやや不整な皿状である。現況で検出面からの深さ12cm、底面は標高153.97mを測る。埋土は1層で、炭片を含む黒褐色粘質土である。

土坑中央で横倒しの状態で甑形土器(1)が出土した。軸を土坑の主軸よりやや北のN-20°-Wへ振り、広口部と狭口部の一部が欠損するもののほぼ完形のものが土圧で潰れた状況を呈していた。ほぼ水平に土坑底面に安置されたと考えられる。広口部径35.9cm、狭口部径10.85cm、器高61.7cmを測り、重量は7kg以上になる。(1)は、端部を丸くおさめた広口部はやや内湾しながら把手部へと径を減じ、下垂する横向き一對の把手の下位胴部は狭口部へ向けて長く筒状に伸びる。把手は差込み式の接合で、把手下位で上半部と下半部との接合と粘土貼り付けによる補強がなされる。狭口部内外面および広口部外面横位のナデ、基本的に内外面とも細かなハケ目で筒部内面のヘラ削りはハケ目と同一工具による削りである。広口端部から把手上位付近、筒部内面に煤が幅10cm程度の帯状に付着する。

SK-18(第4・5・46図、図版11)

IV区南西端、C8~D8杭南、標高154.89mで検出した。平面はやや不整な楕円形を呈し、長さ1.52m、幅1.28mを測る。主軸はN-57°-Wを振る。断面はやや不整な碗状である。検出面からの深さ22cm、底面は標高154.66mを測る。埋土は一部底部で2層に分かれ、上層がやや黄灰色かかる褐灰色粘質土、下層が黒褐色粘質土である。

埋土から僅かに須恵器体部片、底部糸切り土師器杯片、陶磁器片が出土している。上層の攪乱残欠の可能性もある。

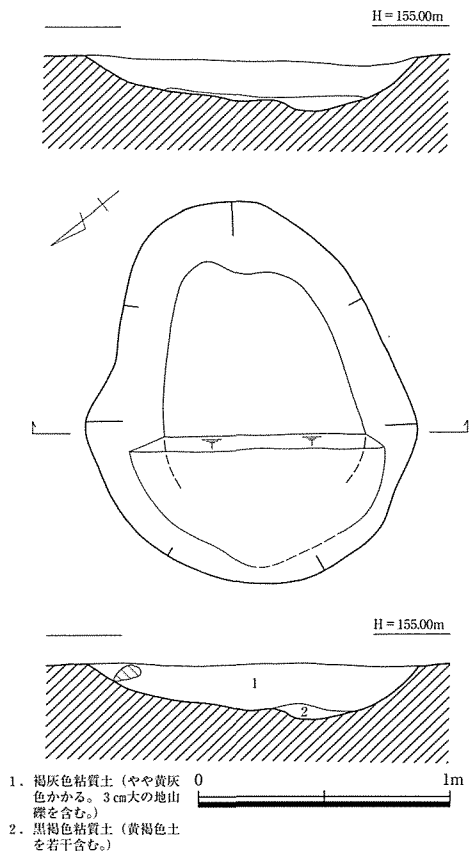
2SK-01(第4・6・47図、図版12)

IV区北東部、F7杭南東、標高153.85mで検出した。SB-08の2P-467、SB-11の2P-463と一部重なる。平面はやや不整な楕円形を呈し、長さ1.62m、幅1.26mを測る。主軸はN-17°-Eを振る。断面は皿状である。検出面からの深さ18cm、底面は標高153.57mを測る。埋土は4層に分かれ、上層第1層に黄褐色砂礫、第2層に黄灰色粘土、最下層第3、4層に黒褐色粘質土がやや黄灰色かかる褐灰色粘質土、下層が黒褐色粘質土である。第28層上面で検出したが、更に上層からの攪乱残欠の可能性もある。

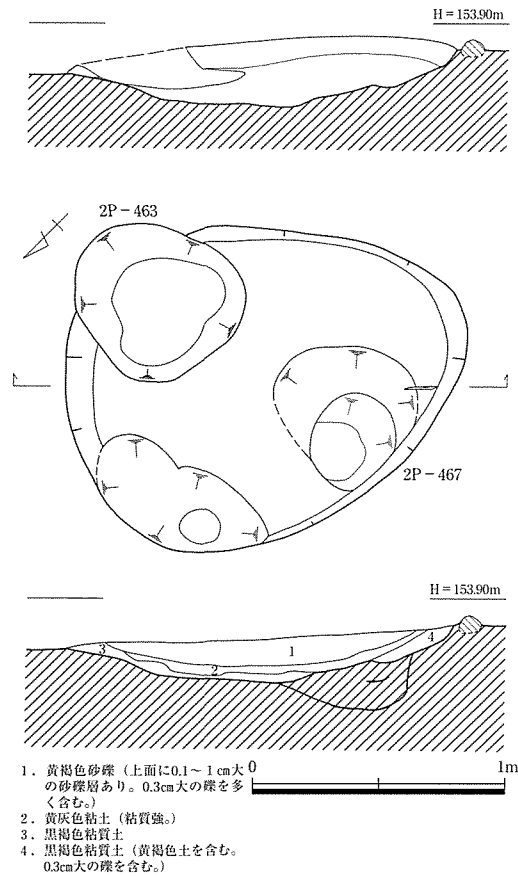
埋土下層から僅かに須恵器杯口縁部片・土師器体部片が出土している。

2SK-02(第4・6・48図、図版12)

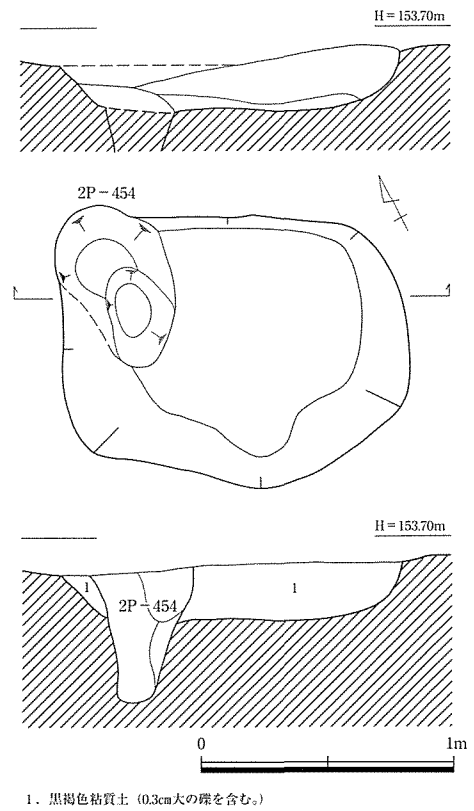
IV区北側、E7~F7杭北、標高153.62mで検出した。北西端をSB-13の2P-454が切る。北20cmに2SK-03が配置する。平面は四隅がやや角張る不整な楕円形を呈し、長さ1.37m、幅1.09mを測る。主軸はN-62°-Wを振る。断面は碗状である。検出面からの深さ22cm、底面は標高153.37mを測る。埋土は1層で黒褐色粘質土である。



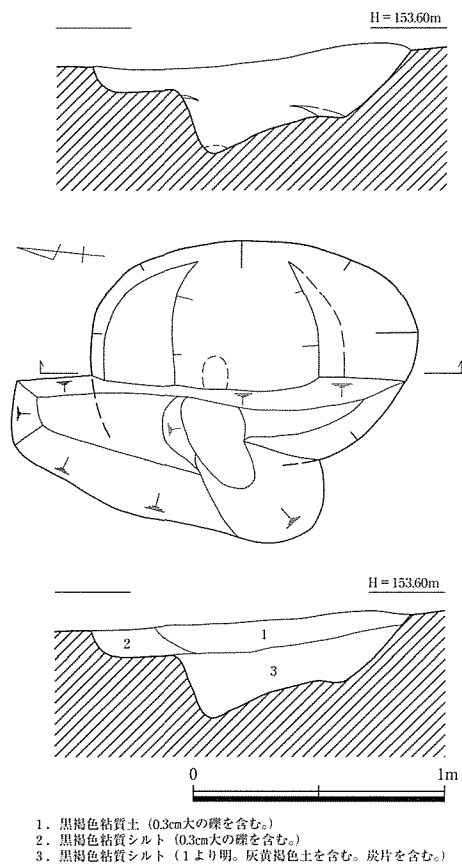
第46図 IV区SK-18実測図(S=1:30)



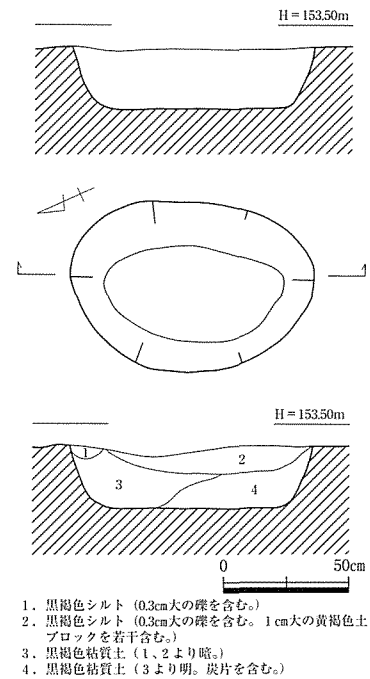
第47図 IV区2SK-01実測図 (S = 1 : 30)



第48図 IV区2SK-02実測図 (S = 1 : 30)



第49図 IV区2SK-03実測図 (S = 1 : 30)



第50図 IV区2SK-04実測図 (S = 1 : 30)

埋土から僅かに土師器甕口縁部片、体部片が出土している。

2SK-03(第4・6・49図・図版12)

IV区北側、E7~F7杭北、標高153.53mで検出した。西側の一部壁面をトレンチで掘削する。南20cmに2SK-02が配置する。平面はやや不整な楕円形を呈し、長さ1.29m、幅90cmを測る。主軸はN-9°-Wを振る。断面は不整形で、南北に三日月状のテラスをもち、土坑中央やや北西寄りがすり鉢状に深くなる。検出面からの深さ37cm、底面は標高153.10mを測る。埋土は3層に分かれ、上層が黒褐色粘質土、下層が黒褐色粘質シルトである。出土遺物はみられなかった。

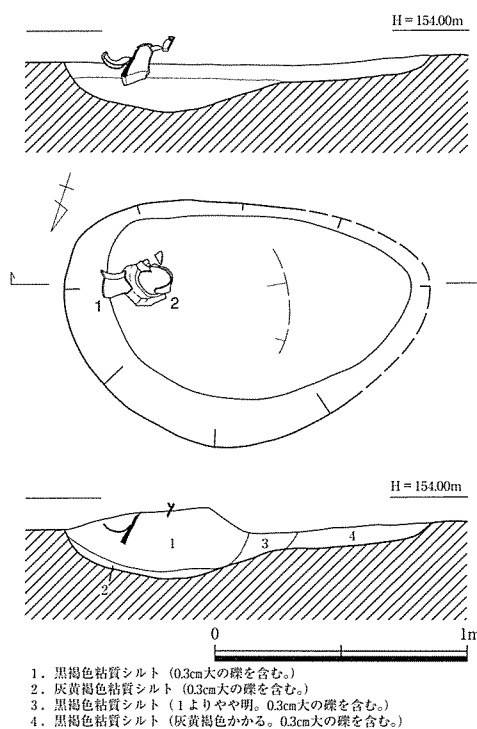
2SK-04(第4・6・50図、図版12)

IV区東端、G7杭北西、標高153.41mで検出した。平面は楕円形を呈し、長さ96cm、幅67cmを測る。主軸はN-31°-Eを振る。断面は椀状で、底面はほぼ平坦である。検出面からの深さ24cm、底面は標高153.17mを測る。埋土は4層に分かれ、上層が黒褐色シルト、下層が黒褐色粘質土で、第4層は炭片を含む。出土遺物はみられなかった。

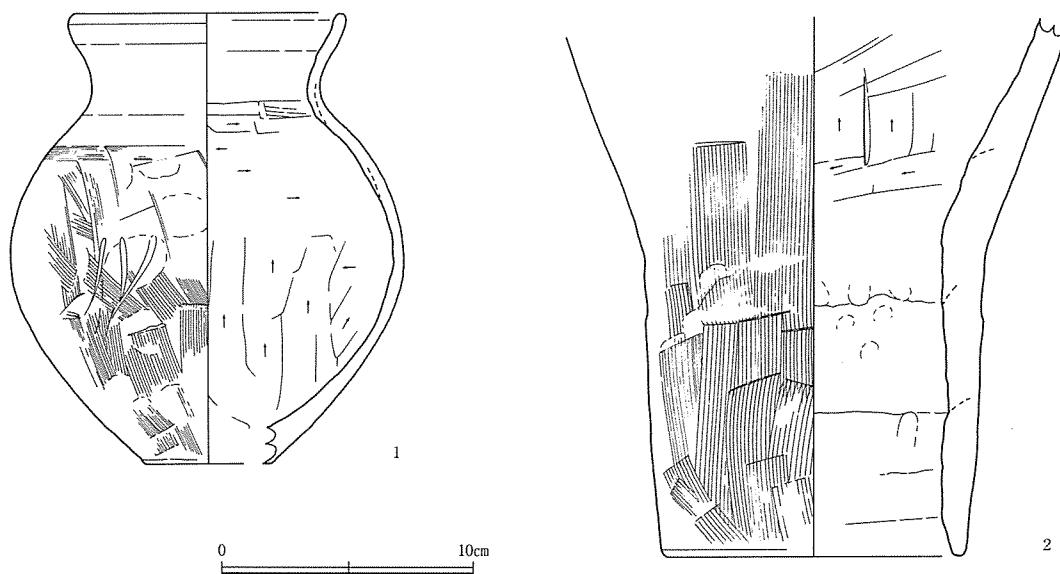
2SK-05(第4・6・51・52図、図版13・17)

IV区西側、F8杭北西、標高153.96mで検出した。上層南東20cmに甕形土器を出土したSK-17が配置する。平面はやや不整な楕円形を呈し、長さ1.45m、幅97cmを測る。主軸はN-74°-Eを振る。断面は不整な皿状で、北東部が一段深くなる。検出面からの深さ28cm、底面は標高153.67mを測る。埋土は4層に分かれ黒褐色粘質シルトを基調とするが、最深部最下層は灰黄褐色粘質シルトである。

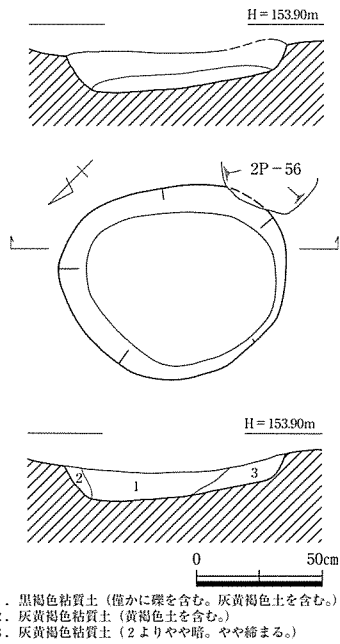
土坑東壁面近くの第1層中から壺(1)と甕形土器(2)がまとまって出土した。(1)は口縁~底部にかけて約2分の1~3分の1の残存で内面上の横位で、(2)は把手下位から狭口部にかけての部位にあたり、狭口部を上に向けた状態であった。壺(1)は弥生土器とみられ、口縁部は薄手のく字形で端部は丸くおえる。体部は体部中央に最大胴径をもち底部へ向けて厚さを増ししっかりした平底をもつとみられる。口縁部内外面ヨコナデ調整。内面頸部以下ヘラ削り、体部外面ハケ目でヘラ磨きは施さ



第51図 IV区2SK-05実測図(S=1:30)

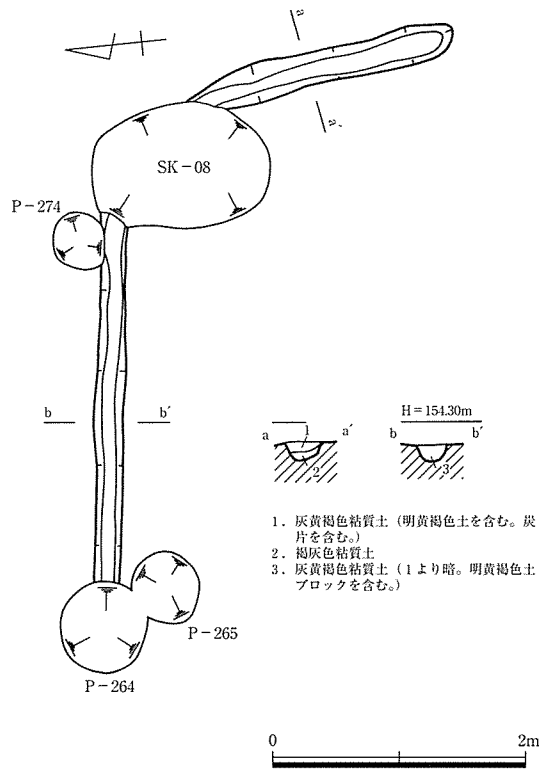


第52図 IV区2SK-05出土遺物実測図(S=1:3)



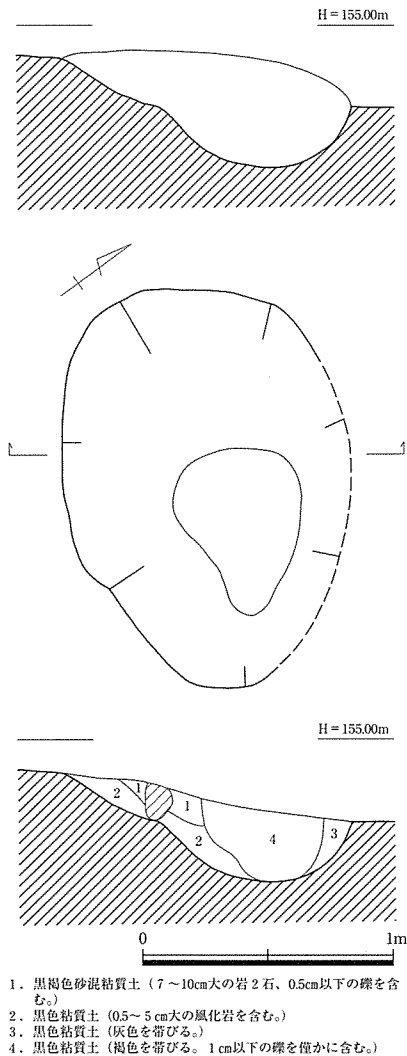
1. 黒褐色粘質土 (僅かに礫を含む。灰黄褐色土を含む。)
2. 灰黄褐色粘質土 (黄褐色土を含む。)
3. 灰黄褐色粘質土 (2よりやや暗。やや締まる。)

第53図 IV区2SK-06実測図 (S = 1 : 30)



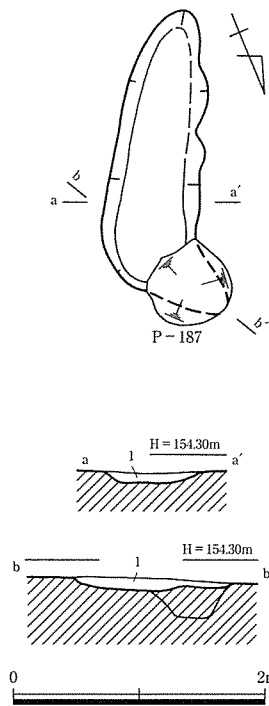
1. 灰黄褐色粘質土 (明黄褐色土を含む。炭片を含む。)
2. 褐灰色粘質土
3. 灰黄褐色粘質土 (1より暗。明黄褐色土ブロックを含む。)

第55図 IV区SD-01実測図 (S = 1 : 60)



1. 黒褐色砂混粘質土 (7~10cm大の岩2石、0.5cm以下の礫を含む。)
2. 黒色粘質土 (0.5~5cm大の風化岩を含む。)
3. 黒色粘質土 (灰色を帯びる。)
4. 黒色粘質土 (褐色を帯びる。1cm以下の礫を僅かに含む。)

第54図 IV区2SK-07実測図 (S = 1 : 30)



1. 灰黄褐色粘質土 (1cm大の明黄褐色土ブロックを含む。炭片を含む。)

第56図 IV区SD-02実測図 (S = 1 : 60)

れない。甑形土器(2)はSK-17出土の甑形土器と比較すると、狭口部径はほぼ同様であるがかなり筒部が短く広口部への広がりが認められる。外面は縦ハケ目、内面は横位のナデ、指おさえ、ヘラ削りが観察される。

2SK-06(第4・6・53図、図版13)

IV区中央北東寄り、E7杭南東、標高153.84mで検出した。上層にSD-01が重複する。平面はやや不整な楕円形を呈し、長さ89cm、幅75cmを測る。主軸はN-31°-Eを振る。断面は椀状で、底面はほぼ平坦であるが北側へ向けて標高を下げる。検出面からの深さ16cm、底面は標高153.63mを測る。埋土は3層に分かれ、中央部で黒褐色粘質土、壁面側が灰黄褐色粘質土である。出土遺物はみられなかった。

2SK-07(第4・6・54図)

IV区南西端、C8杭北東、標高154.87mで検出した。平面はやや不整な楕円形を呈し、長さ1.61m、幅1.15mを測る。主軸はN-64°-Wを振る。断面は椀状で、西側壁面への立ち上がりは緩やかとなる。検出面からの深さ29cm、底面は標高154.43mを測る。埋土は黒色粘質土を基調とした4層に分かれ、上層で砂混じりとなる。出土遺物はみられなかった。

溝状遺構

SD-01(第4・5・55図、図版13)

IV区中央部のE7~E8杭東、標高154.15mで検出した。平面L字形を呈し、屈曲部は隅丸と想定される。SD-01の屈曲部南3mにSB-04の北東角が在り同様な軸で配置する。中央屈曲部上層にSK-08、西端上層にP-264が重複し、いずれの土層断面にもSD-01は観察されなかった。南北辺の主軸はN-10°-Wをとり長さ2.5mで集結、東西辺の主軸はN-83°-Wで長さ3.5mを測り西端はP-264内で終結するとみられる。断面は椀状で、検出面からの深さ16cm、底面の標高は東西片中央で153.99mを測る。溝両端部底面の比高差は南端が西端より3.2cmとわずかに高い。埋土は南北辺では上層から第1層炭片を含む灰黄褐色粘質土、第2層褐灰色粘質土で、東西辺では第1層よりやや暗の第3層灰黄褐色粘質土である。

埋土から僅かに須恵器体部片、土師器細片、赤彩された杯皿片が出土している。

SD-02(第4・5・56図、図版13)

IV区中央西寄り、E7~E8杭西の標高154.15mで検出した。溝北側でP-187を切る。長さ2.28mで主軸をN-30°-Eへとり北側で軸をN-30°-Eへ振って僅かに延びる平面L字状を呈する。断面は皿状で検出面からの深さ9cm、底面の標高は北側で154.06mを測る。溝両端部底面の比高差はほとんどなく僅かに北側が数cm低くなる。埋土は1層で炭片を含む灰黄褐色粘質土である。

埋土から僅かに須恵器体部片、土師器細片、鉄鏃の柳葉形鏃身部1点が出土している。

ピット状遺構と出土遺物(第4・5・6・57~62図、図版14・18・19)

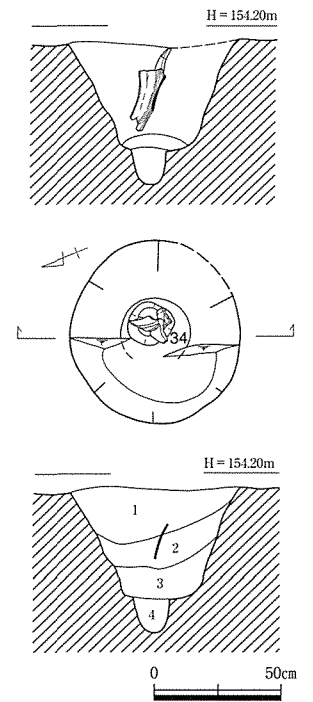
IV区全体から多数のピットを検出している。第22層黒褐色粘質土上面と、実質的に第28層明黄褐色砂礫~第30層黒褐色粘質土上面の二面で検出している。IV区北側周辺については上層が一部第24層上面での検出になったため、また、掘り残しと考えられるピットの存在など厳密な遺構面としての扱いには無理が生じている。また、ピットはすべて断面で層序を確認し、ごく一部を除いて図面実測および写真撮影を行っている。その結果、IV区で検出したピットは多くが径30~40cm規模のピットが多く、南側で深いものが多く見受けられた。なお、土坑SKとの区別は主に径などの大きさ、土層断面から判別したが明確な基準はない。また、建物を構成しないが明らかに柱痕跡を有するものが目立ち、今後の課題である。P-264ではピット中央部に竈(33)の比較のおおきな破片が、P-402では杯(13)が佐治石とみられる自然石と出土しており出土状況を掲載した。

ピット埋土の出土遺物として、比較的遺存状態の良い遺物を中心に図化した。遺物の出方としては

ピット内の底部に貼り付いて出土するようなものではなく、埋土中、特に上層部で出土した遺物が多い。上層で検出したピットと下層で検出したピット出土の遺物は区別して掲載したが、必ずしも時期が明確に分かれるわけではなく上層検出ピットであっても時期の古い遺物が出土しているのが現状である。ただ、全体的な傾向として、上層で検出したピットからはその上面を覆っていた包含層の堆積が厚かったこともあってか下層のピットに比べて比較的大きな破片、遺物の出方そのものも多く、このことはピット一覧表からも窺える。墨書土器や糸切りの杯皿類も上層ピットに比較的限定される傾向がある。

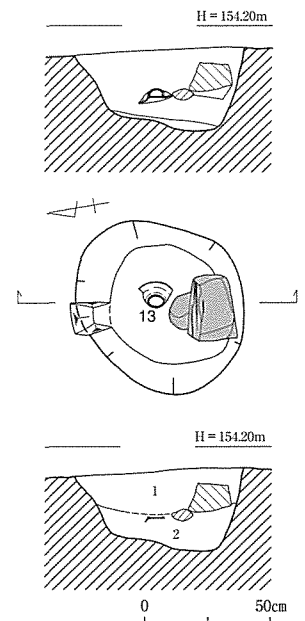
上層ピット出土遺物はコンテナ(容量54×34×20cm)約8箱分に及ぶ。須恵器蓋杯(1)(4)はⅣ・Ⅴ区の出土遺物を通して遺構に係わる今回一番古い時期の遺物であり、内面にかえりをもつ。蓋(2)(3)は糸切りで摘みをもち(3)は摘み輪状となる。杯(5)～(10)は無高台で、(5)に比べ(6)(7)はやや薄手で口縁が開く形態で、(10)は薄い底部から丸味をもって口縁へと滑らかに開く形態をとり底部内面に指おさえ痕が、底部外面はナデ、糸切り痕は認められなかった。(6)～(9)には墨書が認められ「南」「酒」「石」が判読できる。高台付杯(11)～(13)は底部糸切りで深めの形態である。壺甕類の口縁部(15)～(17)は(15)(16)は頸部外面に工具痕を観察する。(17)はやや雑なつくりで口縁端部は肥厚し端面をもつ。土師器は口縁部く字形甕の体部片がその多くを占め、杯皿類(18)～(22)はあまり多くはない。赤彩された杯(18)は口縁端部でやや外方へ屈曲して立ち上がる形態である。(19)(20)は糸切り底部から口縁部へ直線的に開き特に体部外面ヨコナデの稜が明瞭である。皿は底部糸切りで(21)は須恵器と同形態、(22)は薄手の小皿である。く字状甕(23)～(27)のうち(24)はやや小型、(23)～(26)は口縁端部は先細りでハケ目は粗い。(27)は厚手で内面頸部は明確なヘラ削りの境界をもたず屈曲が甘い。全体にハケ目調整が顕著、口縁端部は僅かに肥厚して端面をもつ。陶器灯明皿(28)は復元径7.9cm、釉はオリブ黄色である。土錘(29)～(31)は中央部がやや膨らむ管状(29)(30)と紡錘形(31)とがあり、手捏ねで幅1.8～2.5cm、長さ5.05～6.55cmと似通った大きさである。不明鉄製品(32)は断面長方形でL字形を呈する。竈片はP-264(33)以外にも僅かにピットから出土しているが、調査区全体からみても(33)以外に大きな破片はみられない。(33)は上部は僅かにドーム状に幅を狭めて径32.9cmを測り、口縁部は廂部は焚口側部へU字状に延び斜め上方を向いて貼り付く。丁寧にハケ目調整され、廂部分はナデおよび指ナデが顕著である。

下層の遺物は数少なくコンテナ(容量54×34×20cm)約1箱分である。そのうち(1)～(3)を図化した。須恵器蓋(1)は宝珠つまみで糸切りの平坦な天井部から端部が内傾するL字形口縁部へ続く。杯(2)はやや丸味のある薄手の底部から体部中位で屈曲して先細りの口縁部へ開く形態である。製塩土器(3)は口縁部へ向けて厚さを増し端部は平坦な上面をもつ。砂粒を多く含む粗い胎土である。



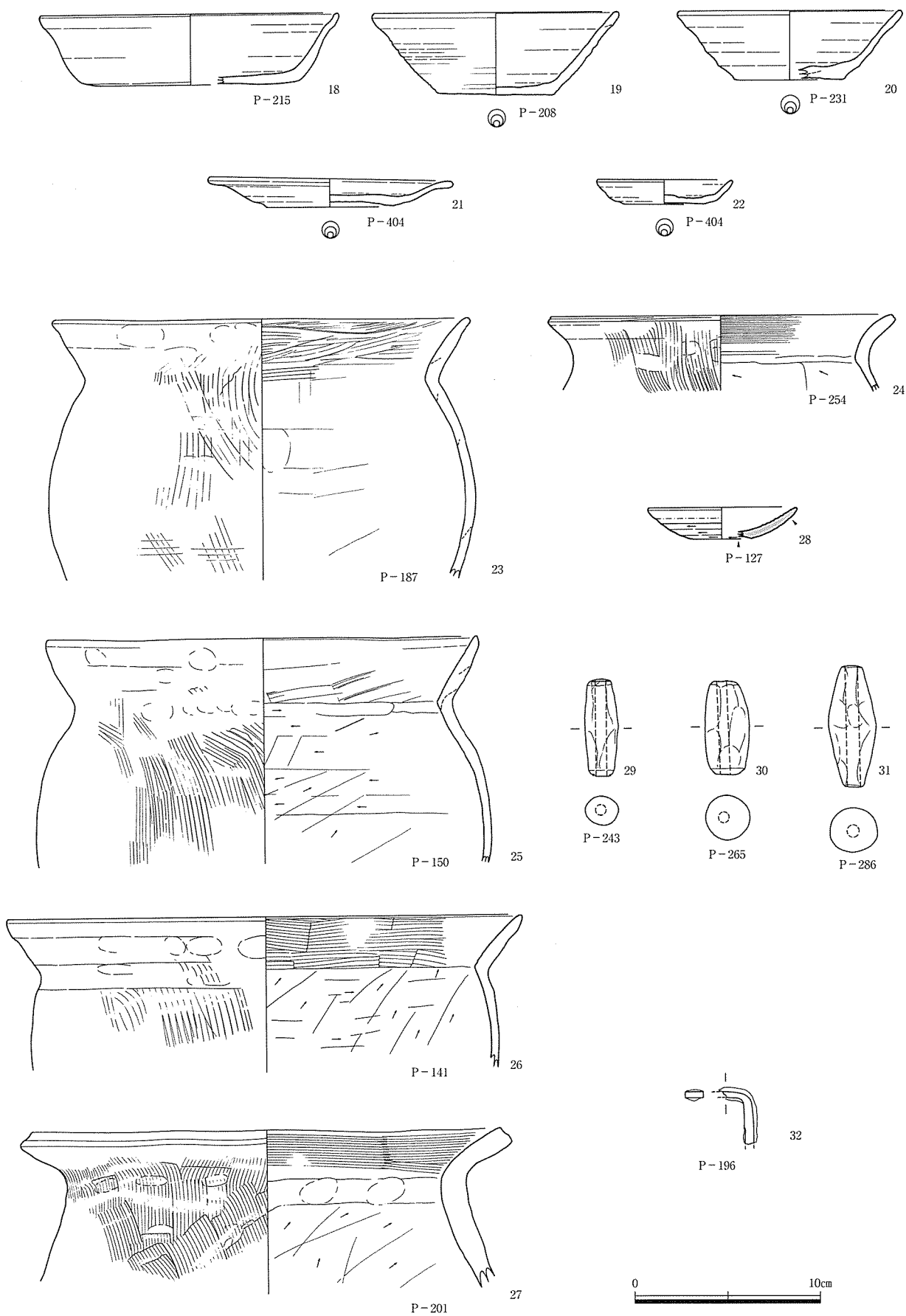
1. 黒褐色粘質土 (褐色土を若干含む。炭片を含む。)
2. 黒褐色粘質土 (3cm大の褐色土ブロックを含む。炭片を含む。)
3. 黒褐色粘質土 (1cm大の褐色土ブロックを含む。)
4. 黒褐色粘質土 (縮まり弱い。)

第57図 Ⅳ区P-264実測図
(S = 1 : 30)

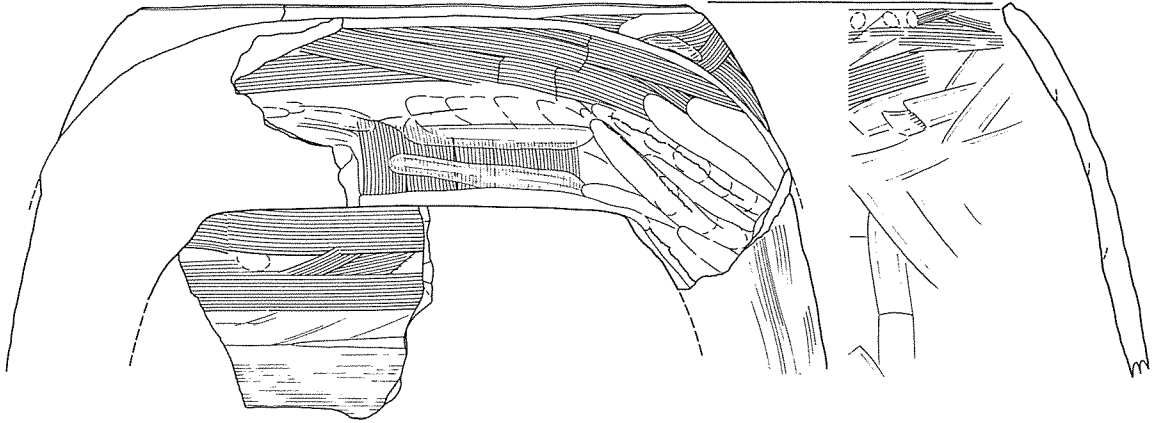


1. にぶい黄褐色粘質土 (焼土を含む。炭片を多く含む。)
2. にぶい黄褐色粘質土 (焼土を含む。)

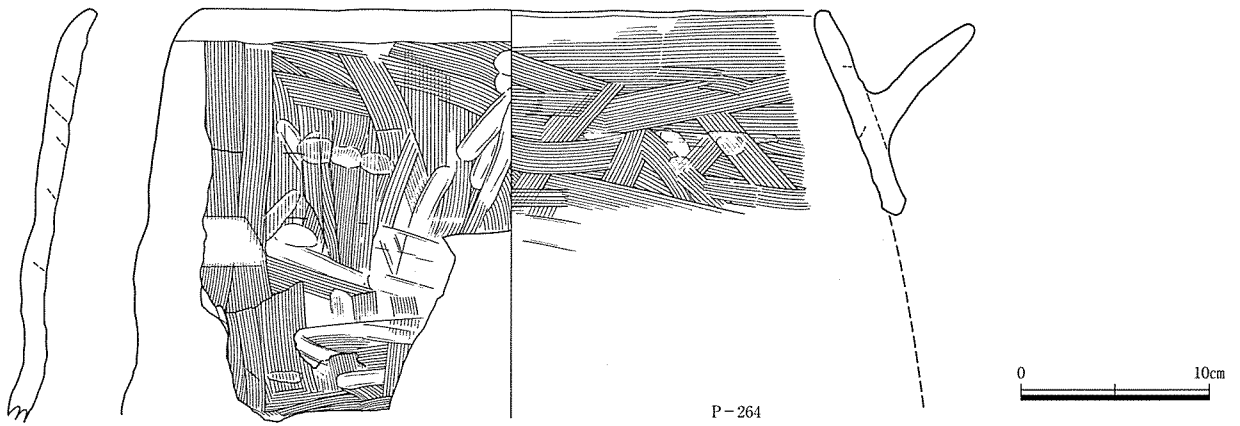
第58図 Ⅳ区P-402実測図
(S = 1 : 30)



第60図 IV区ピット(上層)出土遺物実測図(2)(S=1:3)



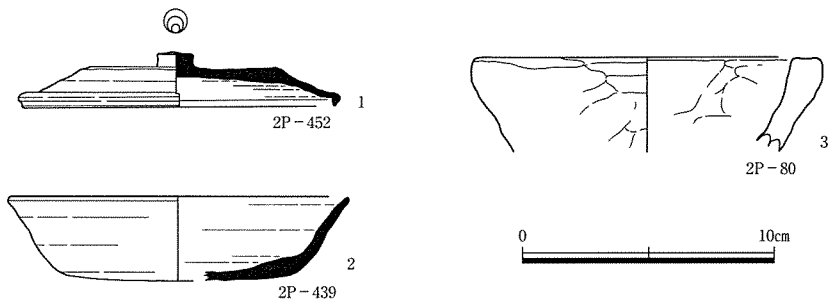
33



P-264

0 10cm

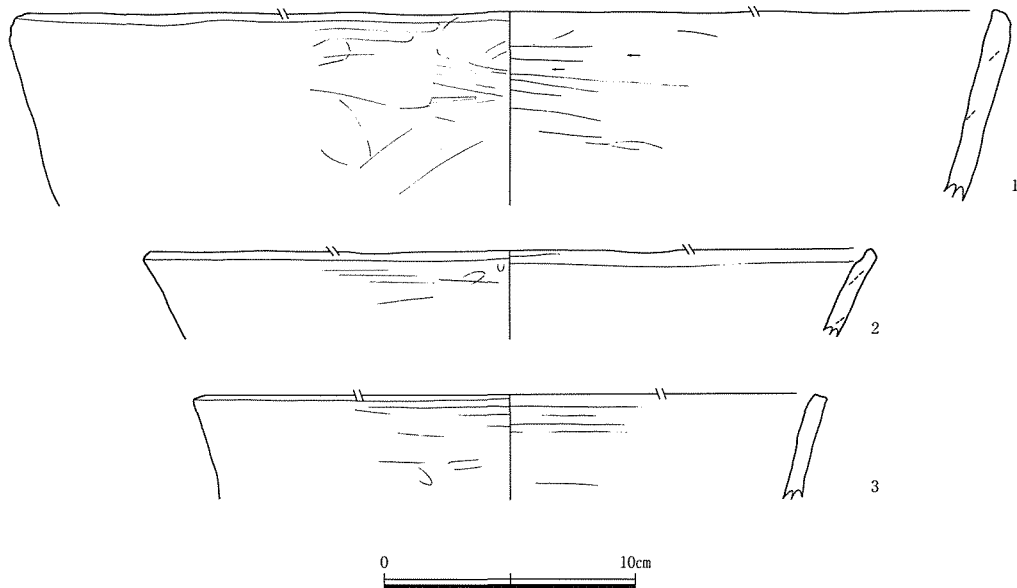
第61図 IV区ピット(上層)出土遺物実測図(3)(S=1:4)



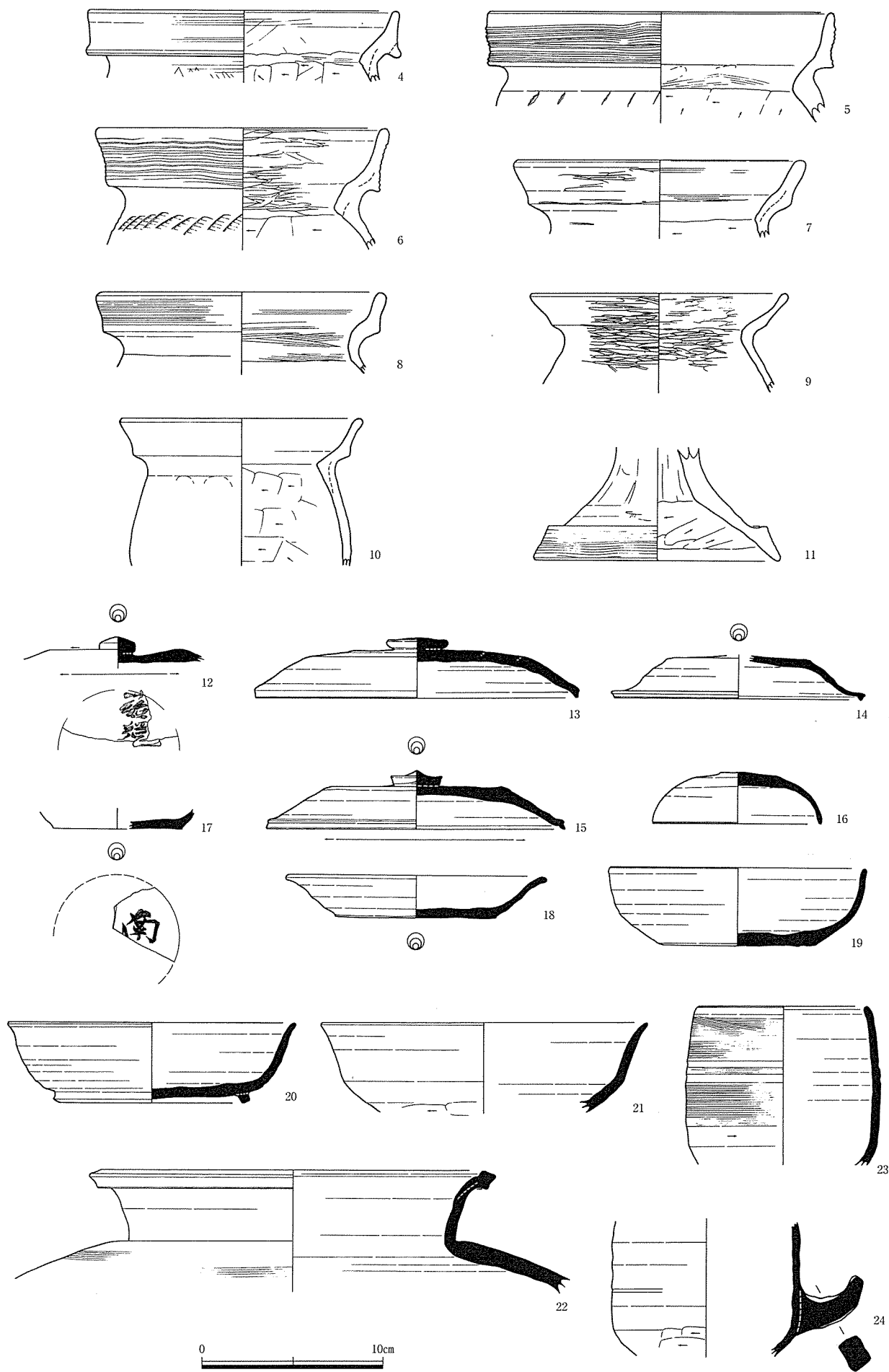
第62図 IV区ピット(下層)出土遺物実測図(S=1:3)

遺構外出土遺物(第4・63~65図、図版19)

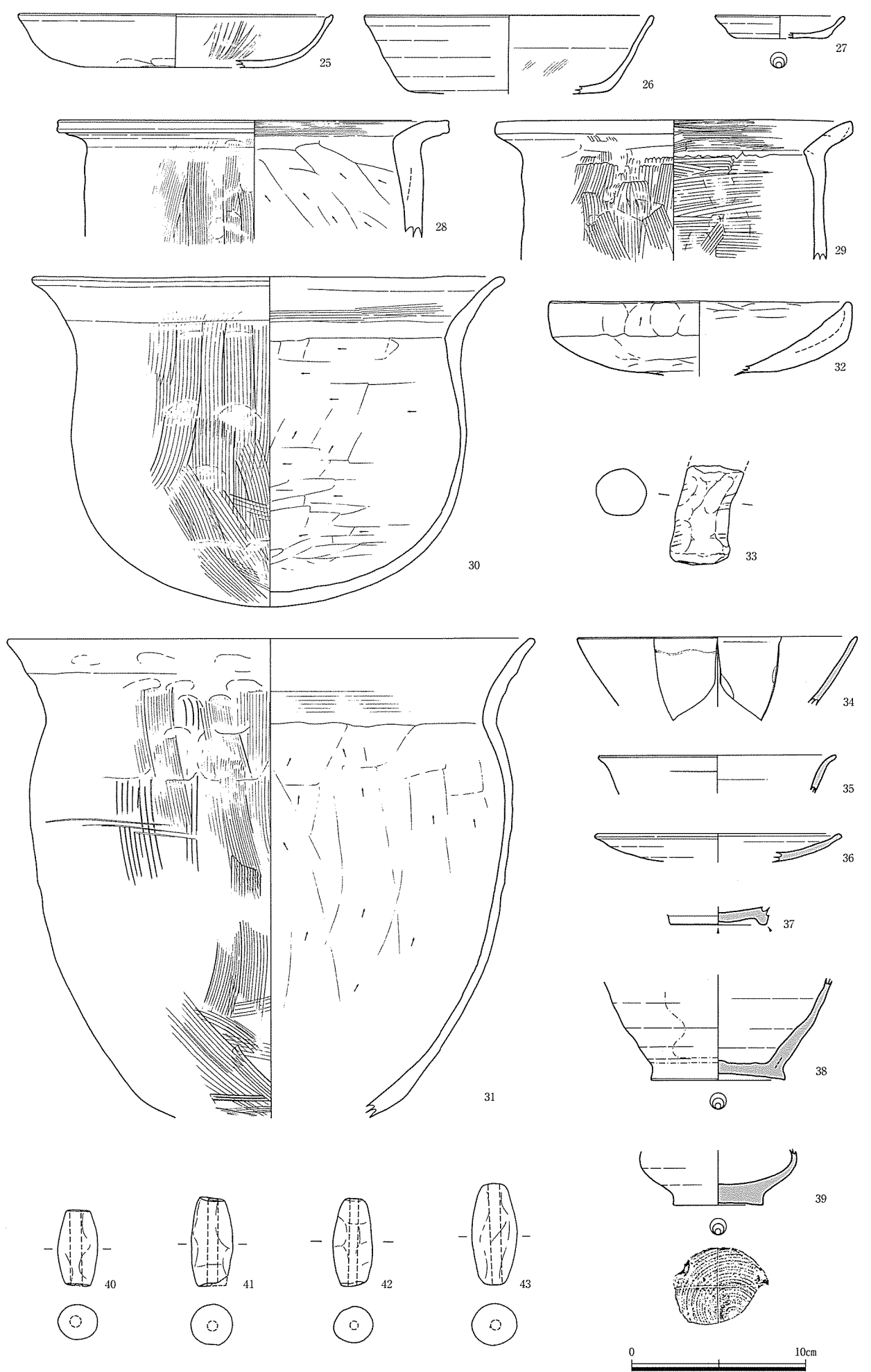
遺構外の出土遺物として、上層でコンテナ(容量54×34×20cm)約12箱分、下層で2箱分に相当する量が出土している。今回検出した遺構とは時期が異なるものの、縄文土器、弥生土器も出土している。縄文土器は図化した内外に条痕、擦痕の見られる鉢(1)~(3)以外に同様な細片1点を含め計4点がすべてであるが、弥生土器は比較的目立ち、SI-01をはじめ土坑やピットの埋土からも須恵器・土師器片と一緒に出土することがまま見られた。時期は(4)~(11)同様に弥生時代後期後半に限定される。口縁部外面に平行沈線を施すものが多いが、やや小型の甕は(9)(10)のように内外面ヘラ磨きや口縁部ヨコナデ調整だけのものがみられた。全体的に口縁部の形状にバラエティがあり外面の平行沈線の施し方がやや粗雑な印象である。脚部(11)は脚端部外面平行沈線のち一部ナデが認められる。このほか、須恵器、土師器については、遺構内出土で図化した遺物となるべく形態が異なるようなものについて図化を試みた。須恵器は(12)~(24)の蓋、杯、椀、甕を図化した。このうち墨書のある(12)は「口縄」、(17)は「南」と判読できる。蓋(12)(13)(15)は宝珠つまみで、これ以外の蓋においても輪状つまみは見られなかった。数少ない形状の蓋(16)は天井部ヘラ切りのち軽いナデである。(18)は底部から大きく開き端部が外反する皿状で底部糸切り。(19)は底部外面ナデ、厚い底部から湾曲しながら細く立ち上がる。高台付杯(20)は外面ヨコナデの稜が体部下半にかけて顕著である。(21)は体部で屈曲、稜をもち先細りの口縁部へ外反する。椀(23)(24)は同様な形態をとるとみられ(24)は把手付き、(23)は口縁部は端部で内湾して丸くおさめ体部外面カキ目、中位に沈線を施す。甕(22)は短く外反する口縁部の上部に粘土を付け足し肥厚拡張させて上面をもつ端面を作り出している。土師器はく字形甕片が大半を占め、杯皿類もわずかではあるが出土している。このうち赤彩された杯皿類は僅かでの他に細片も出土しているが図化が比較的可能な(25)(26)を図化した。(25)は口縁端部に内傾する稜をもち、内面に放射状の暗文、底部には螺旋状とも見受けられる暗文が認められる。(26)は口縁端部は僅かに肥厚し体部内面にハケ目痕を観察する。皿(27)は底部糸切り、径17.9cmの小皿である。く字形甕(28)~(31)は厚手で頸部の屈曲が強く口縁端部は面をもって肩部が張らない(28)(29)と形状は異なるもののほぼ全体の形状がわかる(30)(31)を図化した。(30)は丸底で外面の体部から外反する口縁部への屈曲は滑らかであるが、内面口縁部と体部の境界はヘラ削りにより明確である。(31)は長胴で底部は平底気味になると思われ、口縁部はやや長めである。口縁部(32)は薄手の底部から口縁へ向けて厚さを増し幅広の端面をもつ。手捏ね成形で粗い胎土、煤が付着する。獣足と考えられる(33)は断面円形で底面はやや丸味をもちやや傾いた作りであるこ



第63図 IV区遺構外出土遺物実測図(1)(S=1:3)



第64图 IV区遺構外出土遺物実測図(2)(S=1:3)



第65图 IV区遺構外出土遺物実測図(3)(S=1:3)

とから単独では立たない。遺存長5.6cmを測る。陶磁器類はほとんど遺構外での出土で、図化した(34)～(39)以外に細片が数点出土している。青磁口縁部(34)(35)は緑色、灰オリーブ色で中国産、(34)は口縁部に1条の圈線と体部に花卉が観察される。緑釉陶器皿(36)高台部(37)はオリーブ黄色、緑色で(37)は削り出し高台で京都系と見られる。陶器底部(38)(39)は糸切りで(39)はヘラ記号「+」がある。土錘(40)～(43)は中央部がやや膨らむ管状で、指ナデ成形で幅2.3～2.6cm、長さ4.35～5.8cmと似通った大きさである。

3. V区の調査

IV区の西側の調査区で、中央に旧佐治村教育委員会が試掘を行ったトレンチ(Tr-5)が配置する。今回大井聖坂遺跡の調査区では丘陵部に近く、北西から南東にかけて傾斜する緩斜面である。斜面高位では地山に含まれる花崗岩質の自然石が地山中に多く見受けられた。IV区第22層に対応する第16層黒褐色粘質土上面(調査地の基本層序の項参照)で土坑4基、ピット4基、焼土遺構を検出した。

土坑

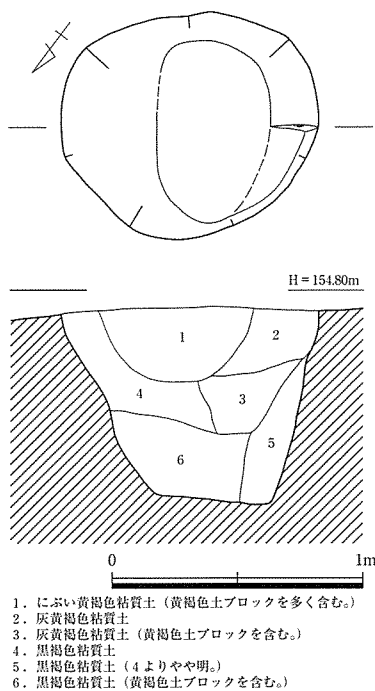
SK-01(第8・66図)

V区東側、C7～D7杭南側、標高154.74mで検出した。北東側に複数の同様な規模の土坑が配置し、東側30cmにSK-02が近接する。平面は不整形円形を呈し、長さ99cm、幅91cmを測る。断面は逆台形状である。検出面からの深さ78cm、底面は標高153.94mを測る。埋土は6層に分かれ、上層からにぶい黄褐色粘質土、灰黄褐色粘質土、黒褐色粘質土と大まかに分かれる。

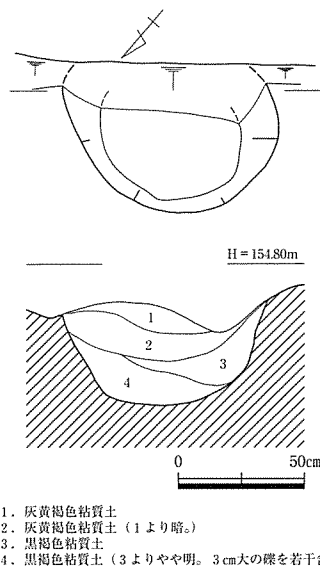
埋土から僅かに須恵器・土師器体部片、糸切りの須恵器高台部片、く字甕口縁部片が出土している。

SK-02(第8・67図)

V区東側、C7～D7杭南側、標高154.23mで検出した。南東側は調査区壁面へ延びる。南側周辺には複数の同様な規模の土坑が配置し、西側30cmにSK-01、北側30cmにSK-03が近接する。平面は不整形円形を呈するとみられ、現況で長さ83cm、幅51cmが遺存する。断面は椀状である。検出面からの深さ41cm、底面は標高154.23mを測る。埋土は4層に分かれ、上層から灰黄褐色粘質土、黒褐色粘質土と大まかに分かれる。出土遺物はみられなかった。



第66図 V区SK-01実測図
(S = 1 : 30)



第67図 V区SK-02実測図(S = 1 : 30)

SK-03(第8・68図)

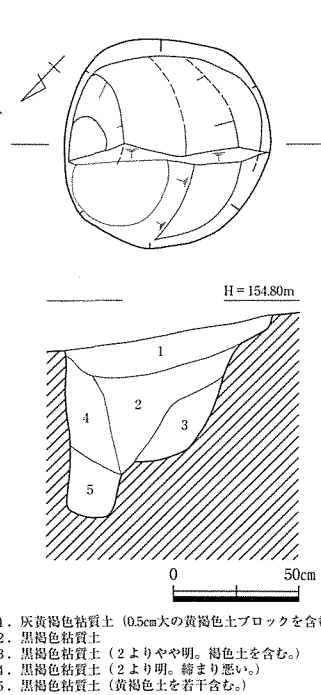
V区東側、C7～D7杭南側、標高154.74mで検出した。周辺には複数の同様な規模の土坑が配置し、南側30cmにSK-02、北東側1mにSK-04が近接する。平面は不整形円形を呈し、長さ83cm、幅81cmを測る。断面は不整形で、検出面から50cm下がった面で北東部がさらにピット状に17cm深くなる。検出面からの深さ68cm、底面は標高153.94mを測る。埋土は5層に分かれ、おおまかには上層が灰黄褐色粘質土、以下は黒褐色粘質土である。

埋土から僅かに土師器体部片、糸切りの須恵器高台部片が出土している。

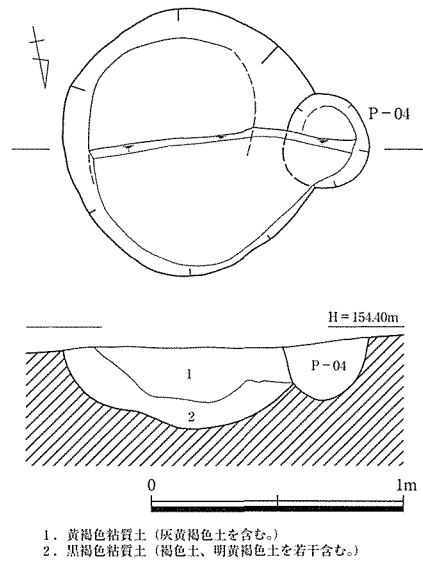
SK-04(第8・69・70図、図版14・20)

V区東側、C7～D7杭間、標高154.32mで検出した。西側壁面の一部をP-04に切られる。南西側周辺に複数の同様な規模の土坑が配置し、南西側1mにSK-03が近接する。平面は不整形円形を呈し、長さ1.07m、幅1.03mを測る。断面は椀状で、検出面からの深さ32cm、底面は標高154.00mを測る。埋土は2層に分かれ、上層が黄褐色粘質土、下層が黒褐色粘質土である。

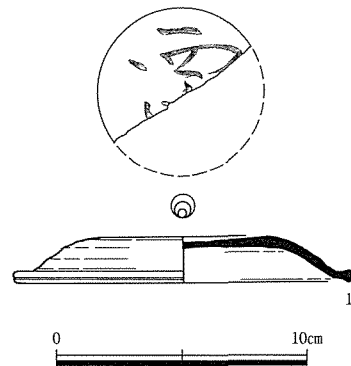
埋土から僅かに土師器体部片と糸切り天井部外面に墨書のある須恵器蓋(1)が出土している。(1)は口縁部はて字状に肥厚して端面に沈線が巡る。天井部外面の墨書は「西□」と二文字が確認できる。



第68図 V区SK-03実測図(S=1:30)



第69図 V区SK-04実測図(S=1:30)

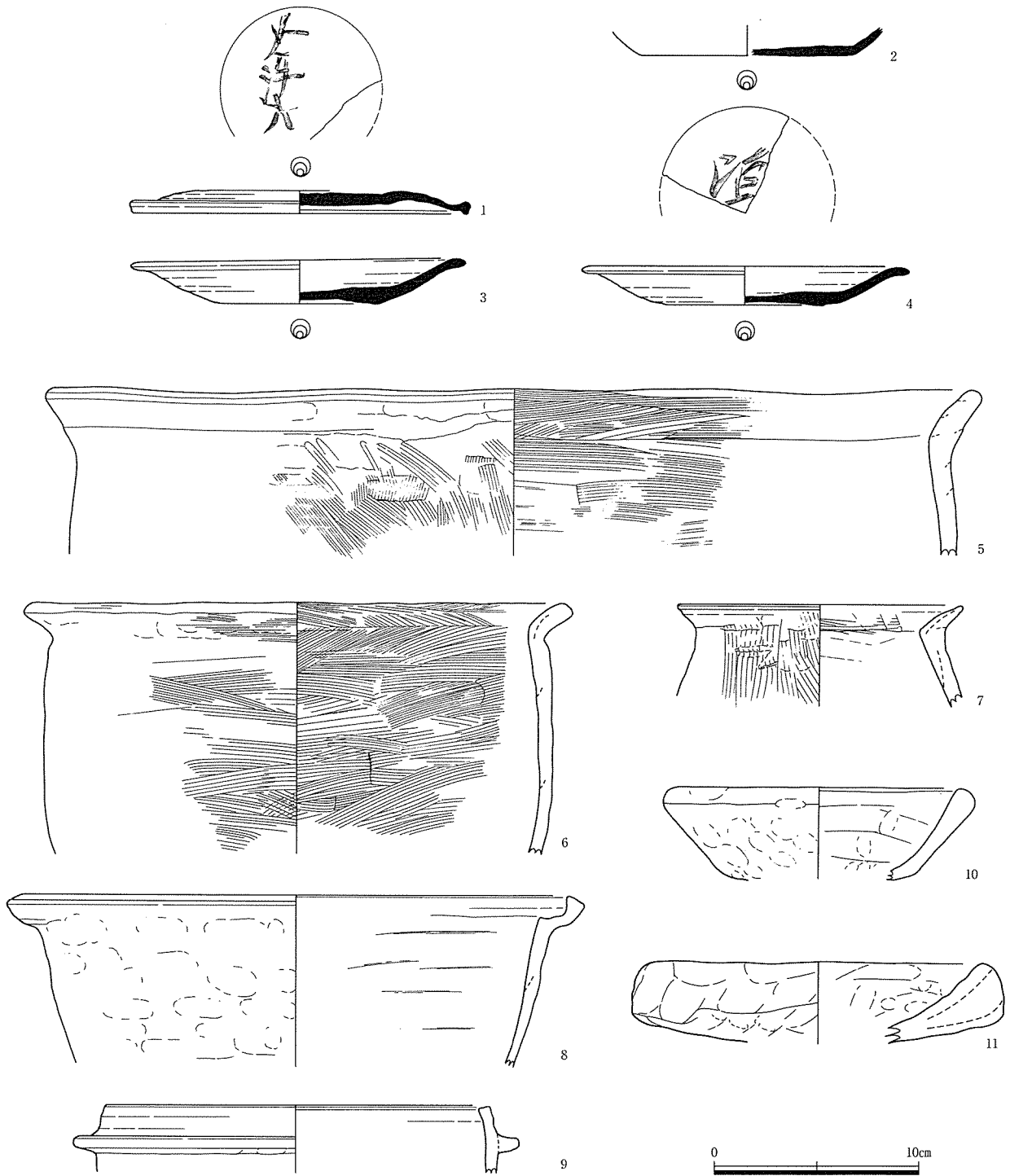


第70図 V区SK-04出土遺物実測図(S=1:3)

ピットおよび焼土遺構(第8図、図版3・14)

V区から土坑以外にピット4基と焼土遺構を検出している。ピットは旧佐治村の試掘トレンチ(Tr-5)で検出したピットも含めても建物を構成するにはいたらない。

焼土はC7杭北西、標高154.96~154.90mで1.2m×50cmの範囲が確認された。ちょうど中央部は硬く明赤褐色に焼き締まり厚さ7cmに及ぶ。IV区でも7箇所焼土範囲が確認され、調査区西側にD7杭南1.5mの標高154.27mから調査区東側F8杭北西2.5mの標高154.14mまでの帯状に認められる。焼土の厚さは最大7cmとV区焼土と同様でいずれも遺構を検出したIV区第22層黒褐色粘質土(V区では第16層)上面で認められた。



第71図 V区遺構外出土遺物実測図(S=1:3)

遺構外出土遺物(第71図、図版20)

V区から遺構外の遺物としてコンテナ(容量54×34×20cm)2箱分に相当する量の遺物を出土している。その大半は土師器片であり、ここでは比較的遺存状態のよいもの、IV区で見られなかった遺物を中心に図化した。須恵器は糸切り底部片が目立ち、図化した(1)～(4)も底部糸切りである。墨書土器が2点含まれ、蓋(1)の天井部外面に「□酒□」、杯(2)の底部外面に「酒?」が記される。皿(3)(4)はともに同じような形態で口縁端部はやや屈曲して外方へ延びる。土師器く字形甕(5)(6)は肩部は張らず口縁部は短く外反してそのままおえる。ともに内外ハケ目調整で(5)は大型である。小型の甕(7)は口縁部は先細りで短く外反する。瓦質鍋(8)、羽釜(9)はIV区で見られなかった遺物でもあり、(8)は体部やや外傾して立ち上がり受け口状の口縁へ続く。体部外面は成形痕が帯状に明瞭に残る。(9)は口縁端部はわずかに内傾する面をもち、鏝部貼り付けのちヨコナデ調整である。製塩土器(10)は杯状の形態で口縁端部は肥厚して丸くおえる。口縁部(11)は端部は肥大して幅広の面をもち、全体に雑な作りであるが内面はナデを施す。(10)に比べ胎土は粗く砂粒を多く含む。

4. VI区の調査(第7・9図、図版3・4)

IV区の南東側の調査区で、さらに南東16mは平成元年度調査地にあたる。調査区は狭小な調査区で、F10杭北東の調査区壁面で層序の確認(調査区の基本的層序の項参照)を行った。断面では第4層黒褐色粘質土の上面とその下層第5・6層上面で遺構が認められ、IV区、V区と同様な状況が確認された。調査区南東から北西へかけて地盤の傾斜がみられ、調査区南東端標高155.62mでにぶい黄褐色の地山を確認した。トレンチ掘削時に僅かに須恵器・土師器片が出土している。

大井聖坂遺跡ピット一覧表

Pit名	径(cm)	底部高(m)	柱痕跡	出土遺物	その他	Pit名	径(cm)	底部高(m)	柱痕跡	出土遺物	その他
P-01	40×38	154.93	—	—		P-85	28×(24)	154.22		土器片	
P-02	40×34	154.51	—	—		P-86	22×18	154.28	—	—	
P-03	24×28	154.54	—	—		P-87	22×20	154.30	—	—	
P-04	70×60	154.40	○	—		P-88	40×30	153.81	—	—	
P-05	22×28	154.38	△	—		P-89	22×20	154.28	—	—	
P-06	38×22	154.37	△	—		P-90	50×54	153.82		土器片	SB-03
P-07	52×62	154.36		土器片(赤彩有)		P-92	34×30	153.96	—	—	
P-08	40×33	154.30	△	土器片		P-93	38×38	153.83	△	—	
P-09	42×44	154.33	—	—		P-94	17×15	153.73	○	土器片	SB-03
P-10	40×40	154.29	△	土器片		P-95	25×(32)	154.11		土器片	
P-11	40×32	154.34	△	—		P-96	80×68	154.07		土器片	SB-03
P-12	68×54	154.36		杯身(墨書?) 他		P-97	48×38	154.23	—	—	
P-13	80×48	154.24	△	蓋(墨書?)		P-98	40×30	154.14		土器片	
P-15	38×38	154.63	—	—		P-99	28×32	154.04	○	土器片	
P-16	46×42	154.27	△	土器片	SB-03	P-100	68×68	153.94		土器片(赤彩有)	
P-17	40×40	154.66	—	—		P-101	48×52	153.72	△	土器片	SB-03
P-18	64×66	154.27	△	土器片		P-102	40×50	153.70	—	—	
P-19	32×34	154.25	△	土器片		P-103	72×52	154.14		土器片(赤彩有)	
P-20	42×(36)	154.18	△	土器片		P-104	30×36	154.10		土器片	
P-21	40×(38)	154.21	△	土器片		P-105	25×25	154.07	△	土器片	
P-22	52×54	154.14	—	—		P-106	50×76	154.12		土器片	
P-23	63×52	154.11	△	土器片		P-108	54×58	154.04		土器片	
P-24	24×27	154.13	△	—		P-109	32×42	154.22	△	土器片(製塩土器?)	
P-25	30×30	154.13	△	土器片	SB-01	P-110	48×50	153.91	△	土器片	
P-26	48×28	154.09		土器片		P-112	34×36	154.10	△	—	
P-28	42×48	154.08	△	—	SB-01	P-113	24×28	153.84	△	土器片・石	SB-01
P-29	60×52	154.05	△	土器片		P-114	26×28	154.21	△	—	
P-30	30×30	153.92	△	—	SB-01	P-115	84×42	153.91	△	土器片・石	SB-01
P-31	58×52	154.05	△	土器片		P-117	40×42	153.82	△	土器片	SB-01
P-32	50×54	153.95	△	土器片	SB-01	P-118	77×80	153.75		土器片	
P-33	48×52	153.91		土器片		P-119	36×(24)	154.32		土器片	
P-34	52×46	154.35		土器片		P-120	60×62	153.68	○	土器片(赤彩)	
P-35	32×36	154.27		土器片		P-121	48×46	154.07		土器片・石	
P-36	50×50	153.80		土器片		P-122	34×42	153.99	—	—	
P-37	30×28	153.97	△	土器片		P-123	32×44	154.06	○	—	SB-01
P-39	28×30	153.92	△	—		P-124	30×32	153.92	△	高台付杯・竈片 他	
P-40	70×44	153.96	△	土器片・石	SB-01	P-126	38×42	154.10		土器片・石	
P-42	32×32	153.91		—		P-127	48×50	154.17		灯明具 他	
P-43	30×32	154.48		杯身(墨書) 他		P-128	40×40	154.34	—	—	
P-44	88×56	154.13	△	土器片		P-129	46×48	154.23		土器片	
P-46	38×30	153.90		土器片		P-130	62×70	153.68	△	土器片	
P-47	46×56	153.97		土器片		P-131	58×62	153.74	○	土器片	
P-48	28×28	154.26		—		P-132	32×38	154.22		灰釉陶器(SB-09)	
P-49	32×38	154.19		土器片		P-133	30×36	154.00		土器片	
P-50	58×(62)	154.06	△	土器片		P-134	38×28	154.21	—	—	
P-51	48×(38)	154.24	△	—		P-135	42×40	154.10	○	土器片	
P-52	46×48	154.23		高台付杯		P-136	32×34	154.06		土器片	
P-53	46×50	154.48		土器片(赤彩有)	SB-03	P-137	50×(40)	154.16		土器片	
P-54	60×60	154.18	○	—		P-138	56×54	154.19		土器片	
P-55	62×62	154.07		土器片	SB-03	P-139	60×50	154.12		土器片	SB-09
P-56	20×20	154.39	△	—		P-140	38×40	154.07	△	土器片	
P-57	32×40	153.99	○	土器片(赤彩有)		P-141	38×40	154.03	△	甕 他	
P-58	52×47	153.93		土器片	SB-03	P-142	40×40	154.05	—	—	
P-59	50×48	153.57	△	土器片・石	SB-03	P-143	43×40	154.01		土器片	
P-60	32×34	154.23		—		P-144	42×42	154.07	△	土器片	
P-61	32×32	154.17	△	土器片		P-145	42×62	153.97		土器片	
P-62	36×38	154.15	△	—		P-146	50×52	153.73		土器片	
P-63	58×52	154.00	△	土器片	SB-03	P-147	42×52	154.08	—	—	
P-64	60×60	153.84		土器片	SB-03	P-148	58×42	153.65	△	土器片	
P-65	50×50	154.04		土器片		P-149	56×62	153.91		土器片	
P-66	40×48	153.84		土器片・石		P-150	42×52	153.72		杯身(墨書)・甕 他	
P-67	68×65	154.33		蓋・石		P-151	50×52	154.17		—	
P-68	48×(40)	154.06		土器片		P-152	48×43	153.82		土器片	
P-70	52×38	154.07	△	土器片		P-153	34×(8)	154.13		土器片	
P-71	72×60	154.06	—	—		P-154	30×30	153.95	○	縄文鉢 他	SB-09
P-72	44×36	154.12		—		P-155	42×36	154.29	○	土器片(製塩土器)	
P-73	42×(38)	154.03		土器片		P-156	38×34	154.69	—	—	
P-74	38×40	154.02	△	土器片		P-157	50×54	154.04	△	土器片	
P-75	62×56	153.94	○	土器片		P-158	50×46	153.79	○	—	SB-09
P-76	48×50	153.86		土器片		P-159	58×58	153.92	○	弥生土器片 他	
P-77	28×30	153.95	○	—		P-160	46×48	153.66	△	土器片・石	
P-78	48×52	154.04		土器片		P-161	48×44	154.12		土器片	
P-79	24×26	153.97	—	—		P-162	68×67	154.27		杯身・竈片 他	
P-80	48×40	154.01	○	—		P-163	30×20	153.57		土器片	
P-81	32×25	154.05		土器片		P-164	68×64	153.79		土器片	
P-82	80×66	154.24		土器片(赤彩有)		P-165	30×34	153.85		土器片	
P-83	26×30	154.33		土器片		P-166	24×26	154.21		土器片	
P-84	62×(64)	154.18		土器片	SB-03	P-167	40×44	153.59		土器片	

PはⅣ区(上層)のピット。2PはⅣ区(下層)のピット。VPはⅤ区のピット。

柱痕跡○は有力。△不確定。

Pit名	径(cm)	底部高(m)	柱痕跡	出土遺物	その他	Pit名	径(cm)	底部高(m)	柱痕跡	出土遺物	その他
P-168	28×32	153.95		土器片		P-252	34×26	154.03		土器片(赤彩有)	
P-169	44×50	153.75	△	土器片・石		P-253	54×48	153.60		土器片	
P-170	30×30	154.25		土器片	SB-09	P-254	34×32	153.64	○	瓦 他	
P-171	38×50	153.52		土器片		P-255	34×36	153.53	△	土器片	
P-172	46×52	153.52		土器片	SB-07	P-256	32×54	153.89		—	
P-173	46×(56)	153.46	△	土器片	SB-09	P-258	32×26	153.83		土器片	
P-174	56×(54)	153.67		土器片		P-259	34×44	153.77		土器片	
P-175	34×34	154.17		土器片		P-260	24×28	153.85		—	SB-07
P-176	28×30	153.91		土器片		P-261	32×30	154.03		土器片	
P-177	50×50	153.81		土器片		P-262	66×72	153.53		土器片	
P-178	18×18	154.19		土器片		P-263	22×26	153.75		—	
P-179	46×44	153.79		土器片		P-264	66×72	153.55		土器片・竜片	
P-180	44×46	154.07		土器片		P-265	54×54	153.64	△	(口縁部)・土錘 他	
P-181	52×(48)	153.82		土器片		P-266	22×28	154.04		土器片(土錘有)	
P-182	60×(56)	153.98	○	土器片		P-267	54×(54)	153.50	△	土器片	SB-04
P-187	62×62	153.84		瓦 他		P-268	30×(38)	153.73	△	土器片	
P-188	48×62	153.87	△	土器片	SB-07	P-269	22×20	153.76		土器片	
P-189	90×52	153.95		土器片(緑釉有)		P-270	28×26	153.86		—	
P-190	30×32	153.81		土器片(緑釉有)		P-271	50×50	153.96		土器片	
P-191	28×30	154.05		土器片		P-272	38×42	153.81		—	
P-192	50×64	153.36	○	土器片		P-273	26×26	153.84		—	
P-193	46×50	153.64		—	SB-09	P-274	38×44	153.86		—	
P-194	36×38	153.29	△	—	SB-07	P-275	72×58	153.64	△	土器片	
P-195	60×54	153.44		土器片		P-276	68×76	153.56		土器片	
P-196	48×46	153.80		土器片・鉄製品		P-277	50×54	153.59		土器片	
P-197	54×52	153.76		土器片		P-278	36×34	153.71		—	
P-198	80×82	153.57		土器片(緑釉有)・土錘他	SB-07	P-279	44×42	153.80		土器片	
P-199	50×52	153.61	△	蓋		P-280	34×48	153.95		—	
P-200	50×56	153.74		—		P-281	24×26	153.71		—	
P-201	78×68	153.67		瓦 他		P-283	32×(7)	153.47		土器片	
P-202	26×(30)	154.10		土器片		P-284	70×72	153.72		土器片・石	
P-203	20×(22)	154.00		土器片		P-285	34×36	153.67		—	SB-10
P-204	32×32	153.90		土器片		P-286	62×64	153.62		土器片・土錘	
P-205	54×58	154.10		土器片		P-287	48×58	153.56		土器片	
P-206	46×48	154.01		土器片	SB-04	P-288	38×44	153.48	△	土器片	
P-207	56×58	153.84		土器片		P-289	18×18	153.63		土器片	
P-208	56×42	153.82		杯 他		P-290	32×32	153.53	△	土器片	
P-209	46×(52)	153.99		土器片	SB-04	P-291	20×20	153.58		土器片	
P-210	54×58	154.03		土器片		P-292	40×32	153.29	△	土器片	SB-10
P-211	34×36	154.08	△	—		P-293	30×34	153.98		—	
P-212	22×24	153.99	△	土器片		P-294	24×26	153.95		—	
P-213	36×38	153.93	△	土器片(弥生有)		P-295	50×50	153.55		土器片	SB-11
P-214	40×36	154.15		—		P-296	50×52	153.70	△	土器片	
P-215	98×56	153.91		底部(墨書)・杯 他		P-297	46×50	153.73	△	土器片	
P-217	70×56	153.87		土器片		P-298	50×64	153.99		—	
P-219	30×30	154.03		石		P-299	40×44	153.76		土器片	
P-220	40×44	153.93		(底部)		P-300	18×14	153.93		—	
P-221	40×46	153.50	○	土器片		P-301	30×32	153.84		土器片	
P-222	40×40	154.19		—		P-302	50×52	153.50		土器片	
P-223	42×46	153.83		—		P-303	42×56	153.98		土器片	SB-05
P-224	82×64	153.71	△	土器片(赤彩有)	SB-04	P-304	33×32	154.00		土器片	
P-225	24×32	154.20		土器片		P-305	22×32	153.96		—	
P-226	38×38	153.79		土器片		P-306	66×70	153.86		土器片・石	
P-227	70×44	154.11	△	土器片		P-307	48×32	153.89		—	
P-228	34×34	153.98		土器片		P-308	64×72	154.23		—	SB-05
P-229	22×22	154.00		—		P-309	62×70	154.10		土器片	
P-230	70×74	154.09		土器片		P-310	60×55	154.18		—	
P-231	72×44	153.68		杯 他		P-312	30×28	154.24		—	SB-05
P-232	68×54	153.59	○	(口縁部)		P-313	42×32	154.23		—	SB-05
P-233	90×70	153.67		土器片		P-314	32×22	154.21		—	
P-234	20×28	153.96		土器片		P-315	40×42	154.06		—	
P-235	30×32	154.14		—		P-316	24×27	154.12		土器片	
P-236	48×50	154.06		土器片		P-317	28×36	154.12		—	
P-237	22×28	153.72		—	SB-04	P-318	32×32	153.98		—	
P-238	40×42	153.85		—		P-319	24×28	154.00		土器片	
P-239	28×26	153.71		—		P-320	48×54	154.11		—	
P-240	36×38	153.64		土器片		P-321	54×54	153.80		土器片	
P-241	34×30	153.14		—		P-322	56×56	153.84		土器片	SB-05
P-242	44×42	153.49		—		P-323	76×86	153.56		土器片	
P-243	42×46	153.57		土錘 他		P-324	42×44	153.89		土器片	
P-244	26×30	153.63		土器片		P-325	40×40	153.61		土器片	
P-245	52×44	153.55	△	土器片		P-326	52×62	153.70	△	土器片(竜片有)	SB-05
P-246	30×30	153.29	△	土器片		P-327	30×26	153.66		土器片	
P-247	24×26	153.62		土器片		P-328	42×42	153.94		土器片	
P-248	30×30	153.52	△	—		P-329	54×64	153.73		土器片(竜片有)	
P-249	24×22	153.67		—		P-330	24×26	153.84		—	
P-250	58×72	153.59		土器片		P-331	32×40	153.68	○	—	SB-05
P-251	30×38	153.56		土器片 他		P-332	30×25	153.87		土器片	

Pit名	径(cm)	底部高(m)	柱痕跡	出土遺物	その他	Pit名	径(cm)	底部高(m)	柱痕跡	出土遺物	その他
P-333	56×52	153.84		—		2P-03	35×30	154.16	△	—	
P-334	30×28	153.97		—		2P-04	42×27以上	154.14	—	—	
P-335	58×66	153.97		土器片		2P-05	45×32以上	154.10	—	—	
P-336	70×50	153.34	△	土器片		2P-06	48×39	154.04	—	—	
P-337	52×44	153.88		—		2P-07	48×40	153.92	—	—	
P-338	34×30	153.90		—		2P-08	35×32	154.26	○	—	
P-339	34×32	153.90	△	土器片		2P-09	42×37	154.09	—	—	
P-340	32×34	153.82		土器片		2P-10	38×34	154.16	—	—	
P-341	54×70	153.59		(口縁部) 他		2P-11	46×42	154.16	—	—	
P-342	44×44	153.54	△	土器片		2P-12	38×36	154.17	—	—	
P-343	58×54	153.66		土器片		2P-13	60×50	153.63	○	—	
P-344	30×30	153.50	△	土器片		2P-14	37×36	153.93	—	—	
P-345	24×24	153.90		—		2P-15	26×24	154.23	—	—	
P-346	24×24	153.85		—		2P-16	31×25	153.73	—	—	
P-347	58×58	153.47		土器片	SB-06	2P-17	53×45	153.72	—	—	
P-348	16×16	153.83		—		2P-18	44×38	153.57	○	土器片	
P-349	22×24	153.84		—		2P-19	43×39	153.80	—	—	
P-350	40×36	153.56	△	土器片		2P-20	35×34	154.02	—	—	
P-351	40×48	153.66	△	土器片		2P-21	48×43	153.91	—	土器片	
P-352	34×44	153.78		土器片		2P-22	39×37	153.84	○	—	
P-353	40×46	153.60		土器片		2P-23	40×34	153.84	—	—	
P-354	42×34	153.70		土器片		2P-24	47×40	153.86	—	—	
P-355	22×18	153.72		土器片		2P-25	69×60	153.57	—	—	
P-356	40×42	153.44		—	SB-06	2P-26	49×40	153.83	—	土器片	
P-357	34×34	153.30	○	蓋 他	SB-06	2P-27	35×31	153.82	—	—	
P-358	34×34	153.65		—	SB-06	2P-28	36×34	153.72	—	—	
P-359	44×44	153.41	○	土器片	SB-06	2P-29	63×44	153.89	—	—	
P-360	44×50	153.55		土器片		2P-30	43×43	153.53	—	—	
P-361	42×32	153.60		—		2P-31	45×30	153.53	—	—	
P-362	18×18	153.65		—		2P-32	60×53	153.60	—	—	
P-363	40×28	153.56		土器片		2P-33	50×40	153.64	—	—	
P-364	64×54	153.06	○	土器片		2P-34	38×36	153.74	—	—	
P-365	30×28	153.53		—		2P-35	42×38	153.82	—	—	
P-366	60×72	153.37		—		2P-37	(51)×(30)	153.65	—	土器片	
P-368	25×27	153.38		—		2P-38	44×(35)	153.70	—	—	
P-369	24×24	153.60		—		2P-39	48×46	153.77	—	—	
P-370	30×32	153.46		—		2P-40	28×24	153.76	—	—	
P-371	20×24	153.54		—		2P-41	28×27	153.74	—	—	
P-372	32×34	153.58		—		2P-42	23×22	154.03	—	—	
P-373	40×44	153.37		土器片		2P-43	38×30	153.56	—	—	
P-374	44×44	153.57		—		2P-44	50×33	153.70	△	—	
P-375	38×34	153.26		土器片		2P-45	41×36	153.50	—	—	
P-376	34×44	153.41		—		2P-46	47×43	153.60	○	—	SB-04
P-377	30×24	153.31		—		2P-48	52×49	153.92	—	—	
P-378	28×30	153.71		—		2P-51	52×(43)	153.56	—	土器片	
P-379	90×54	153.70	△	土器片		2P-52	42×(22)	153.90	—	—	
P-380	80×60	153.56		杯(墨書) 他		2P-53	46×40	153.83	—	土器片	
P-381	42×48	153.44		土器片		2P-54	55×52	153.55	—	—	
P-382	28×32	153.78		—		2P-55	26×26	153.69	—	土器片	
P-383	40×42	153.56	△	土器片		2P-56	38×34	153.62	—	土器片	
P-384	28×20	153.79		—		2P-58	24×(18)	153.81	—	—	
P-385	42×46	154.29	△	土器片(赤彩有)		2P-59	34×24	153.84	—	—	
P-386	32×30	154.29		土器片		2P-60	48×39	153.45	—	土器片	
P-387	34×30	153.97		土器片		2P-61	50×48	153.34	—	土器片	
P-388	34×34	153.91		土器片		2P-62	58×49	153.60	—	—	
P-389	32×30	154.14		—		2P-63	28×28	153.55	—	—	SB-07
P-390	26×26	153.74		—		2P-64	66×40	153.39	—	—	SB-11
P-391	34×42	153.51		土器片		2P-66	30×28	153.60	—	—	SB-04
P-392	72×?	153.59	△	土器片		2P-67	29×(25)	153.56	—	—	SB-07
P-393	28×36	153.71		—		2P-68	80×57	153.57	—	—	
P-394	54×(28)	153.66		—		2P-69	52×46	153.50	—	土器片	SB-11
P-395	42×(18)	154.12		—		2P-70	64×(34)	153.58	—	—	SB-11
P-396	42×(36)	154.13		—		2P-71	54×(23)	153.64	—	—	SB-11
P-397	62×(24)	154.02		—		2P-72	45×35	153.71	—	—	
P-398	14×22	153.78		—		2P-73	60×38	153.67	—	—	
P-399	55×(24)	154.00		—	SB-07	2P-74	56×46	153.69	—	—	
P-400	58×68	154.38	△	土器片		2P-75	69×54	153.70	—	土器片(弥生)	
P-401	38×?	154.11		—		2P-76	36×35	153.28	○	土器片(弥生) 他	
P-402	68×68	153.79		高台付杯 他		2P-77	45×38	153.70	—	—	
P-403	40×(30)	153.78		土器片		2P-79	46×42	153.73	—	—	SB-05
P-404	28×28	153.73		皿 他		2P-80	54×(20)	153.77	—	製塩土器 他	
P-405	52×(28)	153.56	△	土器片	SB-07	2P-81	47×39	153.28	—	—	
P-406	48×52	153.53		蓋 他		2P-82	34×33	153.57	—	—	
P-407	68×(68)	153.47		—		2P-84	47×(32)	153.71	—	土器片	
P-408	25×30	154.83		—		2P-85	50×45	153.73	—	—	
P-409	30×28	153.78		—	SB-05	2P-86	59×57	153.67	—	—	
P-410	30×24	153.99		—		2P-87	52×40	153.69	—	—	
2P-02	58×48	154.37		—		2P-88	51×41	153.70	—	—	

Pit名	径(cm)	底部高(m)	柱痕跡	出土遺物	その他	Pit名	径(cm)	底部高(m)	柱痕跡	出土遺物	その他
2P-089	45×36	153.69		—		2P-168	36×34	153.88		—	
2P-090	39×29	153.36		—		2P-169	40×34	154.00		—	
2P-091	42×39	153.40		—		2P-170	21×21	153.82	△	—	
2P-092	27×20	153.56		—		2P-171	57×44	153.80	○	—	
2P-093	38×32	153.58		—		2P-172	45×(35)	153.73		—	
2P-094	32×(32)	153.50		—		2P-173	26×(16)	153.98		—	
2P-095	37×(26)	153.74		—		2P-174	40×27	153.72		—	
2P-096	30×20	153.66		—		2P-175	37×32	153.85		—	
2P-097	43×39	153.73		土器片		2P-176	25×19	154.01		—	SB-09
2P-098	32×22	153.71		—		2P-177	30×25	153.95		—	
2P-099	46×30	153.30		—		2P-178	24×20	154.02		—	
2P-100	58×45	153.29		—	SB-11	2P-179	50×45	154.17	△	—	
2P-101	49×45	153.20	○	—		2P-180	45×(20)	154.05		—	SI-02
2P-102	84×76	153.44		土器片		2P-181	40×(35)	154.16		—	
2P-103	32×24	153.54		—		2P-182	34×33	154.27		—	
2P-104	29×18	153.53		—		2P-183	61×45	153.85	△	—	
2P-105	59×54	153.55		土器片		2P-184	47×(33)	153.90		—	
2P-106	63×(48)	153.34		土器片	SB-08	2P-185	50×(43)	154.00		—	
2P-107	98×(56)	153.45		土器片		2P-186	51×(20)	153.85		—	
2P-108	39×35	153.61		—		2P-187	61×(32)	153.77		—	SB-02
2P-109	59×42	153.43		土器片		2P-188	34×34	153.91		—	SB-09
2P-110	46×(18)	153.47		—	SB-11	2P-189	50×39	153.74		—	
2P-111	38×(30)	153.51		—		2P-190	60×52	153.79		—	SB-02
2P-112	25×(21)	153.55		—		2P-192	36×35	153.88		—	
2P-113	19×(19)	153.66		—		2P-193	60×44	153.68		—	SB-02
2P-114	49×47	153.53		—		2P-194	50×(33)	153.72		土器片	
2P-115	29×26	153.46		—	SB-08	2P-195	50×42	153.59		土器片	
2P-116	21×20	153.31		—		2P-196	54×48	153.51		土器片	SB-02
2P-117	43×37	153.40		—		2P-197	67×(52)	154.11		土器片	
2P-118	45×30	153.45		—	SB-08	2P-199	29×26	153.65	○	—	
2P-119	45×35	153.39		—		2P-200	30×19	153.63		—	
2P-120	32×30	153.44		土器片		2P-201	(48)×43	153.58		—	
2P-121	59×33	153.40		—		2P-202	57×34	153.49		—	SB-02
2P-122	46×43	153.39		土器片		2P-203	35×27	153.55		—	
2P-123	19×19	153.32		—		2P-204	31×(27)	153.45		—	
2P-124	43×37	153.44		—		2P-206	33×32	153.34	○	—	
2P-125	24×24	153.46		—		2P-207	57×45	153.35		—	
2P-126	(24)×19	153.36		—		2P-208	50×44	153.37		—	
2P-127	(38)×(38)	153.40		—		2P-209	75×63	153.33	○	土器片	SB-10
2P-128	34×30	153.39		土器片	SB-08	2P-210	33×31	153.98		—	
2P-129	39×29	153.14		—	SB-08	2P-211	37×35	154.01		—	
2P-130	25×(24)	153.30		土器片		2P-213	23×20	153.94		—	
2P-131	23×22	153.42		—		2P-216	(25)×(30)	153.85		—	
2P-132	36×27	153.35		—		2P-217	53×(42)	153.74		—	
2P-133	24×(20)	153.40		—		2P-219	46×42	153.48	△	—	
2P-134	35×(29)	153.42		土器片	SB-08	2P-220	35×27	153.24		—	SB-07
2P-135	32×(32)	153.19	○	土器片		2P-221	58×50	154.02	△	—	SI-02
2P-136	56×(45)	153.17		—		2P-222	40×38	154.09		—	
2P-137	46×38	153.18		—		2P-223	(28)×25	153.64		—	
2P-138	(38)×30	153.23		—		2P-224	(30)×25	153.56		—	
2P-139	66×33	153.20		—		2P-226	31×26	153.64		—	
2P-140	(24)×24	153.32		土器片		2P-227	68×54	153.18		—	
2P-141	39×39	153.17		土器片		2P-228	55×50	153.75		—	
2P-142	37×(28)	153.36		—		2P-229	55×(28)	153.95		—	
2P-143	27×20	153.31		—		2P-230	112×72	153.71	△	—	
2P-144	32×(30)	153.19		土器片		2P-232	45×(32)	154.03		—	
2P-145	29×21	153.35		—		2P-234	34×30	153.57		—	
2P-146	30×25	153.29		—		2P-235	38×35	153.45	○	—	SB-07
2P-147	26×21	153.28		—		2P-236	46×39	153.31		—	
2P-148	33×29	153.06		—		2P-237	32×(30)	153.59		—	
2P-149	(42)×(38)	153.32		土器片		2P-239	54×40	153.58		—	
2P-150	34×(30)	153.43		—		2P-240	60×40	153.53		—	
2P-152	32×27	154.50		—		2P-241	48×40	153.56		土器片	
2P-153	(48)×(30)	154.57		—		2P-300	42×27	153.48		—	
2P-154	40×30	154.20		—		2P-301	37×32	153.50		—	
2P-155	47×39	154.26		—		2P-302	72×45	153.37		土器片	
2P-156	42×35	154.13		—		2P-303	40×40	153.15		—	SB-11
2P-157	45×37	154.06	○	—		2P-304	32×24	153.45	△	—	SB-08
2P-158	55×50	154.11	○	—	SI-02	2P-305	72×42	153.56		土器片	
2P-159	62×50	154.21	○	—		2P-306	(32)×29	153.53		—	
2P-160	45×34	154.19		—		2P-307	34×(27)	153.65		—	
2P-161	35×32	154.04	○	—		2P-308	30×26	153.52		—	
2P-162	26×22	154.13		—		2P-309	36×(24)	153.27		—	
2P-163	36×30	153.95	○	—	SI-02	2P-310	(45)×43	153.25		—	
2P-164	39×30	154.05		—		2P-311	25×18	153.38		土器片	SB-11
2P-165	50×40	153.95	△	—		2P-312	38×35	153.18		—	
2P-166	(40)×(46)	153.91	△	—	SB-09	2P-313	38×33	153.41		—	
2P-167	(42)×40	153.98		—		2P-314	47×42	153.34		—	

Pit名	径(cm)	底部高(m)	柱痕跡	出土遺物	その他	Pit名	径(cm)	底部高(m)	柱痕跡	出土遺物	その他
2P-315	76×65	153.04		土器片		2P-394	52×45	153.17			
2P-316	27×25	153.19		土器片		2P-395	42×31	153.09			SB-12
2P-317	25×21	153.30		—		2P-396	30×25	153.08	△		SB-12
2P-318	72×52	153.21		—		2P-397	35×25	153.20			
2P-319	39×(28)	153.20		土器片		2P-398	32×20	153.22		土器片(縄文)	
2P-320	47×(28)	153.15		—		2P-399	32×32	152.97		—	
2P-321	61×(43)	153.15		—		2P-400	(24)×22	153.10		土器片	
2P-322	42×32	153.09		土器片	SB-11	2P-401	(44)×44	153.25		—	
2P-323	28×(24)	153.26		土器片		2P-402	34×28	153.15		—	
2P-324	79×47	153.18		—		2P-403	36×33	153.19		土器片	
2P-325	53×49	153.40		土器片(赤彩有)	SB-11	2P-404	35×33	153.20		—	SB-12
2P-326	(31)×27	153.44		—		2P-405	(67)×55	153.20		—	
2P-327	59×47	153.48		土器片		2P-406	32×(28)	153.28		土器片	SB-12
2P-328	58×45	153.19		—		2P-407	32×28	152.96		—	
2P-329	36×33	153.44	△	—		2P-408	32×30	153.22		土器片	
2P-330	36×32	153.38		土器片(弥生)		2P-410	(41)×32	153.14		—	
2P-331	25×(24)	153.42		—	SB-08	2P-411	29×25	153.16		—	
2P-332	43×33	153.16		—		2P-412	27×27	153.19		—	
2P-333	36×31	153.10		—		2P-413	36×(27)	153.10		—	SB-12
2P-334	45×40	153.35		—		2P-414	29×(16)	153.24		—	
2P-336	(34)×30	153.39		—	SB-08	2P-415	28×26	153.23		—	
2P-337	54×(42)	153.26		土器片		2P-416	46×42	153.13		—	
2P-338	87×52	152.99		—		2P-417	39×32	153.18	○	—	
2P-339	33×30	153.41	○	土器片	SB-11	2P-418	34×30	153.10		—	
2P-340	32×26	153.52		—		2P-419	40×35	153.14		—	
2P-341	35×35	153.52		—		2P-420	35×32	153.08		—	
2P-342	40×40	153.45		—		2P-421	36×32	153.08		—	
2P-343	100×46	153.25		—		2P-422	27×22	153.21		—	
2P-344	90×53	153.49	○	土器片	SB-11	2P-423	35×33	153.12		—	
2P-345	46×38	153.49		土器片		2P-424	26×23	153.09		—	
2P-346	(46)×29	153.57	△	—	SB-11	2P-425	25×20	153.13		—	
2P-347	82×66	153.57		—		2P-426	48×(22)	153.18		—	
2P-348	32×24	153.47		—		2P-427	31×20	152.93		—	
2P-349	39×31	153.39		—		2P-428	37×36	153.11		—	
2P-350	68×47	153.54	○	—		2P-429	31×31	153.05		—	
2P-351	32×31	153.26		—		2P-430	26×21	153.03		—	
2P-352	42×35	153.36		—	SB-13	2P-431	27×(23)	153.25		—	
2P-353	39×33	153.24		—	SB-13	2P-432	(15)×(12)	153.19		—	
2P-354	65×(47)	153.28		—	SB-13	2P-433	64×(53)	153.11		—	
2P-355	36×35	153.10		土器片	SB-10	2P-434	(66)×44	153.31		—	
2P-356	50×46	153.29	○	土器片	SB-13	2P-435	47×29	153.07		—	
2P-357	50×40	153.07		—	SB-10	2P-436	40×(27)	153.24		—	
2P-358	45×35	153.16		—	SB-13	2P-437	44×(26)	153.51		土器片	
2P-359	80×67	153.22		—	SB-12	2P-438	(86)×56	153.40		土器片	
2P-360	42×34	153.19		土器片	SB-10	2P-439	57×(27)	153.26		杯 他	
2P-361	27×26	153.38		—	SB-12	2P-440	(18)×(16)	153.41		—	
2P-362	50×(26)	153.33		—	SB-13	2P-441	42×(23)	153.15		—	
2P-363	38×34	153.25		—	SB-10	2P-442	(29)×(14)	152.88		土器片	
2P-364	37×(25)	153.30	△	—	SB-13	2P-443	71×(33)	153.17		土器片	
2P-365	55×51	153.22		土器片		2P-444	(22)×(15)	153.15	△	—	SB-10
2P-366	42×39	153.35		—	SB-10	2P-445	(32)×32	153.19		—	
2P-367	60×52	153.20		—		2P-446	53×(25)	153.80		—	
2P-368	37×33	153.38		土器片	SB-10	2P-447	33×24	153.65		—	
2P-369	60×58	153.21		—		2P-448	24×(19)	153.80		—	
2P-370	59×57	153.48		—	SB-10	2P-449	38×(23)	153.62		—	
2P-371	46×33	153.31		—	SB-10	2P-450	68×(44)	153.16		—	
2P-372	47×37	153.45		—		2P-451	41×35	153.36	△	土器片	
2P-373	44×40	153.57		—		2P-452	32×27	153.53		蓋	
2P-374	66×58	153.27		土器片		2P-453	67×44	153.05		土器片	
2P-375	32×30	153.54	○	—	SB-10	2P-454	30×(25)	153.22		—	SB-13
2P-376	35×26	153.63		—		2P-455	36×38	153.06		—	
2P-377	58×(40)	153.50		—		2P-456	40×32	153.19		—	
2P-378	38×(30)	153.53		—		2P-457	31×(29)	153.21		—	
2P-379	25×22	153.54		—		2P-458	56×29	153.41		—	
2P-380	37×34	153.52		—		2P-459	30×28	152.90		—	
2P-381	33×30	153.29		—		2P-460	32×21	153.04		—	
2P-382	30×30	153.33		—		2P-461	62×62	153.35		—	SB-12
2P-383	33×25	153.31		—		2P-462	69×65	153.33	○	—	
2P-384	29×25	153.32		土器片		2P-463	50×37	153.50	△	土器片	SB-11
2P-385	30×26	153.32		—		2P-464	45×36	153.40		—	
2P-386	24×21	153.33		—		2P-465	21×19	153.05		—	
2P-387	30×22	153.32		—		2P-466	40×35	153.19		—	
2P-388	24×20	153.33		—		2P-467	56×52	153.19		—	SB-08
2P-389	27×20	153.30		—		VP-01	25×25	155.22		—	
2P-390	25×(20)	153.14		—		VP-02	42×(30)	154.59		土器片	
2P-391	28×20	153.17		—		VP-03	28×28	154.63		—	
2P-392	27×23	153.22		—		VP-04	20×(20)	154.11		—	
2P-393	29×23	153.32		—							

第2節 大井家ノ下モ遺跡の調査

大井家ノ下モ遺跡は佐治町上大井集落の約100m東側に位置し、佐治川の左岸に形成された標高136m前後の段丘上に立地している。周辺には金鑄原遺跡、大井1号墳～3号墳、大井聖坂遺跡、大井経塚や、佐治川を挟んだ対岸の丘陵裾部には古市上山根遺跡、屋敷遺跡、貝尻遺跡などが知られており佐治町の中にあっても古代の足跡が多く残る遺跡の集中地域となっている。

大井家ノ下モ遺跡の存在は、大井橋詰・家ノ下モ地区の県営佐治地区ほ場整備事業に伴い実施された試掘調査によってピットや多量の土器が検出されたことから明らかになった。この試掘結果を受け、平成10年度には本格的な発掘調査が行われ、倉庫跡、柵列跡などの遺構とともに墨書土器、石鍋や100点を越える輸入陶磁器類が出土し、県内でもまれな中世遺跡であることが判明した。

今回の発掘調査は道路改良工事に伴い実施したものである。調査対象地は平成10年度に行ったE調査区の南側隣接地に当たる。現地調査は平成16年7月に実施され、ピット19、土器230点あまりが出土した。調査面積は121㎡である。

1. 調査地の層序(第73図 図版21)

調査地は海拔標高136.4～137mあまりを測り、東から西側に緩やかに傾斜している。調査区東側には1mを超える石材を含め多数の石が散乱しており丘陵谷筋から流入した様相を呈している。

表土厚は20～40cmである。表土下には砂礫混じりの土砂が小単位で堆積しているが、調査地中央から西側では黒色土(第5層)や黒褐色土(第17層)の面的な堆積が認められる。この黒色土系の土層には土器が包蔵されており、今回出土した遺物の大部分がこの層から検出された。地山は表土下40～60cm、標高136m前後で確認された花崗岩風化土の真砂土である。

2. 遺構と出土遺物(第74・75図 図版21・22)

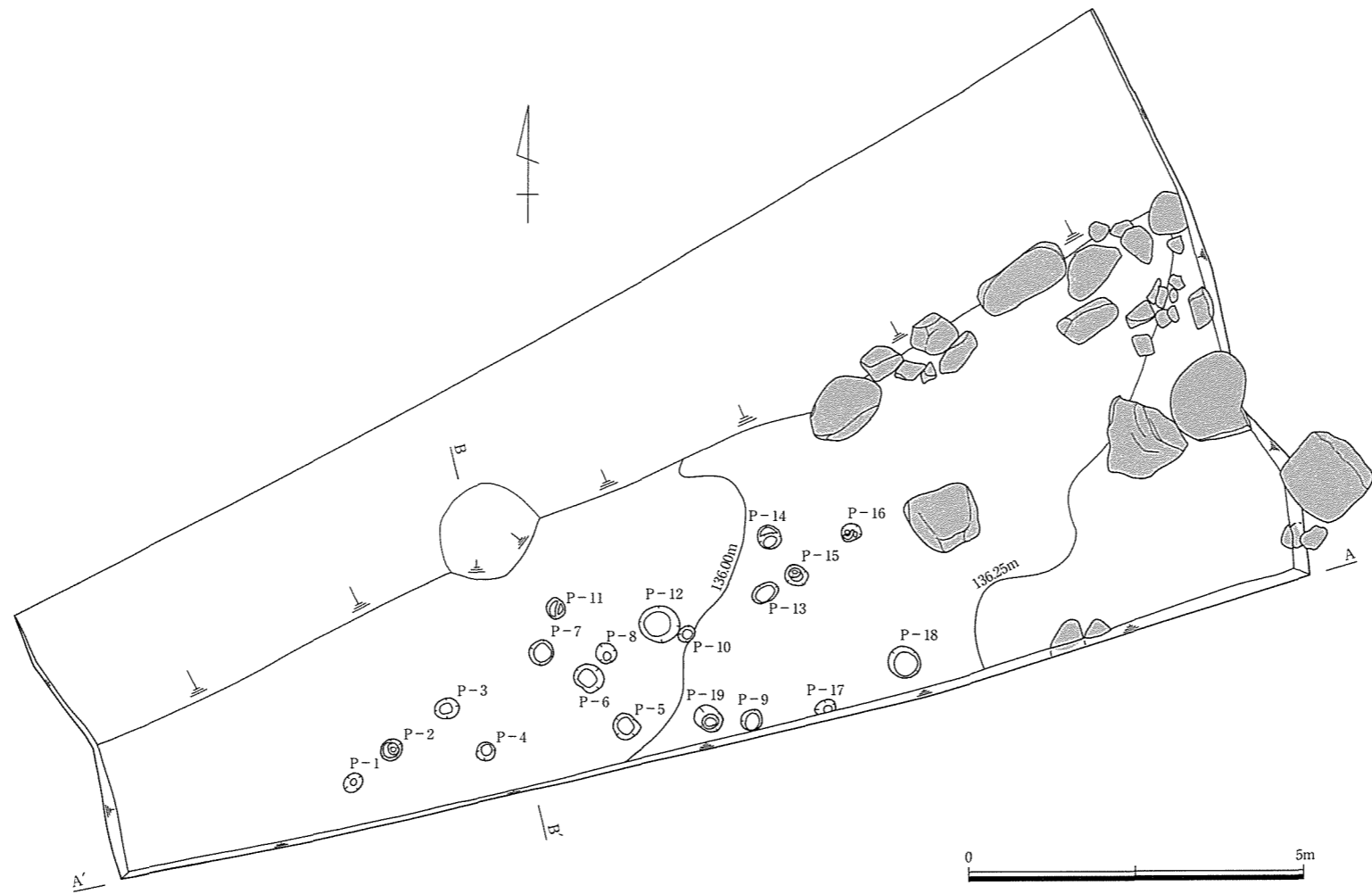
ピット19基(P-1～P-19)を検出した。ピットは調査区の中央部から西側に集中し、いずれも地山をしっかりと掘り込んだピットである。直径は23～62cmを測り、規模的には直径40cm未満のものが主体である。深さは12～47cmを測る。ピット配置にはおおむね南西から北東方向の流れがうかがわれるが、掘立柱建物を特定することはできなかった。

土器230点あまりが出土した。このうち遺構に伴う遺物は3点を数え、P-1から土鍋片1、P-2からほぼ完形の土師器皿(第75図1)、P-18から羽釜片1点が検出された。いずれも埋土中から出土しているが、P-2から出土した皿はピット中位にあり、口縁部を上に向けた状態で出土した。出土状況からは意図的に置かれた様子がうかがわれる。

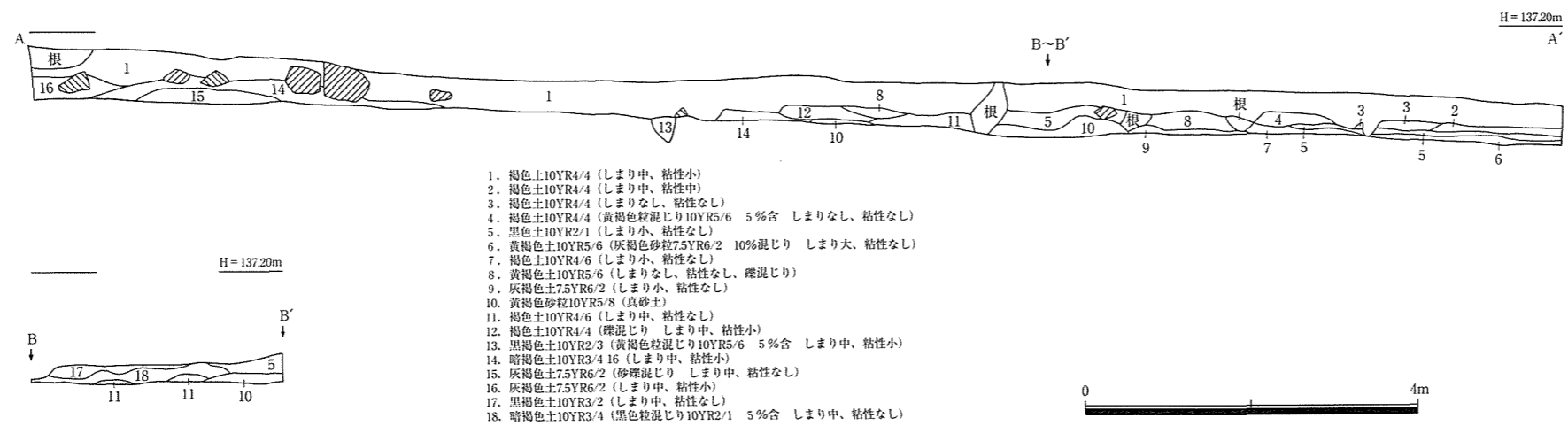
遺構外からは土師器杯(2)、瓦質鍋(3～6)、瓦質羽釜(7～10)、龍泉窯系の青磁碗(11)、外面に格子叩き目の陶器体部片(12)のほか須恵器甕体部片、杯片などが出土した。残存状態は全体に悪く小片であるが、量的には土鍋、羽釜の割合が極めて高い特徴が見られる。

大井家ノ下モ遺跡ピット一覧表

Pit名	径(cm)	底部高(m)	深さ(cm)	出土遺物	その他	Pit名	径(cm)	底部高(m)	深さ(cm)	出土遺物	その他
P-1	27×23	135.59	28	土鍋片		P-11	30×28	135.63	24	—	
P-2	34×30	135.39	47	土師皿		P-12	62×53	135.64	26	—	
P-3	35×30	135.53	32	—		P-13	36×24	135.99	12	—	
P-4	25×24	135.43	41	—		P-14	36×33	135.75	28	—	
P-5	38×34	135.66	32	—		P-15	35×32	135.67	45	—	
P-6	44×37	135.61	29	—		P-16	31×26	135.75	37	—	
P-7	37×32	135.60	20	—		P-17	38×(—)	135.81	32	—	
P-8	30×27	135.54	33	—		P-18	46×38	135.94	25	羽釜片	
P-9	27×26	135.89	19	—		P-19	42×37	135.61	46	—	
P-10	23×20	135.63	28	—							



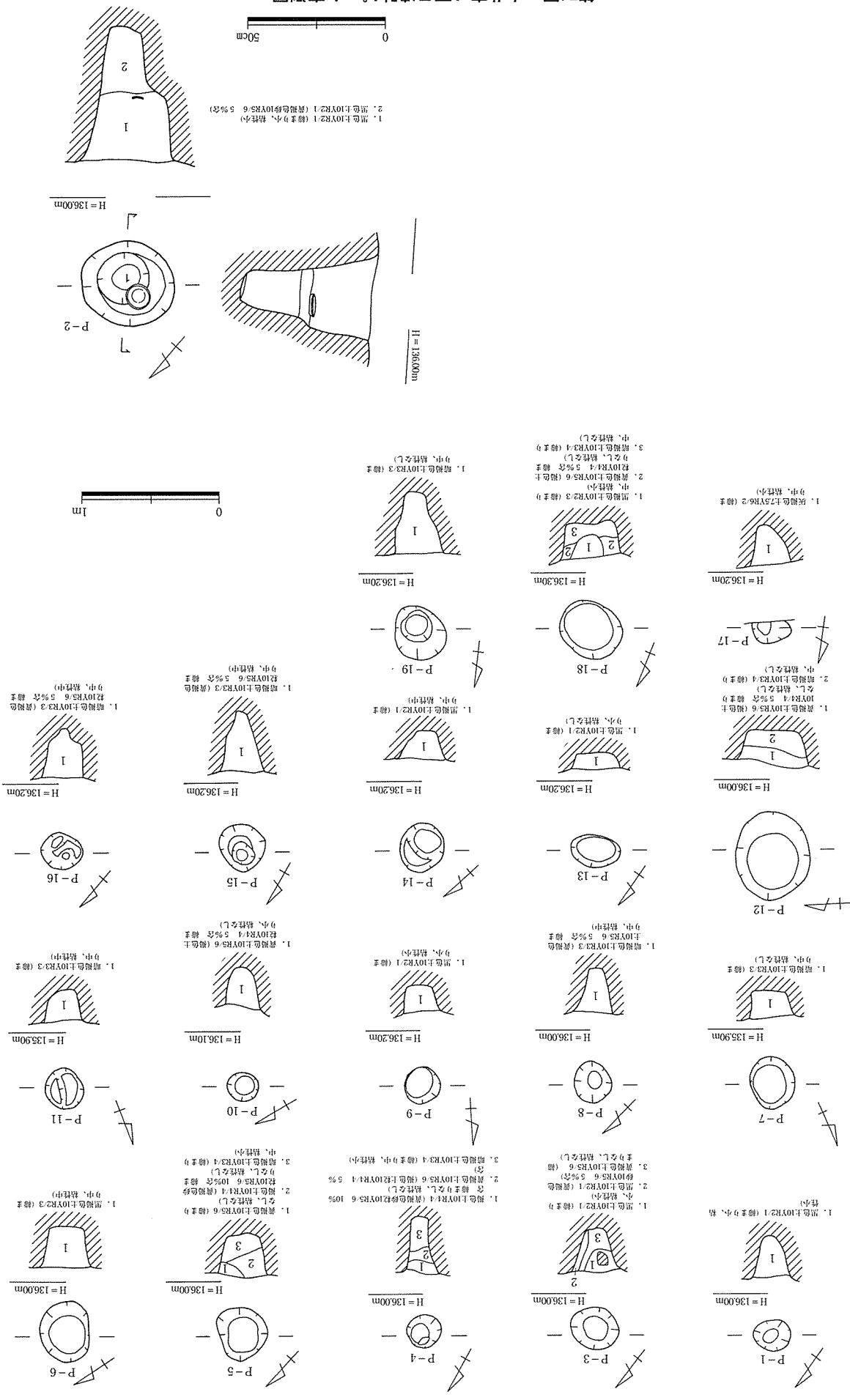
第72図 大井家ノ下モ遺跡調査区全体図 (S = 1 : 100)



1. 褐色土10YR4/4 (しまり中、粘性小)
2. 褐色土10YR4/4 (しまり中、粘性中)
3. 褐色土10YR4/4 (しまりなし、粘性なし)
4. 褐色土10YR4/4 (黄褐色粘混じり10YR5/6 5%含 しまりなし、粘性なし)
5. 黒色土10YR2/1 (しまり小、粘性なし)
6. 黄褐色土10YR5/6 (灰褐色砂粒7.5YR6/2 10%混じり しまり大、粘性なし)
7. 褐色土10YR4/6 (しまり小、粘性なし)
8. 黄褐色土10YR5/6 (しまりなし、粘性なし、礫混じり)
9. 灰褐色土7.5YR6/2 (しまり小、粘性なし)
10. 黄褐色砂粒10YR5/8 (真砂土)
11. 褐色土10YR4/6 (しまり中、粘性なし)
12. 褐色土10YR4/4 (礫混じり しまり中、粘性小)
13. 黒褐色土10YR2/3 (黄褐色粘混じり10YR5/6 5%含 しまり中、粘性小)
14. 暗褐色土10YR3/4 16 (しまり中、粘性小)
15. 灰褐色土7.5YR6/2 (砂礫混じり しまり中、粘性なし)
16. 灰褐色土7.5YR6/2 (しまり中、粘性小)
17. 黒褐色土10YR3/2 (しまり中、粘性なし)
18. 暗褐色土10YR3/4 (黒色粘混じり10YR2/1 5%含 しまり中、粘性なし)

第73図 大井家ノ下モ遺跡調査区断面図 (S = 1 : 80)

第74図 大井家ノ下毛遺跡ピット実測図



1. 黄褐色土10YR5/6 (總まり中、粘粒小)
 2. 暗褐色土10YR3/4 (總まり中、粘粒中)

1. 黒色土10YR2/1 (總まり中、粘粒小)
 2. 黄褐色土10YR5/6 (總まり中、粘粒中)
 3. 暗褐色土10YR3/4 (總まり中、粘粒中)

1. 暗褐色土10YR3/3 (總まり中、粘粒中)

1. 黄褐色土10YR5/6 (總まり中、粘粒中)
 2. 暗褐色土10YR3/4 (總まり中、粘粒中)

1. 黒色土10YR2/1 (總まり中、粘粒小)

1. 黄褐色土10YR5/6 (總まり中、粘粒中)

1. 暗褐色土10YR3/3 (黄褐色土10YR5/6 5%含 總まり中、粘粒中)

1. 暗褐色土10YR3/3 (黄褐色土10YR5/6 5%含 總まり中、粘粒中)

1. 暗褐色土10YR3/3 (總まり中、粘粒中)

1. 暗褐色土10YR3/3 (黄褐色土10YR5/6 5%含 總まり中、粘粒中)

1. 黒色土10YR2/1 (總まり中、粘粒小)

1. 黄褐色土10YR5/6 (黄褐色土10YR3/4 5%含 總まり中、粘粒中)

1. 暗褐色土10YR3/3 (總まり中、粘粒中)

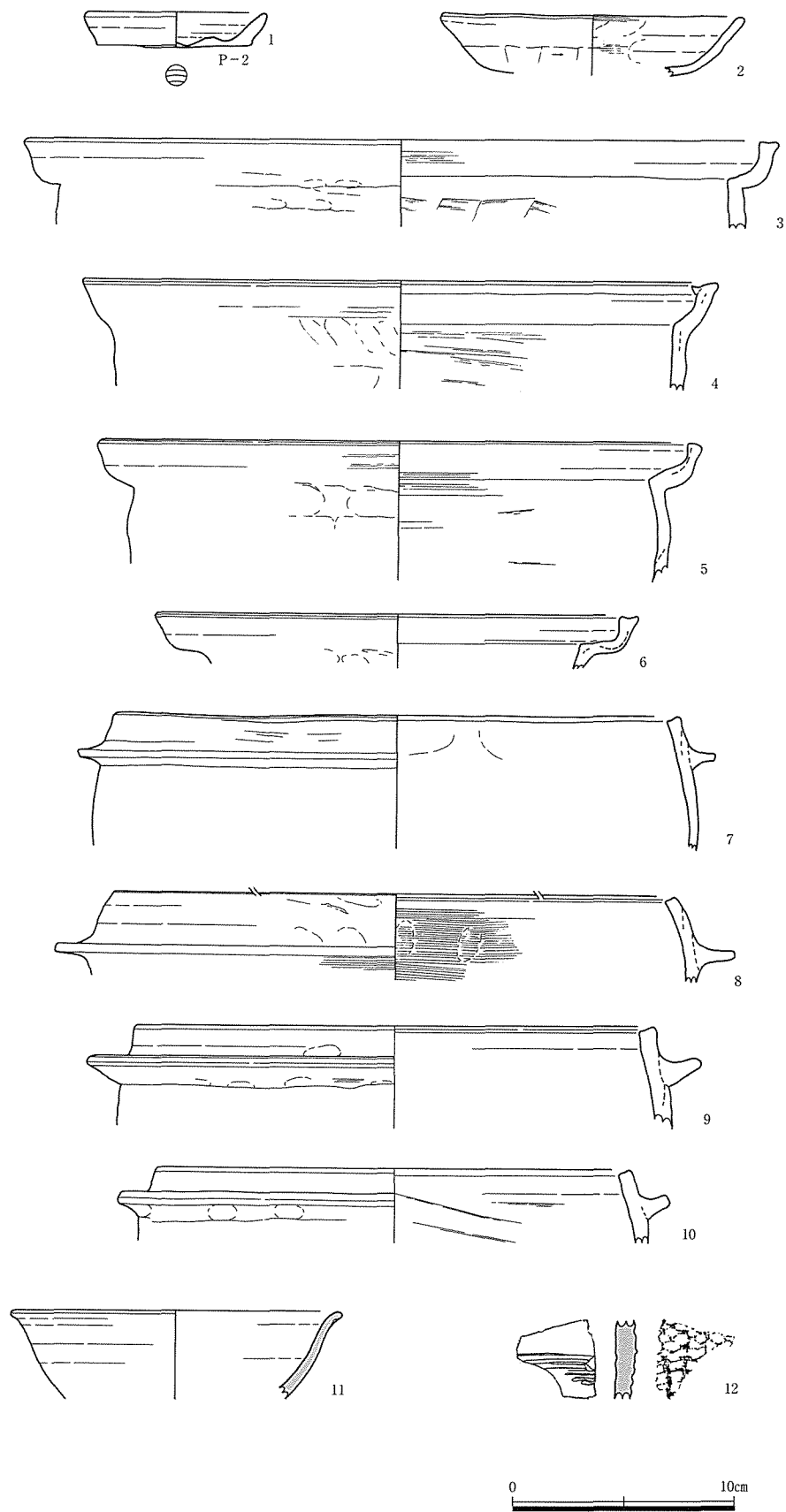
1. 黒色土10YR2/1 (總まり中、粘粒小)

1. 黒色土10YR2/1 (總まり中、粘粒小)
 2. 黄褐色土10YR5/6 (總まり中、粘粒中)
 3. 暗褐色土10YR3/4 (總まり中、粘粒中)

1. 暗褐色土10YR3/4 (總まり中、粘粒中)
 2. 黄褐色土10YR5/6 (總まり中、粘粒中)
 3. 暗褐色土10YR3/4 (總まり中、粘粒中)

1. 黄褐色土10YR5/6 (總まり中、粘粒小)
 2. 暗褐色土10YR3/4 (總まり中、粘粒中)
 3. 暗褐色土10YR3/4 (總まり中、粘粒中)

1. 黄褐色土10YR5/6 (總まり中、粘粒中)




第75図 大井家ノ下毛遺跡出土遺物実測図(S=1:3)

大井聖坂遺跡・大井家ノ下モ遺跡出土遺物観察表

大井聖坂遺跡

法量()は復元値、< > は7分の1以下を推定値

遺構名	挿入番号	器種	法量(cm) ①口径 ②底径 ③最大胴径 ④器高	形態・手法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色	残存状況	備考	遺物登録番号
IV区 SB-06 P-357	第16図 1	須恵器 蓋	① (14.8)	口縁部は屈曲して下方に短く納め、外端部に凹みをもつ。 (外)口縁外端部1条の沈線後ヨコナデ。 (内)天井部ナデ。天井部ヘラケズリ後周縁部ナデ。	①1.5mm以下の砂粒を含む 5mm大の砂礫有 ②良好 ③灰色、灰白色	(口) 1/4 (天) 1/4		376
IV区 SB-07 P-198	第18図 1	緑釉陶器 皿	① (13.6) ② 6.4 ④ 2.8	削り出し高台。 (外)底部糸切り後高台部削り出し。畳付無軸。	①精緻 ②硬質 ③(断)灰白色(釉)淡緑色	(口) 1/5 (底) ほぼ1	9 C後半	33 47 223
IV区 SB-07 P-198	第18図 2	土 錘	L: 5.8 W: 1.8 T: 1.9	指成形後ナデ。	①1mm以下の砂粒を多く含む ②良好 ③褐色	ほぼ1		223
IV区 SB-09 P-132	第21図 1	灰釉陶器 (高台部)	② (7.1)	貼り付け高台。 (外)高台内ナデ、無軸。 (内)底部蛇の目割削ぎ。	①精緻 5mm大の砂礫有 ②軟質 ③(断・露)にぶい黄褐色 (釉)明オリープ灰色	(底) 1/5	転用硯? 捺り痕	127
IV区 SI-01	第28図 1	土 師 器 蓋	① (20.2)	天井部から緩やかに口縁部へ下り、端部は僅かに内傾する。 (外)ヘラミガキ。 (内)口縁部放射状暗文、天井部連続螺旋文を施す。	①1mm以下の砂粒を含む ②良好 ③淡橙褐色	(口) 1/4	暗文二段 赤彩	80 83
IV区 SI-01	第28図 2	土 師 器 杯	① (14.3) ② 8.7 ④ 4.15	体部は内湾気味に口縁部に続き端部は先細る。 (外)体部横位、底部不定方向のヘラミガキ。 (内)口縁部放射状暗文、底部連続螺旋文を施す。	①1mm以下の砂粒を多く含む 3mm大の砂礫有 ②やや不良 ③褐色	(口) 1/6 (底) 1	暗文二段	1
IV区 SI-01	第28図 3	土 師 器 甕	① (17.8) ③ (17.6)	口縁部は外反、端部は丸い。 (外)体部ハケ目。 (内)口頸部ナデ、体部ヘラケズリ後ナデ。	①1~2mmの砂粒を含む 3~5mm大の砂礫有 ②やや不良 ③淡褐色、一部褐色	(口) 1/5 (肩) 1/7 (体) 1/6	煤付着 黒斑有 炭化物付着	41 81
IV区 SI-01	第28図 4	土 師 器 甕	① <20.7>	(外)体部ハケ目後頸部ヨコナデ。 (内)頸部ナデ、体部丁寧なヘラケズリ。	①1~2mmの砂粒を多く含む 3~5mm大の砂礫有 ②良好 ③淡橙褐色	(口) 1/12 (肩) 1/7 (体) 1/10		9
IV区 SI-01	第28図 5	土 師 器 甕	① (20.8)	口縁部くの字状。口縁部は外反、端部で僅かに面をもつ。 (外)体部ハケ目後頸部ヨコナデ。 (内)頸部ナデ、体部ヘラケズリ。	①0.5~1mmの砂粒を多く含む ②良好 ③淡褐色、淡橙色	(口) 1/4	煤付着 黒斑有 二次焼成	28 83 89
IV区 SI-01	第28図 6	土 師 器 甕	① (21.2)	口縁部は外傾、端部は外反して丸い。 (外)口頸部以下ハケ目。後口縁部上半ヨコナデ。 (内)体部ヘラケズリ。	①0.5~1mmの砂粒を多く含む ②良好 ③淡褐色	(口) 2/5	黒斑有	30 82
IV区 SI-01	第28図 7	土 師 器 甕	① (23.8) ③ (24.9)	口縁部は外反、端部は先細る。 (外)頸部以下ハケ目、後ナデ。後最大胴径位に同一工具状の斜位ハケ目。一部ヘラミガキ。 (内)口縁部ハケ目後ヨコナデ。頸部ナデ。体部ヘラケズリ。	①1~2mmの砂粒を多く含む 4~5mm大の砂礫有 ②良好 ③(外)にぶい褐色 (内)淡橙褐色、一部暗褐色	(口) 1/4 (体) 1/4	煤付着	54 56 57 80 91
IV区 SI-01	第28図 8	土 師 器 甕	① (20.8)	くの字状。口縁部は外傾、端部で細る。 (外)ハケ目後口縁部ナデ。 (内)口縁部ハケ目、頸部ナデ、以下丁寧なヘラケズリ。	①0.5mm以下の砂粒を多く含む ②良好 ③淡橙褐色	(口) 1/3	煤付着	4、6 83 85
IV区 SI-01	第28図 9	土 師 器 甕	① 21.7	くの字状。口縁部は外反、端部は丸い。 (外)ハケ目後口縁部ヨコナデ。成形時の圧痕。 (内)口縁部ハケ目、体部ヘラケズリ後上位ナデ。	①1mm以下の砂粒を多く含む ②良好 ③にぶい黄褐色	(口) 1	煤付着	137
IV区 SI-01	第28図 10	土 師 器 甕	① 28.4 ④ <24.0>	くの字状。口縁部は外傾、端部は丸い。 (外)体部ハケ目、後口縁部ヨコナデ。 (内)体部ヘラケズリ。	①1mm以下の砂粒を多く含む ②やや不良 ③にぶい黄褐色 (外)にぶい黄褐色	(口) 1 (体) 一部	煤付着	12.48 67.74 88.94
IV区 SI-01	第28図 11	土 師 器 甕	① (27.7)	くの字状。口縁部は外反、端部は丸い。 (外)体部ハケ目後口縁部ナデ。成形時の圧痕。 (内)口縁部ハケ目。体部丁寧なヘラケズリ。	①1mm前後の砂粒を多く含む ②良好 ③淡橙褐色	(口) 1/4 (肩) 一部	煤付着	32 50
IV区 SI-01	第28図 12	手 捏 器 土	① <7.9>	(内外)手捏ね成形後ナデ。後口縁部ヨコナデ。	①1mm以下の砂粒を多く含む 2~3mmの砂礫有 ②良 ③にぶい黄褐色、暗褐色	(口) 1/8 (体) 2/3		57 80 91
IV区 SI-01	第28図 13	甕 (口縁部)	① (29.35)	内傾する口縁部の端部は丸い。 (内外)ハケ目後口縁部ヨコナデ。 (内)体部ヘラケズリ。	①1mm以下の砂粒を多く含む ②良 ③にぶい褐色	(口) 1/6		40
IV区 SI-01	第29図 14	須恵器 蓋	① (15.8)	平坦な天井部から口縁部へと続き、端部は内方へ屈曲させる。天井部につまみ部剥離痕。 (内外)ヨコナデ。 (外)天井部丁寧なヘラケズリ、後中央つまみ貼付部ナデ。 (内)天井部ナデ。	①2mm以下の砂粒を多く含む 4mm大の砂礫有 ②良 ③灰色、灰黄色	(口) 1/6 (天) 1/3		64
IV区 SI-01	第29図 15	須恵器 杯	① 12.7 ② 7.9 ④ 4.0	体部は内湾気味に口縁部へ続き、ほぼ垂直に立ち上がり端部は丸い。 (内外)ヨコナデ。 (外)底部ヘラケズリ未調整、後周縁部ナデ。底部工具痕。 (内)底部ナデ。	①1mm前後の砂粒を多く含む 8mm大の砂礫有 ②良好 ③灰色	(口) 3/4 (底) 1	口縁部 楕円形	3
IV区 SI-01	第29図 16	須恵器 杯	① <12.3> ② (6.0) ④ 4.15	体部は内湾気味に口縁部へ続き、端部は丸い。 (内外)ヨコナデ。後底部ナデ。	①1.5mm以下の砂粒を多く含む 4mm大の砂礫有 ②良 ③灰色	(口) 1/10 (底) 1/3		21
IV区 SI-01	第29図 17	須恵器 高台付杯	① 14.6 ② 8.35 ④ 4.7	体部は外傾、直線的に口縁部へと続き、端部は丸い。高台部の接地部は内端面寄り。 (内外)ヨコナデ。 (外)底部ナデ。高台部貼付後ナデ。 (内)ナデ。底部成形時の圧痕。	①1mm前後の砂粒を多く含む 3mm大の砂礫有 ②良好 ③(外)灰色、淡灰色 (内)灰色	(口) 3/4 (底) 1		58
IV区 SI-01	第29図 18	須恵器 高台付杯	① (14.0) ② 8.85 ④ 4.25	体部は外反、口縁部は僅かに外反する。高台部の接地部は内端面寄り。 (内外)ヨコナデ。 (外)底部ナデ。高台部貼付後ヨコナデ。 (内)底部ナデ。	①0.5mm以下の砂粒を多く含む 2.5mm大の砂礫有 ②良好 ③灰黄色	(口) 1/6 (底) 1/3		137
IV区 SI-01	第29図 19	須恵器 高台付杯	① 14.2 ② 10.0 ④ 3.45	体部は外反、口縁部でさらに開き端部は丸い。高台部はほぼ平らに接地面をもち僅かに凹面を成す。 (内外)ヨコナデ。 (外)底部ヘラケズリ後丁寧なヘラケズリ、後ナデ。高台部貼付後ヨコナデ。 (内)底部ナデ。	①1mm以下の砂粒を多く含む 3mm大の砂礫有 ②良好 ③淡灰色、一部灰色	(口) 3/5 (底) 1		63

IV区 SI-01	第29図 20	須惠器 高台付鉢	① <15.3>	体部は内湾して口縁部へ続き、端部は垂直に丸く納まる。高台部剥離。	(内外)ヨコナデ。 (外)底部糸切り後ヘラケズリ。後高台部貼付後ヨコナデ。 (内)底部ナデ。	① 1mm前後の砂粒を多く含む 5mm大の砂礫有 ②良好 ③灰色	(口) 一部 (底) 1 (高台) 欠		20 71 83
IV区 SI-01	第29図 21	須惠器 (高台部)	② 10.3	高台部の接地部は内端面寄り。	(内外)ヨコナデ。 (外)中心部粗なナデ、外周部ヘラケズリ。高台部貼付後ヨコナデ。 (内)ナデ。	① 1mm以下の砂粒を含む 2、4mm大の砂礫有 ②良好 ③淡灰色	1/2		10
IV区 SI-01	第29図 22	須惠器 (高台部)	② 8.8	高台部の接地部はほぼ平坦、僅かに凹面をもつ。	(内外)ヨコナデ。 (外)底部ナデ。高台部貼付後ヨコナデ。 (内)ナデ。	① 1mm以下の砂粒を多く含む ②良好 ③淡灰色	(高台) 1	擦り痕	7
IV区 SI-01	第29図 23	須惠器 鉢	① (12.7) ④ 7.65	体部は内湾、口縁部で垂直気味に立ち上がり、端部は丸い。中に2条の沈線。	(内外)ヨコナデ。 (外)底部ヘラ切り後ナデ (内)底部ナデ、成形時の圧痕。	① 1mm以下の砂粒を多く含む ②良好 ③(外)にぶい黄褐色、灰黄色、灰色 (内)灰色、灰黄色	(口) 1/4 (体) 1/2 (底) 1		23 24 26 82
IV区 SI-01	第29図 24	須惠器 (脚部)	② 8.8	大きくラップ状に外反し、端部を下方へ屈曲させ段を成す。	(内外)ヨコナデ。 (外)杯底ナデ。脚柱部上位絞り目痕、下半ナデ。	① 0.5mm以下の砂粒を多く含む 1.5mm大の砂礫有 ②良 ③(外)浅黄色 (内)灰黄色	(脚柱) 1 (脚幅) 3/5		22
IV区 SI-01	第29図 25	須惠器 壺	① (19.2) ③ (29.3)	口縁部は外反、端部に面をもつ。体部は最大胴径を1/3上位にもつ。	(外)体部叩き目後断続的なカキ目。 (内)肩部成形時の工具痕、後ナデ。体部当て工具痕、後ナデ。	① 1mm前後の砂粒を含む 2、3mm大の砂礫有 ②良好 ③灰白色	(口) 1/4 (体) 1/5		8、35 43、44 53、78
IV区 SI-01	第29図 26	須惠器 壺	① (15.0)	口頭部は緩やかに外反、端部で僅かに肥厚、内側に稜を有する。	(外)体部平行叩き目、後カキ目。 (内)体部当て工具痕、後口頭部ヨコナデ。	① 0.5mm以下の砂粒を多く含む 1.5mm大の砂礫有 ②良好 ③灰色	(口) 1/3 (肩) 1/8		71
IV区 SI-01	第29図 27	須惠器 (頭部)		長頸壺？ 緩やかに外反しながら口縁部へ続く。中に1条の沈線。	(内外)ヨコナデ。 (内)頭部下半ヘラケズリ後ナデ、絞り目痕。頭部接合部ナデ。	① 1mm以下の砂粒を多く含む 1.5mm大の砂礫有 ②良好 ③灰色、灰白色	(頭) 1		137
IV区 SI-01	第29図 28	須惠器 甕	① 22.0	緩やかに外反する口頭部は端部までは厚さが均一、僅かに端部を肥厚し、内側に稜を有する。口縁部内面にヘラ記号。	(外)体部平行叩き目後カキ目。 頭部工具痕。 (内)体部当て工具痕。後ナデ。	① 1～2mmの砂粒を含む 4mm大の砂礫有 ②良好 ③灰色、淡灰色	(口) 1 (肩) 3/4	ヘラ記号 「  」	78
IV区 SI-01	第29図 29	須惠器 鉢	① 19.4 ③ (20.9)	体部から口縁部にかけて内湾し、端部で面をもつ。	(内外)ヨコナデ。 (外)口縁部下半ヘラケズリ、後ナデ。 (内)底部ナデ。	① 1mm以下の砂粒を多く含む 2.5～6mm大の砂礫有 ②良好 ③灰色	(口) 1/2 (体) 1/4		2
IV区 SI-01	第30図 30	須惠器 鉢	① (35.1)	内湾する体部は口縁部で外反、端部に面をもつ。	(外)体部平行叩き目後カキ目、一部ナデ。 (内)体部当て工具痕後ナデ。 (内外)成形時の圧痕。	① 2mm以下の砂粒を含む ②良好 ③灰色	(口) 1/3		137
IV区 SI-01	第30図 31	須惠器 (体部)	③ 29.3	丸みをもつ体部は中に最大胴径をもち、その肩は成形時の面取り状となってやや張り気味。	(外)叩き目後断続的なカキ目。後底部ナデ。 (内)肩部ヨコナデ、体部当て工具痕後スリケン調整。	① 3mm以下の砂粒を含む 6mm大の砂礫有 ②やや不良 ③灰色	(体) 1/2 (底) 1/2		5、19 34、55 65、78 83、90 91
IV区 SI-01	第30図 32	須惠器 甌	① 27.5	体部は直線的に外傾して開く。口縁端部は面をもつ。体部中に横方向の把手を貼付、把手付近に3条の浅い沈線がめぐらされる。	(内外)体部指成形後原体不明の丁寧なナデ。 成形時の圧痕。 (外)把手手握ね成形後ナデによる貼付。	① 1mm以下の砂粒を多く含む 2、3mm大の砂礫有 ②やや不良 ③淡灰色、灰色	(口) 1/2 (体) 1/4		37、38 47、80 81、94 165
IV区 SI-01	第30図 33	敲石	L : 15.8 W : 11.85 T : 6.3	長軸方向に2面使用痕。両端部敲打痕。			完存	1,580g	76
IV区 SK-01	第33図 1	須惠器 皿	① 12.3 ② 6.9 ④ 2.3	体部から外傾し口縁部で外反する。	(内外)ヨコナデ。 (外)底部糸切り後周縁部ナデ。 (内)底部ナデ。	① 1mm以下の砂粒を含む 3mm大の砂礫有 ②良好 ③(外)にぶい橙色、灰色 (内)にぶい橙色、灰白色	(口) 3/4 (底) 完存		3 107
IV区 SK-01	第33図 2	須惠器 杯	① (12.4) ② 7.1 ④ 5.3	口縁部は体部から直線的に開く。端部は丸い。	(内外)ヨコナデ。 (外)底部糸切り後整いナデ。	① 2mm以下の砂粒を含む ②良 ③(外)灰色、灰白色 (内)灰白色	(口) 1/4 (底) 完存	黒斑有	3
IV区 SK-01	第33図 3	須惠器 杯	② 7.0		(内外)ヨコナデ。 (外)底部糸切り後周縁部ナデ。	① 1mm前後の砂粒を含む ②良 ③灰白色	(体) 3/5 (底) 3/4	底・内・黒書 「西?」	5
IV区 SK-01	第33図 4	土師器 (口縁部)	① <16.3>	口縁端部を斜めに削り、粗な外端面をもつ。	(内外)指ナデ成形。 (内)丁寧なナデ。	① 1mm前後の砂粒を多く含む。 3mm大の砂礫有 ②良好 ③灰色	(口) 1/12	黒斑有	108
IV区 SK-06	第37図 1	須惠器 皿	① (12.1) ② (6.0) ④ 2.2	体部は外傾、口縁端部で僅かに肥厚する。	(内外)ヨコナデ。 (内)底部ナデ。	① 3～4mm大の砂粒を含む ②不良 ③灰白色 (内)一部暗灰色	(口) 1/5 (底) 1/3	黒斑有	18
IV区 SK-06	第37図 2	須惠器 杯	① (15.5) ② (8.7) ④ 7.1	体部は内湾気味に立ち上がり口縁部は外傾。	(内外)ヨコナデ。 (外)回転を利用したハケ状工具によるナデ。底部糸切り。 (内)底部ナデ。	① 1～2mm大の砂粒を含む ②不良 ③(外)灰白色、一部灰色 (内)灰白色	(口) 1/5 (底) 1/3	煤付着	16 17 18
IV区 SK-06	第37図 3	土 錘	L : 4.85 W : 1.75 T : 1.5	指成形後ナデ。原体不明による螺旋状の沈線。		① 0.5mm以下の砂粒を含む ②良好 ③灰黄褐色、暗灰色	1	煤付着	13
IV区 SK-06	第37図 4	不鉄製品	L : (9.3) W : 2.59 T : 0.38	背面は直線的に對し刃側は徐々に幅を減する。断面二等辺三角形。			(36)g		205
IV区 SK-07	第39図 1	須惠器 皿	① (15.7) ② 7.5 ④ 1.95	体部は外反気味で、口縁端部は丸い。	(内外)ヨコナデ。 (外)底部糸切り後周縁部ナデ。 (内)底部ナデ、圧痕。	① 1mm前後の砂粒を含む 3、4.5mm大の砂礫有 ②やや不良 ③淡灰色	(口) 1/4 (体) 1/4 (底) 1/2		21
IV区 SK-07	第39図 2	須惠器 皿	① (11.5) ② (8.0) ④ 1.95		(内外)ヨコナデ。 (外)底部糸切り。	① 1mm前後の砂粒を含む 2.5mm大の砂礫有 ②良好 ③オリープ灰色	(口) 1/4 (体) 1/4 (底) 1/4		21

IV区 SK-17	第45図 1	瓶形土器	① (35.9) ② 10.85 ④ (61.7)	口縁部から底部に向かって逆円錐状にすぼまる。口縁部は大きく開き、筒部は長く底部径は口径の1/3と小さい。器高の1/3以上左右に環状把手を横位、やや下方に貼付。	(外) 上位ハケ目後口縁部横位ナデ。体部丁寧なハケ目、後ナデ。底部横位ナデ。把手は断面円形で装着部は他の粘土を貼付け補強。 (内) 口縁部ハケ目。以下ヘラケズリ後ナデ。底部部横位ナデ。把手は本体に穴を開けて差込み、粘土の補強なし。粘土継ぎ足し部強いナデ。	① 2～3mmの砂粒を多く含む 4.5mm大の砂礫有 ② 良好 ③ (外) 褐色、暗褐色、橙褐色 (内) 褐色、暗褐色	(口) 1/4 (体) ほぼ1 (把手) 一部欠 (底) 1	煤付着 黒斑有	32 33 34 35 36 37 38 39 40 153 288
IV区 2SK-05	第52図 1	甕	① 10.6 ② (5.0) ③ (15.6) ④ 17.7	口縁部くの字状。体部は中位に最大胴径をとる。	(外) 体部ハケ目後ナデ。後口頸部ヨコナデ。一部工具痕。 (内) 頸部ナデ。体部上半横位、下半縦位ヘラケズリ。	① 1mm前後の砂粒を含む 2mm大の砂粒有 ② 良好 ③ 黄褐色、一部褐色	(口) 1/2 (体) 1/3 (底) 一部	煤付着 黒斑有	3
IV区 2SK-05	第52図 2	瓶形土器 (底部)	② <11.8>	底部に当たる部分より更に絞り込む。器肉は厚い。	(外) ハケ目。 (内) 上位ヘラケズリ、工具によるナデ。底部指ナデ、ナデ。 (内外) 成形時の圧痕。	① 2～3mmの砂粒を含む 7mm大の砂礫有 ② 良好 ③ 橙褐色、一部黄褐色	(底端) 一部	煤付着 黒斑有	4
IV区 (上層) P-67	第59図 1	須恵器 蓋	① 9.8 ② つまみ径 1.6 ④ 3.0	天井部はやや丸みをもち、口縁端部は丸く、かえりは端部より下方へ張り出さない。	(内外) ヨコナデ。 (外) 天井部ヘラケズリ。 (内) つまみ貼付後ナデ。 (内) 天井部ナデ。	① 1mm前後の砂粒を多く含む ② 良好 ③ (外) 灰色 (内) 灰褐色	3/4		63
IV区 (上層) P-199	第59図 2	須恵器 蓋	① (15.2)	天井部は丸みを有し、口縁端部は内方へ僅かに屈曲させる。	(内外) ヨコナデ。 (外) 糸切り後天井部ヘラケズリ、後周縁部ナデ。つまみ部貼付後ナデ。 (つまみ痕確認) (内) 天井部ナデ。	① 1mm前後の砂粒を含む 4mm大の砂礫有 ② 良好 ③ 灰色	(内外) 1/3		225
IV区 (上層) P-406	第59図 3	須恵器 蓋	① (14.6) ② つまみ径 2.0 ④ 2.15	天井部は水平、つまみは扁平。	(内外) ヨコナデ。 (外) 糸切り後周縁部ナデ、つまみ部貼付後ヨコナデ。	① 1mm以下の砂粒を多く含む 4mm大の砂礫有 ② 不良 ③ 灰色、灰白色	(天) 1/2 (口) 1/6 (つまみ) 1		394
IV区 (上層) P-162	第59図 4	須恵器 杯身	① 9.1 ② 2.5	底部は丸みをもち、短い立ち上がりは内傾する。	(内外) ヨコナデ。	① 1mm前後の砂粒を多く含む ② 良好 ③ 灰色	1/2	自然釉	168
IV区 (上層) P-12	第59図 5	須恵器 杯身	① (12.8) ② 7.8 ④ 3.2	体部は外傾、口縁部で外反する。 7は端部が肥厚する。	(内外) ヨコナデ。 (外) 底部糸切り。後周縁部ナデ。 (内) 底部ナデ。	① 0.5mm前後の砂粒を含む 1～2mmの砂粒有 ② 良 ③ 灰白色	(口) 1/3 (底) 2/3	底・外 墨書?	9
IV区 (上層) P-43	第59図 6	須恵器 杯身	① (12.9) ② 5.8 ④ 2.8			① 1mm前後の砂粒を含む ② 良好 ③ 灰白色	(口) 1/5 (底) 1	底・外-墨書 「南」	36
IV区 (上層) P-150	第59図 7	須恵器 杯身	① 13.2 ② 6.6 ④ 3.1		(内外) ヨコナデ。 (外) 成形時の圧痕。	① 1mm前後の砂粒を含む 2～4mm大の砂礫有 ② 良 ③ 灰色、灰白色	(口) 3/4 (底) 1	底・外-墨書 「南」	151 152 153
IV区 (上層) P-380	第59図 8	須恵器 (底部)	② 5.7		(内外) ヨコナデ。 (外) 底部糸切り。 (内) 底部ナデ。	① 1～3mm大の砂粒を含む ② やや不良 ③ 淡褐色	(底) 1/2	底・内-墨書 黒斑有	400
IV区 (上層) P-215	第59図 9	須恵器 (底部)	② <6.0>		(内外) ヨコナデ。 (外) 底部糸切り。	① 0.5mm以下の砂粒を含む 1～2mm大の砂粒有 ② 良好 ③ 淡褐色、オリーブ灰色	(底) 1/8	底・内-墨書 「石」	245
IV区 (上層) P-380	第59図 10	須恵器 杯身	① (12.8) ② 4.8 ④ 3.7	体部は外傾、直線的に口縁部へ続く。	(内外) ヨコナデ。 (外) 体部下半ヘラケズリ、底部ナデ。 (内) 底部ナデ。	① 0.5mm以下の砂粒を含む ② 良好 ③ 灰色、灰白色	(口) 1/5 (底) 1/2		399
IV区 (上層) P-124	第59図 11	須恵器 高台付杯	① 14.3 ② 8.0 ④ 5.4	体部は外傾、直線的に口縁部へ続く。高台部の接地面はほぼ水平。	(内外) ヨコナデ。 (外) 底部糸切り後高台部貼付、後ナデ。 (内) 底部ナデ。工具痕。	① 2mm以下の砂粒を多く含む 4mm大の砂礫有 ② 良好 ③ 灰色	(口) 3/4 (底) 1	煤付着 口縁部歪	117
IV区 (上層) P-52	第59図 12	須恵器 高台付杯	① (13.3) ② 7.8 ④ 4.7	体部は外傾、口縁部は外反する。高台部の接地面はほぼ水平、僅かに凹面をもつ。	(内外) ヨコナデ。 (外) 底部糸切り後高台部貼付、後ナデ。 (内) 底部ナデ。工具痕。	① 2～3mm大の砂粒を含む 5mm大の砂礫有 ② 良好 ③ 灰色	(口) 2/5 (底) 1/2		45
IV区 (上層) P-402	第59図 13	須恵器 高台付杯	① 13.9 ② 6.9 ④ 4.8	体部は外傾、高台部の接地部外端面寄り。	(内外) ヨコナデ。 (外) 底部糸切り後高台部貼付、後ナデ。	① 1mm前後の砂粒を多く含む 5mm大の砂礫有 ② 良好 ③ 灰色	(口) 1/2 (底) 1	口縁部歪	411
IV区 (上層) P-220	第59図 14	須恵器 (底部)	② 8.2		(内外) ヨコナデ。 (外) 底部糸切り後高台部貼付、後ヨコナデ。 (内) 底部ナデ。	① 1mm以下の砂粒を多く含む ② 良好 ③ (外) 灰色 (内) 暗灰色	(底) 1/2	自然釉	253
IV区 (上層) P-341	第59図 15	須恵器 (口縁部)	① (15.4)		(外) 頸部工具痕。 (内) 頸部ナデ。	① 1mm前後の砂粒を多く含む ② 良好 ③ (外) 灰色 (内) 淡灰色	(口) 1/5		359
IV区 (上層) P-232	第59図 16	須恵器 (口縁部)	① <17.8>		(外) 頸部叩き目痕(?)後ヨコナデ。 (内) 頸部ナデ。	① 1mm以下の砂粒を含む ② 良好 ③ 灰色	(口-頸) 1/10		265
IV区 (上層) P-265	第59図 17	須恵器 (口縁部)	① <28.8>	口縁部は外反、端部で下位に肥厚、面をもつ。		① 1mm以下の砂粒を多く含む 3、4mm大の砂礫有 ② 良 ③ 灰色、暗黄褐色	(口) 1/7		299
IV区 (上層) P-215	第60図 18	土師器 杯	① <15.8> ④ <3.8>	体部は外傾、口縁部で僅かに内湾、端部は丸い。	(内外) 底部ナデ、後赤彩。	① 1mm以下の砂粒を含む ② 良 ③ 淡黄褐色	(口) 1/14 (体) 1/8 (底) 1/9	赤彩 P-220	247 253
IV区 (上層) P-208	第60図 19	土師器 杯	① (13.0) ② 6.4 ④ 4.45	体部は外傾、直線的に口縁部へ続く。口縁端部は丸い。	(外) 糸切り後底部軽いナデ。 (内) 底部周囲するナデ。	① 0.5mm以下の砂粒を多く含む ② 良好 ③ 淡褐色、灰褐色	(口) 1/5 (底) 1	煤付着 黒斑有	240
IV区 (上層) P-231	第60図 20	土師器 杯	① (11.7) ② 5.5 ④ 3.75		(外) 糸切り後未調整。	① 0.5mm以下の砂粒を多く含む ② 良好 ③ 浅黄褐色	(口) 1/5 (体) 1/4 (底) 1/2	黒斑有	264
IV区 (上層) P-404	第60図 21	土師器 皿	① <12.9> ② 6.7 ④ 1.6	口縁部は外反して開く。端部は丸い。	(内外) ヨコナデ。 (外) 糸切り。	① 1mm以下の砂粒を多く含む 3mm大の砂礫有 ② 良 ③ にぶい黄褐色(内)一部灰色	(口) 1/7 (底) 1/2	黒斑有	398
IV区 (上層) P-404	第60図 22	土師器 皿	① (7.15) ② 4.3 ④ 1.3	体部は外傾して口縁部へと続き端部は丸い。	(内外) ヨコナデ。 (外) 底部糸切り後ナデ。	① 1mm前後の砂粒を多く含む 3mm大の砂粒有 ② 良好 ③ 褐色	(口) 1/6 (底) 1/2		398

IV区 (上層) P-187	第60図 23	土 師 器	① (22.0) ③ (22.9)	口縁部は外傾して開き 端部は丸い。	(外) 体部ハケ目。下位横位ハケ目。 (内) 口縁部ハケ目。頸部ナデ。 体部原体不明の丁寧なナデ。 (内外) 成形時の指頭圧痕。	① 1mm前後の砂粒を多く含む 2、4mm大の砂粒有 ② やや不良 ③ 淡褐色、乳褐色	(口) 1/4 (体) 1/6	黒斑有 二次焼成	168 208
IV区 (上層) P-254	第60図 24	土 師 器	① (18.2)	口縁部は外反、端部に 僅かに面をもつ。	(外) 口頸部ハケ目。 (内) 口縁部ハケ目、頸部ナデ、以下ヘ ラケズリ。	① 0.5mm前後の砂粒を多く含む 3mm大の砂粒有 ② 良 ③ 淡褐色、淡褐色	1/6	黒斑有	286
IV区 (上層) P-150	第60図 25	土 師 器	① (23.0) ③ <24.4>	口縁部は外傾、端部は 先細る。	(外) 体部ハケ目 (内) 口縁部丁寧なナデ、体部ヘラケズ リ。 (内外) 成形時の指頭圧痕。	① 1mm前後の砂粒を多く含む 4mm大の砂粒有 ② 良好 ③ 淡褐色	(口) 1/4 (体) 1/8		151 152 153
IV区 (上層) P-141	第60図 26	土 師 器	① <27.4>		(外) 体部ハケ目後頸部回転を利用した ナデ。 (内) 口縁部ハケ目、体部ヘラケズリ後 一部ナデ。	① 1mm以下の砂粒を多く含む ② 良好 ③ にぶい黄褐色	(口) 1/10 (頸) 1/5	煤付着	137
IV区 (上層) P-201	第60図 27	土 師 器	① (25.1)	口縁部は外傾、端部に 面をもつ。	(外) 口頸部ハケ目後口縁部ヨコナデ。 (内) ヨコナデハケ目、頸部ナデ、体部ヘ ラケズリ。	① 1mm以下の砂粒を多く含む 3mm大の砂粒有 ② 良 ③ にぶい褐色	(口~肩) 1/4	P-381	228
IV区 (上層) P-127	第60図 28	陶 器 具 (土 上 皿)	① <7.9> ② (3.2) ④ 1.7	底部から外方へ開く。	(外) ヘラケズリ。口縁部のみ施釉。 (内) ヨコナデ後施釉。4条単位の脚描 条線。	① 精緻 ② 硬質 ③ (断) 暗灰色 (釉) オリーブ黄色 (軸) 暗灰色	(口) 1/7 (底) 1/4	在地産?	121
IV区 (上層) P-243	第60図 29	土 錘	L: 5.2 W: 1.8 T: 1.55	指成形後ナデ。 31は紡錘形。		① 0.5mm以下の精緻な胎土 ② 良 ③ 暗灰色、暗灰色	1		273
IV区 (上層) P-265	第60図 30	土 錘	L: 5.05 W: 2.4 T: 2.4			① 1mm以下の砂粒を多く含む ② 良 ③ にぶい黄褐色、暗灰色	1		300
IV区 (上層) P-286	第60図 31	土 錘	L: 6.55 W: 2.5 T: 2.4			① 1mm以下の砂粒を多く含む 2mm大の砂粒有 ② 良 ③ にぶい黄褐色	1		318
IV区 (上層) P-196	第60図 32	不 鉄 裂 品		残存長 約3.2cm。錆化する。断面方形。L字形。				(5)g	220
IV区 (上層) P-264	第61図 33	甕	① 32.9	体部から口縁部へと内 傾し端部は丸みをも つ。 土位焚口部に甕部残 存。	(外) 体部縦ハケ目後口縁部斜位ハケ 目、後ヨコナデ。甕部指成形後ハ ケ目。後焚口部に貼付、甕部に 沿ったナデ。 (内) 体部ハケ目後口縁部ヨコナデ。	① 3mm以下の砂粒を多く含む 6mm大の砂粒有 ② 良 ③ にぶい赤褐色	(口) 3/4 (体) 一部 (焚) 1/2	煤付着 P-162	294 297
IV区 (下層) 2P-452	第62図 1	須 惠 器 蓋	① 12.4 つまみ径 1.5 ④ 2.15	水平に近い天井部はそ の端でカーブを描きそ の端で下方へ屈曲させ 縁を成す。つまみは扁 平で中央がやや突出す る。	(内) ヨコナデ。 (外) 糸切り後つまみ貼付部ナデ。 (内) 天井部ナデ。	① 2~3mmの砂粒を含む ② 良好 ③ 淡灰色	(口) 1/2 (天) 1 (つまみ部) 1		476
IV区 (下層) 2P-439	第62図 2	須 惠 器 杯	① (13.5) ④ 3.35	体部は外傾、口縁部で さらに開き端部は丸 い。	(内) ヨコナデ。底部ナデ。	① 0.5mm以下の砂粒を含む ② 良好 ③ 淡灰色(内)一部淡黄褐色	(口) 1/6 (底) 1/3		136 477
IV区 (下層) 2P-80	第62図 3	製塩土器	① <13.3>	口縁部僅かに内湾、上 端に水平面をもつ。	(内) 外指ナデ、ナデ。	① 0.5mm以下の砂粒を多く含む 2、5~8mm大の砂粒有 ② 良 ③ 褐色	(口) 1/8		427
IV区 遺構外	第63図 1	縄文土器 鉢 (口縁部)		粗製。単純なバケツ形 を呈す。	(外) 糸痕後ナデ調整。 (内) ヘラミガキ。	① 1mm前後の砂粒を多く含む ② やや不良 ③ 暗褐色	一部		66
IV区 遺構外	第63図 2	縄文土器 鉢 (口縁部)			(外) 糸痕後ナデ調整。 (内) ナデ。	① 1mm前後の砂粒を多く含む 3mm大の砂粒有 ② やや不良 ③ 暗褐色	一部		1
IV区 遺構外	第63図 3	縄文土器 鉢 (口縁部)			(外) 指痕、後ナデ調整。 (内) 糸痕後軽いナデ。	① 2mm前後の砂粒を含む 3mm大の砂粒有 ② やや不良 ③ (外) 暗褐色 (内) 明黄褐色	一部		159
IV区 遺構外	第64図 4	(口縁部)	① <16.5>		(外) 肩部ハケ目痕。 (内) 頸部ナデ、以下ヘラケズリ。	① 1mm以下の砂粒を含む 2、3mm大の砂粒有 ② 良 ③ 暗褐色	(口) 1/9 (頸) 1/6	黒斑有	73
IV区 遺構外	第64図 5	(口縁部)	① (18.6)	貝殻腹縁による平行沈 線を2段に施す。肩部 連続刺突文。	(内) 口縁部粗なナデ、体部ヘラケズリ。 後ナデ。	① 1mm前後の砂粒を多く含む 2mm大の砂粒有 ② 良好 ③ 淡黄褐色	(口) 1/3	煤付着	134
IV区 遺構外	第64図 6	甕	① 15.8	貝殻腹縁による多条の 平行沈線。肩部連続刺 突文。	(内) 頸部ナデ。後口縁部ヘラミガキ。 肩部ヘラケズリ後ナデ。	① 1mm前後の砂粒を多く含む 2mm大の砂粒有 ② 良好 ③ 褐色	(口) 1/2	煤付着 炭化物付着 黒斑有	27
IV区 遺構外	第64図 7	(口縁部)	① (15.5)		(外) 口縁部ヘラミガキ。 (内) 口縁部下半ナデ、頸部ヘラケズリ。	① 1~2mmの砂粒を含む 3、4mm大の砂粒有 ② 良好 ③ 淡黄褐色	(口) 1/5	煤付着	88
IV区 遺構外	第64図 8	甕	① <15.2>	多条の平行沈線。	(外) 頸部工具痕。 (内) 口頸部ハケ目。肩部ヘラケズリ後 ナデ。	① 1mm以下の砂粒を多く含む 2mm大の砂粒有 ② 良好 ③ 褐色	(口) 1/8	黒斑有	160
IV区 遺構外	第64図 9	甕	① <14.0>	口縁部は大きく開き、 端部は丸い。	(内外) ヘラミガキ。 (内) 口縁部軽いナデ。	① 1~2mmの砂粒を含む ② 良好 ③ 淡黄褐色	(口) 1/7	煤付着	144
IV区 遺構外	第64図 10	甕	① (13.2) ③ <12.2>		(外) 体部成形時の圧痕。 (内) 口縁部下位ナデ、体部ヘラケズリ。	① 1mm前後の砂粒を含む 3mm大の砂粒有 ② 良好 ③ 褐色	(口) 1/4 (体) 1/8	煤付着 黒斑有	149
IV区 遺構外	第64図 11	(脚部)	② (13.4)	裾部9~10条の平行沈 線後軽いナデ。	(外) ハケ目後ナデ。稜上位横位のナデ。 (内) 上半絞り目後ナデ。下半ヘラケズ リ後裾部横位のナデ。	① 1~2mmの砂粒を多く含む 3、5mm大の砂粒有 ② 良 ③ 淡褐色	(脚部) 1/3		11
IV区 遺構外	第64図 12	須 惠 器 蓋	つまみ径 2.0		(外) 糸切り後ヘラケズリ。つまみ貼付 後ナデ、周縁部ナデ。 (内) ナデ。	① 0.5mm以下の砂粒を多く含む ② 良好 ③ (外) 灰色 (内) 灰オリーブ色	(天) 3/4 (つまみ部) 1	天・内・墨書 「繩」 擦り痕	13 70
IV区 遺構外	第64図 13	須 惠 器 蓋	① <17.6> つまみ径 3.4 ④ 3.2	ほぼ水平な天井部から 口縁部へと続き、端部 は僅かに内傾、丸い。 つまみ部は扁平。	(外) つまみ部貼付後ヨコナデ。 (内) 天井部ナデ。	① 1mm前後の砂粒を含む 2mm大の砂粒有 ② 良好 ③ 淡灰色	(口) 1/12 (天) 1/3 (つまみ部) 1		146

IV区 遺構外	第64図 14	須 惠 器 蓋	① (13.4)	ほぼ水平に近い天井部からその端で大きくカーブを描き、端部で下方へ屈曲させ段をなす。	(外) 糸切り後周縁部ナデ。 (内) 天井部ナデ。	① 1~2mmの砂粒を含む ② 良好 ③ (外) 灰白色 (内) 灰白色、暗灰色	(口) 1/4 (天) 3/4		87
IV区 遺構外	第64図 15	須 惠 器 蓋	① (16.5) ② つまみ径 2.8 ④ 3.2	ほぼ水平な天井部から直線的に口縁部へ続き、端部で外下方へ屈曲、段をなす。	(外) 糸切り後周縁部ナデ。つまみ部貼付後ヨコナデ。	① 0.5mm前後の砂粒を含む 2mm大の砂粒有 ② 良好 ③ 灰色	(口) 1/4 (天) 1/4 (つまみ部) 1	転用視? 捺り痕	157
IV区 遺構外	第64図 16	須 惠 器 蓋	① 9.2 ④ 2.8	丸い天井部から内湾気味に口縁部へ続き、端部は丸い。	(外) ヘラ切り後軽いナデ。	① 0.5mm前後の砂粒を含む 2.4mm大の砂粒有 ② 良好 ③ 灰色、暗灰色	(口) 4/5 (天) 1	口縁楕円形 自然釉	79
IV区 遺構外	第64図 17	須 惠 器 (底部)	② (6.8)		(内外) ヨコナデ。 (内) 底部糸切り後周縁部ナデ。	① 1mm以下の砂粒を含む ② やや不良 ③ 淡灰色、灰白色	(底) 1/4	底・外-墨書 「南」	
IV区 遺構外	第64図 18	須 惠 器 杯	① <13.8 ② 8.9 ④ 2.3	体部は底部から外傾、口縁部で外反、端部は丸い。	(外) 糸切り後未調整。 (内) 底部ナデ。	① 1mm前後の砂粒を多く含む 2mm大の砂粒有 ② 良 ③ オリーブ灰色	(口) 1/8 (底) 4/5		34
IV区 遺構外	第64図 19	須 惠 器 杯	① (13.9) ② 8.0 ④ 4.25	体部は底部から内湾気味に口縁部へ続き、端部は丸い。	(外) 底部ナデ。	① 1mm以下の砂粒を多く含む 2mm大の砂粒有 ② 良好 ③ 淡灰色	(口) 1/5 (底) 1	口縁部歪	26
IV区 遺構外	第64図 20	須 惠 器 高台付杯	① 15.7 ② 10.0 ④ 4.3	体部は底部から内湾気味に口縁部へ続き、端部は外反、丸い。高台部は接地部が内端面寄り。	(外) 底部ケラズリ後丁寧なナデ。 高台部貼付後ヨコナデ。 (内) 底部ナデ。	① 0.5~1mmの砂粒を多く含む 2.4mm大の砂粒有 ② 良好 ③ 淡灰色	(口) 1/2 (底) 4/5		146
IV区 遺構外	第64図 21	須 惠 器 (杯部)	① <17.8	底部から屈曲した後外反して開き口縁部へ続き、端部は細る。	(外) 体部ヘラケズリ後ナデ。	① 0.5mm以下の砂粒を含む 1.4mm大の砂粒有 ② 良好 ③ 淡灰色	(口) 1/8		73
IV区 遺構外	第64図 22	須 惠 器 蓋	① (20.9)	口縁部は外傾、端部で肥厚、面をもつ。	(外) 肩部叫き目後カキ目。 (内) 頸部ナデ、以下当て工具痕後ヨコナデ。	① 0.5mm前後の砂粒を含む 2mm大の砂粒有 ② 良好 ③ 灰色	(口) 1/6	自然釉	18
IV区 遺構外	第64図 23	須 惠 器 杯	① (9.0)		(外) カキ目後中上位に二条の沈線。底部ヘラケズリ。	① 1~2mmの砂粒を多く含む 3mm大の砂粒有 ② 良好 ③ 淡灰色	(口) 1/4 (体) 1/4	口縁部歪	93
IV区 遺構外	第64図 24	須 惠 器 把手付碗		把手部残存。	(外) 把手貼付以下ヘラケズリ。体部ほぼ中位に一条の沈線。後把手部ナデによる貼付。	① 0.5mm前後の砂粒を含む 3mm大の砂粒有 ② 良好 ③ 灰色	(体) 一部 (把手) 1		33
IV区 遺構外	第65図 25	土 師 器 皿	① <17.9 ② <10.7 ④ 3.0	底部から緩やかに内湾して立ち上がり、口縁部へ続く。端部は僅かに肥厚、内面に後を持つ。	(外) 底部丁寧なナデ。 (内) 口縁部放射状暗文、底部残存部に螺旋状の暗文確認。	① 1mm前後の砂粒を含む ② 良好 ③ 橙色	(口) 1/16 (体) 1/8	暗文二段 赤彩	104
IV区 遺構外	第65図 26	土 師 器 杯	① <16.4	体部は外傾、口縁部の端部は丸い。	(外) 底部丁寧なナデ。 (内) ハケ目痕。	① 1mm前後の砂粒を含む 2mm大の砂粒有 ② 良 ③ 淡橙褐色	(口) 1/8	赤彩	17
IV区 遺構外	第65図 27	土 師 器 皿	① (7.3) ② 4.8 ④ 1.3	体部は底部から外傾、端部は丸い。	(外) 糸切り後周縁部ナデ。 (内) 底部ナデ。	① 1mm前後の砂粒を含む ② 良好 ③ 橙色	(口) 1/3 (底) 1/2	赤彩	123
IV区 遺構外	第65図 28	土 師 器 甕	① (22.1)	体部から上方に伸び、口縁部で屈曲、外反し端部に面をもつ。	(外) ハケ目後口縁部ヨコナデ。 (内) 口縁部ハケ目。頸部ナデ、以下ヘラケズリ。	① 0.5mm前後の砂粒を多く含む 1.2mm大の砂粒有 ② 良好 ③ 淡橙色	(口) 1/5		4
IV区 遺構外	第65図 29	土 師 器 甕	① <20.2		(外) ハケ目後口縁部粗なナデ。 (内) ハケ目。	① 0.5mm前後の砂粒を多く含む ② 良 ③ 淡橙褐色	(口) 1/8 (肩) 1/8		174
IV区 遺構外	第65図 30	土 師 器 甕	① 26.6 ③ 22.5 ④ 18.9	口縁部は外反して開き、端部は丸い。	(外) 体部ハケ目、後底部軽いナデ。成形時の圧痕。 (内) 口縁部ハケ目。頸部ナデ、体部ヘラケズリ後底部丁寧なナデ。	① 1mm前後の砂粒を多く含む 2mm大の砂粒有 ② 良好 ③ 淡褐色	(口) 2/3 (体) 1/2	黒斑有	64 132
IV区 遺構外	第65図 31	土 師 器 甕	① 29.8 ③ 27.5		(外) 体部ハケ目、底部斜位ハケ目。成形時の圧痕。 (内) 口縁部ハケ目。体部丁寧なヘラケズリ。	① 1mm前後の砂粒を多く含む 2mm大の砂粒有 ② 良 ③ 淡橙褐色	(口) 1/2 (体) 1/2	黒斑 炭化物付着 二次焼成	18 40 41
IV区 遺構外	第65図 32	土 師 器 (口縁部)	① <16.8	口縁端部を削り、粗な外端部をもつ。	(内外) ナデ、指ナデ成形。	① 2~3mmの砂粒を含む ② 良 ③ 淡橙褐色	(口) 1/8	煤付着	29
IV区 遺構外	第65図 33	獣 足?	L : (5.6) T : 2.7		ナデ、指ナデ成形。一部工具ナデ。	① 1mm前後の砂粒を多く含む ② 良 ③ 淡黄褐色			135
IV区 遺構外	第65図 34	青 磁 椀	① <15.8		(内外) ヨコナデ、施釉。 (内) 口縁部一条の圈線。体部花卉?	① 精緻 ② 硬質 ③ (断) 淡灰色 (釉) 緑色	(口) 1/12	中国産	15
IV区 遺構外	第65図 35	青 磁 (口縁部)	① <13.4		(内外) ヨコナデ。施釉。	① 精緻 ② 硬質 ③ (断) 灰白色 (釉) 灰オリーブ色	(口) 1/12	中国産	121
IV区 遺構外	第65図 36	緑 釉 陶 器 皿	① <13.6		(内外) ヨコナデ。施釉。	① 精緻 ② やや軟質 ③ (断) 灰白色 (釉) オリーブ黄色	(口) 1/9		54
IV区 遺構外	第65図 37	緑 釉 陶 器 (高台部)	② 5.4	削り出し高台。	(内外) ヨコナデ。施釉。 高台内無釉。	① 精緻 ② 硬質 ③ (断) 灰色 (釉) 緑色	(底) 1/3	京都系	3
IV区 遺構外	第65図 38	陶 器 (底部)	② 7.7		(外) 底部糸切り。	① 1mm以下の砂粒を多く含む ② 良好 ③ (断) 淡灰色 (釉) 緑色 (露) 灰色	(底) 1/2	自然釉	41
IV区 遺構外	第65図 39	陶 器 (底部)	② 5.0		(外) 底部糸切り。	① 精緻 ② 硬質 ③ (断) 灰色 (釉) オリーブ灰色	(底) 3/5	ヘラ記号 「+」	100
IV区 遺構外	第65図 40	土 鉢	L : 4.35 W : 2.3 T : 2.05	指、指ナデ成形。		① 0.5mm以下の砂粒を多く含む ② 良 ③ 橙色	1		43
IV区 遺構外	第65図 41	土 鉢	L : 5.1 W : 2.4 T : 2.3			① 0.5mm以下の砂粒を多く含む 1cm大の砂粒有 ② 良 ③ 橙色	1		59

V区 遺構外	第65図 42	土 錘	L : 5.0 W : 2.3 T : 2.1	指、指ナデ成形。		①0.5mm以下の砂粒を含む ②良 ③橙色	1		133
V区 遺構外	第65図 43	土 錘	L : 5.8 W : 2.6 T : 2.4			①0.5mm以下の砂粒を多く含む 6mm大の砂粒有 ②良 ③にぶい黄橙色、褐灰色	1		167

V区 SK-04	第70図 1	須 恵 器 蓋	① (13.1) ④ 1.8	ほぼ水平に近い天井部はその端でカーブを描き、端部で下方へ屈曲、段をなす。	(外) 糸切り後、周縁部軽いナデ。	①0.5mm前後の砂粒を多く含む ②良好 ③淡橙褐色、一部オリーブ灰色	(口) 1/4 (天) 1/2	天-外-墨書 「西」	115
-------------	-----------	------------	-------------------	--------------------------------------	-------------------	---	--------------------	---------------	-----

V区 遺構外	第71図 1	須 恵 器 蓋	① <16.2> ④ 1.1	天井部中央から上方へ緩やかに上がり、そこで角度を持って下方へ下がり、口縁部は肥厚、丸い。	(外) 糸切り後周縁部ナデ。 (内) 天井部ナデ。	①1mm前後の砂粒を含む ②良好 ③淡灰色	(口) 1/8 (天) 4/5	天-外-墨書 「酒」	107
V区 遺構外	第71図 2	須 恵 器 (底部)			(外) 糸切り後周縁部軽いナデ。 (内) 底部ナデ。	①1~2mmの砂粒を含む ②良好 ③淡灰色	(底) 1/4	底-外-墨書 「酒?」	107
V区 遺構外	第71図 3	須 恵 器 皿	① (15.3) ② 7.5 ④ 2.2	底部から外傾、口縁部で僅かに外反、端部は丸い。	(外) 糸切り後周縁部軽いナデ。 (内) 底部軽いナデ。	①1mm前後の砂粒を多く含む 3、6mm大の砂粒有 ②やや不良 ③灰白色、褐灰色	(口) 1/4 (底) 1		101
V区 遺構外	第71図 4	須 恵 器 皿	① (14.9) ② 7.6 ④ 1.9		(外) 糸切り後未調整。 (内) 底部軽いナデ。	①1mm以下の砂粒を多く含む 3、4mm大の砂粒有 ②やや不良 ③灰白色、灰色	(口) 1/3 (底) 1		101
V区 遺構外	第71図 5	土 師 器 (口縁部)	① <44.0>	口縁部は外反して開き、端部は丸い。	(外) 口縁部横位のナデ。体部ハケ目。 成形時の圧痕。 (内) ハケ目。	①1~2mmの砂粒を含む 4、5mmの砂粒有 ②良 ③橙褐色	1/8		8 106
V区 遺構外	第71図 6	土 師 器 甕	① <25.6> ③ <24.7>	体部から上方に伸び、口縁部で屈曲、外反し端部は丸い。	(内外) ハケ目。成形時の圧痕。	①1mm前後の砂粒を多く含む 2mm大の砂粒有 ②良 ③(外) 灰褐色 (内) 赤褐色	(口端) 1/11 (体) 1/8	煤付着	107
V区 遺構外	第71図 7	土 師 器 甕	① <13.5>	口縁部は外傾、端部は先細る。	(外) 体部ハケ目後口縁部ナデ。 (内) 口縁部ハケ目後ナデ、体部丁寧なナデ。	①2mm前後の砂粒を多く含む ②良 ③(外) 橙褐色 (内) 暗褐色	(口端) 一部 (頸) 1/3 (体) 1/4	煤付着	106
V区 遺構外	第71図 8	瓦 質 鍋	① (26.4)	受け口状口縁。口縁部は屈曲して上方へと納め、端面をもつ。	(外) 指成形後ナデ。全体に成形痕が顕著に残る。 (内) ナデ。	①1mm前後の砂粒を含む ②良好 ③灰色	(口) 1/3	煤付着	9
V区 遺構外	第71図 9	瓦 質 羽 釜	① <18.4>	口縁部は内傾気味に上方に納め、端面をもつ。鈔は横位に巡る。	(外) 鈔貼付後ヨコナデ。 (内) ナデ。	①0.5mm以下の砂粒を多く含む ②良 ③灰色	(口) 1/8	煤付着	2
V区 遺構外	第71図 10	製 埴 土 器	① (13.8)	口縁部は外傾し、端部方向へと肥厚する。	(内外) 指成形後ナデ。	①2mm以下の砂粒を含む 6mm大の砂粒有 ②良 ③橙色	(口) 1/6		118
V区 遺構外	第71図 11	土 師 器 (口縁部)	① (16.0)	口縁部は僅かに内湾、端部は肥厚し粗な外端面をもつ。	(内外) 指成形後ナデ。	①0.5mm以下の砂粒を多く含む ②やや不良 ③にぶい橙色、にぶい黄褐色	(口) 1/4		112

大井家ノ下モ遺跡

P-02	第75図 1	土 師 器 皿	① 8.2 ② 6.95 ④ 1.65		(外) 静止糸切り。 (内) ナデ返し。	①0.5mm以下の砂粒を多く含む 1、4mm大の砂粒有 ②良 ③にぶい黄褐色	ほぼ1	煤付着	69
遺構外	第75図 2	土 師 器 杯	① (13.4)	体部は内湾、口縁部で僅かに外傾、端部は丸い。	(外) 体部ナデ、工具ナデ。後口縁部ヨコナデ。 (内) 底部ナデ。	①1mm前後の砂粒を多く含む ②良好 ③暗橙褐色	1/4		14
遺構外	第75図 3	瓦 質 鍋	① <32.0>	受け口状口縁。口縁部は屈曲して上方へと納め、端面をもつ。4は内側につまむ。6は凹面となる。	(外) 指成形後ナデ。成形時の圧痕。 (内) ナデ。	①0.5mm前後の砂粒を含む ②良好 ③(外) 灰褐色 (内) 暗灰色、淡灰色	(口) 1/9 (体) 1/12	煤付着	46
遺構外	第75図 4	瓦 質 鍋	① <28.2>		(外) 指成形後ナデ。成形時の圧痕。 (内) 体部原体不明のナデ。	①1mm以下の砂粒を多く含む ②良 ③褐灰色	1/18	煤付着	71
遺構外	第75図 5	瓦 質 鍋	① <25.8>		(外) 指成形後ナデ。成形時の圧痕。 (内) 体部丁寧なナデ。	①0.5mm前後の砂粒を多く含む ②良 ③暗褐色	一部	煤付着 炭化物付着	47
遺構外	第75図 6	瓦 質 鍋	① <20.0>		(外) 指成形後ナデ。成形時の圧痕。	①0.5mm以下の砂粒を多く含む ②良 ③暗灰色	1/14	煤付着 炭化物付着	72
遺構外	第75図 7	瓦 質 羽 釜	① <25.0>	口縁部は内傾気味に上方に納め、端面をもつ。鈔は横位に巡る。	(外) 鈔貼付後ヨコナデ。体部ナデ。 (内) ナデ。	①0.5mm以下の砂粒を多く含む ②良 ③暗灰色	1/14	煤付着 炭化物付着	82
遺構外	第75図 8	瓦 質 羽 釜			(外) 鈔貼付後ヨコナデ。 (内) ハケ目。	①0.5mm以下の砂粒を多く含む 2mm大の砂粒有 ②良 ③赤褐色	一部		70
遺構外	第75図 9	瓦 質 羽 釜	① (23.1)		(外) ハケ目痕。体部ナデ。 (内) ナデ。	①0.5mm以下の砂粒を多く含む ②良 ③灰色	(口) 1/5	煤付着	45
遺構外	第75図 10	瓦 質 羽 釜	① <21.0>		(外) 鈔貼付後ナデ。成形時の圧痕。 (内) ナデ。	①1mm以下の砂粒を多く含む ②やや不良 ③灰黄色	(口) 1/10		1
遺構外	第75図 11	青 磁 碗	① <14.4>		(内外) ヨコナデ後施釉。	①緻密 ②硬質 ③(断) 灰色(釉) 緑色透明	(口) 1/21 (体) 1/8	(龍泉窯系)	44
遺構外	第75図 12	陶 器 (体部)			(外) 格子叩き目。 (内) ナデ。一部条線。	①0.5mm以下の砂粒を含む ②良好 ③褐灰色	(体) 一部	亀山系?	89

佐治村試掘Tr-4

Tr-4	第76図 1	土 馬	L : (10.7)	土師質。手握ね成形。鉢馬と思われる。後輪と尻架を粘土紐による貼り付けで表現。後足の一部残存。尻部を意識した竹管状(纖維質)の浅い刺突。		①1mm以下の砂粒を多く含む ②良 ③淡褐色	胴部		11
------	-----------	-----	------------	---	--	------------------------------	----	--	----

第3節 まとめ

大井聖坂遺跡、大井家ノ下モ遺跡はいずれも過去に発掘調査歴があり、今回の調査で新たな成果を加えることができた。ここでは同じ佐治町大井地内に展開するそれぞれの遺跡について調査によって幾つか気がついた点を挙げ、まとめに代えたい。

1. 大井聖坂遺跡

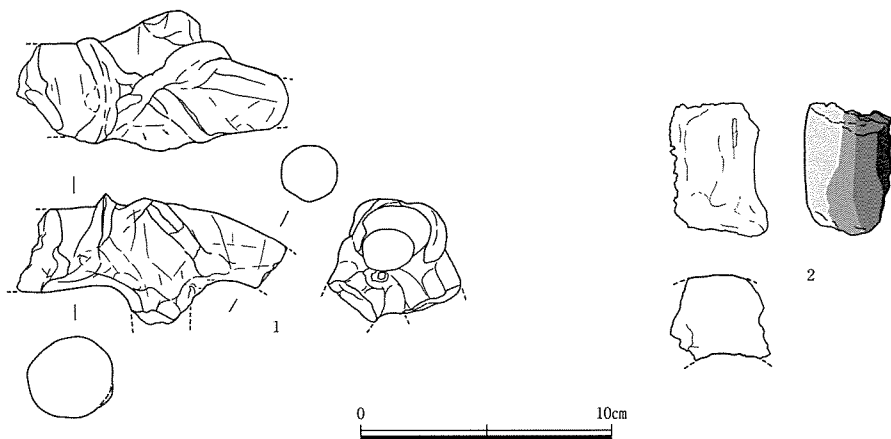
遺物について

今回の調査でコンテナ(容量54×34×20cm)約48箱分の遺物が出土している。多くはIV区の遺構外出土の遺物であり、IV区第22層黒褐色粘質土上面で出土したものが大半を占める。縄文土器、弥生土器、須恵器、土師器、緑釉陶器、灰釉陶器、青磁、陶器、瓦質土器、竈、甑形土器、製塩土器、土錘、鉄製品、敲石、鋳滓がある。このうち、須恵器には墨書土器14点が含まれる。遺物は時期的には7世紀前半、7世紀末～8世紀前半、9世紀後半～10世紀前半、12世紀末～13世紀と大まかに分かれる⁽¹⁾。

また、今回の調査に先立ち、平成16年度に佐治村教育委員会により試掘調査が行われており、コンテナ(容量54×34×20cm)6箱分の遺物が出土している。多くはIV区試掘トレンチTr-4、V区試掘トレンチTr-5からであり、土師質の土馬(1)、羽口片(2)が含まれた。土馬(1)は頭部・脚部・尾部を欠く胴部下半片で、背中に鞍の後輪と尻繁が粘土貼り付けにより表現され、刺突による尻穴も見られた。羽口片(2)は両端破面で、内面に金属溶融物が付着しており内径推定5cmの弧状の断面は橙色～灰色と層状になる。このほか鋳滓状遺物はV区試掘トレンチTr-5でも出土しており、今回の調査で出土した(IV区SK-01出土)を含め自然科学分析(第4章参照)を行った結果、砂鉄を原料とした鋳滓と判明した。羽口片やTr-5で出土した242gの鋳滓が炉材とみられることから、遺跡の周辺にこうした製鉄関連の遺構、遺跡が存在する可能性が極めて大きい。

今回調査で出土した遺物は全体的に土師器片が占める割合が大きく、そのほとんどをく字形甕の体部片が占め、糸切り底の杯皿類は比較的少なく、赤彩された杯皿類はほんの僅かであった。須恵器は壺甕類の体部片も多く見られるが、糸切り底・高台の有無を問わず杯類が多くを占め、糸切り底の無高台杯の存在が目立つ。つまみのある蓋は時期的なものなのか平野部の遺跡に比べて輪(環)状つまみの出土がかなり少なく数える程度である。竈片も量的には少ないが破片として比較的出土が見られる。具体的な数値は明示できないが、全般的に土師器と須恵器との出土量の割合は土師器がやや多く、土師器における供膳・煮炊用の割合はそのほとんどを煮炊用の甕が占め、須恵器での供膳・貯蔵用の割合は8割方供膳用である。土器以外でも工具類などはほとんどなく、調査地は遺物から煮炊・飲食するといった生活空間的な色合いが濃いように思われる。

供膳具、それもすべて須恵器の杯・皿・蓋の計14点に墨書を確認した⁽²⁾。IV区第22層・V区第16層黒



第76図 佐治村試掘Tr-4出土遺物実測図 (S=1:3)

褐色粘質土上面での検出遺構内および包含層遺物である。時期的には8世紀前半、9世紀～10世紀前半の遺物に限られる。墨書のみられる部位は天井部、底部の内外面と平坦面に記され、僅かに二文字であることから墨書が内面底部から側面へ至るものが1点ある。記された文字は「南」「酒」「西」が複数あり、「石□」「□縄」、ほか判読不明分数点がある。第1次調査で「常盤」「□縄友」が確認されている。「□縄」と「□縄友」とは縄の上文字が同じ文字のように思われるが、今回出土の「□縄」は縄の下に文字は記されていない。「南」については、南の屋敷といった施設の略称である可能性があり、正嘉2年(1258)に佐治川を隔てて南側を「南方」、北側を「北方」と呼称した記録がある⁽³⁾ことから、その起源がこの時期までさらに遡るとすれば、この墨書を出土した集落はある種行政的な機能を果たしていたと考えることもできよう。ただ、製品としての硯は出土しておらず、転用硯と見られる灰釉陶器(第21図1)、天井部内面に擦り痕のある須恵器蓋(第64図15)があるが使用頻度はさほどでなく(第64図15)の墨痕ははっきりとは認められない。この他にわずかに擦り痕が観察される須恵器片が図化していないものを含め10点弱あるが、他の使用痕である可能性もありいずれも明確に転用硯とは言い難い。墨書土器のみられる時期と遺構、遺物の集中度からすると、公的な施設という遺跡の性格を前提に考えていく必要があるが墨書土器の出土量が相対的にやや乏しい感をもつ。

特殊な遺物として甑形土器2点が出土している。SK-17と2SK-05とどちらも土坑からの出土である。2SK-05出土の遺物は筒部のみの遺存であったが両者はほぼ同様な筒部径をもち、2SK-05の遺物はSK-17の遺物より器高が低くなるものと考えられる。いわゆる「山陰系甑形土器」の系譜を引くものと考えていたが、渡来系土器の可能性のある旨の指摘を受けている⁽⁴⁾。ただ、把手の形状がやや異なっており、調整・製作技法、胎土などからすれば在地で製作したものと思われる。加えて時期的に古墳時代中期まで遡る遺物は周辺では出土しておらず、その時期まで遡らせることには慎重でありたい。器高61.7cm、重量は7kg以上になり、長い筒部の形状からも甑としての使用は考え難い。内面に煤が付着しているが全体ではなく縦断帯状に付着しているに過ぎない。SK-17での甑の出方も人為的に土坑内に横位に埋置したと考えられる。いずれにせよ、この2点以外は須恵器の甑(第30図32)以外に甑形土器は確認されておらず、「山陰系甑形土器」の系譜の盛衰を含めての再考や特殊な土器としての位置づけが必要である。

これまであまり注目されてこなかった遺物として、製塩土器に似た断面三角形状の肉厚口縁部3点(第32図4・第65図32・第71図11)を図化した。図化した以外にIV区から3点が出土している。また平成16年度第2次調査においても多数確認した。製塩土器は(第62図3・第71図10)以外に15点が出土しており、これらと比較すると類似するようになって差異が認められる。製塩土器は胎土の細粒の含みが多く色調も内外面ともにやや赤味のある橙色であるが、断面三角形状の肉厚口縁部は土師器甕と同様な胎土で焼き締まり、色調にはムラがあって外面は橙色系、内面は浅黄橙色を示すものが多い。全体に外面指

墨書一覧表

出土地	器種	記された部位	墨書銘	挿図No	備考
IV区SK-01	(須)杯	(内)底部～側位	「西?□」	第32図3	
IV区P-12	(須)杯	(外)底部	不明	第59図5	
IV区P-43	(須)杯	(外)底部	「南」	第59図6	
IV区P-150	(須)杯	(外)底部	「南」	第59図7	
IV区P-380	(須)杯	(内)底部	「酒」	第59図8	
IV区P-215	(須)杯	(内)底部	「石□」	第59図9	
IV区遺構外	(須)蓋	(内)天井部	「□縄」	第64図12	
IV区遺構外	(須)(杯)	(外)底部	「南」	第64図17	
V区SK-04	(須)蓋	(外)天井部	「西□」	第70図1	
V区遺構外	(須)蓋	(外)天井部	「□酒□」	第71図1	
V区遺構外	(須)(杯)	(外)底部	「酒?」	第71図2	
IV区P-13	(須)蓋	(外)天井部	不明	—	(内)墨痕有、擦り痕
V区遺構外	(須)杯皿?	(内)底部・天井部?	不明	—	No103
V区遺構外	(須)皿?	(外)天井部?	西or南	—	No110

□は判読不明

ナデ痕が顕著で口縁部は工具により軽く調整され、内面はナデ調整で外面よりは平滑に仕上げられる。布目は観察されない。いずれにせよ概して粗雑な作りである。こうした断面三角形の肉厚口縁部は、大量の墨書土器を出土した岩吉遺跡でも製塩土器の扱いで代表的なものが報告されており⁽⁵⁾この他数点の確認される。因幡国府遺跡でも同様の口縁部が出土しており、焙烙として報告されているものもある⁽⁶⁾。因幡国府出土のものは径18～21cm程度、器高5cm弱の法量で、大井聖坂遺跡出土のものは径16～17cm弱、器高4.5cm程度とやや小さい。因幡国府では一般的に出土しているようで、煮炊具ではなく供膳具と一緒に出土する傾向が窺え、器種の一部を構成していた可能性が高い。外面に2次焼成を受けたような痕跡が認められるものもあり、焙烙と考えるのが妥当な感がある。ただ、この形態の遺物が他の地域ではあまり見かけないという状況⁽⁷⁾から因幡地域を中心とした特有の器種、器形である可能性もあり、今後に委ねたい。

この他、遺構と直接関与しないが縄文土器、弥生土器が出土している。弥生土器は後期後半の土器に限られ、今回遺構は検出されなかったが、佐治村調査I区でピット(P16)内から弥生土器を出土している。IV区でも出土する弥生土器は比較的大きな破片もあり、2次堆積で磨耗したような状況ではなかった。今回遺構の埋土から須恵器・土師器片に混じって弥生土器片を含むことがあり、この地に集落が営まれる7世紀前後以前に密ではないが弥生時代後期の生活面があり、集落形成時等に削平されたと考えることができよう。また、縄文土器については、狭い地域ながら佐治町には中期前葉～後期の縄文遺跡が多く知られ、大井聖坂遺跡の周辺部についても後期の縄文人の足跡を直接示す遺物として貴重な資料である。

遺構について

今回、掘立柱建物13棟、竪穴住居2棟、土坑22基(攪乱穴7基)、溝状遺構2条、ピット799基、焼土遺構を検出した。IV区を中心に圃場整備の際の重機による大規模な攪乱穴が目立った。遺跡は佐治川によって形成された河岸段丘と北東方向へ延びる丘陵裾との境界付近、標高150～156mの緩斜面に位置する。このうちIV区と平成元年度調査地(第1次調査)⁽⁸⁾との間にあたるI区は地形的に谷筋にあたり、平成16年佐治村の調査(第2次調査)⁽⁹⁾で自然流路が検出されている。各調査区の中で中心地的な位置を占めるIV区は立地的にも南西から北東へ延びる稜線上にあたり、東に上大井・古市地区を見据えた位置となる。

IV区東の検出された自然流路内の埋土は黄褐色砂質土・砂礫中心で、I区南の小谷筋から流出した土砂と考えられる。この谷筋からの花崗岩質の風化砂礫はI区西端からIV区～II区南端～III区東半分にかけて確認されており、これまで所謂「整地層」、人工的な整地として扱われていたが、今回IV区の状況(調査地の基本層序参照)から自然の堆積層と考えるのが妥当との結論に至った⁽¹⁰⁾。古い時期の遺構はこの明黄褐色砂礫層IV区第28・29層の上層である第24層上面で検出したが、第24層上面と第22層上面との時期的な隔たりは明確には捉え難く、第22層が厚さ30cm近くもあることを考慮すると下層の遺構はあるいは第22層中からの掘り込みであった可能性もあろう。多くの遺構の基盤層となったIV区第22層黒褐色粘質土は第1次調査でも確認されている。この黒褐色粘質土の上層は灰黄褐色粘質土、褐灰色粘質土であり、特に第15層灰黄褐色粘質土は厚さ35cmにもなり、遺物も多く含まれた。墨書土器の出土も第22層黒褐色粘質土上面あるいは第15・16・18層中に限られ、第22層上面に厚さ7cmの焼土範囲がV区～IV区にかけて8箇所帯状に検出されたことからこの焼土はある時期の生活面を示す可能性がある。

竪穴住居を2棟検出したが、このうちSI-02は最も南西斜面高位にあり、辺5m程度とII区、III区で検出された住居とほぼ同等の規模であるが時期不明である。SI-01は3m弱と規模が小さく柱穴が見られなかった。作業小屋的な建物と思われる。大量に出土した土器から7世紀末から8世紀初頭とみられ、約5m北に位置し7世紀前半とされるIII区SI-01とはやや時期を異にする。

掘立柱建物13棟については、調査区外へ延びて全容不明なものや便宜的に図面上で想定した建物も含

掘立柱建物・竪穴住居一覽表

調査区	遺構名	桁×梁 (間)	桁行 (m)	梁行 (m)	平均柱間		面積(m ²)	主軸方向	出土遺物等	時期
					桁行(m)	梁行(m)				
Ⅳ区	SB-01	3×(3)	3.72	(3.48)	1.24	1.20	12.9	N-79°-E	(土)壺(口)・他 (須)蓋・他	
〃	SB-02	(3×1)	(4.00)	(2.40)	1.33	2.40	9.6以上	N-85°-E	(土)細片	
〃	SB-03	3×2	5.88	5.68	1.96	2.84	33.4	N-9°-E	(土)口縁・頸部 (須)蓋・他	
〃	SB-04	2×2	5.36	4.16	2.68	2.08	22.3	N-5°-E	(土)赤彩・低部他 (須)皿・口縁部他	
〃	SB-05	(4)×3	(5.78)	4.86	1.44	1.62	28.1以上	N-2°-E	(土)甍片・口縁部他 (須)底部他	
〃	SB-06	3×(1)	3.32	(2.78)	1.11	2.78	9.2以上	N-84°-W	(土)鉢・頸部他 (須)蓋・底部他	(8C前半)
〃	SB-07	4×1	7.75	2.48	1.93	2.48	19.22	N-83°-W	(土)土錘他 (須)杯・皿・蓋?他 (陶)緑釉	9C後半
〃	SB-08	3×1	5.38	2.56	1.79	2.56	13.8	N-87°-W	(土)土器片 (須)土器片	
〃	SB-09	4×2	7.80	5.83	1.95	2.91	45.5	N-19°-W	(土)口・頸部 (須)蓋・皿・他 (陶)灰釉 (繩)鉢(口縁)	(9C後半)
〃	SB-10	4×3	6.68	4.65	1.67	1.55	31.1	N-75°-E	(土)口縁部他 (須)杯	
〃	SB-11	4×3	7.03	4.75	1.75	1.58	33.4	N-69°-E	(土)赤彩・口縁部他 (須)高台部他	
〃	SB-12	(3)×3	(5.16)	4.40	1.70	1.47	22.4	N-15°-W	—	
〃	SB-13	2×2	3.23	2.88	1.61	1.44	9.3	N-15°-W	(土)土器片	
〃	SI-01	長軸3.37 短軸2.99		—		—	8.9	N-1°-W	(土)杯・甍・壺・甌形土器・ 椀?・甍片・蓋(赤彩) (須)杯・高台付杯・甍・壺・ 鉢・蓋・椀 (石)葺石	7C末~8C初
〃	SI-02	長軸(5.0) 短軸4.50		柱穴間1.98×2.18		—	(20.5)	N-15°-W	—	不明

()は遺存値、推定

土坑・溝状遺構一覽表

調査区	遺構名	法 量(cm)			底部標高(m)	平面形	断面形	主軸方向	出土遺物等	時期
		長軸	短軸	深さ						
Ⅳ区	SK-01	259	215	32	154.48	不整楕円形	不整椀状	N-32°-E	(土)皿他 (須)杯(墨書有)他 (繩)鉢 鉄滓	10C前半
〃	SK-02	176	109	27	154.39	不整楕円形	不整皿状	N-80°-W	土器片	
〃	SK-03	攪 乱			—	—	—	—	(土)土器片 (須)甍片・杯	—
〃	SK-04	攪 乱			—	—	—	—	—	—
〃	SK-05	176	92	(30)	(153.76)	不整楕円形	不整皿状	N-25°-E	(土)甍片 (須)杯他	
〃	SK-06	120	99	50	153.46	不整楕円形	不整椀状	N-70°-E	(土)甍片他 (須)皿・杯他 土錘 鉄製品	10C前半
〃	SK-07	128	70	39	153.58	不整長楕円形	不整椀状	N-9°-E	(土)甍他 (須)皿他	10C代
〃	SK-08	141	101	15	153.97	楕円形	不整皿状	N-3°-E	(土)土器片 (須)皿・杯他	
〃	SK-09	攪 乱			—	—	—	—	—	—
〃	SK-10	攪 乱			—	—	—	—	—	—
〃	SK-11	99	87	10	153.58	不整円形	不整皿状	—	—	—
〃	SK-12	125	93	14	153.53	隅丸台形状	皿 状	N-40°-W	(土)甍	
〃	SK-13	112	91	16	153.61	楕円形	不整皿状	N-3°-E	(土)甍	
〃	SK-14	攪 乱			—	—	—	—	(土)口縁部片 (須)口端部	—
〃	SK-15	攪 乱			—	—	—	—	(土)土器片 (須)土器片	—
〃	SK-16	攪 乱			—	—	—	—	(土)口縁部片 (須)底部片	—
〃	SK-17	107	73	12	153.97	隅丸長方形	不整皿状	N-36°-W	(土)甌形土器	(8C前半)
〃	SK-18	152	128	22	154.66	不整楕円形	不整椀状	N-57°-W	(土)底部片 (須)口縁部片 (陶磁)片	
〃	2SK-01	162	126	18	153.57	不整楕円形	皿 状	N-17°-E	(土)土器片 (須)杯(口)甍片	
〃	2SK-02	137	109	22	153.37	不整隅丸方形	椀 状	N-62°-W	(土)甍(口)	
〃	2SK-03	129	90	37	153.10	不整楕円形	不整形	N-9°-W	—	
〃	2SK-04	96	67	24	153.17	楕円形	椀 状	N-31°-E	—	
〃	2SK-05	145	97	28	153.67	不整楕円形	不整皿状	N-74°-E	(弥)壺・(土)甌形土器	8C
〃	2SK-06	89	75	16	153.63	不整楕円形	椀 状	N-31°-E	—	
〃	2SK-07	161	115	29	154.43	不整楕円形	椀 状	N-64°-W	—	
V区	SK-01	99	91	78	153.94	不整円形	逆台形状	—	(土)甍(口)	
〃	SK-02	83	(51)	41	154.23	不整円形	椀 状	—	—	
〃	SK-03	83	81	68	153.94	不整形	—	—	(土)体部片(須)高台部片	
〃	SK-04	107	103	32	154.00	不整円形	椀 状	—	(土)体部片(須)蓋(墨書有)	8C前半
Ⅳ区	SD-01	626	31	16	153.99	L字形	椀 状	N-83°-W N-10°-W	(土)杯・皿(赤彩)他 (須)土器片	
〃	SD-02	228	75	9	154.07	(L字形)溝状	皿 状	N-30°-E	(土)細片(須)体部片 鉄磁片	

()は遺存値、推定

まれ、必ずしも実際の状況を反映するものかどうか疑問が残る部分もある。ただ、検出したピットは多数にのぼり柱痕跡が観察されるピットも比較的多く確認された。想定外にも複数時期の建物が幾重にも重複しているものと考えられる。遺物を含む包含層の厚い堆積はそのことを裏付けるものでもあろう。想定した掘立柱建物を構成する柱穴は径50～70cm程度の平面円形もしくは楕円形で、方形の掘り方をもつものは調査地内には皆無であり、建物規模も最大のSB-09で45.5㎡である。官衙、官営的な計画性をもって構成された大規模な建物群とは言い難い。掘立柱建物の建物軸を考えた場合、最低二グループに分けることが可能である。軸をN-2～9°-Eにとる建物とN-69～75°-Eにとる建物である。このうち主軸をN-5°-EにとるSB-04は斜面低位側にL字形の溝(SD-01)をもち、同軸の建物としては長棟のSB-07、08が特徴的で、配置としてはⅣ区南の斜面高位側に配置する。これに対し主軸をN-69°-EにとるSB-11は4×3間の建物で、構成する柱穴は平面長楕円形、二段掘りが特徴的で、同軸の建物はⅣ区北側の斜面低位に配置する。時期的にはSB-11のグループが古く8世紀前半期、SB-04のグループは9世紀後半～10世紀と推測される。

遺跡の概観

今回の大井聖坂遺跡の調査で、おおよその遺跡範囲の半分程度の調査が終了した状況となる。試掘調査の結果から村道北側の地域においてはかなり深い部分に遺構が埋蔵されているようでもあり、中心となるのは丘陵部と河岸段丘の境界部付近とみられる。大井聖坂遺跡において一番古い遺構は第2次調査Ⅰ区の弥生後期後半の土器が出土したP-16である。付近で同時期の壺も出土しており、明黄褐色砂礫層を掘り込む状況で弥生時代後期の生活面が一部に遺存していたことが明らかとなった。第1次調査や第2次調査でも同時期の弥生土器片が出土しており、今回出土の弥生土器もその遺存状態があまり摩滅を受けることなく大きめの破片であることから、また奈良・平安時代の遺構埋土からも弥生土器片は出土しており、そう密ではないにしろ調査地周辺部を含めて弥生時代後期後半期という比較的限定された時期の遺構が埋蔵されている可能性が高い。

その後、7世紀前半までの間は空白期となり遺物も出土していない。7世紀前半期、第1次調査の竪穴住居SI-01、02が2棟単位(?)で4mの距離をおいて標高156mに展開している。谷部を隔てて第2次調査のⅡ区では確実な遺構としてやや大きめの規模をもつSI-02、03が7世紀前半である。周辺遺跡では、大井3号墳、葛谷4号墳が7世紀初頭の築造とされ、これら横穴式石室を内部主体とする後期古墳造営の基盤を成した集落であったと考えられる。弥生時代終末から古墳時代6世紀中頃(上山根遺跡で6世紀中葉須恵器出土)までの状況が不明な中、葛谷4号墳は山陽地方に多く分布する無袖型横穴式石室と言われ⁽¹⁾、この時期、他地域からこの谷へ新しい要素をもった勢力の介入があったと見られる。古墳時代後期の横穴式石室が導入された時期頃を一つの大きな契機として、律令体制下へ向けた現在の佐治町の原型とでもいべき基本的枠組みが形成されていったと考えられるのではなからうか。7世紀後半以降大井聖坂遺跡では、第2次調査でも指摘されているとおり竪穴住居から掘立柱建物へと建物構造が変化し、8世紀を境に急速に掘立柱建物で構成される集落へと変貌をとげる。そして、9世紀後半～10世紀、さらに13～14世紀、ひいては15～16世紀とされる掘立柱建物へと遺跡の変遷をたどることができる。周辺遺跡の状況からみても大井地区を中心として古墳時代後期以降、遺跡の系譜が絶えることはない。そんな中、8世紀前半から9、10世紀と墨書の出土は識字層の存在を彷彿とさせるが、硯の未検出や建物自体の規模を考慮すると官衙施設とみるにはやや弱く、郷の関連施設もしくは郷の運営に携わった人物の屋敷跡と据えた方が妥当のように思われる。いずれにせよ、佐治郷の中心地域にあり先導的役割を担った集落であったと言えよう。

2. 大井家ノ下モ遺跡

大井家ノ下モ遺跡は、上大井集落の200m東、大井聖坂遺跡から約1km北東に位置する。標高135m前後の佐治川右岸の段丘上山裾部に展開し、対岸には古市集落が営まれている。平成10年に圃場整備に伴

う調査が行われ、中世の集落遺跡であることが判明しており、倉庫とみられる総柱建物、柵列を検出し、12～14世紀代の中国産をはじめとする豊富な陶磁器類が出土している⁽¹²⁾。今回の調査では13世紀代のピット、瓦質鍋を中心とする遺物が出土し、遺跡がさらに南側へ広がる様相を示した。立地的にも東西両側を小谷筋に挟まれた段丘・丘陵尾根筋上に展開し、岩石を多く含むやや特異な立地であるように思われる。中国産をはじめとする合子・香炉など様々な陶磁器類、墨書で記された分割線のある土師皿の出土などからもやや特殊な性格をもつ山間部の中世遺跡としての位置づけが必要であり、大井聖坂遺跡とはやや集落の性格を異にするようである。ただ、突如中世に現れるにせよ、周辺地域で7世紀代から集落が営まれてきた社会的基盤があつてのことで、この遺跡の消長を捉えることは佐治町の中世社会の具体相を知る上で大きな手がかりとなろう。

このように、大井聖坂遺跡・大井家ノ下モ遺跡は佐治町地域の歴史的な成り立ちを考えていく上で極めて重要な遺跡である。大井、刈地および対岸の古市、葛谷地区周辺を含めると、中世から近世へと連続と続く遺跡の流れを捉えることができる。その中で大井聖坂遺跡は大井地区の「大井千軒跡」の伝承をひく遺跡のひとつであるのか、古代から中世にかけて特に7～10世紀に大きな盛期を迎える。対岸の「古市」の地名も大井千軒が栄えたころ市場があつたことに由来するという。加えて6～7世紀の古市山根遺跡、古市屋敷遺跡、奈良時代の貝尻遺跡、葛谷遺跡、中の谷遺跡、奈良・平安時代の刈地鳥居原遺跡、金鑄原遺跡、陶製の経筒2点が見つかった大井経塚、宝篋印塔が祀られた佐治四郎重貞の墓所など周辺にはこの時期の遺跡が目白押しである。古代から近世にかけて佐治谷での各遺跡の消長・特質を探っていくことは佐治町の歴史そのものを追究することにつながり、今後いっそうの各遺跡における調査成果の分析・検討が必要となるであろう。

註

- (1) 今回、土器の年代観については以下の文献を参考とした。陶磁器については、乗岡実、卜部吉博、廣江耕史、守岡正司 各氏にご教示いただいた。
郡家町教育委員会『下坂窯跡群』1988年
郡家町教育委員会『山田窯跡群』1987年
筒井崇史・村田和弘・松尾史子「古代日本海沿岸地域における土器様相の比較検討(上)」『京都府埋蔵文化財情報』第93号 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター 2004年
(助)鳥取市教育福祉振興会『山ヶ鼻遺跡Ⅱ』1996年
- (2) 墨書土器の文字の解読は鳥取市歴史博物館学芸員佐々木孝文氏にお願いした。
- (3) 佐治村『佐治村誌』1983年
- (4) 守岡正司氏よりご教示いただいた。「円筒形土製品」として掲載されている。
島根県教育委員会『史跡出雲国府跡Ⅰ』2003年
- (5) (助)鳥取市教育福祉振興会『岩吉遺跡Ⅳ』1997年
- (6) 鳥取県教育委員会『因幡国府遺跡発掘調査報告書Ⅱ～Ⅳ』1974～1976年
国府町教育委員会『因幡国府遺跡(外ヶ馬場・中溝地区)』1981年
旧国府町教育委員会収蔵庫で昭和48年、49年因幡国府調査分の遺物コンテナのうち数コンテナを実見したところ21点もの断面三角形肉厚口縁部を確認した。
- (7) 実物を実見していただき、廣江耕史氏より出雲国府では見られない器種との指摘、製塩土器とは異なるのご教示をいただいた。
- (8) 佐治村教育委員会『大井聖坂遺跡』1990年
- (9) (助)鳥取市文化財団『大井聖坂遺跡2次調査<Ⅰ区・Ⅱ区・Ⅲ区>発掘調査報告書』2005年
- (10) 調査地の層序、特に明黄褐色砂礫層について鳥取市歴史博物館館長星見清晴氏から大変有益なご助言、ご教示をいただいた。
- (11) 佐治村教育委員会『葛谷4号墳発掘調査報告書』1989年
- (12) 佐治村教育委員会『大井家ノ下モ遺跡発掘調査報告書』1999年

第4章 自然科学分析

大井聖坂遺跡の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

1. はじめに

鳥取市佐治町大井に位置する大井聖坂遺跡の試掘調査および本調査時に出土した鉄滓2点と羽口片1点について、材質や由来等に関する情報を得るため金属学的調査を行う。

2. 調査試料と項目

表1に試料の大きさと調査項目を示した。外観観察・断面組織観察および鉍物同定は全試料に、また成分分析は鉄滓2点について実施する。以下に調査方法を示す。

① 外観観察

遺物の特徴をデジタルカメラにより記録する。

Finepix F401型(富士写真フィルム製)

② 断面組織観察

遺物の平均的な部位を切取り洗浄後、エポキシ系樹脂により真空下で埋め込み組織を固定後、鏡面までに研磨して光学顕微鏡にて観察・記録した。

金属顕微鏡 BH-II型(オリンパス光学工業製)

③ 成分分析

鉄滓2点について以下の方法により含有元素を求めた。

T-Fe：全鉄定量方法 JIS M8212

M-Fe、FeO：酸可溶性定量方法 JIS M8213

その他の成分：ICP発光分光分析方法 ICPS-8100型(島津製作所製)

④ 鉍物同定

遺物を構成する鉍物相の組成をX線マイクロアナライザーにより測定した。

X線マイクロアナライザー(EPMA)JXA-8100型(日本電子製)

表1 調査試料および項目

試料名	遺物番号	採取位置	重量 (gr)	寸法(mm)	調査項目			
					外観観察	断面組織	成分分析	鉍物同定
鉄滓	No37	試掘トレンチ5	242	120×70×35	○	○	○	○
鉄滓	No4	IV区SK-01	50	50×40×35	○	○	○	○
羽口片	No10	試掘トレンチ4	46	50×35×30	○	○	×	○

注1)○印は実施したもの。注2)鉍物同定はEPMAによる。

3. 調査結果

3-1：鉄滓(No37)

No37鉄滓の外観および断面マクロ・ミクロ組織を写真1に、また成分分析結果を表2におよび鉍物相

表2 鉄滓の成分分析結果(単位；重量%)

遺物番号	全鉄 (T・Fe)	金属鉄 (M・Fe)	酸化第一鉄 FeO	酸化第二鉄 Fe ₂ O ₃	酸化珪素 SiO ₂	酸化アルミニウム Al ₂ O ₃	酸化カルシウム CaO	酸化マグネシウム MgO	酸化チタン TiO ₂	酸化バナジウム V ₂ O ₅	酸化マンガン MnO	酸化カリウム K ₂ O
No37	16.72	0.51	10.63	11.36	54.04	14.39	0.9	1.01	2.34	0.14	0.18	3.52
No 4	7.41	0.45	2.61	7.05	61.83	20.24	1.08	1.27	0.87	0.02	0.08	4.44

表3 鉱物相の成分分析結果(EPMA 単位；重量%)

試料	測定位置	酸化第一鉄 FeO	酸化珪素 SiO ₂	酸化アルミニウム Al ₂ O ₃	酸化カルシウム CaO	酸化マグネシウム MgO	酸化チタン TiO ₂	酸化バナジウム V ₂ O ₅	酸化マンガン MnO	酸化カリウム K ₂ O	鉱物相
鉄滓 No37	1	68.8	0.31	7.81	...	1.21	21.3	...	0.58	...	Tu
	2	54.2	34.5	2.74	0.98	5.03	0.67	...	0.8	1.06	F
	3	19.5	44	16.3	8.38	...	2.24	5.57	S
	溶融部	1.69	67.6	17.9	0.81	0.21	9.75	G
鉄滓 No 4	1	80.9	0.48	9.34	0.15	1.05	7.15	0.8	...	0.14	W
	2	32.1	42.4	11.2	4.53	1.63	0.9	...	0.5	5.01	S
	溶融部	10.5	53.2	21.3	0.72	1.16	2.92	9.12	G
羽口片 No10	1	3.04	62.1	30.8	2.7	1.33	長石類粉
	2	...	48.6	38.6	10.7	長石粒子
	3	66.1	33	チタン鉄鈹
	溶融部	12.9	48.6	29.6	3.24	1.26	1.4	1.56	G

注1)鉄滓No37の測定位置1～3は鉄滓領域の分析箇所を示す(図1参照)。

注2)鉄滓No10の測定位置1は数μm～数10μmの微粒子集合体、2・3は数100μmの粗粒子(図2参照)。

注3)各試料の溶融部は、No37・No4は炉材領域、No10は羽口の溶融領域を示す。

注4)鉱物相の説明：Tu；ウルボスピネル(2FeO-TiO₂)、W；ウスタイト(FeO)、S；ガラス質珪酸塩、G；ガラス

の組成を表3と図1に示した。表面は茶褐色で凹凸が著しく、一部に白灰色の粒子が噛み込んでいる。内部はガラス化した炉材成分と思われる領域が大多数を占め、表面の一部には鉄滓成分が固着している。恐らく、炉材の表面に溶融した鉄滓成分がしみ込んだものと考えられる。

鉄滓領域の構成鉱物は、酸化アルミニウム(Al₂O₃)ならびに酸化マグネシウム(MgO)を数%含むウルボスピネル(理論化学組成：2FeO-TiO₂)と木摺状のファヤライト(理論化学組成；2FeO-SiO₂)が主体で、僅かにガラス質珪酸塩からなる。表2の平均化学組成をみると、全鉄が17%弱、酸化チタン(TiO₂)は僅かに2.34%であるが、これは炉材成分が多く含まれているために、鉄滓領域のチタン分が薄められた結果とみることができる。一方、炉材領域の溶融部組成(ガラス相)は表3に示したように、酸化珪素(SiO₂)が70%弱と酸化アルミニウム(Al₂O₃)が18%と、通常の炉材組成に近いものであった。したがって、本遺物は炉材表面に溶融した鉄滓成分が接触し、反応・固化した遺物と考えられた。

3-2：鉄滓(No4)

No4鉄滓の外観および断面マクロ・ミクロ組織を図版2に、成分分析結果を表2におよび鉱物相の成分組成を表3と図2に示した。No4と同様に表面は茶褐色で一部に白灰色の粒子が噛み込んでいる。炉材が溶融して一部がガラス化した組織が殆どで、表面の一部には鉄滓成分が僅かに固着している。鉄滓領域の鉱物組成は、酸化アルミニウム(Al₂O₃)が9%、酸化チタン(TiO₂)が7%を含むウスタイト(理論化学組成；FeO)とマトリックスは鉄分を多く含む(32%)ガラス質であった。平均化学組成のうち全鉄は7.41%、酸化チタン(TiO₂)は僅かに0.87%であった。

この結果も前記のNo37鉄滓と同様に炉材成分の占める割合が多いため、通常の鉄滓組成に比べ低い値

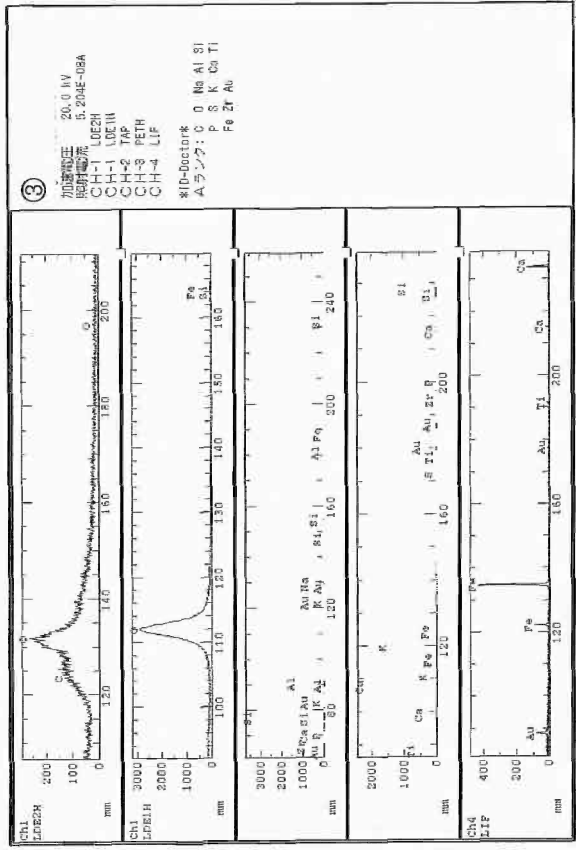
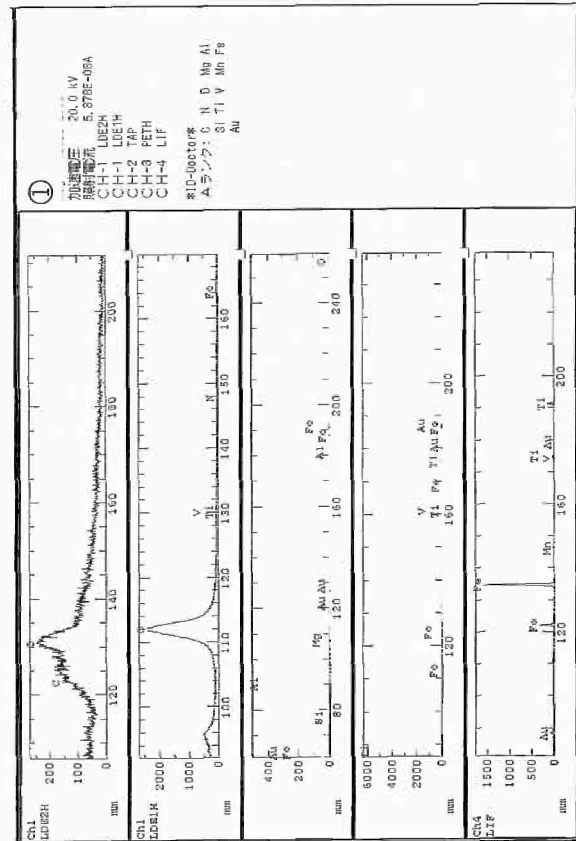
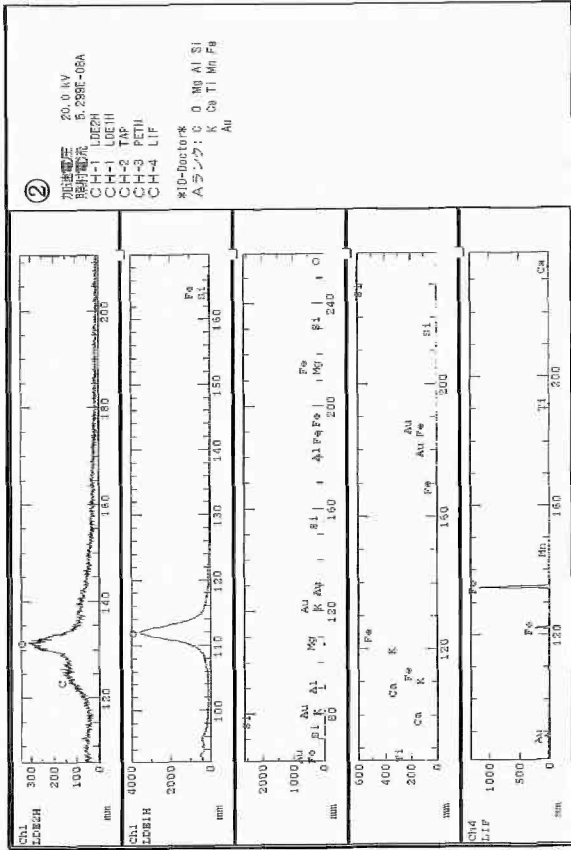
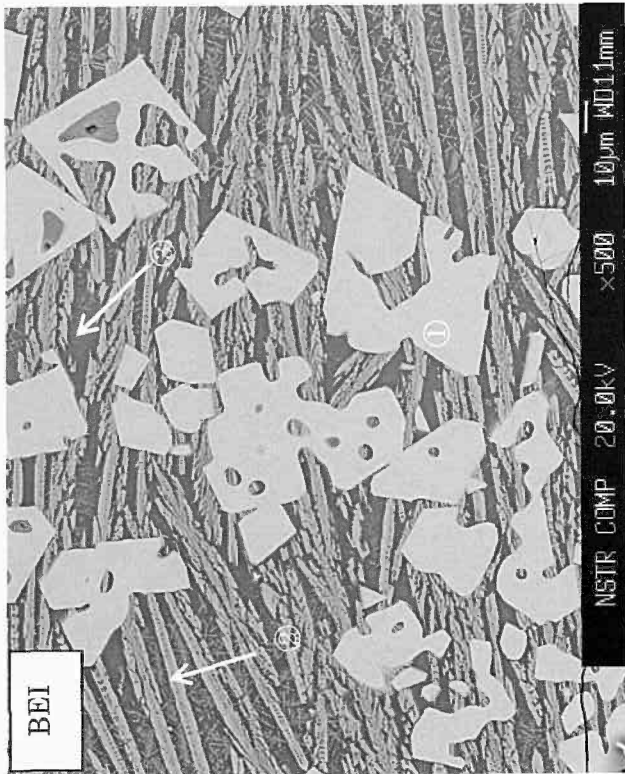


図1 鉄滓(遺物番号No.37)のEPMA分析結果

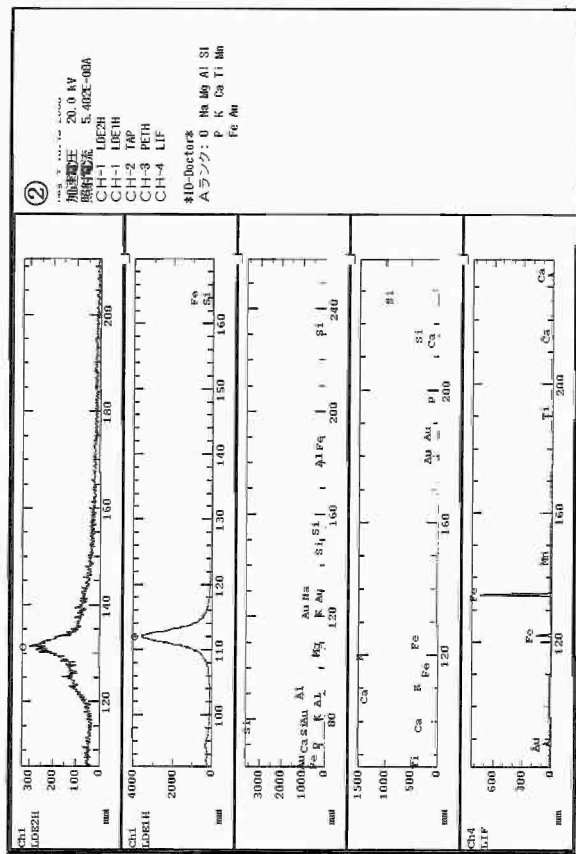
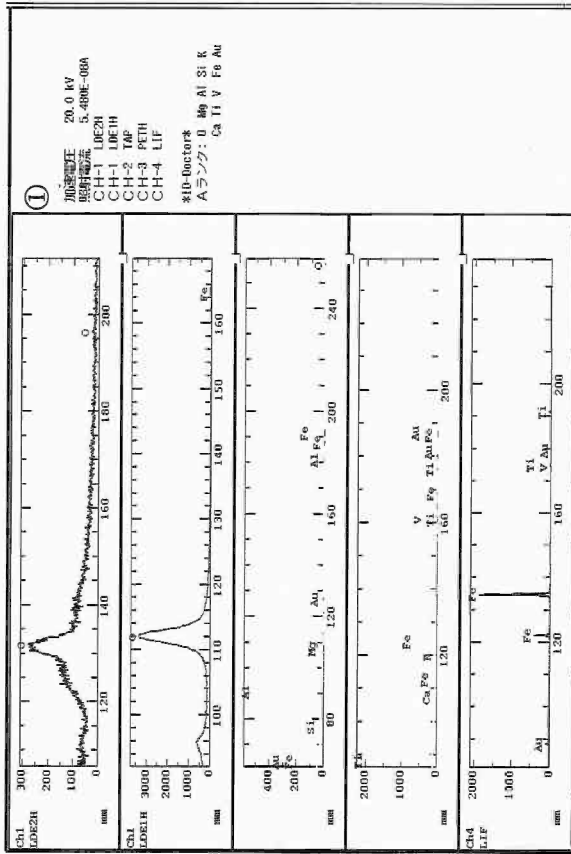
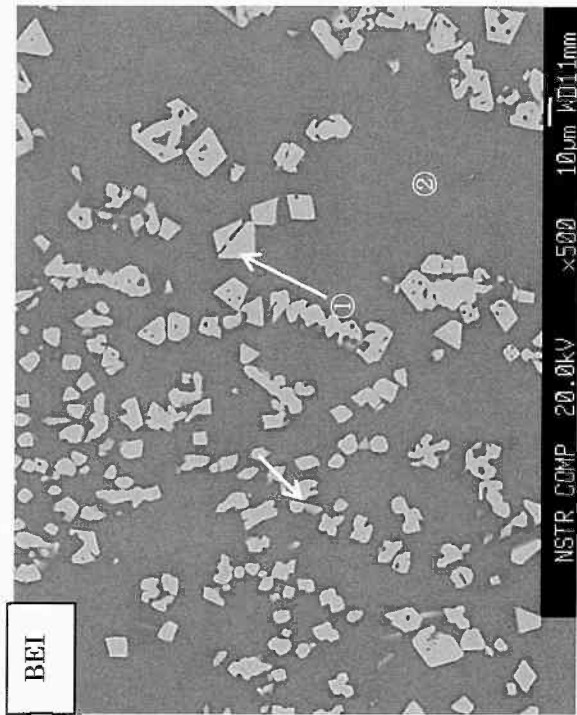


図2 鉄滓(遺物番号No.4)のEPMA分析結果

を示したものと考えられた。また、ウスタイト結晶は微細でマトリックスがガラス質になっていることから、溶融した鉄滓成分が炉材表面で急冷固化したものと見える。一方、炉材領域の溶融部組成は酸化珪素が53%と若干低い濃度であるが、ほぼ炉材成分の一部が溶融したものとみられた。

3-3：羽口片(No10)

No10羽口片の外観および断面マクロ・ミクロ組織を図版3に、表3に構成鉱物相の分析結果を示した。

大きさが50×35×30mmの破片で、反対側は茶褐色の溶融物が薄く固着している。また、内側はある曲率をもった形状を示し、その形状から羽口径は約50mmφと推測される。鍛冶炉羽口としてはやや大型のものといえる。薄く溶融物が固着している領域は、厚さ約15mmにわたって溶融組織を呈し、大小の丸い空孔が存在する。比較的熱影響が受けていない領域は数100μmの粒子と数μm～数10μmの微粒子の混合層となっている。恐らく、元は(熱を受けない前)全体的にこのような組織を呈していたと思われる。それぞれの粒子について分析した結果、粗粒子は酸化珪素(SiO₂)が50%前後、酸化アルミニウム(Al₂O₃)が40%弱、酸化カルシウム(CaO)が10%前後の濃度割合であった。また、微粒子群は酸化鉄(FeO)を3%程度含むものの、おおよそ粗粒子の成分割合に近いもので、この組成割合からこの鉱物は長石類に相当するものと考えられた。存在割合は少ないが他の粗粒子にはチタン鉄鉱(2FeO-TiO₂)や珪石(SiO₂)粒子も含まれていた。一方、羽口溶融部は酸化鉄(FeO)が13%弱、酸化チタン(TiO₂)が1.4%程度含まれており、前述した鉱物類が溶融同化したことが伺えた。羽口の粘土材はこれらの材料を混合して成形・使用したものと推測された。

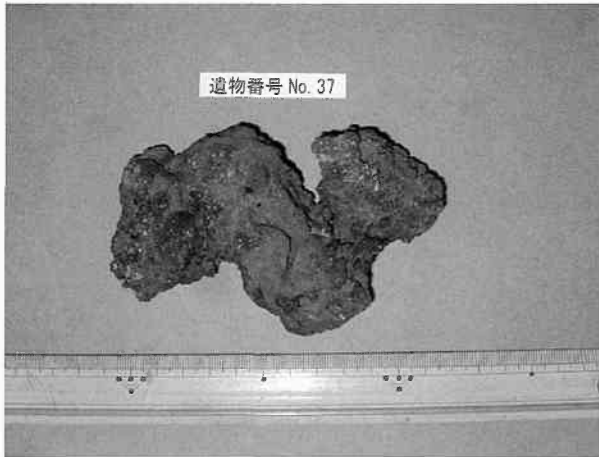
4. 考 察

鉄滓2点および羽口片1点について金属学的調査から以下のことが判明した。

2点の鉄滓は炉材溶融物が主体で、表面に溶融した鉄滓が薄く固着しているものであった。鉄滓の組成は酸化アルミニウム(Al₂O₃)を含むチタン化合物(ウルボスピネル; 2FeO-TiO₂)とハヤライト(2FeO-SiO₂)そしてガラス質珪酸塩であり、両試料の鉱物相の違いは溶融状態から冷却する際の速度が異なっていたためと考えられた。一方、羽口片は構成する粘土材の主成分が長石類であり、僅かであるがチタン鉄鉱や珪石粗粒子を含むものであった。

3点の遺物はいずれも鉄生産にかかわるもので、鉄原料に砂鉄が使用されていたことが明らかとなった。しかし、本遺構がどのような性格の作業工程のものであったのかは明らかに出来なかった。

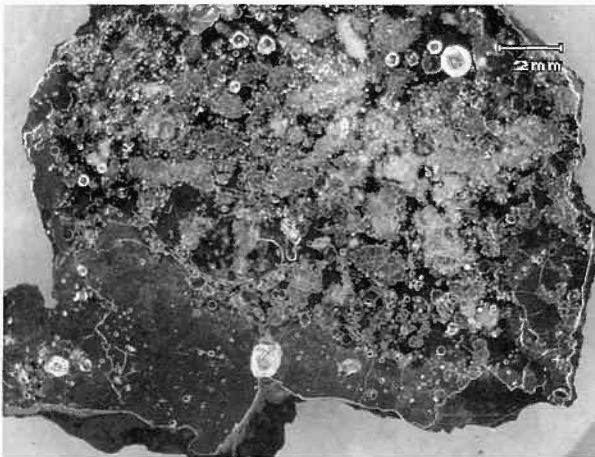
図版1 鉄滓(遺物番号No.37)の外観および断面マクロ・ミクロ組織



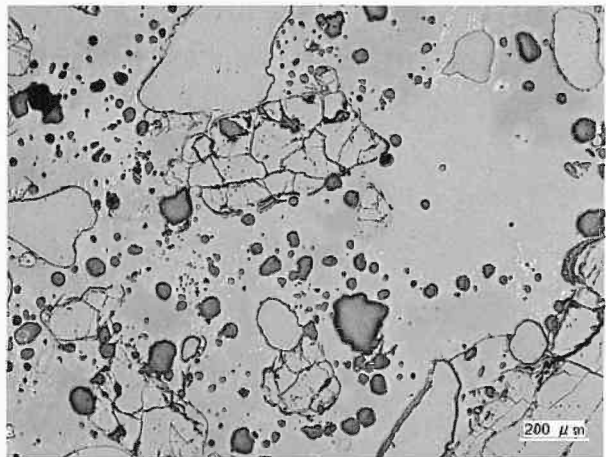
外観(表)



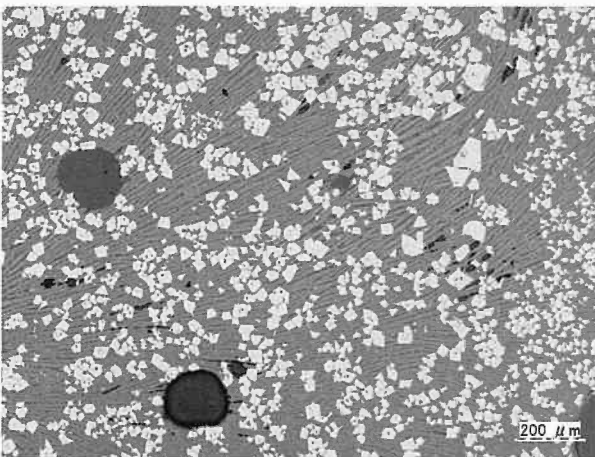
外観(裏)



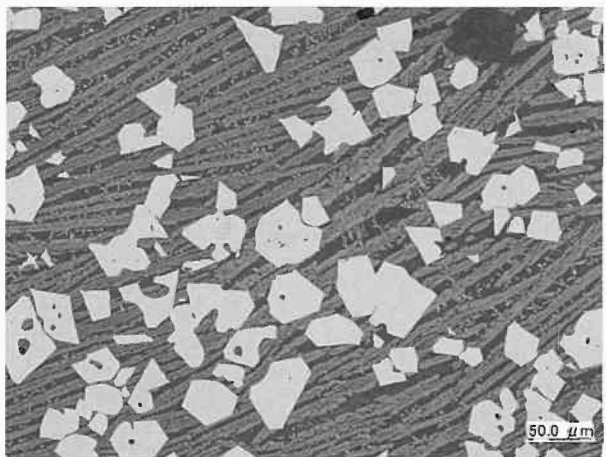
断面マクロ組織



断面ミクロ組織(炉材溶融部)



断面ミクロ組織(鉄滓領域)



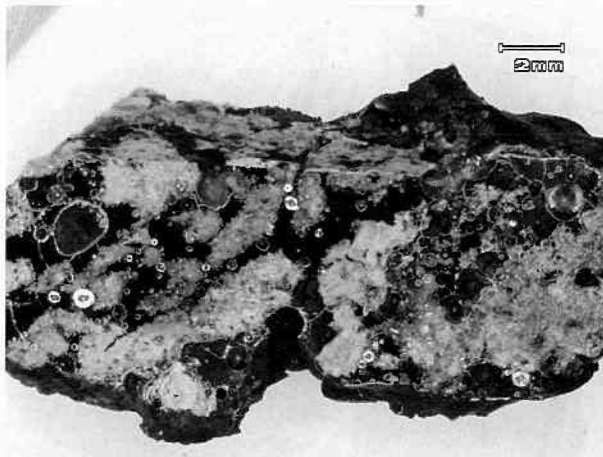
図版2 鉄滓(遺物番号No.4)の外観および断面マクロ・ミクロ組織



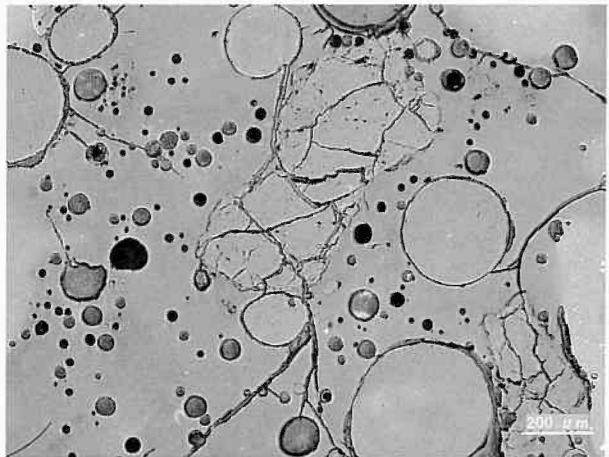
外観(表)



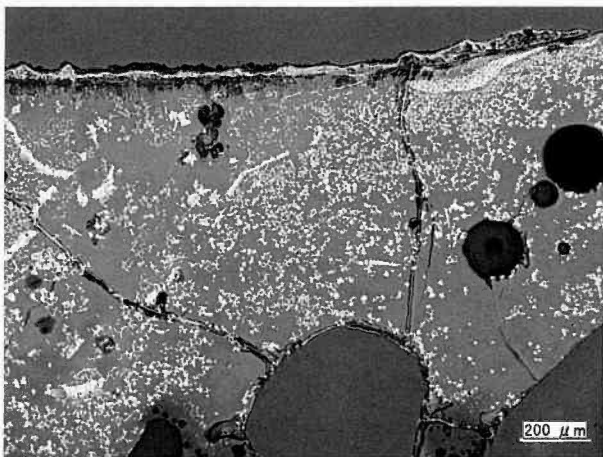
外観(裏)



断面マクロ組織



断面ミクロ組織(炉材熔融部)

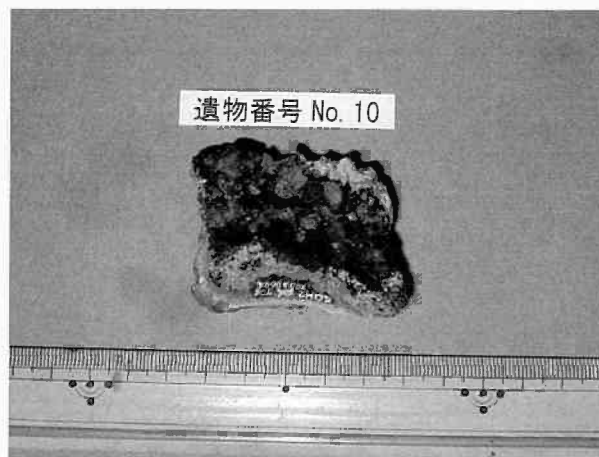


断面ミクロ組織(鉄滓領域)

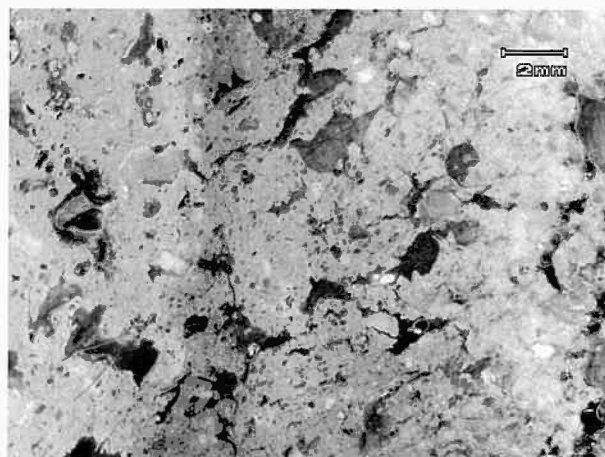
写真3 羽口(遺物番号No.10)の外観および断面マクロ・ミクロ組織



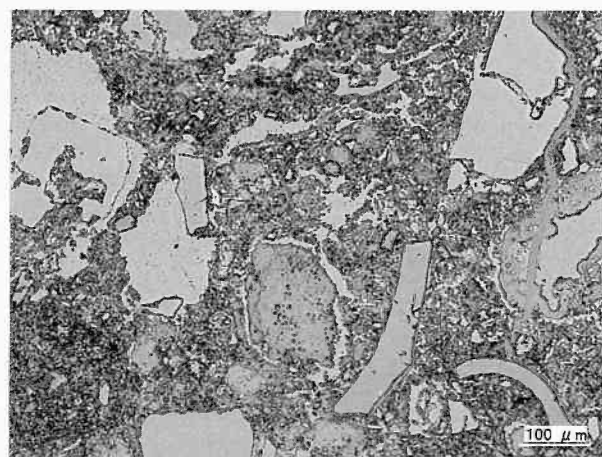
外観(表)



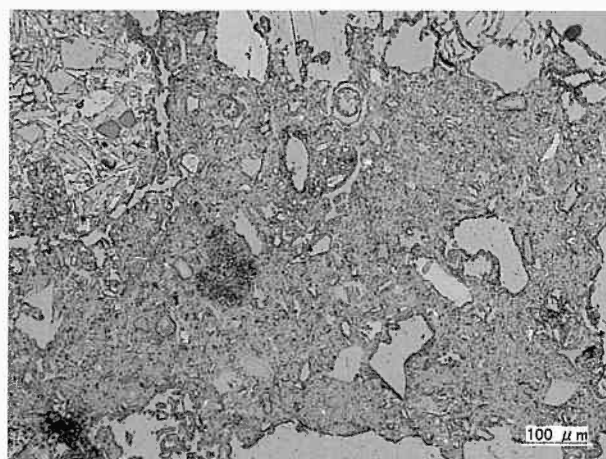
外観(裏)



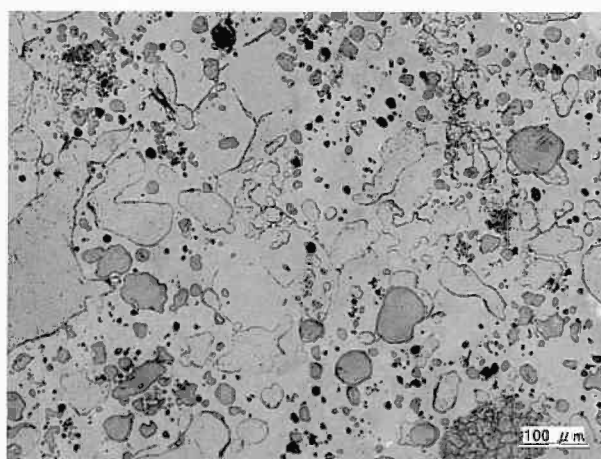
断面マクロ組織



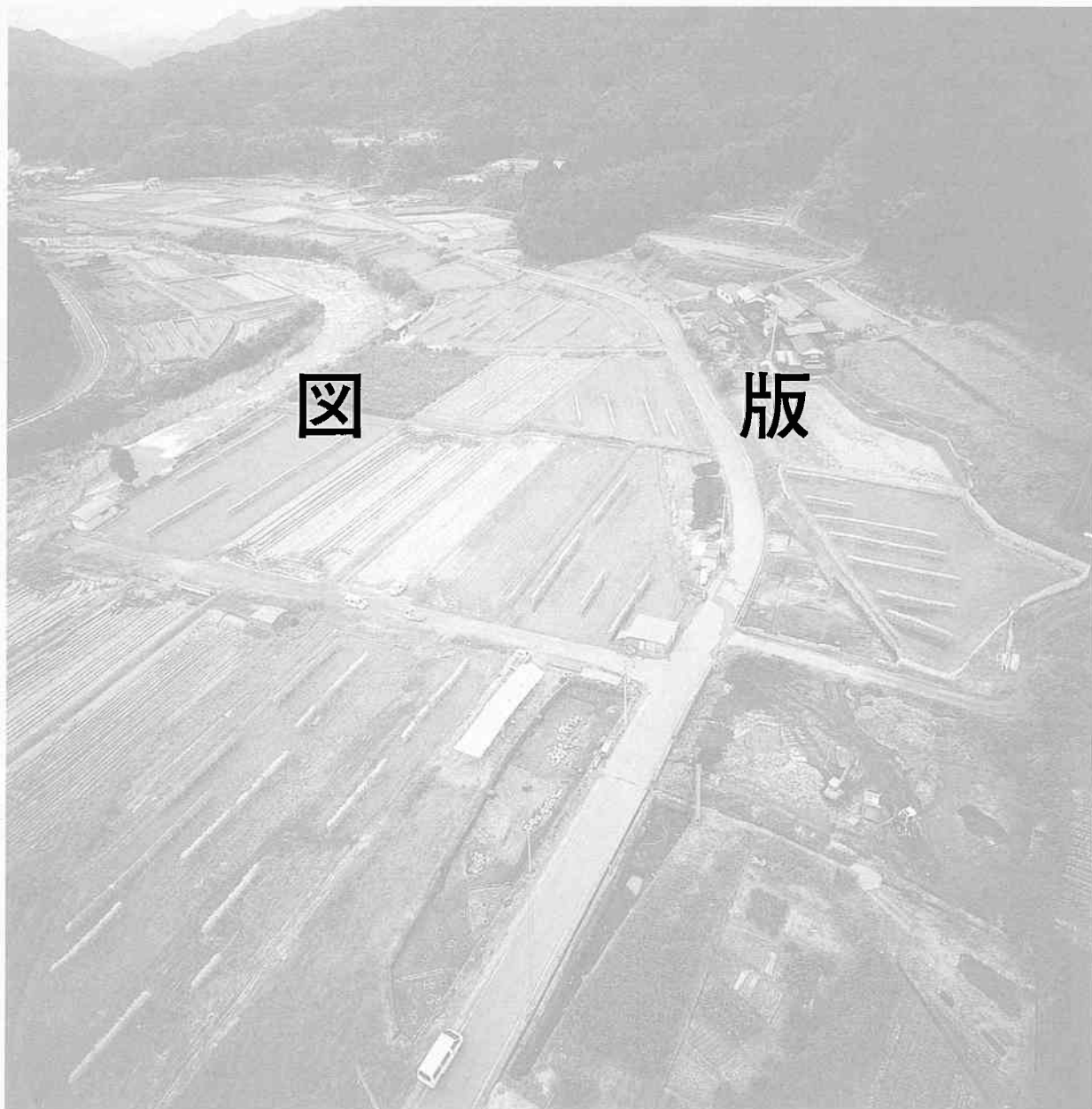
変質領域



変質領域



溶融領域



佐治川と大井聖坂遺跡(北西上空から)

大井聖坂遺跡
調査地遠景
(北から)



Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ区
調査前
(北東上空から)



Ⅳ区
遺構検出状況(上層)
(南西から)



図版 2 大井聖坂遺跡



Ⅳ区遺構検出状況(上層)(北東から)



Ⅳ区遺構検出状況(下層)(北東から)



V区全景
(北東から)

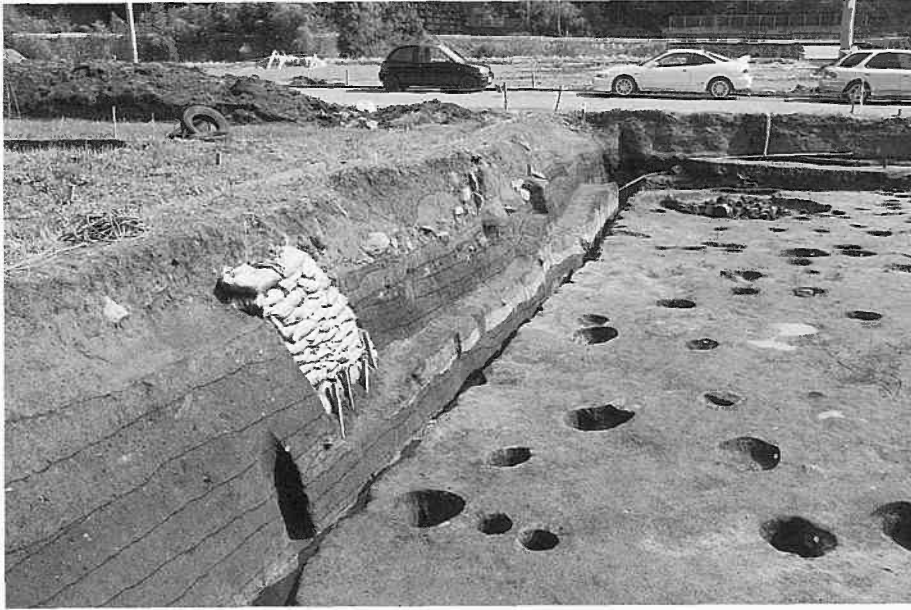


VI区全景
(北西から)

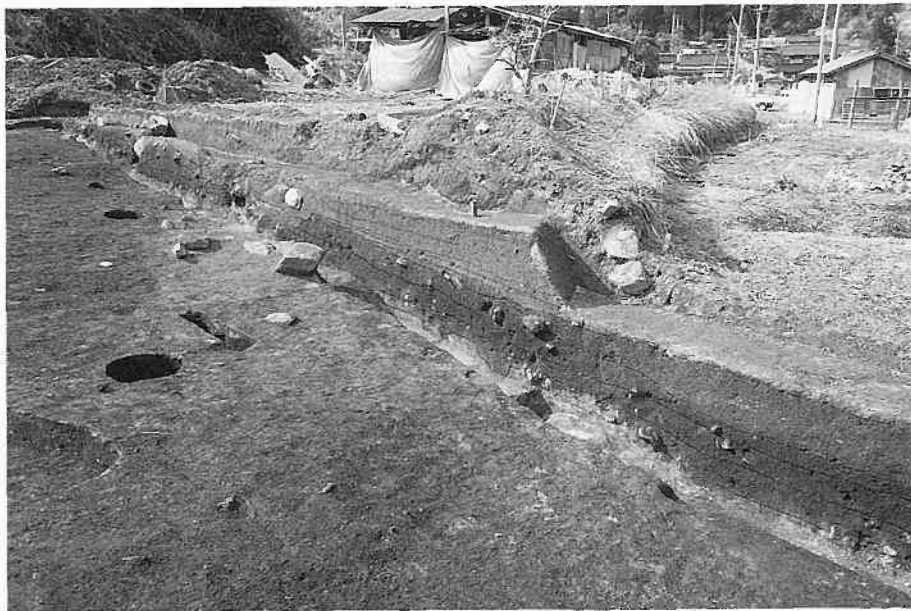


IV区調査区壁面
(東から)

図版4 大井聖坂遺跡



IV区調査区壁面
(南西から)



V区調査区壁面
(東から)



VI区調査区壁面
(南東から)

IV区SB-01検出状況
(南東から)



IV区SB-02検出状況
(南から)



IV区SB-03検出状況
(北から)



IV区SB-04検出状況
(北西から)



図版6 大井聖坂遺跡



IV区SB-08検出状況
(北から)



IV区SB-10検出状況
(北東から)



IV区SB-11検出状況
(南西から)



IV区SB-13検出状況
(南から)



IV区SI-01土層断面
(東から)



IV区SI-01遺物出土状況
(南から)

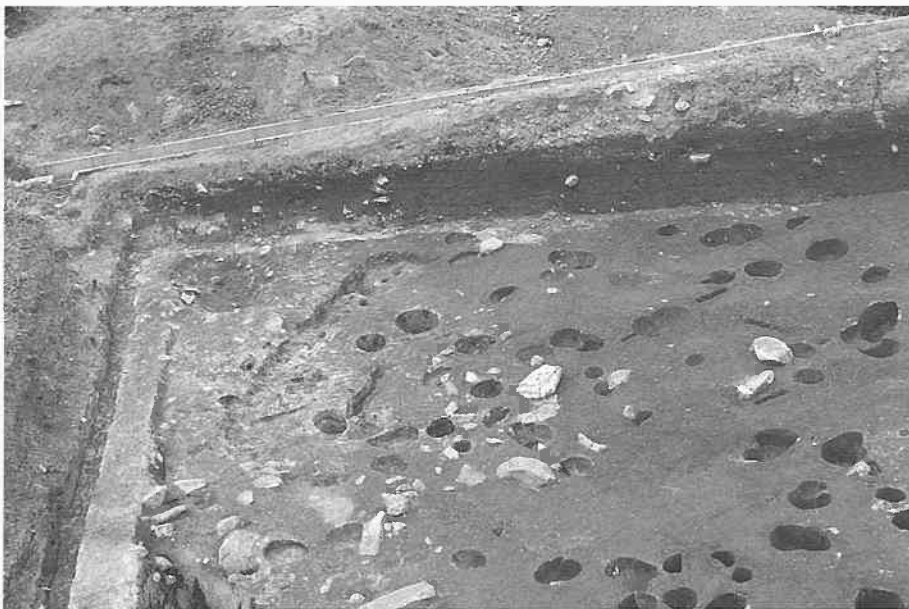


IV区SI-01
下層遺物出土状況
(西から)

図版 8 大井聖坂遺跡



IV区SI-01完掘状況
(南から)



IV区SI-02検出状況
(南東から)

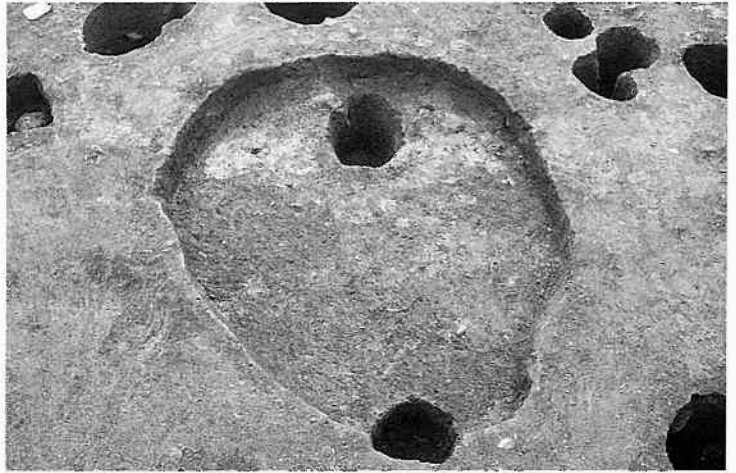


IV区SI-02検出状況
(東から)

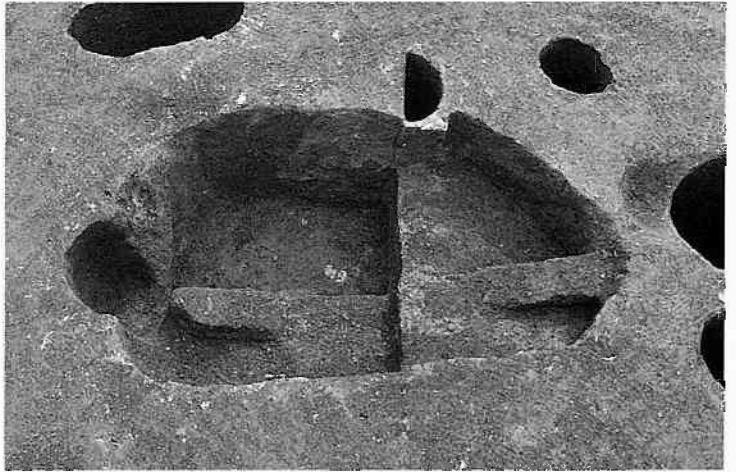
Ⅳ区SK-01土層断面
(南西から)



Ⅳ区SK-01検出状況
(北東から)



Ⅳ区SK-02検出状況
(北から)



Ⅳ区SK-05検出状況
(北西から)



図版10 大井聖坂遺跡



IV区SK-06検出状況
(北西から)



IV区SK-08検出状況
(西から)



IV区SK-11検出状況
(南西から)

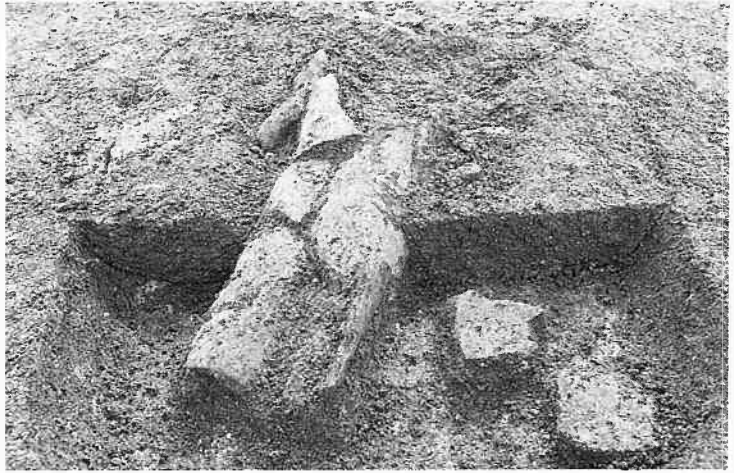


IV区SK-12検出状況
(南西から)

Ⅳ区SK-13検出状況
(西から)



Ⅳ区SK-17土層断面
(北西から)



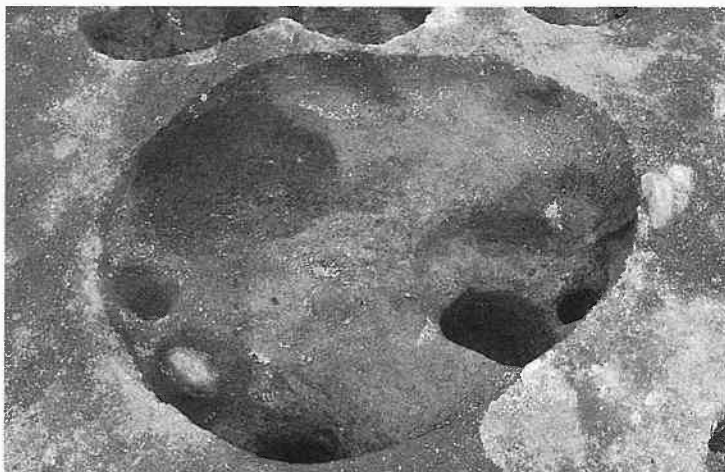
Ⅳ区SK-17検出状況
(北東から)



Ⅳ区SK-18検出状況
(北東から)



図版12 大井聖坂遺跡



IV区2SK-01検出状況
(北西から)



IV区2SK-02検出状況
(南西から)



IV区2SK-03検出状況
(北西から)

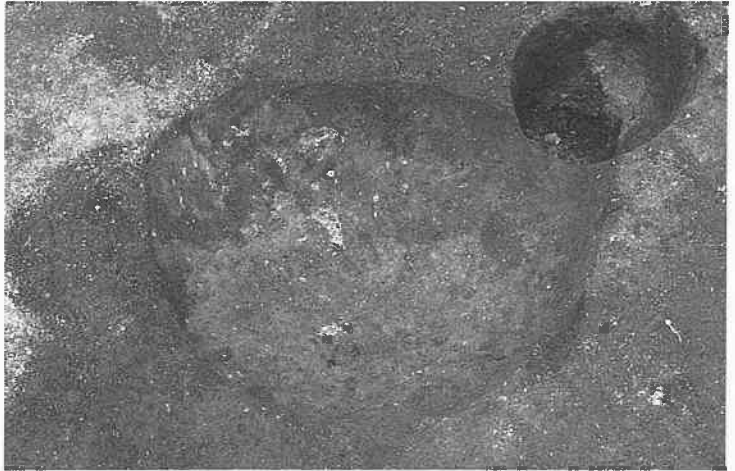


IV区2SK-04検出状況
(北西から)

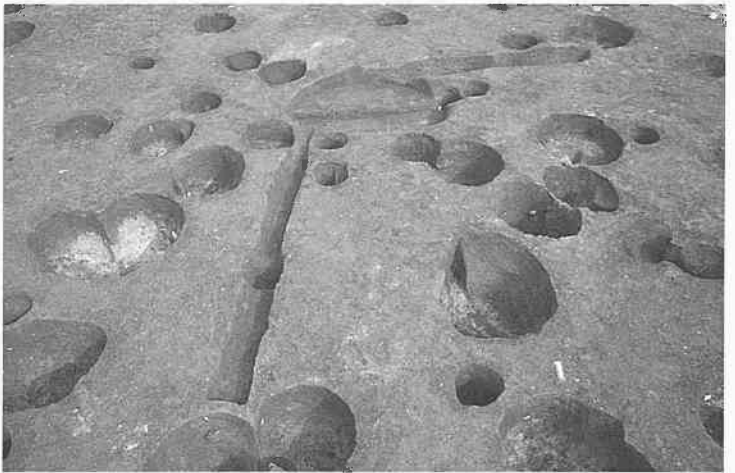
Ⅳ区2SK-05検出状況
(北西から)



Ⅳ区2SK-06検出状況
(北西から)



Ⅳ区SD-01検出状況
(西から)



Ⅳ区SD-02検出状況
(北東から)



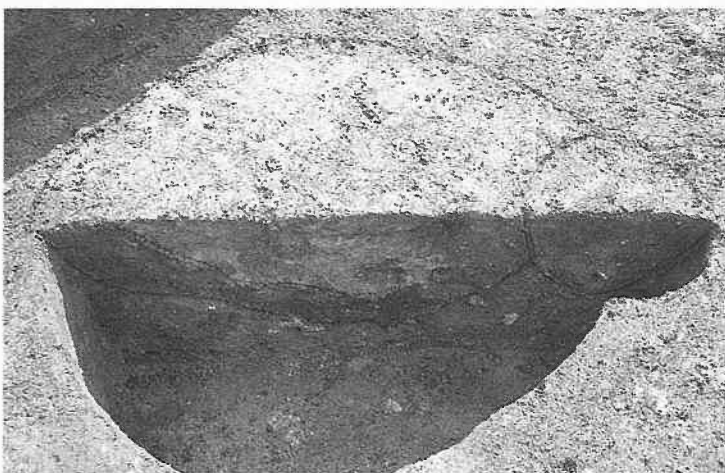
図版14 大井聖坂遺跡



IV区P-264検出状況
(北西から)



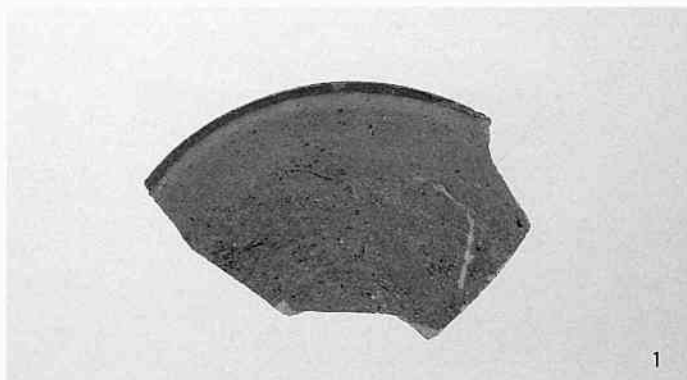
IV区P-402検出状況
(南西から)



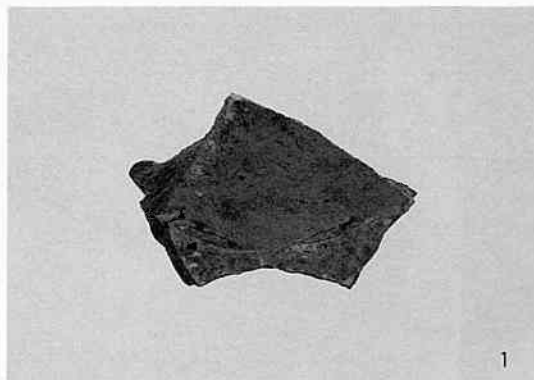
V区SK-04土層断面
(北から)



V区焼土断面
(北から)



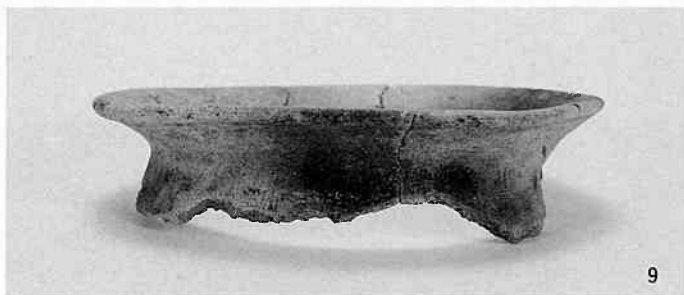
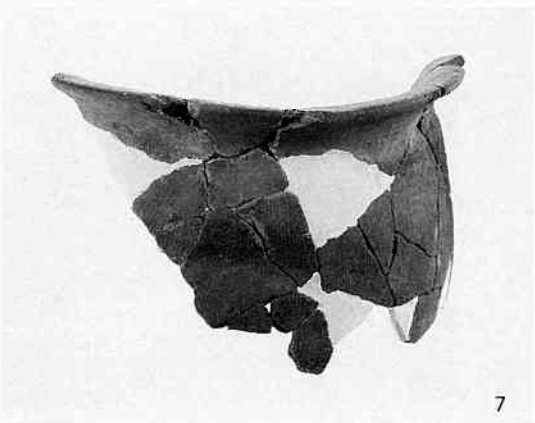
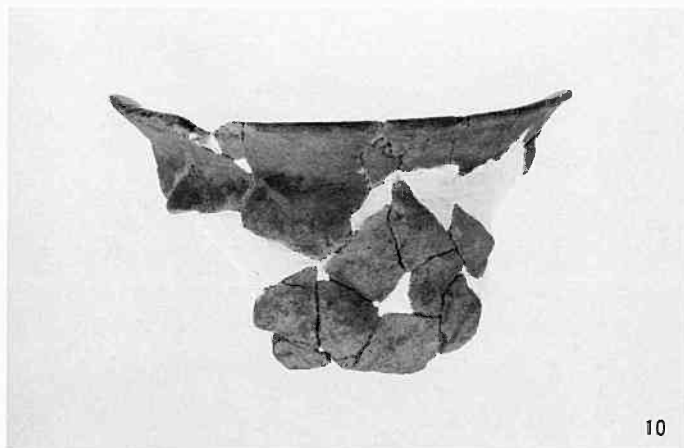
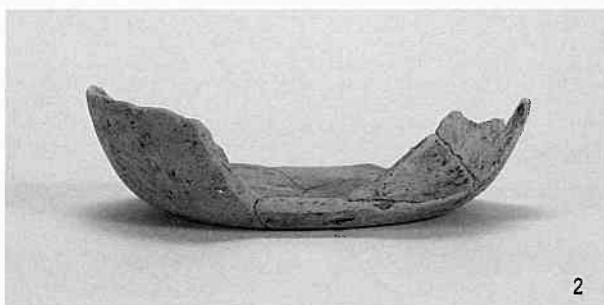
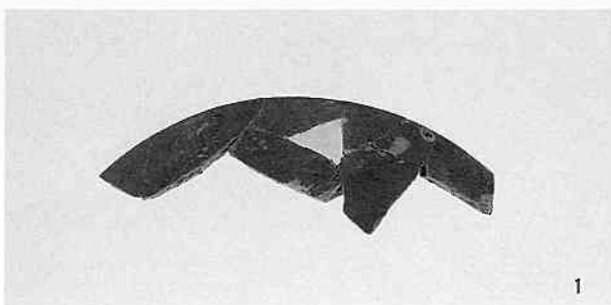
IV区SB-06出土遺物



IV区SB-09出土遺物

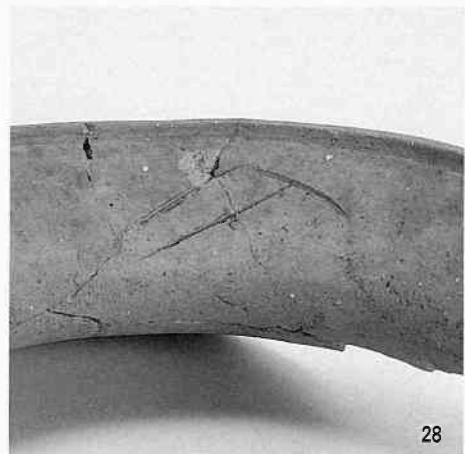
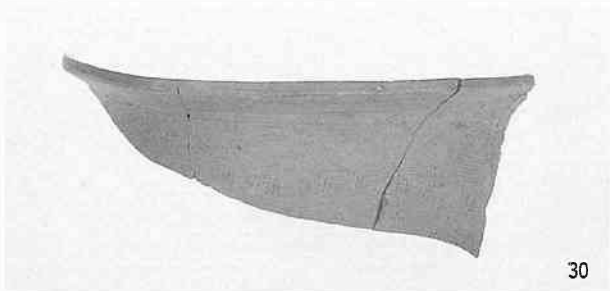
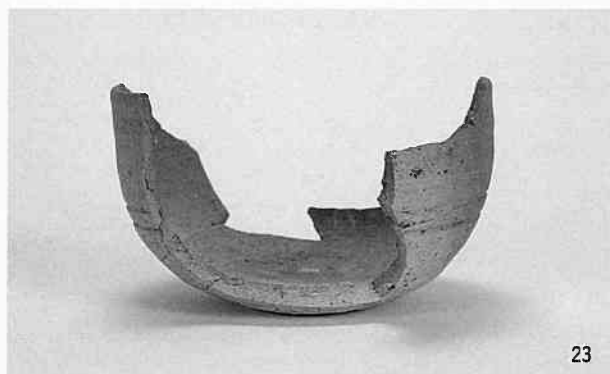
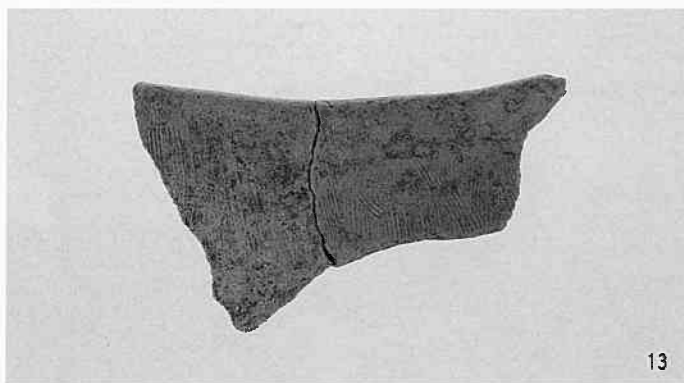
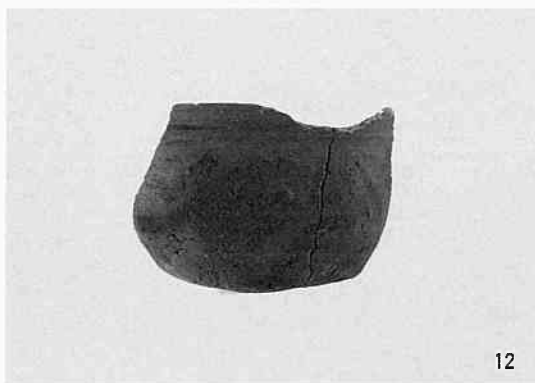


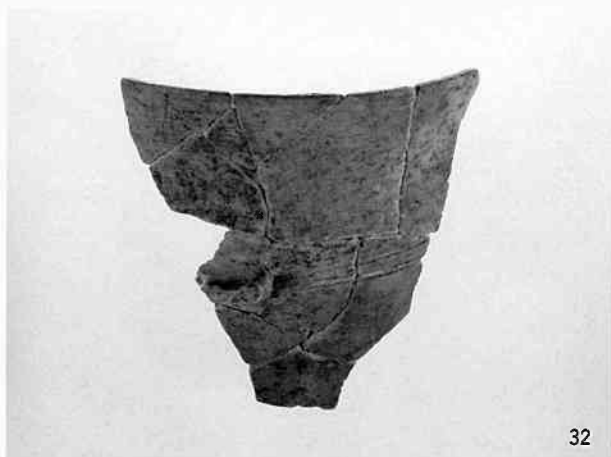
IV区SB-07出土遺物



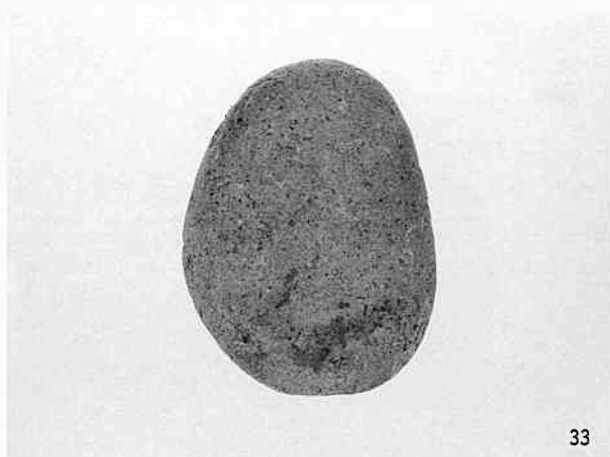
IV区SI-01出土遺物

图版16 大井聖坂遺跡





32



33

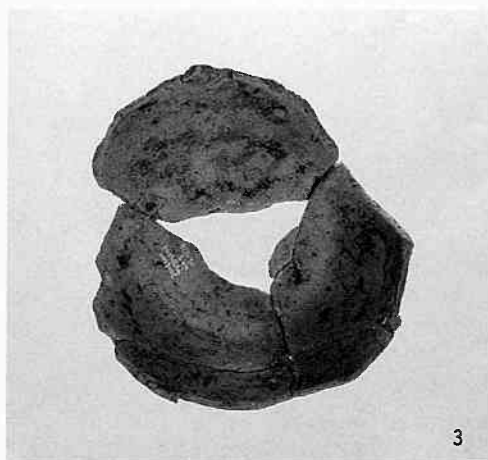
IV区SI-01出土遺物



1



4



3

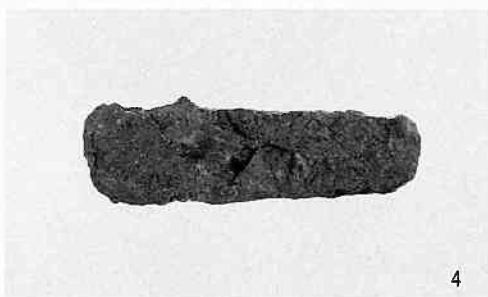
IV区SK-01出土遺物



2

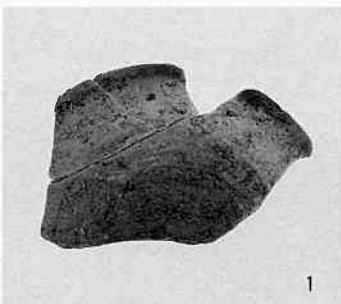


3



4

IV区SK-06出土遺物

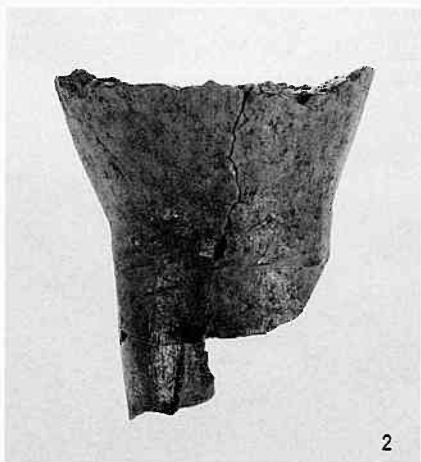


1

IV区SK-07出土遺物



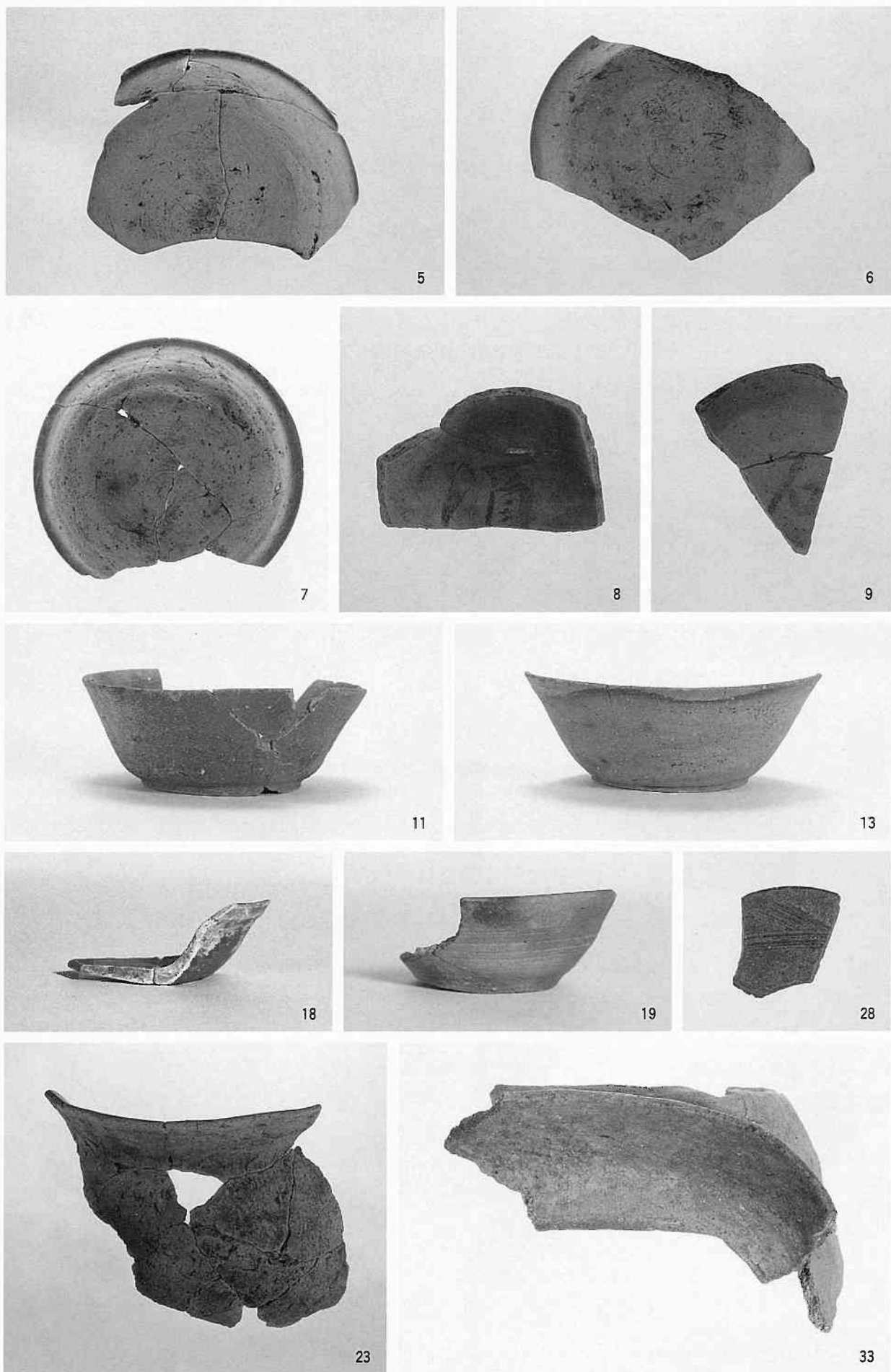
1



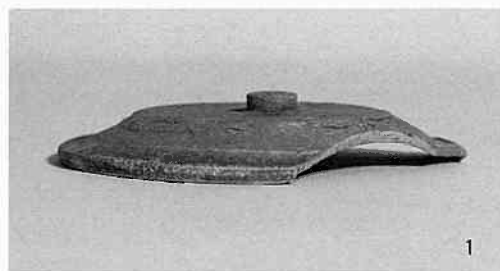
2

IV区2SK-05出土遺物

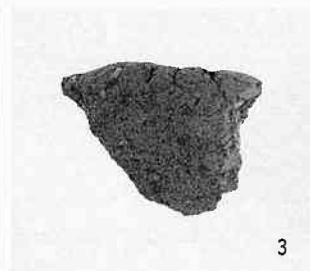
図版18 大井聖坂遺跡



IV区ピット(上層)出土遺物



1

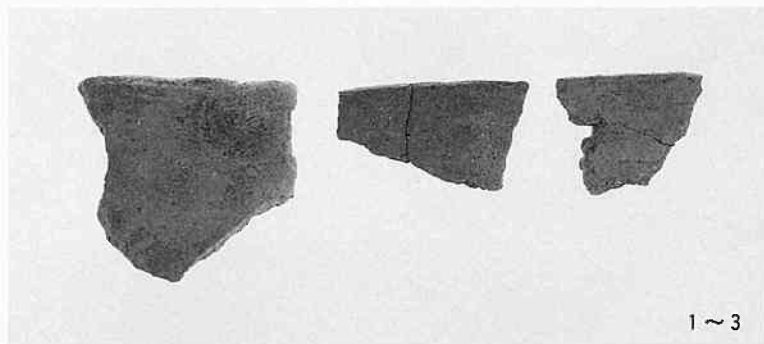


3

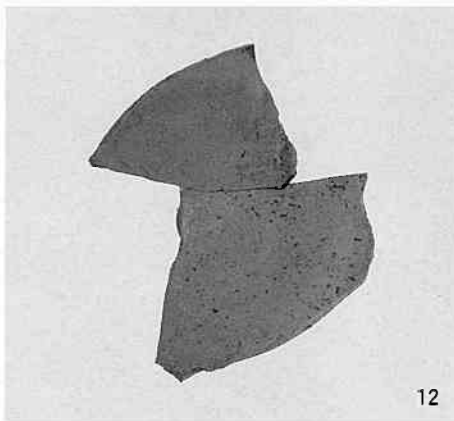


6

IV区ピット(下層)出土遺物



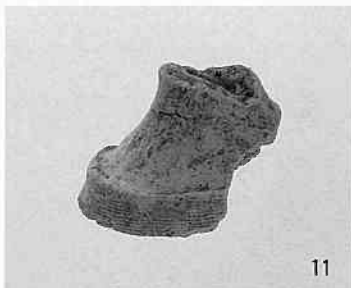
1~3



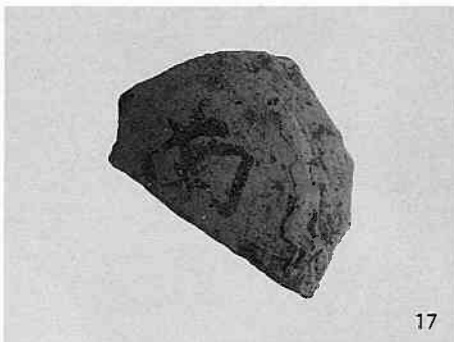
12



5



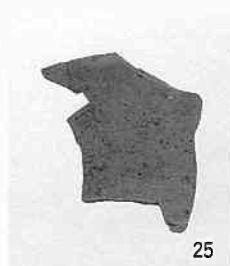
11



17



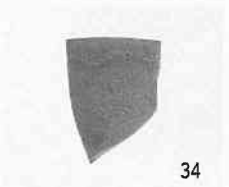
24



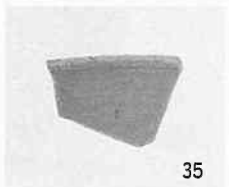
25



26



34



35



30



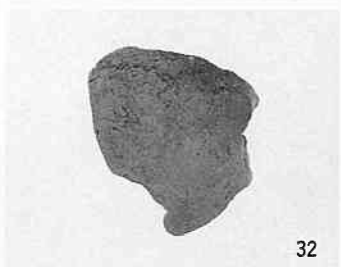
31



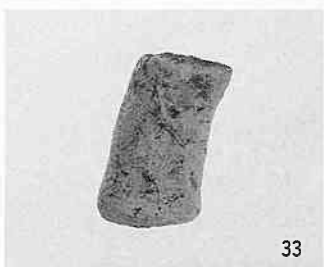
36



37



32



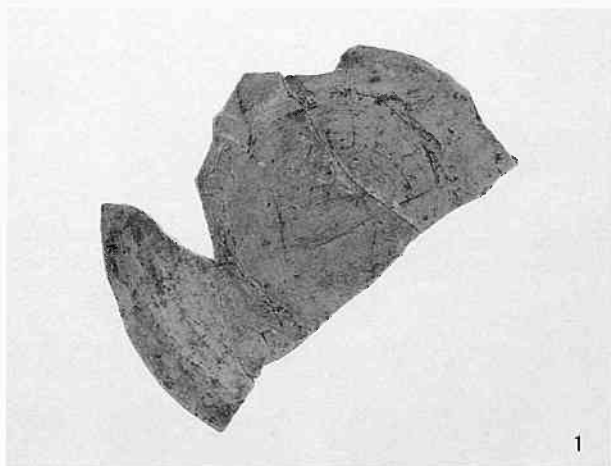
33



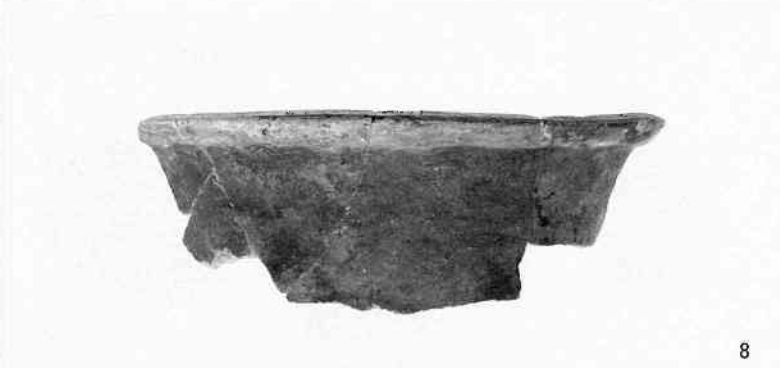
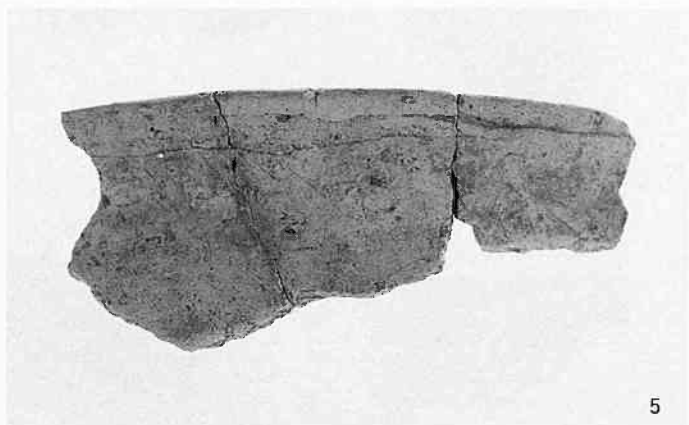
40~43

IV区遺構外出土遺物

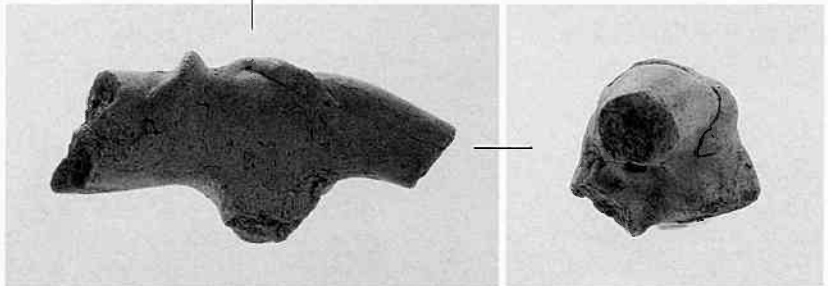
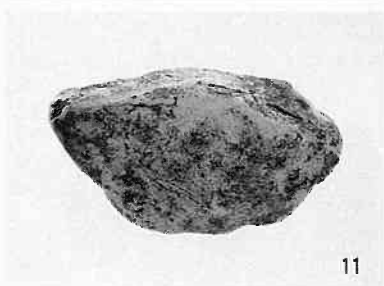
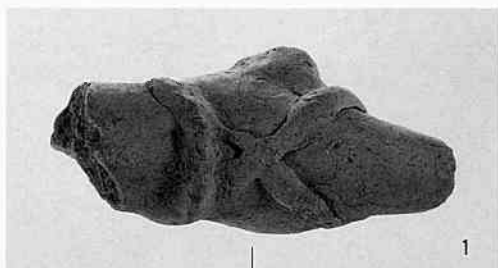
図版20 大井聖坂遺跡



V区SK-04出土遺物



V区遺構外出土遺物



佐治村試掘Tr-4出土遺物

大井家ノ下モ遺跡
調査地遠景
(北西から)



大井家ノ下モ遺跡
調査前(東から)



大井家ノ下モ遺跡
調査地南壁断面
(北東から)



大井家ノ下モ遺跡
調査地全景
(南東から)



図版22 大井家ノ下モ遺跡



大井家ノ下モ遺跡調査地全景(南西から)

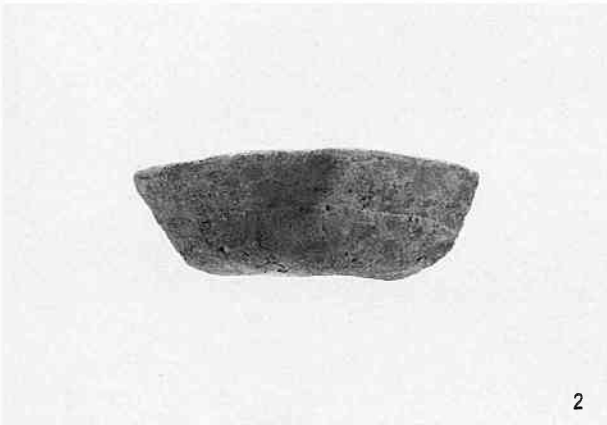


大井家ノ下モ遺跡P-02検出状況(北から)



1

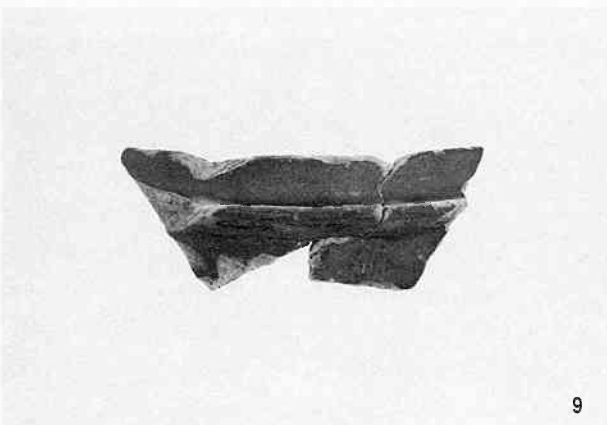
大井家ノ下モ遺跡P-02出土遺物



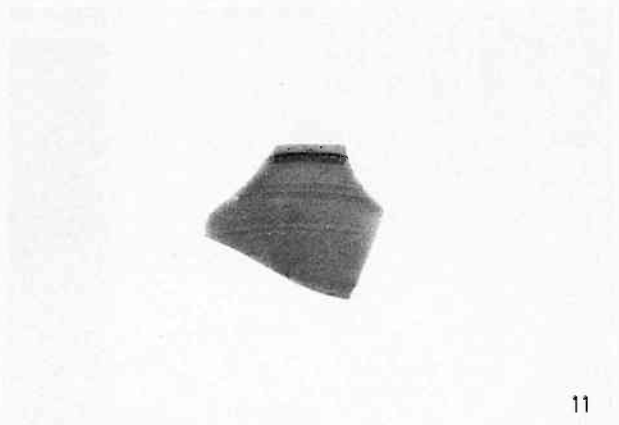
2



4



9



11

大井家ノ下モ遺跡出土遺物

報 告 書 抄 録

ふりがな	おおひじりざかいせき・おおいえのしもいせき							
書名	大井聖坂遺跡・大井家ノ下モ遺跡							
副書名	村道南岸線地方道路交付金工事に係る埋蔵文化財発掘調査							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編集者名	谷口恭子 前田 均 神谷伊鈴							
編集機関	財団法人 鳥取市文化財団							
所在地	〒680-0015 鳥取県鳥取市上町88 TEL (0857) 23-2410							
発行年月日	西暦 2005年(平成17年)9月30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 (° ' ")	東経 (° ' ")	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おおひじりざかいせき 大井聖坂遺跡	とっとりし 鳥取市 さじちよう 佐治町 おおい 大井	30201	26	35°	134°	H161109	のべ 2,220	道路建設
				20'	08'	〃		
おおいえのしもいせき 大井家ノ下モ遺跡		31		35°	134°	H160721	121	
				20'	09'	〃		
				14"	18"	H160726		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
大井聖坂遺跡	集落遺跡	古墳時代後期 〃 奈良・平安時代	竪穴住居 2棟 掘立柱建物13棟 溝状遺構 2条 土坑 22基 ピット 779基 焼土遺構	縄文土器 弥生土器 須恵器 土師器 竈・甑形土器・土錘 製塩土器・土馬 緑釉陶器・灰釉陶器 青磁 陶器 瓦質鍋 鉄製品 敲石・羽口・鋳滓	墨書土器14点出土 佐治町古代～中世 の中心的集落 甑形土器 (大陸系遺物?) 土馬出土			
大井家ノ下モ遺跡	集落遺跡	中 世	ピット 19基	土師器 皿・杯 瓦質鍋・羽釜	中世集落			

大井聖坂遺跡・大井家ノ下モ遺跡

—村道南岸線地方道路交付金工事に係る埋蔵文化財発掘調査—

平成17年9月30日 印刷・発行

編集・発行 財団法人 鳥取市文化財団

印刷所 勝美印刷株式会社
